

その代償について考えてみよう

「COSt」は、魂を救う福音のメッセージの基礎を表す、シンプルな頭字語です。

C - 創造（聖書的な創造）；
O - 原罪（アダムが神の御言葉に背いたこと）；
S - 愛に満ちた神からの分離；そして
t - 十字架：御子であり、私たちの救い主であるイエス・キリストを通じた神の贖いの計画。

ラス・ミラーは、26年間にわたり、創造論と進化論をめぐる分野で教え続けてきました。教会から大学、そしてグランドキャニオンツアーに至るまで、彼は私たちが神の御言葉を、一語一語、最初から最後まで信頼できることを明らかにしています。

本書は、クリスチャンも非クリスチャンも頭を悩ませている数え切れないほどの疑問に答え、以下の点を明らかにしています：

☐ 実証科学対歴史科学。
☐ 微進化対巨進化。
☐ 死が存在するこの世界に、どうして愛に満ちた神がおられるのか。
☐ 自然選択ではなく、神の品質管理プログラム。

- ☐ 世界的大洪水に関する圧倒的な証拠。
- ☐ アメリカのキリスト教的遺産。
- ☐ 偽キリストと偽りの教え。
- ☐ なぜ私たちは神の御言葉を信じることができるのか、その他多くの話題。

（ラス・ミラーによる、論理的でわかりやすい文章で解説）

その代償について考えてみてください

Creation, Evolution & Science Ministries キャンプ・ヴェル
デ、アリゾナ州 www.CreationMinistries.Org

© 著作権 2026 すべての権利を留保。初版 2026年2
月
アメリカ合衆国で印刷。

ISBN: 979-8-196-82866-9
表紙のイラストおよびデザイン：ラス・ミラー。

本書の購入による純収益はすべて、非宗派の宣教団体である「Creation, Evolution & Science Ministries」に寄付されます。

注：聖書の引用はすべて欽定訳（King James Version）からのものであり、下線や太字で強調されている箇所は著者によるものです。

本書の著作権は、ラッセル・D・ミラーおよび「Creation, Evolution & Science Ministries（CESM）」に帰属します。授業や個人的な使用を目的とした図版や情報の複製は許可されています。ただし、再出版や再販売は固く禁じられています。

著者 からの注記

ラス・ミラー著

大学の講堂でダーウィニズムの多くの虚偽を暴いた後、私は1時間にわたる質疑応答の時間を設けました。ある学生は質問をする代わりに、キリスト教徒について卑劣な発言をし、講堂は爆笑に包まれました。笑いが収まった後、私はこう言いました。*「皆さん全員に質問をさせてください。もしこの若者が、イスラム教徒やヒンドゥー教徒、あるいはニューエイジ信者についてそう言っていたら、彼はこの大学から追い出されていたでしょう！しかし、彼がキリスト教徒について言ったから、皆さんはそれを面白いと思ったのです。なぜでしょうか？」* 完全な沈黙が続いたので、私はこう付け加えました。*「私が答えさせてください。それは、キリスト教こそが真実だからです。サタンはすでにすべての非信者を掌握しており、あなたがたに彼らを攻撃して時間を無駄にさせたくないのです。しかし、イエス・キリストこそが真実そのものです。だからこそ、この世俗的なキャンパスでは、キリスト教徒を攻撃することはできても、それ以外の誰かを攻撃することはできないのです。」* 針が落ちる音さえ聞こえるほどの静寂が訪れた。

聖書に基づくキリスト教は、世俗的な世界観と対立している。特に、*数十億*年説やダーウィニズムの信念を打ち砕く「大洪水」の教え

に関してはそうだ。このため、あらゆるものへの寛容を説く世俗主義者たちは、目立つ例外を設けざるを得なくなる。私はこれを「**ABC寛容**」と呼んでいる。つまり、「キリスト教以外なら何でも（Anything But Christianity）」ということだ。

世俗主義者の狙いは単純だ。聖書の基礎に対する人々の信仰を揺るがすことで、聖書に基づくキリスト教への信仰を破壊することである。彼らは、創世記が神話であると人々に信じ込ませることができれば、その人々は、イエスが自らを「創造主」かつ「裁き主」であると主張していることを受け入れるべき理由を理解できなくなることを知っている。 そうなれば、そうした人々は聖書に依らないイエスの像を受け入れたり、あるいは単に、世界中で崇拝されている数え切れないほどの偽りの神々の一人としてイエスを拒絶したりするかもしれない。大多数の人々は、地球や宇宙について世俗的な説明しか耳にしないため、聖書の記述と矛盾する物語を受け入れてしまうのである。 その結果、*数十億*年説やダーウィニズムの教えが、何十億人もの人々の神の御言葉に対する信仰を揺るがすために利用されてきました。コロサイ人への手紙2章8節で述べられているように、「***人の伝統や、この世の初歩的な教えに従って、キリストに従わない、哲学やむなしい欺きによって、だれにも惑わされないように気をつけなさい***」とあります。

「古い地球」の哲学のいずれかを受け入れてしまったクリスチャンたちは、そこに含まれる深刻な聖書との矛盾に気づいていない可能性が高い。本稿では、以下の点を明確に定義する：実用科学（信者にとって真の友）と、観測されていない歴史科学； 聖書的に正しい微小進化（適応／変異）とダーウィニズム的な巨視的進化；「地球は古い」という信念が、なぜアダム以前の死を想定することになるのか；そして、世俗主義者たちがなぜ世界的大洪水説を否定せざるを得ないのかを説明します。 ***「あなたがたは真理を知れば、その真理があなたがたを自由にする***」（ヨハネ8:32）。

この文章を磨き上げることで、創造論と進化論の分野における主要な論点を、明確かつ論理的、そして的を射た形で網羅した、包括的な情報源を提供したいと願っています。この情報が、神の御

言葉の真理を求める人々の心に火を灯すものとなるよう祈っています。

***

目次

著者からの言葉 3

目次 5

はじめに 8

第I部

科学および聖書的世界観と対比した、代表的な「地球は古い」という信念

- **第1章〜第8章の概要** 11

第1章

真の科学：信者にとっての真の友 15

第2章

地質年代尺度 19

第3章

放射性年代測定 27

第4章

地球の荒廃：セント・ヘレンズ山 36

第5章

グランドキャニオンとグランドステアケース 43

第6章

パンゲア、大陸移動説、そして氷河期 55

第7章

恐竜 63

第8章

法則と論理：ビッグバンと星の光 68

第II部

「古い地球」説がもたらす最大の悪果

* 第9章〜第14章：ダーウィニズムの主要な教え

第9〜17章の序論 76

第9章 - ダーウィニズム：

生命の起源 79

第10章 - ダーウィニズム：

進化：ミクロ対マクロ 86

第11章 - ダーウィニズム：

自然選択：

新しく有益な遺伝情報 92

第12章 - ダーウィニズム：

類似性と化石記録 104

第13章 - ダーウィニズム：

恐竜から鳥類へ、霊長類から人間へ 116

第14章 - ダーウィニズム：

誤った知識の氾濫 125

第15章

悪しき実の氾濫.....137

第16章

アメリカのキリスト教的遺産の喪失.....147

第17章

究極の邪悪な実：偽りの：

キリスト、預言者、教師たち.....168

第III部

神とその御言葉を信じる理由

第18章〜第22章の序論.....184

第18章

世界的大洪水を思い描く.....186

第19章

人撰原理と人類.....199

第20章

聖書に基づく知的デザイン.....206

第21章

天は神の栄光を告げ知らせる.....221

第22章

創造から救いへ.....229

付録1 – 参考文献.....232

付録2 – 用語集 242

付録3 – 図解：比較

聖書のキリストと「地球は古い」という説に基づくキリスト像の比較 246

索引 247

著者について 250



はじめに

聖書の最初の文は、明快で簡潔です。「***初めに、神は天と地を創造された***」。神の完全な裁きによれば、六日間で完成した神の創造は「極めて良かった」のです。 ***「神はご自身が造られたすべてのものをご覧になり、見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。これが六日目である***」（創世記1:31）。最初の創造には死はなく、アダムは神と共にエデンの園を歩いていた。

しかし、その完全さは長くは続かなかった。聖書は、神の創造に何が起こったのか、そしてなぜイエスの十字架上の死が必要となったのかを、私が「**COSt**」と呼ぶものを通じて明らかにしている。
この頭字語は、創世記1章と3章に示されている福音のメッセージの基礎を表しています。ここから私たちは次のようなことを学びます：
創造は、死をもたらし、人間を神から**引き離した**アダムの原罪によって堕落し、その結果、
――イエスの十字**架**上の贖いの犠牲――が必要となったのです。

私たちは、二つの対立する世界観の戦いに巻き込まれている中で、

こうした聖書的な基盤が執拗な攻撃にさらされているのを目の当たりにしている。**COSt**に基づく聖書的な見解は、

人間の罪が死をもたらし、私たちを神から引き離し、贖いを必要としたという聖書的な見方。そして、*数十億年という*長い年月を経て*ダーウィンの進化論*に至ったという世俗的な見方：長い歳月の死と自然の過程が人間を生み出したというものです。

『アメリカン・アセイスト』誌の編集長フランク・ジンドラー氏は、「*もし……原罪など存在しなかったのなら……救いの必要などない……そうなれば、イエスは……失業者の仲間入りをすることになる*」と述べた。[1] ジンドラー氏は、アダム以前に死が存在していたという事実が、福音のメッセージの基盤を揺るがすことを理解している。

フロリダ州立大学の哲学教授マイケル・ルースは、*「進化論は、その実践者たちによって……意味と道徳を備えた、キリスト教に代わる本格的な選択肢として推進されている……」*と指摘している。[293]

一方、神の御言葉を様々な「地球古説」のいずれかと折り合いをつけようとするキリスト教徒の多くは、その波及効果を考慮しておらず、知らず知らずのうちに世俗的な見解を神の御言葉に押し付けてしまっている。

この戦いはエデンの園（創世記3章）で始まり、*ユダの獅子が*御自身の被造物を取り戻すために再臨される時（黙示録19章）に終わる。だからこそ、反キリスト教的な偏見の高まり、道徳の崩壊、社会の混乱、自由の喪失、疫病、戦争などが目にするようになったのである。 問題はあまりにも圧倒的であるかのように思われ、多くのクリスチャンが諦めてしまっています。しかし、信者たちは***信仰のために戦え***（ユダの手紙3節）と命じられており、それを効果的に行うためには、**主要な問題を認識し、重要な争点を特定し、効果的な解決策を提示しなければなりません。**

本稿では、***ダーウィンの進化論につながる「数十億年説」を主要な問題として***取り上げる。

約225年前に考案された「地球は古い」という説は、世界的な大洪水が一度も起こらなかったという信念に基づいています。約170年前に考案されたダーウィニズムの進化論は、

「地球は古い」という説。このため、世界的大洪水は重要な争点となります。「*数十億年説*」と「*ダーウィンの進化論*」という両方の哲学は、過去約100年にわたり、あたかも科学であるかのように教えられてきました。これらの教えは、***アダム以前に死が存在した***とするものであり、アダムの罪が死をもたらし、私たちを創造主から引き離したという事実を否定しています。 その結果、世界の人口の多くは、次のように警告する神の御言葉の権威に対する信仰を失ってしまいました。「***だれにも、人間の伝統や、この世の初歩的な教えに従って、キリストに従わない哲学やむなしい欺きによって、あなたがたを惑わされないように気をつけなさい***」（コロサイ人への手紙 2:8）。

以下のページでは、観察可能な事実、聖書、そして論理を、世俗的世界観と聖書的世界観の基礎となる信念と比較しながら、効果的な解決策を提示していきます。 どうか、決して諦めないでください！読み進めるほどに、真の科学こそが信者の真の友であり、神の御言葉が「一語一語、最初から最後まで」真実であるという確信が、ますます高まっていくことでしょう。真理は信者の側にあります。そして、***「神が私たちのためにいてくださるなら、誰が私たちに敵対できようか」***（ローマ人への手紙 8:31）。

***

*「12歳の息子が友達と遊んでいたところ、私は彼らを呼び寄せて、あなたの『ダーウィニズムの10大詐欺』という動画を見てもらいました。最初は不満そうな声を上げていましたが、再生が始まると、彼らは釘付けになり、驚嘆していました！ 彼らは何日もその話題で盛り上がっています。」*フロリダ州のトニー

「息子と私は、あなたが大学生、教授、そして野次を飛ばす人々で埋め尽くされた講堂で講演された大学のイベントに参加しました。

*あなたは、ダーウィニズムを擁護しようとする彼らの主張を穏やかでありながら断固として反論し、彼らはすぐに静かになりました。あなたは息子の信仰を確固たるものにしてくださり、私は永遠に感謝しています。」*アリゾナ州のシンディ



セクションI

「古地球説」の代表的な主張と、科学的事実および聖書的世界観との比較

第1章～8章の概要

＊「*ネフェシュ*」の命の定義

「*愛に満ちた神が、なぜ死に満ちた世界を許されたのか*」というのは、極めて重要な問いです。聖書的な答えは、創世記第1章と第3章に築かれた福音の基礎に見出されます。私は、キリスト教のこの礎を

「COSt」と呼んでいます。これは、**アダムの**原罪によって堕落した神の完全な**創造（Creation）**を意味し、その原罪によって人類は神から**分離（Separated）され**（同時に死が世に入り込んだ）、その結果、**イエス・**

キリストの十字架上の犠牲による贖いを必要とした――t。

対照的に、アダム以前に死が存在したと主張する、観察不可能な「古い地球」説は、世俗的な世界観（ダーウィニズム、自然主義、ヒューマニズムなど）の基盤となっており、今日では科学的事実とし

て教えられています。その結果、大多数の人々は、地球の年齢が数十億年であり、人類よりはるか以前から死が存在していたと考えています。しかし、そのような教えは、観察可能で検証可能な科学的事実なのでしょうか？ 決してそうではありません。それらは

偏った歴史的物語に過ぎない。テモテへの手紙第一6章20～21節で警告されているように、***「あなたに託されたものを守り、不敬虔で空しい戯言や、偽りの『科学』***（知識）***による反論を避けなさい。それを公言する者の中には、信仰に関して誤った道に迷い込んだ者もいる。」***

この極めて重要な事柄を十分に理解するためには、聖書的な意味において、どのような「*死*」が論じられているのかを理解しなければなりません。ストロングのコンコーダンスによると、ヘブライ語の「**ネフェシュ（nephesh）**」は、生き物、通常は人を指し、意識という概念を伝えています。「ネフェシュ」は、生きている動物を指す際には「**ハイヤ**」と組み合わされます。創世記第1章および第2章では、これらの言葉は、人類を指す場合には「*生ける魂*」、脊椎動物（背骨を持つ生き物）を指す場合には「*生ける生き物*」と訳されています。「ネフェシュ・ハイヤ」という表現は、創世記第6章および第7章で、ノアの箱舟に乗せられた動物たちを記述する際にも用いられています。

レビ記17章11節には、「***肉のいのち***（ネフェシュ）***は血にある***」と記されています。 これは、「ネフェシュ」の命と、脊椎動物の体内で循環する赤い液体である血とを結びつけています。したがって、聖書的な意味において、人間や脊椎動物は「ネフェシュ」を持つ存在です。死は罪に対する罰であったため、人類の罪を贖うためには、「ネフェシュ」の命が死ななければならず、血を流さなければなりませんでした。 「ネフェシュ・チャイヤ」である動物の血を流すことは、罪に対する一時的な覆いとなりました。しかし、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストが流された血は、主を主であり救い主として受け入れる者たちの罪を、永遠に取り除いてくださいました。逆に、植物や無脊椎動物のように血を持たないものは、「ネフェシュ」の命ではなく、身代わりとして死ぬことはできま

せん（これが、神がカインの捧げ物を拒まれた理由を説明しているのかもしれません）。

宇宙の創造主が十字架上で死なれたこと――主イエスはこれをまもなく、あらゆる勝利の中で最も偉大なものへと変えられた――に次いで、

勝利へと変えられたこと、宇宙の歴史において最も恐ろしい瞬間は、エデンの園で「ネフェシュ・チャヤ」（おそらく子羊）が初めて死んだことでした。 神は、アダムとエバの罪を一時的に覆うために、この最初の死を用意された。死は神の被造物にとっての敵であり、キリストが再臨された際に滅ぼされる最後の敵となるため、二人は自分たちの反逆が招いたこの結果を目の当たりにして、恐ろしさに打ちひしがれたに違いない。「***最後に滅ぼされる敵は死である***」（コリントの信徒への手紙一 15:26）。

「ネフェシュ」の死が人類の出現以前にあったとする考えは、エデンの園における最初の死の意義を損ない、聖書の基礎に対する人々の信仰を揺るがすものです。そのような考えがあたかも科学的事実であるかのように提示されると、人々は神の御言葉よりも人間の意見を受け入れるようになり、その結果、多くの人が主イエスを拒むことにつながります。

地球の年齢を*数千*年のものと信じるにせよ、数十億年のものと信じるにせよ、人々が観察できる証拠は同じである。したがって、地球の年齢や死がいつこの世に入ったかという信念は、どの物語を受け入れるかという問題に他ならない。世俗主義者たちが科学界や教育界を掌握しているとはいえ、観察に基づく科学は真理へと導き、その真理は神の御言葉の中に見出される。

世俗主義に基づく地質学の授業で教えられることのほとんどは、聖書に基づく地質学の授業で教えられることと同じです。主な違いは、地質学的特徴が形成されるのにどれだけの時間がかかったかという点にあります。すなわち、長い歳月をかけてゆっくりと均一に形成されたのか、それとも一年間にわたる世界的大洪水の間、急速に形成されたのか、という点です。

本稿を通じて示すように、真の科学は信者にとって真の友である。しかし、私たちは賢明であり、真の「実証科学」と、科学を装った偏った

歴史的物語を区別しなければなりません。本稿では、その違いを明確に定義します。

以下は、真理を求める人々の内なる炎に火をつける糧となるでしょう。私の願いは、この真理が、私たちの間にお住まいになるために肉となった神の御言葉、すなわち私たちの創造主であり救い主である主イエス・キリストを、あなたがたが信頼する道へと導くことです。***「初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった……すべてのものは、彼によって造られた……言葉は肉となった***……」（ヨハネによる福音書 1:1-14）。

まず、操作的科学と歴史的科学の違いについて説明します。これだけでも目から鱗が落ちるような発見であり、多くの人にとって世界観を変えるものとなるでしょう。

***

「20年前にあなたの講演を聞き、それが私の聖書に対する見方を変えました。私の人生を変えたのです。」 オレゴン州のティム

「私の友人は教育委員会の委員です。1年前にあなたの講演を聞いた後、彼女は創造論者になり、今ではダーウィニズムを軽視する教科書を選んでいるんです！」 ウィスコンシン州のポール

「キリスト教のラジオ局であなたの話を聞いて、私はクリスチャンになりました。その後、あなたが私の教会で説教をされた際、家族数人を無理やり連れて行きました。その結果、家族全員がイエス様を受け入れたんです！」　アリゾナ州のブランディ



1

真の科学：
信者の真の友

「もし土台が崩れ去ったら、義人はどうすればよいのか。（詩篇11:3）」
私は、その土台を再建すべきだと主張します！ ラス・ミラー

多くのクリスチャンが聖書と科学は対立していると考えている中、神の御言葉の権威に対する信仰を取り戻すための第一歩として、**現代科学の分野の80%以上がクリスチャンによって開拓されたという**事実を認識することが重要です！*科学的方法の父である*フランシス・ベーコンから、史上最高の科学者アイザック・ニュートンに至るまで、全知全能の聖書の創造主への信仰が、神の被造物を研究したいという願望へとつながったのです。 近代科学のこれらのキリスト教徒の先駆者たちは、神がご自身の被造物を統治するために定められた原理のいくつかを解明できれば、それらの法則を活用して文明を発展させ、地球に対する私たちの管理責任を果たすことができると信じていました。これこそが、近代科学と西洋文明を生み出した原動力なのです。

では、なぜ聖書は、今日「科学」として教えられている内容としばしば矛盾するのでしょうか？それは、過去175年間にわたり、科学

の研究分野が、自然主義を信奉する世俗主義者（ヒューマニスト、ダーウィニスト、無神論者）によって乗っ取られてきたからです。自然主義とは、

物質のみが存在し、人間の霊や魂、そして神の存在を否定する哲学である。現在、世俗主義者たちは科学界を掌握しており、自然に対するあらゆる超自然的あるいは形而上学的な説明を拒絶し、物質こそがすべてであり、自然主義に基づく科学こそが知ることができることの唯一の基盤であると信じている。したがって、次に私が説明することは理解する上で極めて重要である。

神の御言葉への信頼を再構築するためには、真の科学と、科学的事実を装った世俗主義に偏った物語との違いを知らなければなりません。幸いなことに、信者にとって真の友である「操作科学」と、しばしば科学とは程遠い「歴史科学」とを比較すれば、この違いを見分けるのは容易です。

操作科学とは、**観察可能な**証拠を繰り返し検証することから導き出された**知識です**。あるプロセスの開始時、進行中、終了時の状況を観察することで、操作科学はラジオからペニシリン、スペースシャトルに至るまで、私たちの生活様式に数え切れないほどの改善をもたらしてきました。 たとえ「操作科学」の定義を知らなくても、科学書や学術誌の記事を読んだり、「*ある科学者が言った*」という話を聞いたりした際、人々はそれが操作科学であると無意識に想定しています。しかし、科学として提示されるものの多くは「歴史科学」であり、ここが人々を誤解させる原因となっています。

歴史科学は、観察不可能な過去に起こった観察不可能な出来事について、「**歴史的物語**」として知られる**説明を提供する**。 歴史的科学には、法医学や考古学による真摯な取り組みも含まれます。歴史的科学が批判の的となるのは、私たちの起源に関する部分です。これは、すべての物語を、*ダーウィンの進化論につながる*「*数十億年*」という信念に無理やり当てはめようとする世俗的な偏見によるものです。この偏見には、「均一性」への信念、すなわち現在のプロセ

スが

。今日、科学として教えられていることの多くは、世俗的な偏見に満ちた物語やナラティブであり、それらはまったく科学的ではありません。聖書の記述と、科学として教えられていることとの間に論争が生じる場合、それはほとんど常に歴史的ナラティブに関するものであり、操作科学に関するものではありません。

操作科学と歴史的科学の結果の違いの例として、自動車からオイルを抜き取る場面を想像してみてください。 整備士がオイルプラグを外し、液体が下の受け皿に注がれるのを見れば、操作科学によれば、受け皿がオイルで満たされるのに2分かかることがわかります。しかし、10分後にその場を訪れた場合、オイルで満たされた受け皿を目撃し、その後数日間その様子を観察し続けると、1週間が経過した時点で、車から受け皿へとオイルが一滴落ちるのを目撃することになるでしょう。 すると、「均一性」という信念に基づき、歴史的科学は、受け皿をオイルで満たすのに2,000年かかったと結論づけるでしょう。このように、観察可能な「操作的科学」と、科学を装った観察不可能な「歴史的物語」との間には、矛盾が存在することがわかります。

神の言葉と、世に「科学」として提示されているものとの間に矛盾が生じる場合、それは常に歴史的物語によるものであり、実証科学によるものではありません。 ですから、聖書と矛盾する何かを見たり聞いたりしたときは、自問してみてください。「誰かがこれを観察したのか、それとも、誰かが起こったかもしれないと信じていることに対する、観察されていない偏った説明なのか？」良い目安として、その話が*数百万年前に*始まるなら、それは実際には「*昔々*」という前置きであり、観察されていない世俗的な偏見に満ちた物語が続くことを意味します。

私がよく口にするように、また本書の随所で明らかにしていくよ

うに、真の科学は信者にとって真の友である。しかし、使徒パウロが警告したように、***「テモテよ、あなたに託されたものを守り、不敬虔で空虚な戯言や、偽りの科学による反論を避けなさい」。それを公言する者の中には、***

信仰に関して誤った道に迷い込んだのです（テモテへの手紙第一 6:20-21）。信仰に関して誤った道に迷い込んだ？

ストロング語彙集によると、「*科学（science）*」という言葉は、ギリシャ語の「グノーシス（gnosis：知識）」の翻訳である。パウロが『テモテへの手紙第一』を書いた当時、グノーシス派は嘘や偽りの知識を用いて、唯一の真の神に対する人々の信仰を揺るがそうとしていた。 今日、ヒューマニストたちは、通常、観察不可能な「*均一な過程」「数十億年という時間*」「*ダーウィニズム的進化論*」といった基礎哲学に基づいた偏った物語を、あたかも科学的事実であるかのように推進している。これは確かに、多くの人々を信仰に関して迷わせることとなった。 したがって、実証科学と、あたかも科学であるかのように教えられている歴史的物語との違いを認識することは、私たちが「***思いの城砦を打ち壊し、神の知識に逆らって高ぶるあらゆるものを打ち砕き、すべての考えをキリストの従順の下に捕らえる***」（コリント人への手紙 10:5）という歩みを始める助けとなるでしょう。

この信仰を強める文章をさらに掘り下げる前に、もうひとつ定義を述べておきます。**「オッカムの剃刀」**です。これは、最も単純で、仮定を最小限に抑えた答えが、通常、より複雑な説明よりも優れているという原則です。私は、現代の「古い地球」説の基礎となる物語である「地質年代尺度」から始まり、以降の章を通じて、*このオッカムの剃刀の原則を*主張していきます。

***

「私の89歳の父は、引退した地質学者で熱心なダーウィニストですが、聖書が語る内容、特に世界的な大洪水については、決して受け入れようとしませんでした。私は父に
あなたの著書（COST）を読ませたところ、それ以来、父はキリストを受け入れるようになりました！」 ニューメキシコ州のジェニファー



2

地質年代 スケール

「実は、時間が物語の主人公なのです……これほど長い時間があれば、『不可能』は可能になり、可能は確率の高いことになり、確率の高いことは事実上確実なものになります。待つだけでよいのです。時間そのものが奇跡を起こしてくれるのです。」[2] ジョージ・ウォルド、
元ハーバード大学教授、ノーベル賞受賞者

1800年代半ばまで、大多数の人々は、地球の年齢はわずか数千年に過ぎず、世界的な大洪水を経験したという聖書の見解に同意していた。 今日、大多数の人々は、地球が*数十億*年の歴史を持ち、世界的な大洪水は経験していないという世俗的な見解を受け入れている。人々の認識の変化は、観察可能で実証的な科学によるものではない。この変化は、あたかも科学的事実であるかのように教えられている歴史的物語によってもたらされたものである。

この章では、私が「*古地球説の六つの柱*」と呼ぶものの中から、三つ――均一説、世界的大洪水は一度も起こらなかったという信念、そして地質年代尺度――について論じる。これら三つは密接に関連している。残りの三つの柱、すなわち放射性年代測定、グランドキャニオン、そして恐竜については、以降の章で取り上げる。

地球に関する科学的研究を行うための基準枠組みを確立するため、1800年代初頭、数人のキリスト教徒を含む研究者たちが、「地質年代表」[3]（「地質柱状図」とも呼ばれる）を策定した。

チャールズ・ライエルは、1830年に出版された著書『地質学の原理』において、地質年代尺度を広く普及させました。この年代尺度は、12の主要な地層からなる図表です。各地層には名称が付けられ、指標化石が割り当てられ、古代の年代が定められました。 この地球の年代測定システムが考案された当時、最先端の兵器はマスケット銃であり、近代的な交通手段は馬車に過ぎなかったことを考えると、当然の疑問が浮かぶ。すなわち、これらの人々はどのようにして岩層に割り当てた年代を導き出したのか、ということである。これに対する妥当な答えはただ一つしかない。彼らは二つの信念に基づいて年代をでっち上げたのだ。第一に、岩層は彼らが観察できるのと同じペースで徐々に形成されたという信念である。
この観察されていない信念は**「均一説」**として知られており、「現在が過去の鍵である」という考え方である。第二に、地球規模の大洪水は決して起こらなかったという信念である。なぜなら、そのような出来事が起これば、地球の地層が急速に堆積し、地質年代尺度が崩壊してしまうからである。第1章で私が尋ねたように、鍋に油を注ぎ切るのにどれくらいの時間がかかったのだろうか？

驚くべきことに、1,900年以上も前に、神の御言葉は、終わりの日に懐疑論者たちが「万物は昔から変わらない」と主張し、全世界を襲った大洪水を否定することを予言していました。ペテロの手紙第二3:3-6：*「まず、**終わりの日には**、自分の欲望のままに歩み、『彼の来臨の約束はどこにあるのか』と言う**嘲笑者たちが現れることを**知っておきなさい。『先祖たちが眠りについて以来、**すべてのものは創造の初めから変わらずに続いている**』と言うのです。**彼らは**、*

*神の御言葉によって、昔、天が造られ、地が水の中から、また水の中にあって形を成したということを、**わざと**知ろうとしないのです。**それによって、***

水に溺れて滅びたのである……うわっ！　これこそが、自然主義、ダーウィニズム、ヒューマニズムを含む世俗的世界観の基盤である「古地球説」の根拠なのだ！

指標化石は、地質年代尺度の不可欠な要素である。これらは、特定の岩層が徐々に形成される過程で絶滅したと推定される動植物の化石である。地層形成のその期間中に絶滅したため、その化石が含まれる絶滅層より上にある、より新しい地層からはその遺骸は発見されない。したがって、指標化石が発見されるたびに、その遺骸を含む地層のすべてに、その特定の化石に割り当てられた年代が与えられるのである。 言い換えれば、岩層の年代は、その中に発見された指標化石に割り当てられた年代から導き出される一方で、指標化石の年代は、それがどの岩層で発見されたかによって決定されるのです。[4] これはまさに循環論法そのものです。

当然の疑問として、地質年代尺度の考案者たちは、観察されていない様々な岩層の形成過程において、どの植物や動物が絶滅したかを、どうして知ることができたのだろうか？ 明らかに、彼らには知る由もなかったはずだ。そして今日、この地質年代尺度の指標化石——現代の「地球は古い」という信念の基盤となっているもの——は、生き続けていることが次々と明らかになるにつれ、その信奉者たちにとって途方もない恥辱となっている！実際、絶滅したとされていた植物や動物が今日、これほど多く生きた状態で発見されているため、それらには科学的な分類さえ設けられている。
いいえ、冗談ではありません。それらは、まるで死から蘇ったかのように見えることから、「**ラザロ分類群（Lazarus** Taxon 5）」と呼ばれています！しかし、それらは決して絶滅していなかったのです。そして、ラザロ分類群は地質年代尺度の根拠を根底から揺るがしています。

考えてみてください。地層には、ある

植物や動物が絶滅してからどれくらいの時間が経過したかといった、観察されていない多くの仮定に基づいて、地層には膨大な年代が割り当てられてきました。しかし今や、指標化石として用いられてきた植物や動物の多くが、実際には絶滅しておらず、今日でも生きていることがわかっています！これは地質年代尺度の正当性を無効にするものであり、ラザロ・タクソンこそが、観察に基づいた真の科学が、観察されていない「*数百万年*」という物語に対して突きつける最悪のニュースではありません。

もし地球の層状岩石が*数百万年かけて*徐々に形成されたのであれば、地殻のどの程度の割合が、地質年代尺度の12の主要な層で構成されているべきでしょうか？私は、地殻の95%から99%が、層を特定するための対応する指標化石とともに、正しい順序でそれらの層を含んでいると予想します。 しかし、「古地球説」の信奉者たちによれば、その誇り高き「地層柱」の順序が存在するのは、地球の地殻のわずか0.5%に過ぎないというのだ！ つまり、この古地球年代測定システムを信奉する研究者たちでさえ、地球の地表の99.5%にはそれが存在しないと認めているのである！ そして私の知る限り、あの悪名高い「地質年代尺度」が存在するとされる地球表面のわずか0.5%の地域でさえ、その悪名高い指標化石が正しい順序で含まれているわけではない。したがって、疑問が生じる。地質年代尺度は自然界のどこかに実在するのだろうか？[6] 率直に言って、この記事を執筆している時点で、それが実在することを私に納得させるような証拠は一切示されていない。 私がそれを見かけたのは、教科書や博物館の展示だけである。それにもかかわらず、多くのクリスチャンを含む世俗的な世界は、この偏った歴史的物語にだまされてしまっている。

「テモテよ、あなたに託されたものを守り、……偽りの科学による反対を避けなさい。それを公言する者の中には、信仰

に関して誤った道に迷い込んだ者もいるからだ（テモテへの手紙第一 6:20-21）。

観測可能な科学的発見がますます増え続けるにつれ、現在が過去への鍵ではないことが明らかになりつつある。

。層状の地層や峡谷の急速な形成、その他の地質学的プロセスは、大災害の際に何度も観測されてきた。実際、さまざまな大きさの粒子が大量に混ざり合ったものが、火山活動や大規模な水流によって移動されるたびに、それらは粒子の大きさ、重量、密度によって急速に層状に分離する。大きな粒子は地層の底部に沈みやすく、小さな粒子は通常、上部に堆積する。 ハーバード大学の地質学者アラン・ジョプリングは、 *「……現場観察と実験の両方から、堆積物で構成される薄層が、通常、数秒から数分の間に水流の作用によって堆積するという事実上の証拠がある」* と述べている。[7]

1980年5月18日にワシントン州で発生したセント・ヘレンズ山の噴火と、その後に起きた地質学的現象は、研究者たちに多くの科学的に観測された地質学的過程をもたらした。第4章では、セント・ヘレンズ山について詳しく取り上げる。 ここでは、これらの観測された事象が、*何百万年*もの間（そのような期間は一度も観測されたことがない）かけて徐々に形成されるのとは対照的に、層状の地層が急速に形成される3つの異なる方法を明らかにしたことを指摘しておく[8]。改めて問うが、鍋に油を注ぎ満杯にするのにどれくらいの時間がかかったのだろうか？

堆積岩層は地球の地殻の約78%を占めており、その67%は泥岩である。世俗的な教育を受けた地質学者たちは、これらの**泥岩を**世界的な大洪水に反する証拠として用いてきた。彼らは、世界的な大洪水の際に地球が経験したであろう激しい水流が、それ以前に堆積していた層をすべて乱してしまっていただろうと主張している。 この観察されていない誤った仮定に基づき、世俗的地質学は、粘土粒子が長い年月をかけて穏やかな水域の底に徐々に均一に沈殿し、泥岩を形成したと教えてきた。
ここでもまた、観察されていない仮定に基づく説が、科学的事実として流布されているのが見て取れる。しかし、2007年、こうした「

地球は古い」という説は、操作科学によって反証された。

科学によって反証された。インディアナ大学の研究者たちは、泥岩層の堆積過程を観察できる一連の実験を行った。塩水および淡水の流れの中で数種類の泥を試験した結果、泥岩層は流れの速い水中でも形成され得ることが明らかになった！[10]

創世記1章から3章に見られる聖書的な見解によれば、神の最初の創造は、アダムの原罪によってそれが損なわれるまでは「極めて良かった」とされています。その後、人間の絶え間ない罪深さのため、神は約4,500年前のノアの時代に、世界的な大洪水によってご自身の創造物を滅ぼされました。 ***「水は地の上で極めて勢いを増し、全天の下にあるすべての高い山々は覆われた。 水はさらに15キュビットも増し、山々までもが覆われた***（創世記7:19-20）。

天の下のすべての高い丘が水に覆われたという、1年にわたる洪水の余波は、重要な意味を持つはずである。例えば、今日私たちが観察する地球の外殻は、主に堆積岩の層から構成されていると予想される。その堆積物は、堆積させた流動する水によって、粒径、重量、密度ごとに分離されたものである。 また、堆積層の間に大規模な溶岩流が点在していることも予想される。さらに、それらの層には、腐敗したり、バクテリアやミミズ、その他の腐食動物に食べられたりする暇もなく、瞬く間に埋もれてしまった植物や生物の化石が含まれていると予測する。

では、今日、私たちは何を観察しているのでしょうか？ 実は、地球の外殻は平均して1マイルの厚さを持つ堆積岩層で構成されており、その堆積物は、堆積させた流動する水によって、粒径、重量、密度ごとに分離されています。
これらの層には溶岩流が散在しており、埋没した植物や生物の化石が数十億個も含まれています。

あまりに急速に埋没したため、腐敗したり、腐食動物に食べられたりする暇さえなかった。**オッカムの剃刀**（仮定が最も少ない答えは、より複雑な説明よりも優れているという原則）。

世俗的な教科書は、岩層で見つかる化石や石化した丸太が、*何百万年もの年月*をかけて形成されたという、実証されていない説を教えている。しかし、急速な化石化の例は数多く観察されている。[11] 柵の支柱、帽子、水車などが発見されており、これらは70年足らずで石化したことが知られている。 植物や動物が化石となるには、バクテリア、ミミズ、昆虫、あるいは他の動物に食べられたり、酸素や化学物質によって腐敗して消滅したりする前に、急速に埋没されなければならない。 一旦埋没すると、地下水によって溶解・運ばれた方解石（炭酸カルシウム）やシリカ（二酸化ケイ素）などの鉱物が、骨、歯、植物の組織を徐々に置き換えていきます。その結果、鉱物に置き換えられた骨、歯、植物の形をした化石が残されるのです。[12]

ほとんどの地質学者は、地球の年齢が*数十億*年であると信じており、世界的大洪水を否定している。なぜなら、彼らが世俗的な学校で教えられたのは次のようなことだったからだ。 *「実は『時間』こそが物語の主人公であり……時間そのものが奇跡を起こすのだ。」*[13] 世界的な大洪水こそが、堆積層がいかにして急速に形成されたかを説明し、地質年代尺度とその『地球は古い』という教えを覆すものである。この真実ゆえに、世俗主義者たちは神による世界的大洪水を猛烈な勢いで否定する。なぜなら、*もし彼らが数百万年という時間を失えば*、すべてを失うことになるからだ。

これは、科学的教育に取って代わった世俗的な教化と、科学的研究を損なう世俗的な威圧の結果である。例えば、1999年には、魚が進化する5億年も前に形成されたとされる地層から、長さ1インチの魚

の化石が発見された！

この化石は、ダーウィン主義の生物学、現代の（世界的大洪水のない）地質学、そして地質年代尺度の歴史的叙述を根底から覆すものでした。世俗主義の科学者たちの反応に対し、中国の科学者たちは次のように不満を漏らしました。*「中国ではダーウィンを批判することはできるが、政府を批判することはできない。アメリカでは政府を批判することはできるが、ダーウィンを批判することはできない。」*[14]

地球の年齢に関して言えば、現在が過去を理解する鍵となったことは一度もありません。むしろ、ノアの時代に起こった世界的大洪水が、地球の地質学と地球の年齢を理解するための鍵なのです。第18章で紹介する世界的大洪水の図解は、観測可能な事実と合致する聖書的な視点を通じて、地球の地質学的特徴の多くを説明してくれるでしょう。

世界的大洪水は地質年代尺度を無効にするものであり、次の章で明らかにするように、悪名高い地質年代尺度は、放射性年代測定法によって得られた年代が選定される根拠となっているのである。

***

「私は地質学の修士号を持っています。世界的大洪水に関するあなたの講演は、私の世界の見方を一変させました！ 本当にありがとうございます。」 アリゾナ州のドン



3

放射性同位体 年代測定

「（キリスト教に対する）***革命は、地球が6,000年前に創造されたのではなく、はるか昔から存在していたことが明らかになったときに始まりました。この発見こそが、雪崩を引き起こした最初の雪玉だったのです。」*** [15]

元ハーバード大学生物学教授、エルンスト・マイヤー

私がノーザン・アリゾナ大学でいくつかの講義を行った後、ある教授が私と聖書的創造論を攻撃する認定講座を立ち上げました。彼は、父親がキリスト教系の大学の教授であり、自身も高校のキリスト教クラブの会長だったと私に話しました。その後、大学に進学し、地球の年齢が*46億*年であると確信するようになり、神の御言葉への信仰を失ってしまったのです。

なぜでしょうか？「地球は古い」という信念は、アダムよりも先に死が存在したとします。これは聖書の基礎、すなわち「原罪（**COSt**）」の概念を揺るがすものです。神の完全な**創造**は、**アダムの**原罪によって堕落し、それによって死がこの世に入り込み、私たちが創造主から**引き離され**、イエス・キリストの**十字架上の**働きによる贖いが必要となった**のです**。したがって、人類よりも先に死が

存在するとする「地球は古い」という信念を受け入れる多くの人々にとって、福音のメッセージは愚かなものとなってしまいます。 この教授は、数百万人の犠牲者の一人である。

世俗的なメディア、学校、そして科学界によって煽られた世間の認識では、放射性年代測定法が、地球の年齢が
約46億年であることを示す確固たる証拠を提供しているというものです。放射性（放射性同位体）年代測定法は、私が「*古地球説の六つの柱*」と呼ぶものの、もう一つの柱を構成しています。*長い歳月は*、聖書への信仰に対する革命を引き起こした「*雪だるま*式」のきっかけであるため、この章では、これらの手法がどのように機能するかを理解し、その信頼性を評価し、*46億年という数字*がどこから来たのかを明らかにします。 世俗的な説がどれほど説得力を持つのか、見ていこう。

放射性元素が時間の経過とともに崩壊することは、観測可能な科学的事実です。放射性物質は「親元素」と呼ばれ、崩壊する際に「娘元素」と呼ばれる物質を生成します。放射性同位体年代測定法として用いられる元素の組み合わせは約50種類あります。これには、カリウム・アルゴン法、ルビジウム・ストロンチウム法、ウラン・鉛法、トリウム・鉛法などが含まれます。 また、特定の岩石に含まれる親元素と娘元素の量を正確に測定するための装置も備わっている。

例えば、親核種であるウラン238は、娘核種である鉛206へと崩壊します。親核種が現在、娘核種へと崩壊する既知の速度に基づき、岩石中の親核種と娘核種の量を測定することで、その岩石のおおよその年代が求められます。 最も簡単に言えば、さまざまな放射性年代測定法は、現在の娘核種の量が形成されるまでにどれだけの時間がかかったかを示すものである。**これは時間の測定ではなく、放射性崩壊の測定であることに**留意すべきである。

一見すると、これらの年代測定法は妥当に思える。しかし、どの方

法においても、測定対象の岩石の年代を算出するために、

仮定と呼ばれるもの」をいくつか行わなければなりません。これらの観察されていない推測は、様々な放射性同位体年代測定法によって導き出される年代の妥当性を損ないます。これらの方法が信頼できるという誤った信念があるため、実際に同位体年代測定法がどのように用いられているかを見てみましょう。ウラン・鉛法は最も一般的な方法の一つであるため、この議論ではそれを用います。これらの年代測定法は主に火成岩に用いられます。

ウラン238が鉛206に崩壊することは、観測可能な事実である。[16] また、年代測定の対象となる岩石中の親核種と娘核種の量を正確に測定できることも事実である
。さらに、ウラン238から鉛206への現在の崩壊率は、観測可能な科学的手法によって決定されている。しかし、**ここで科学の限界が露呈し**、観測不可能な仮定が介入することで、放射性年代測定結果の信頼性が損なわれてしまうのである。

例えば、検証不可能な仮定の一つとして、岩石が形成された時点では、娘核種（この例では鉛）が岩石中に一切存在していなかったという仮定がある。岩石に与えられる年代は、娘核種が形成されるまでに要した時間に基づいているため、もし鉛が最初から岩石中に存在していた場合、放射性年代測定による年代は、岩石の実際の年齢よりも*数百万年あるいは数十億年も*古く算出されてしまうことになる。

こうした観察されていない推測は、放射性年代測定の結果をどれほど著しく歪めているのだろうか。過去60年間、最も一般的な手法はカリウム・アルゴン法であった。しかし現在、多くの研究所が、娘核種であるアルゴンが新しく形成された岩石にもしばしば存在することを認めている。 繰り返しになりますが、岩石に与えられる年代は娘核種が形成されるのにかかった時間に基づいているため、この

誤った年代測定法によって、2世代にわたる人々が、地球は*数十億*年も前から存在し、人類よりもはるか以前に死が存在していたと誤って信じ込まされてきたのです！

もう一つの観察されていない仮定は、汚染が一度も起こったことがないというものです。親物質や娘物質は、熱、圧力、湿気、地震などの影響により、岩石に追加されたり、失われたりすることがあります。いかなる汚染も、放射性年代測定の結果を*数百万年あるいは数十億年単位で*狂わせてしまうでしょう。

すべての放射性年代測定の結果に影響を与える、もう一つの実証されていない推測は、今日観測されている様々な親元素の崩壊率が、常に一定であった（均一性）という信念です。一部の研究ではこの推測に疑問が投げかけられていますが、現時点では、私は崩壊率が均一であったことを受け入れています。しかし、もしこの仮定が間違っていれば、放射性年代測定法によって導き出された年代は、*数百万年あるいは数十億年の誤差*を抱えることになります。

さらに二つの仮定として、地球の地層を急速に形成した世界的な大洪水が一度も起こらなかったこと、そして神はこれらとは一切無関係であったことが挙げられます。
放射性年代測定法にはいくつかの科学的事実が含まれているとはいえ、私がこの手法について最も正確に言えることは、それが非科学的であり、信頼性が低く、神の御言葉に対して偏見を持っているということです。

放射性年代測定法がいくつかの観察不可能な仮定に依存していることを知れば、特定の岩石に対して異なる同位体法を用いると、しばしば幅広い年代が得られるという事実に驚くことはないだろう。 例えば、グランドキャニオンのカルデナス玄武岩の溶岩について、カリウム・アルゴン法では*0.51十億年*と測定されたのに対し、サマリウム・ネオジム法では*17億年*と測定された。[17] このような大きな不一致は常態である。これこそが、前章で論じた、すでに多くの反論を受

けている「**地質年代尺度**」と一致する年代が得られた時点で、公表される放射性年代測定値が選定される理由である。[18]

放射性年代測定法によって得られた年代が、世界的大洪水説の否定に基づいている「地質年代尺度」と一致しなければならないことを理解すれば、なぜ世界的大洪水が世界観の争いにおける要となるのかが分かるだろう。[26]

もう一つの目から鱗が落ちるような事実は、放射性年代測定法が、地殻の岩層などの堆積岩や、そこに含まれる化石の年代測定には用いられていないという点である。放射性年代測定法は主に火成岩に対して用いられる。

堆積岩の地層は、そこに含まれる化石によって年代が測定され、化石は、それがどの地層に含まれているかによって年代が測定されるが、これらはすべて地質年代尺度に基づいている。[25] 例えば、1972年、ダーウィン主義者が絶滅した人類の一種と見なしているホモ・ハビリス（Homo habilis）の頭蓋骨が、すでに2億3000万年前のものと年代測定されていた地層から発見された。 これは地質年代尺度とダーウィニズムの信条の両方を揺るがすものだったため、その地層の年代は180万年前に変更され、頭蓋骨はより低次の類人猿として再分類された。これは、古地球説の根拠となっている人為的な地質年代尺度に合わせるために行われたものである。

世俗主義者たちがメディアや科学・教育機関を支配している一方で、真に実用的な科学こそが、信仰を持つ者にとっての真の友なのです。したがって、私たちは賢明であり、観察に基づく科学と、観察されていない誤った物語や、科学的事実として提示されている根拠のない推測とを見分ける必要があります。 私たちは、***「偽りの科学***（知識）***」との対立を***避けなければならない***。ある者たちは、それを公言することで、信仰に関して誤った道に迷い込んでいるのである***（テモテへの手紙第一 6:20-21）。

聖書的な見解によれば、放射性年代測定法は、人類の誤った仮定に基づいているために歪められている（ペテロの手紙第二 3:3-6の成就）；地球の地殻の堆積層は、神による世界的な大洪水の裁きの際に水によって堆積したものである；そして、神の知恵は、再び人間の限られた知識に勝る。**オッカムの剃刀**。

炭素年代測定は、最もよく知られている同位体年代測定法である。炭素年代測定では、有機物の残骸、すなわち植物や動物の遺骸に含まれる炭素14の量が測定される。C-14は、宇宙線が大気中に侵入して高速中性子を生成する際に、地球の大気中で生成される。これらの中性子が窒素14原子と衝突し、N-14を放射性C-14原子に変える。[20]

光合成の過程で、植物は微量のC-14を含むCO_2を取り込みます。一方、動物は食事や呼吸を通じてC-14を摂取します。植物や動物が死ぬとC-14の取り込みは止まり、C-14は徐々にN-14へと崩壊していきます。 現在のC-14の崩壊率は確立されており、有機遺骸中のC-14の量を正確に測定する機器も備わっている。このプロセスは複雑だが、本論の目的上、簡単に言えば、遺骸中のC-14が少ないほど、その年代は古くなる（繰り返しになるが、これは時間の測定ではなく、放射性崩壊の測定である）。

一見すると妥当に聞こえるかもしれませんが、根拠のない仮定が炭素年代測定を歪めてしまいます。例えば、技術者は、検査対象の有機遺骸が長期間地中に埋まっていたにもかかわらず、C-14の増減による汚染を一切受けていないと仮定しなければなりません。しかし、湿気、熱、圧力、その他の条件のいずれもが汚染を引き起こす可能性があります。有機物質に割り当てられる年代は

、その中に検出されたC-14の量に基づいて算出されるため、汚染の有無が不明なままでは、炭素年代測定手順の信頼性が損なわれてしまう。

炭素年代測定におけるもう一つの誤った仮定は、現在の大気中でのC-14生成率が常に一定であったというものです（均一性の仮定）。もしこの推測が間違っていれば、すべての炭素年代測定結果は完全に不正確なものとなります。そして、1850年代以降、地球の磁場が6%以上弱まっていることは既知の事実です（ここでもまた、現在が過去の鍵ではないことがわかります）。 これは、かつての磁場が現在よりも強かったことを意味する。 磁場が強ければ、多くの宇宙線が大気圏に侵入するのを遮断し、過去におけるC-14の生成量と総量を減少させただろう。その結果、過去に生息していた植物や動物は、C-14を摂取する量が少なくなり、その体内のC-14含有率は、今日の子孫たちよりも低かったはずである。その結果、過去に生息していた生物は、実際の年齢よりもはるかに古い年代として炭素年代測定されることになる。

炭素年代測定の結果を裏付けるために、年輪年代測定（樹木年代学）がしばしば用いられる。この場合、一般に受け入れられている炭素年代は、炭素年代測定法によるものではなく、年輪を数えることによって導き出されたものである。しかし、年輪年代測定にも独自の問題がある。科学的研究により、1年に複数の年輪が形成されることが証明されているからだ！[24] なんてこった！

多くの研究者は、2,500年未満の有機物の残骸については、炭素年代測定が有効であると主張しています。これはおそらく、既知の歴史的出来事に合わせて年代を調整できるからでしょう。したがって、そのような炭素年代測定の結果は、実際には炭素年代測定法そのものではなく、歴史的記録に由来しているのです。

一方、炭素年代測定は聖書の世界観を強力に裏付けている。炭素年代測定装置を操作する科学者たちは、一般的に、測定可能な量のC-14が10万年以内に検出不能な量まで崩壊することに同意している。しかし、ダイヤモンド、石油や天然ガスの鉱床、石炭層、その他の有機試料からC-14が発見されている。[21] 世俗主義者たちは、これらが数百万年前のものだと主張しているが、証拠は10万年未満の創造説を裏付けているのだ！

さらに興味深いのは、有意義な量の化石を含む最下層であるカンブリア紀の地層——世俗的な地質学者たちが約5億7000万年前と主張している——に、依然として測定可能な量のC-14が含まれているという点だ。これは、カンブリア紀の地層が10万年未満でなければならないことを意味する！[22]

さらに驚くべきことに、科学的な検査の結果、化石を含むすべての地層にC-14が含まれており、最上層からカンブリア紀の地層に至るまで、その含有量はほぼ同じ範囲であることが判明した。C-14は時間の経過とともに崩壊していくため、この発見は、これらすべての地層が同じ大災害の際に形成されたことを強く示唆している！[23]

地質年代尺度によれば数百万年前の物質にC-14が存在することを説明するため、古地球説の支持者たちは、その物質がC-14で汚染されたのだと主張している。**しかし、すべての放射性年代測定の結果は、汚染が一切発生しなかったという仮定に基づいているため、これは極めて偽善的な主張である！** 信じがたい話だ！

「古い地球」の年代測定法にまつわる数々の不審な点がある中で、重要な疑問が浮かびます。**地球の*46億年*という年代は、一体どこから来たのでしょうか**？驚くべきことに、それは**隕石の年代測定に由来**しているのです！[19] しかも、隕石がいつ、どこで形成され

たのか、誰も知らないのです！なんてことでしょう！

聖書の見解によれば、数千年前に起きた世界的大洪水によって、地球の堆積岩層が形成されたとされています。したがって、水によって運ばれた堆積物だけでなく、石油、天然ガス、石炭の鉱床においても、C-14の含有量がほぼ同じ範囲にあるはずなのです。そして、実際にそうであることが確認されているのです！真の科学こそが、信者にとっての真の友なのです。
オッカムの剃刀。

長い年月をかけて何かが形成されるのを誰も観察したことはありませんが、層状の地層、峡谷、将来の石炭層などが、ほんの数分のうちに形成される様子は目撃されています。次の章を読めば、*この雪崩を引き起こした「雪玉」*の残骸さえも溶けてしまうことでしょう。

***

注：1975年から2005年にかけて、フランクフルト大学の教授で、炭素年代測定の専門家と見なされていた人物が、3万6000年前のものと年代測定した、最古の人類の遺骨を発見したとされました。しかし、何百万人もの人々を誤解させた後、ついに彼が炭素年代測定装置の操作方法すら知らず、単に年代をでっち上げていたことが明らかになりました！ 彼が用いた骨格遺体のひとつは、1750年に亡くなった男性の遺骨だったのです！[27] ですから、偽りの知識には注意してください！（テモテへの手紙第一 6:20-21）。

「クリスチャンの家庭で育った私にとって、信仰を揺るがした唯一のことは、聖書と、学校で教えられていた進化論や数百万年という時間軸とのバランスを取ろうとしたことでした。あなたほど正直かつ簡潔に真理を教えてくれた人は、これまで誰もいませんでした。あなたの動画は、私の目に真理を明らかにしてくれまし

た！」オレゴン州のメアリー

4

地球の荒廃：セント・ ・ヘレンズ山

さあ、主の御業を見よ。主が地上にどのような荒廃をもたらされたかを。

詩篇 46:8

セント・ヘレンズ山は1980年5月18日に噴火し、歴史上最も**科学的に観測された壊滅的な地質学的出来事**をもたらした。 この比較的小さな火山の噴火と、それに続く一連の出来事は、地質学的形成物がほんの数分あるいは数時間で形成され得ることを明らかにした。[28, 29] これらの観測された事象は、過去150年間にわたり科学的事実として教えられてきた、世俗的地質学の非観測的な説と真っ向から対立している。 以下に、セント・ヘレンズ山で**科学的に観測された**地質学的事象に関する、聖書的説と世俗的地質学説の比較を示す。

地層をなす堆積岩は、地球の地殻の大部分を占めています。**世俗的な見解**では、地層は世界的大洪水の間には急速に形成されたのではなく、これまで一度も観測されたことのない数百万年という長い時間をかけて、ゆっくりと均一に形成されたとされています。これは、ペテロの手紙第二 3:3-6 に記されている終わりの日の預言を成就するものです（第2章参照）。聖書的な見解では、ノアの時代に1年間

続いた世界的大洪水が、

、堆積物を粒径、重量、密度によって選別し、その結果、今日私たちが見ているような層状の堆積層が形成されたと主張している。

セント・ヘレンズ山では、研究者たちは、わずか数分あるいは数時間のうちに、微細な層状構造を持つ堆積層が形成される3つの*異なる過程*を観察することができた。[30] まず、時速200マイル以上で火山の火口から噴出した流体によって、厚さ25フィートの微細な層状構造を持つ堆積層が、わずか数分のうちに堆積した。 第二に、破片が地上に落下するにつれて、空中降下堆積物によって、深さ数百フィートにも及ぶ微細な層状構造が、数分から数日の間に形成された。その後、噴火の初期に形成された土のダムが決壊し、泥水がその破口から押し寄せた際、数時間のうちに泥流によって地層が形成された。
その後の研究により、「*泥岩は、広く想定されているよりも激しい条件下で堆積し得るため、多くの地質記録の再評価が必要である*」という結論が導き出された。[31]

石炭層は、しばしば岩石層によって隔てられた状態で発見される。これが、石炭がしばしば露天掘りで採掘される理由である[32]。**世俗的な見解**では、石炭層は、沼地に泥炭が徐々に堆積するにつれて、*数百万年かけて*ゆっくりと形成されたとされる。その後、その地域が徐々に隆起し、沼地の水が排水されて泥炭が露出し、その上に堆積物の層がゆっくりと形成されたという。 次に、*数百万年*をかけてその地域が徐々に沈下し、岩層の上に新たな沼地が形成された。世俗主義者たちは、このシナリオが*数億年にわたって*続き、岩層によって隔てられた石炭脈が残されたと信じている。石炭層に関する聖書的な**見解は**、世界的大洪水の際に、膨大な量の植物が根こそぎ引き抜かれ、直径1,500マイル以上に及ぶ巨大な有機物の浮遊マットを形成したというものである。 これらのマットが流れゆく中、木の幹同士が

互いに擦れ合い、樹皮や枝、葉、その他の植物を粉砕していった。

マットが漂流するにつれて、木の幹が互いに擦れ合い、樹皮や枝、葉、その他の植物を押しつぶしていった。同時に、水分をたっぷり含んだ有機物の残骸は底へと沈み、そこで流れ込む堆積物に素早く覆われて、将来の石炭層を形成した。

セント・ヘレンズ山では、研究者たちが、壊滅的な水関連の事象によって石炭層がいかに急速に形成されるかを観察することができました。
火山噴火の間、スピリット湖は吹き飛ばされた木々で覆われた。その後、木々が水面に浮かぶにつれ、幹同士がこすり合い、樹皮や枝、葉を砕いた。水を含んだ有機残骸が湖底に沈むと、すぐに湖に流れ込んだ堆積物に覆われ、将来の石炭層を形成した。この科学的に観察された過程は、石炭層に関する聖書の解釈を強く裏付けている。

石炭に関する事実 1：石炭*を含む石炭紀の地層*について、**世俗的な説**では、それが約2億5000万年前に形成されたとされています。しかし、10万年以内に崩壊するはずのC-14（『炭素年代測定』第3章参照）が、石炭紀の石炭層に測定可能な量で存在しています。 さらに、石炭を含む各層から採取された石炭試料には、依然としてC-14が含まれている。これは、地球の地殻の岩層、およびその中の石炭層が、過去数千年の間に形成されたことを示す説得力のある証拠[であり][33]、約4,500年前に起きた世界的大洪水の際に石炭と地層が形成されたという**聖書の見解**と合致している。

石炭に関する事実 2：下層の石炭層から上層の岩層を貫通し、上部の石炭脈へと伸びる分岐した**石炭層**が見つかっている[34]。分岐した石炭層に対する**世俗的な解釈**は、石炭層間の岩層が破断し、その破断部の上下にある壊れやすい石炭脈は破損しなかったというものだ。その後、泥炭が亀裂を埋め、分岐した石炭層が形成されたとされる。

聖書的な見解では、風や潮の流れによって浮遊していた有機物のマットが

風や潮の流れによって方向を変えた際、方向転換点で沈降した植物残骸が堆積物流の中に閉じ込められ、下層の石炭層から上層の岩層を貫き、さらに上層の石炭層へと伸びる将来の分岐した石炭層を形成したというものだ。

化石は、地球の地殻にある堆積層から発見される。**世俗的な見解では**、化石化には*長い年月*が必要であるとされている。[35, 36] **聖書的な見解**では、植物や動物は世界的な大洪水の際に急速に埋没した。その後、これらの有機物の残骸は、水分をたっぷり含み、鉱物を豊富に含む地層の中で急速に化石化した。

セント・ヘレンズ山は、層状の地層が急速に形成され、わずか数年で化石化が起こり得ることを明らかにした。火山噴火によって形成された微細な層状の地層は、すでに岩石へと硬化しており、その中には、この壊滅的な出来事の犠牲となった動植物の遺骸が含まれているからである。[37]

化石に関する事実：過去100年間に急速に化石化したことが知られている多数の事例は、様々な条件下で化石が急速に形成され得ることを証明している。通常、世界的大洪水の終盤に豊富に存在した水と溶解した鉱物が必要とされる。

多層化石は、複数の地層を垂直方向に貫いている。[38] 樹木や魚類の多層化石が発見されており、樹木の中には逆さまになっているものもある。これらの化石に対する**世俗的な見解**は様々である。時には、樹木が異なる時期に成長し、その後、長期間にわたって局所的な大災害によって周期的に埋没したと主張されることもある。
また、観測された事象に基づき、大災害によって樹木が急速に埋没し、化石が形成されたことを認めることもある。多層にまたがる魚の化

石については、水中の地滑りによって埋没したものと一蹴される。**聖書的な見解**では、

、世界的大洪水（ノアの洪水）の間に有機物の残骸が急速に埋没し、多くの場合、複数の地層を貫通して埋もれたというものです。洪水の最中およびその後、根こそぎ倒された木々は、洪水の水面、洪水後の海、そして洪水後の湖の上を水平に浮遊していました。浮遊していた木々が水を含んで重くなると、より重い端を下にして直立した姿勢に転じました。 やがて、直立して浮いていた丸太は底へと沈み、中には逆さまになったものもあった。これらはその後、流れ込む堆積物によって急速に埋没し、今日の直立した多層構造の樹木化石となった。木々が沈んだ時期がそれぞれ異なっていたため、異なる地層に埋もれた状態で発見されるのである。
大洪水後の泥流もまた、いくつかの多層化木化石を急速に形成しました。

注：私がこの情報を知るずっと前に、イエローストーン国立公園の「スペシメン・リッジ」を訪れたことをきっかけに無神論者になった元牧師に会ったことがある。そこでは、26の異なる地層に直立した石化木が見つかっている。 同公園では、2億6つの異なる森林が*数億年*かけて成長したと説明されている。しかし、これらの地層から採取された樹木の研究によると、乾燥年、多雨年、森林火災の年を示す年輪のパターンが同一であることが判明しており、これらは同時に成長したことを証明しており、多層化化石に関する**聖書の見解と**合致している。

火山噴火は、多層化石およびそれらが貫通する地層が急速に形成され得るという、目に見える証拠を明らかにしました。噴火の際、近くのスピリット湖は倒木で覆われました。これらの木々は水に浸かるにつれて向きを変え、重い端を下にして垂直な姿勢で浮きました。 その後、それらは異なる時期に湖底へと沈み、流入した堆積物によって、直立したままさまざまな深さで埋没した。今日、スピリット湖の湖底には約5万本の直立した木々が散在している。[39] その後、

この地域では大規模な泥流もまた、急速に多層化化石と層状の地層を生み出した。

峡谷。峡谷に関する**世俗的な見解**は、それらが水（通常は河川）による侵食によって、目に見えない*数百万年*という長い時間をかけて、ゆっくりと均一に削り出されたというものである。**聖書**に基づく**見解**では、大洪水の水が堆積層を形成し、その後その一部が侵食されたとされる。 大洪水の水が陸地から最後に流れ出した際、さらに氷河期末に氷河が溶けて生じた大規模な流出水（第6章参照）が続き、その流水によって水路や、今日私たちが見る主要な峡谷の大部分が刻み込まれたのである。

セント・ヘレンズ山は、水や泥の急激な流れによって峡谷がいかに急速に形成されるかを明らかにしました。 1982年3月19日、火山活動の噴火段階で形成されていた土のダムが崩壊した。その決壊箇所から溢れ出た大量の水と泥流は、わずか数時間で「*リトル・グランド・キャニオン*」を刻み出した。その長さは1マイル以上、深さは160フィート、幅は1,000フィートに及ぶ。[40]

溶岩流。溶岩流に関する**世俗的な見解**では、現在の火山活動の活発さが過去の活動率を解明する鍵であり、放射性年代測定法によって、観測不可能な過去に発生した溶岩流の年代を正確に特定できるとされています。 **聖書的な**見解では、地殻の堆積層内に見られる溶岩流は、地球規模の大洪水の際に形成されたものであり、その洪水によって地球は巨大な地殻プレート（陸塊）の活動に見舞われた。また、洪水の終盤における地殻の激変により、洪水後の最初の1,200年間は、今日観察されるよりもはるかに頻繁に火山噴火が発生していた。

セント・ヘレンズ山は、溶岩流の放射性年代測定が全く信頼できないことを明らかにした。[41] 噴火後に溶岩ドーム内で形成されたと観察された岩石は、同位体年代測定により最大*290*万年前と推定された（参照：放射性年代測定 - 第3章）。

神は、セント・ヘレンズ山において、世界史上最も多く観察された地質学的災害をもたらされた。この比較的小さな火山は、地層、石炭層、峡谷、化石などが急速に形成され得ることを明らかにした。しかし、世俗主義者たちは教育機関や科学界を掌握している。彼らの世界観全体は、地質学的プロセスが、特に（ペテロの手紙第二 3:3-6に記された）世界的大洪水の間には急速には起こらず、長い歳月をかけて均一に進行するという、実証されていない信念に基づいている。

不可能なことをあり得るように見せるには*数十億年もの時間*が必要であるため、世俗的な偏見に満ちた「古い地球」説は依然として科学的事実として教えられている一方で、その世界観を反証する圧倒的な証拠は抑圧されています。ですから、***「偽りの科学」***（テモテへの手紙第二 6:20-21）に警戒してください。

聖書に基づく地球の地質学的**見解**は、セント・ヘレンズ山で発生した際に科学的に観測された地質学的事象と一致しています。改めて、観察に基づいた真の科学こそが、信者にとって真の友であることが証明され、妥協のない神の御言葉に信仰を置くことができるという確固たる証拠を与えてくれます。**オッカムの剃刀**。

***

「*私は『ギャップ説』を教えるキリスト教系大学を卒業しました。あなたがこの非聖書的な考えをわずか5分で論破してくださったことに感激しています！真理を知ることができてとても嬉しい反面、キリスト教系大学や私の教会が、このような非聖書的なナンセンスを推奨していることに腹が立ちます。神を賛美します*！」 フロリダ州のバリー



5

グランドキャニオンと『

』の壮大な階段

懐疑論者：***もしグランドキャニオンが世界的な大洪水によって形成されたのなら、なぜ至る所にグランドキャニオンがないのですか？***ラス：***もし川が数百万年かけて巨大な峡谷を刻み、地球が数十億年の歴史を持つなら、なぜ至る所にグランドキャニオンがないのですか？***

この二つの質問に対する答えは、グランドキャニオンが形成されるには特別な一連の条件が必要だったということです。これについては、この章で詳しく説明します。

グランドキャニオンは、*古地球説を支える6つの柱の*もう一つである。アリゾナ州北部にあるグランドキャニオンが形成される過程で、900立方マイル以上の堆積物が削り取られた。コロラド川によって現在峡谷から運び出されている堆積物の量を測定し、過去の侵食速度も同様であった（均一説）と仮定することで、世俗的な科学者たちは、川がこの峡谷を形成するのに*数百万年*かかったと結論づけた。しかし、グランドキャニオンの形成に関する、最も広く受け入れられている2つの「観察に基づかない」説明は、科学的に反証されており、その状態はすでに数年も続いているのです！

コロラド川が峡谷を刻んだと信じる人々にとっての大きな障害は、川が峡谷の縁から約1マイル下流の地点で峡谷に流れ込んでいること、そして水は上り坂を流れないという事実である。 川がどのようにして峡谷を侵食したかを説明するため、均一説に偏った研究者たちは、「古代河川説」（別名「先行河川説」）を提唱した。[42] この仮説は、峡谷が切り込むカイバブ高原（または隆起帯）が*数百万年かけて*ゆっくりと隆起していったのと同じ速度で、水流が峡谷を侵食していたとするものである。 まさに奇跡というほかない！　1世紀近く事実として教えられてきたものの、「古代河川説」は1960年代以降、科学的に徹底的に反証されてきた。[43]

「古代河川説」には数え切れないほどの問題点があるが、その一つは、ワサッチ層が、すでに形成されていたカイバブ隆起の側面に堆積していたという点である。ワサッチ層はカイバブ隆起（カイバブ高原）の地層とともに隆起していなかったことから、事象の発生順序を推察することができ、ワサッチ層が隆起の後に堆積したことが証明される。
しかし、カイバブ隆起を貫いてグランドキャニオンを形成した地質学的現象は、隆起した地層と水平なワサッチ層の両方を切り裂いた。これは、まずカイバブ隆起が形成され、次にその側面にワサッチ層が堆積し、その後で峡谷を侵食した現象が起きたことを証明している。私がよく言うように、真の科学こそが信者にとっての真の友である。悲しいことに、数え切れないほど多くの人々が「古代の川」説によって誤った方向に導かれてきた。

次に登場したのが、「河川奪取説」、あるいは「早発性ガリー説」である。この説は、妥当な仮説というよりは、願望に満ちた言い訳に過ぎない。何しろ、グランドキャニオンは「*地球古説」の六大支柱*の一つであるため、「地球古説」を盲信する者たちは、この峡谷が短期間で形成されたことを認めるわけにはいかないのだ。この説

は現在、

グランドキャニオンの形成に関する「地球は古い」という説の言い訳は、控えめに言ってもこじつけに過ぎない。 その説によれば、コロラド川が一方の方向からゆっくりと峡谷を侵食している一方で、雨水による流出がアップワープの反対側で徐々に渓谷を削り出していたという。やがて、二つの峡谷はカナブ・クリークで合流し、グランドキャニオンを形成した。グランドキャニオンでのラフティングツアーをガイドした経験から、この説がまったくの荒唐無稽であることを身をもって断言できる。

第一に、二つの侵食現象が合流したとされる場所は、渓谷の中でも特に壮観な2マイルにわたる直線区間にあり、そこでは岩壁が川岸から700フィート以上も垂直にそびえ立っている。この急峻な岩壁は、峡谷が*数百万年かけて*徐々に形成されたのではなく、地層を真っ直ぐに切り下げるような巨大な水流によって急速に削り出されたことを証明している。 また、カナブ・クリークは高さ700フィートの崖から90度の角度で方向を変え、すぐに流れの緩やかな川特有の蛇行したループへと変化している。これは、クリークのすぐ隣に高さ700フィートの峡谷の壁を形成するのに必要な水流を示唆するものではない。さらに、そびえ立つ壁には、2つの別々の侵食現象が接続した痕跡がどこにも見られない。 こうした観察可能な証拠は、「河川奪取説」を否定している。

もしあなたがこれまでこの情報を耳にしたことがないとしたら、それは、グランドキャニオンが長い年月をかけてどのように形成されたかを説明する妥当な方法を持たない世俗主義者たちが、その漸進的な形成に反する証拠を隠蔽しているためです。グランドキャニオン国立公園を訪れたことがあるなら、公園の入り口で配られるパンフレットに書かれた「古い地球」を主張するプロパガンダを読んだことがあるでしょう。 おそらく、パークレンジャーが*数百万年について*延々と語っているのを聞いたり、縁沿いの「地質学の時間の道

」をハイキングしたりしたことがあるでしょう。そこには、岩石を展示し、「ディープ・タイム」を宣伝するブロンズのメダルやコンクリートの台座が設置されています。

グランドキャニオンに関する誤った歴史的説明は、何十億もの人々を欺き、神の御言葉を疑わせたり否定させたりしてきました。そこで、グランドキャニオンとこの地域の地質構造について考察してみましょう。この地域を誠実に分析すれば、地球古説を覆す「大洪水」説を強力に裏付ける証拠が得られます。

グランドキャニオンが切り開いているカイバブ高原の層状構造は、水によって堆積した堆積層である。 これらの地層からは、ウミユリの茎、スポンジ、ホタテ、アサリ、腕足類などの海洋化石が発見されている。[44] 岩層間に時間的な断絶は見られない。[45] 例えば、ある地層が、その上の地層が形成される前に*何百万年も*地表に露出していたとすれば、下層の地表にある古代の岩石からの水の浸食、植物の成長、酸による溶出などの痕跡が見られるはずである。 これらは時間的なギャップとなるはずだ。しかし、そうしたギャップは見当たらず、地層が*数百万年*かけて徐々に形成されたのではないことを示している。

押しつぶされた微細なポロニウム・ハローについて考えてみましょう。ポロニウムは放射性同位体であり、ポロニウム210は形成後約2年間、エネルギーを放出します。このエネルギーによって元素の周囲に色付きの円が生じ、その2年間の間に石化したり硬化した木材や岩石に閉じ込められると、いわゆる「放射性ハロー」が形成されます。 その上層が堆積した際に押しつぶされて細長い形状になった円形のハローが、コロラド高原のジュラ紀、三畳紀、および始新世の地層で見つかっている。しかし、押しつぶされた後、円形の模様が再び形成され始めたことから、地質年代尺度によれば*2億5000*万年の時間をカバーしているはずの地層が、エネルギーがまだ放出されていた2年間の期間内に形成されたことが証明されている。[46]

グランドキャニオンに関する「地球は古い」という説にとって、もう一つの大きな矛盾は、「不整合」と呼ばれる欠落した岩層である。[47] 標準的な「地球は古い」説、すなわち「アダム以前の死」説によれば、欠落した岩層（その一部は最大*12*億年分の地層に相当する）は、現在その上に存在する地層が堆積する前に、何らかの形で侵食されたとされる。しかし、それは世界的な大洪水によるものではない！ また、グランドキャニオンの様々な地層の間には、いくつかの不整合が見られる。

その不整合の一つは、グランドキャニオンの地層形成に関する**世俗的な説**に、とりわけ決定的な打撃を与えている。それは、推定*3億*4000万年前のレッドウォール石灰岩が、推定*5億*500万年前のムアヴ石灰岩の上に重なっている箇所である。その間には、テンプル・ビュート層を含む、推定*1億6500万年*以上の他の地層が欠落していると言われている。 重要なのは、レッドウォール層とムアヴ層が接するいくつかの地点で、それらの岩石が互いに互層化し、混ざり合っているという点だ！これは、両層が次々と堆積した際、どちらも液状化していたことを示している！これらの観察可能な事実は、グランドキャニオンの層状岩石が徐々に形成されたという説に対する、揺るぎない証拠である。

聖書的な見解によれば、大洪水の水が堆積物を層状に分け、急速に地層を形成し、まだ形成途中のポロニウム・ハローを押しつぶしつつ、将来の岩層間に時間的な隙間を残さなかった。激流は、1年にわたる大洪水の期間中、絶えず地層を堆積させ、また持ち上げていた。 一部の層は除去され、他の層は不整合として埋没し、時にはある層が別の層の上に堆積する交互層を形成することもありました。**オッカムの剃刀**。

地層が堆積した後、コロラド高原の下で断層が発生した。その結果

、地層は

最大で約4,000フィートも隆起し、カイバブ隆起帯[48]が形成され、やがてそこにグランドキャニオンが刻まれた。この隆起現象は、世俗的な説にとってさらなるジレンマをもたらした。なぜなら、峡谷の壁面には、褶曲しているものの、断裂していない岩層が見られるからである。 **世俗的な見解**では、地層は沈み込み、過熱され、高温の地層が地表に押し戻される過程で褶曲したと考えられている。しかし、もしこうした観測されていない事象が実際に起きたとすれば、融解過程によって堆積岩は変成岩に変化していたはずだが、それらは依然として堆積岩のままである。（これについては第6章でさらに論じる）。

グランドキャニオンの形成に関する**「地球は古い」という説**には、他にも問題点がある。例えば、急峻で垂直に近い壁や、峡谷内に岩屑が見られないことなどだ。これは、峡谷の縁に立っていれば容易に指摘できる。 急峻で垂直にそびえる峡谷の壁を見下ろすと、もしグランドキャニオンがはるか昔に形成されたのであれば、侵食や崩落によって生じた側壁の岩屑が峡谷の底に巨大な山となって散乱しているはずであることが明らかになります。[49] しかし、壁は依然として垂直にそびえ立ち、底には岩屑はほとんど見当たりません。 垂直な壁は、この深淵が急速に形成されたことを示しており、岩屑の欠如は、これらの壁が、観察されていない*数百万年*もの間、その場所に存在していたわけではないことを明らかにしている。

聖書的な見解によれば、アップワープで見られる堆積層の一部は、世界的大洪水の水によって最近堆積したばかりであるため、曲がってはいるものの、壊れてはいない。それらは、洪水の終わりに山々が隆起し、谷が沈下した際、まだ部分的にしか固化していなかった。
これらの隆起した層はその後、堆積岩層として硬化し、その一部は最大90度まで折り曲げられ、今日私たちが観察できる姿となってい

る。その後、侵食作用がアップワープを鋭く切り裂き、赤、ピンク、ベージュ色の壁を残した。

グランドキャニオンの赤、ピンク、ベージュの岩壁が残され、これは水による神の全世界的な裁きと、聖書の真実を証明するものです。**オッカムの剃刀**。

ここで、世界中で見つかる大洪水に関する証拠の中で、第二位に位置づけられるものを紹介させてください。これは神とその御言葉の真実に対する非常に力強い証しであり、ある不可知論者の科学者にこのことを説明してから2週間後、彼はイエス・キリストを自分の主であり救い主として受け入れたほどです！

私はグランドキャニオンツアー中に、峡谷の縁で解説を行っています。峡谷の縁を構成するカイバブ石灰岩の上に立ちながら、私は参加者にこう伝えます。「*もしキャニオンを見下ろしながら、神の御言葉の真実を裏付ける最高の証拠のいくつかを見たいと思っているなら、あなたは間違った方向を見ているのです*！」 なぜなら、古地球説を覆す、世界的大洪水のこの否定できない証拠は、グランドキャニオンの中にあるのではなく、キャニオンの縁の上にあるからです。

シーダー・マウンテンとレッド・ビュートは、カイバブ石灰岩の上空900フィートの高さにそびえ立っています。これらのビュートは、厚さ600フィートのモエンコピ層と、厚さ300フィートのチンレ層で構成されています。これらの層はいずれも水によって堆積したもので、かつてはこの地域全体を覆っていましたが、わずかな残存部分を除いては、すでに削り取られてしまいました。 このことがわかるのは、これらの地層がアリゾナ州のさらに北やユタ州南部、そして東のペインテッド・デザートでも確認されるためである。グランドキャニオンでは約900立方マイルの堆積物が欠落しているが、これらの欠落した地層は、約10,000立方マイルの物質が失われていることを示している。最も論理的な説明は、現在コロラド高原と呼ばれる地

域から洪水の水が最後に流れ出した際、欠落した地層が削り取られ、広範囲に分散してしまったというものである。

では、国立公園局はシーダー・マウンテンやレッド・ビュートをどのように説明しているのだろうか？ 彼らの最初の防御策は

は、自分たちの世界観の基盤である「*数十億年*」という概念を覆してしまうため、科学的に観察可能な証拠を無視することです。訪問者の99.99%はこれらのビュートについて何も知らないため、真実を隠すには沈黙するだけで十分なのです。もしどちらかのビュートについて説明を迫られた場合、最後の手段として、それらの地形は火山活動による隆起であると主張してきました。これらは水によって堆積した堆積層で構成されているという事実があるにもかかわらずです！

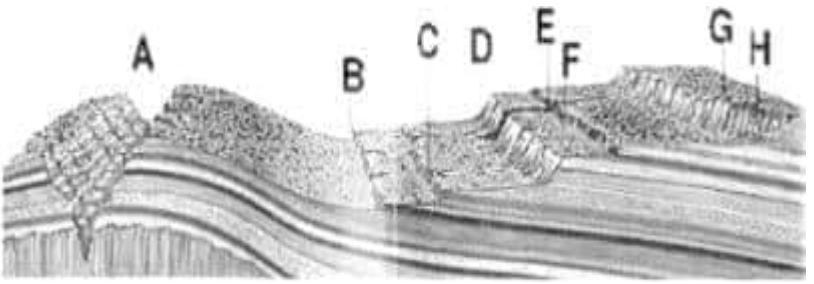
注：ほとんどのパークレンジャーや地質学者は嘘をついているわけではなく、単に教え込まれたキャニオンに関する誤った世俗的な説を繰り返しているに過ぎない。繰り返すが、***「偽りの科学***（知識）***」***には警戒せよ（テモテへの手紙第一 6:20-21）。

さて、地球上のどこを探しても見つからない、世界的な大洪水の最有力な証拠をご紹介しましょう。深さ900フィートの地層が欠落していることは確かに驚くべきことですが、その上層から8,500フィート以上の層状地層が欠落していることに比べれば、その驚きは霞んでしまいます！そうです、かつては、
かつて存在していたのです。合計すると、グランドキャニオンの縁を形成するカイバブ石灰岩の上から、深さ約1.8マイル以上の地層が除去されたことになります。これらの失われた地層は、
約13万立方マイルの堆積物が失われていることを意味します！これは、ノアの時代に起きた世界的な大洪水を裏付ける驚くべき証拠です。

かつてこの地域を覆っていた地層は、侵食作用によってその状態が保たれたまま残されている「***グランド・ステアケース***」と呼ばれる場所で確認できるため、その存在がわかっている。 グランド・ステアケースの主要な段は、高さ2,000フィートのバーミリオ

ン・クリフ、ザイオンにある高さ2,500フィートのホワイト・クリフとグレイズ・クリフ、そしてブライス・キャニオンにある高さ2,500フィートのピンク色の崖です。ブライス・キャニオンは、キャニオンというよりは巨大なサッピング構造であり、この大規模な侵食現象の北端を示しています

を画している。サッピング構造とは、水が突然ある地域から流れ去ることで、その地域が下方へ崩落して形成されるものである。ブライス以南では、地層が階段状に削り取られており、地質学的には「グランド・ステアケース」として知られている。[50]



画像：グランドキャニオン（A）、チョコレートクリフ（B）、バーミリオンクリフ（C）、ホワイトクリフ（D）、ザイオンキャニオン（E）、グレイクリフ（F）、ピンククリフ（G）、ブライスキャニオン（H）。国立公園局。

これほど広大な地域にわたって堆積物が削り取られ、その堆積物がどこに再堆積したかの証拠がほとんど残されていないという現象に対する唯一の論理的な解釈として、「世界的大洪水」説を支持する圧倒的な証拠となる。つまり、これらの地層は、洪水の水が最後に大陸から流れ去った際に削り取られたのである。**聖書の見解は、**常に地球に関する最良の解釈を提供し続けている。なぜなら、神の言葉は一語一語、最初から最後まで真実だからである。

世界的な大洪水は、ダーウィニズム、自然主義、ヒューマニズムの基盤となっている「*数十億*年説」を揺るがすものであるため、また、世俗主義者たちが科学界や教育機関、さらには国立公園局を掌握していることから、こうした観察可能な事実は軽視されたり、省略されたりしている。悲しいことに、こうした省略は、実証されていない歴史的記述と相まって、何百万人もの無防備な人々を誤った方向に導いてしまった。

私が「*グランドキャニオンの6日間形成説*」と呼んでいるものについ

て議論してみましょう。メインの峡谷が6日間で削られたのか、それとも60日間で削られたのかについては、断定的に述べることはできません。なぜなら

カイバブ隆起（高原）を激しく切り裂き、グランドキャニオンを形成していた水を、誰も目撃していないからです。しかし、証拠は峡谷の急速な形成を裏付けています。

私はよく、「*もし世界的な大洪水があったのなら、なぜ世界中に何百ものグランドキャニオンが見つからないのか？*」と尋ねられます。これは妥当な質問であり、それに見合った答えが必要です。 私の答えは、「*もし地球が数十億年の歴史を持ち、川が数百万年かけて峡谷を削り出すのであれば、なぜ世界中に何百万ものグランドキャニオンが存在しないのでしょうか？*」と問いかけることです。そして、グランドキャニオンが形成されるには特別な一連の条件が必要だったことを説明するために、いくつかの妥当な例や仮説を挙げます。

この地域の形成については、**聖書の見解に**合致するいくつかの競合する仮説があります。どれかが正確であると証明されるまでは、私は単に、世界的大洪水の終盤に、かつて「深淵の泉」の上にあった地球の薄い地殻が、洪水開始から最初の150日間に噴出した大量の水の下に沈んだと提案するだけです。 大洪水の終盤にかけて、これらの薄い地殻プレートは、その下にある水が枯渇した水室へと陥没した。この破局的な出来事は、陸塊が急速に滑り離れ、「深淵の泉」が噴出していた亀裂から遠ざかるにつれて、山々を空高く突き上げると同時に、現在の海洋盆地を形成した。

洪水の終盤、現在の米国南西部から後退する水流が、一部で深さ1.8マイル以上に及ぶ失われた地層を削り取り、グランド・ステアケースを残した。陸地の一部が、しばしば極めて突然に停止すると、地質学的圧縮現象が生じた。断層も発生し、まだ半軟らかい地層を折り曲げ、それらは後に硬化して、今日私たちが見ている褶曲した岩層となった。カイバブ隆起

は、この期間に、おそらくその下で発生した大規模な断層によって形成された。

グランドキャニオンの形成に関する3つの有力な説は以下の通りである。1) 水プレート説：2つの巨大な湖が突発的に排水され、失われた地層を侵食した。露出した地層が隆起してカイバブ隆起を形成し、それが亀裂を生じた。
水がその亀裂に流れ込み、グランドキャニオンが形成された。その基盤岩も膨らんで亀裂が生じ、インナー・ゴージが形成された；[296] 2) 水路形成説：世界的大洪水の終わりに、洪水の水が引き始めると、水路が形成され、それがコロラド高原を削り、アップワープを貫通してグランドキャニオンを彫り出した；そして 3) ダム決壊説：隆起部は巨大な土のダムの役割を果たし、大洪水の終盤の洪水をせき止め、洪水終了後はコロラド高原からの流出水を貯留した。やがて水は隆起部を突破して流れ落ち、グランドキャニオンを急速に侵食した。[51]

グランドキャニオンの急速な形成については、証拠と合致する他の有力な仮説も存在する。現在進行中の研究では、どの説が最も起こり得た可能性が高いかを特定しようとしている。要するに、グランドキャニオン内およびその周辺の地質構造は、地球の古さ説や「アダム以前の死」説を覆す、世界的な大洪水に関する世界最高の証拠を提供しているのだ。

現時点では、グランドキャニオンがゆっくりと均一に形成されたことを説明できる妥当な理論は存在しない。そのため、少数ではあるが、増えつつある世俗的な地質学者たちが、グランドキャニオンが急速に形成されたことを認め始めている。例えば、『ナショナルジオグラフィック・フォー・キッズ』誌は、「*地質学者たちは現在、グランドキャニオンが巨大な洪水によって急速な急成長を遂げたと*

考えている……」と記している。[52] 彼らはそれが単一の「世界的大洪水」であったことは認めていないが、その時間枠は

数百万年ではなく数千年にまで短縮されており、彼らは正しい方向に向かっている。

グランドキャニオンとグランド・ステアケースを誠実に分析すれば、**聖書の世界観**、そして地球の地質学、地球の年齢、そして死が世界に現れた時期の鍵となる「世界的大洪水」を大いに裏付けることになる。**オッカムの剃刀**。

***

「私は、ダーウィンの進化論と古地球説を教えるキリスト教系高校を卒業したばかりです。私の教会ではこうした話題が取り上げられることはなく、ラスさんと一緒に行ったこのグランドキャニオンへの旅行が、私にとって最後のキリスト教関連の行事になるはずでした。今、私は聖書が真実であることを理解しました。そして、神の御言葉を守るために、かつて通っていた学校や教会の指導者たちに異議を申し立てるつもりです。」 コロラド州のトニー

午前10時：*「ラス、母に無理やりあなたのバスツアーに参加させられたんだけど、僕は公言している無神論者だし、あなたの神なんて全く興味ないよ。」* ***午後5時***：*「ラス、今日という日は僕の人生を変えた。*
今なら聖書が真実だとわかるよ！」 アリゾナ州のダニエル

「あなたのツアーは、私たちにとってこれまでで『一番のお気に入り』であり、『最高に素晴らしく』、そして『学びの多い』家族旅行でした！『数百万年かけてダーウィンの進化論に至った』という教化に対して、キリスト教の信仰を擁護する方法を学びたいと願う、キリストにあるすべての兄弟姉妹に、このツアーをお勧めします。」 カンザス州のラリー＆マリリン

「最初はグランドキャニオンを見たいだけだったのですが、今でも『グランド・ステアケース・ツアー』の感動を噛みしめています！神の威厳に畏敬の念を抱き、ラスの動画を数え切れないほど多くの人々にシェアしました。」 ミシシッピ州のカレン

6

パンゲア、大陸移動説、そして『

』氷河期

「聖書が真実であるという証拠は何か」とよく尋ねられます。私はいつもこう答えます。「無神論者が『聖書は真実ではない』と主張するために用いるのと同じ証拠を持っている」と。私たち全員が同じ証拠を持っているのです。問題は決して証拠そのものではありません。問題は、その証拠をどの世界観を通して解釈するかということです。ラス・ミラー

プレートテクトニクスは、目撃されていない過去に起こった地球の地殻の大規模な動きを説明しようとする仮説である。[53] 1960年代までに、地質学者たちは、地球の陸塊がジグソーパズルのようにおおむねぴったりと合うように見えることを認めていた。 海底が火山活動によって中央海嶺に沿って徐々に広がっていること、また陸塊が今日、沈み込み、引き離し、断層のずれを通じて極めて緩やかに移動していることを観察した後、 世俗的な地質学者たちは、**大陸移動**が起こるには*数百万年を*要したと結論づけた。[54] また、山地の隆起は年間約1インチのペースで徐々に進行する傾向があるという観察結果に基づき、過去においても均一な隆起速度が維持されていたと仮定して外挿を行った結果、地球**の山々は***数百万年かけ*て形成された

と結論づけた。

20世紀に展開されたこれらの「観察されない物語」は、均一性の原理（現在の変化率は過去の変化率と一致しているという考え方）と、世界的大洪水の否定とを組み合わせたものである。繰り返しになるが、どちらの物語も『ペテロの手紙第二』3章3〜6節の予言を成就している。「*……終わりの日には、自分の欲望のままに歩み、こう言う嘲る者たちが現れる*でしょう…… *『すべてのものは、創造の初めからずっと、同じように続いている』と。 彼らは、神の御言葉によって……当時の世界が水に溺れて滅びたという事実を、故意に無視しているのです。*

プレートテクトニクス、大陸移動、そして山脈の形成に関する聖**書の見解**は、これらには世界規模の途方もない大災害が短期間に起こったことが必要だったというものです。聖書は、その出来事、すなわち「世界的大洪水」について述べています。 詩篇104篇8節は、大洪水の終盤に、水が山々から谷へと行き来した出来事を指しています。「*水は山々を登り、谷を下って、あなたがそのために定めた所へ至る。」*

聖書に基づいた優れた説明は数多くありますが、私は単に、1年にわたる大洪水の終盤において、「深淵の泉」からの大量の水が地表を覆い、それには、創造当初に泉の水の上にあった薄い地殻も含まれていたと提案します。あり得るシナリオとしては、薄い地殻が枯渇した泉の空洞へと崩れ落ち、今日の海洋盆地が急速に形成されたというものです。 他の地域は空に向かって隆起し、今日の多くの山脈を形成し、その結果、洪水の水は激しく行き来した。急速な地殻変動を裏付ける証拠として、世界最高峰の山々の頂上で海洋生物の化石が発見されていることや、南米のアンデス山脈の高地でクジラの化石が発見されていることが挙げられる。[55]

世俗的で均一説に偏った見解は、こうした海洋生物の化石を、山々が*数百万年かけて*徐々に隆起した証拠と解釈しているが、これらの化石は、**聖書的な見解**こそが、私たちが住む世界に対する正しい解釈であることを示唆している。 グランドキャニオン周辺、標高7,000フィート以上の場所では、サメの歯、三葉虫、海綿、アサリ、その他の海洋生物の化石が、その一帯に散らばっているのを目にします。これらの化石の一つひとつが、地球の主要な地質学的特徴のほとんどが世界的大洪水の結果であるという聖書的な見解を裏付けています。

大陸移動に関する**聖書的な見解**によれば、世界的大洪水の間、創造当初から存在していた単一の大陸（しばしばパンゲアと呼ばれる）が激しく分裂していったのです。
これらの陸塊は、「深淵の泉」が噴出した際に生じた亀裂から滑り離れるにつれて分離していきました。一部の区間は突然停止し、まるで木に激突した車のボンネットのように地表がくしゃくしゃに歪み、山脈が押し上げられました。一部の区間は衝突し、さらなる山岳の隆起をもたらした一方、他の区間は別の区間の下や上に滑り込み、今日見られる「外方移動したプレート」や「沈み込んだプレート」を形成しました。**オッカムの剃刀**。

地質学的圧縮：堆積岩の層状構造からなる山脈全体が観察される。これらの山脈の多くは互いに激しく衝突しており、その結果、岩層には最大145度の褶曲が生じているにもかかわらず、岩石には亀裂が入っていない。 これらは「地質学的圧縮現象」として知られており、世界中で確認されている。[56] 丘や山脈を貫通して切り開かれた道路沿いの層状岩層を観察すると、折り曲がっているにもかかわらず、断裂していない岩層をしばしば目にするだろう。これらは地質学的圧縮現象の結果である。では、岩層はどのようにして、時には半

分に折り曲げられるほどに曲がりながらも、岩を破砕することなくその状態を保つことができるのだろうか？

古地球説の支持者たちは、再び「均一性」という実証されていない仮定に依拠し、かつて地層が長い年月をかけて沈み込んだと主張する。その説によれば、地表の下に押し込まれた後、地層は加熱されて可塑性を帯びたという。そして、地層が地表へと押し戻される過程で褶曲が生じ、今日私たちが目にするような、曲がってはいるが破断していない岩層が残ったと彼らは主張する。 しかし、これらの褶曲した地層は、水によって堆積した堆積岩である。もしそのような沈み込み現象が実際に起きていたならば、亀裂を生じさせることなく褶曲できるほど地層が加熱された場合、岩石は変成作用を受けていたはずだ。つまり、岩石は堆積岩から変成岩へと変化していたはずである。それなのに、これらの地層は依然として堆積岩のままである！これは、地質学の講義をたった一度でも受講した人なら誰にでも明らかなはずだ。

聖書的な見解によれば、今日の褶曲した岩層に亀裂がないのは、壊滅的な地殻変動がそれらを押しつぶし、層状の岩層を曲げて後に固い岩石へと硬化させる直前に、それらが水によって堆積されたためである。**オッカムの剃刀**。

地球の地質学に対する最も論理的な解釈は、山岳形成、大陸移動、地質学的圧縮に関する世俗的地質学の歴史的物語を揺るがすものであるため、世俗的地質学によって無視されています。 ここでもまた、均一説に基づく信念が、科学的研究、科学教育、そして世界中の何十億もの人々の救いの信仰を損なっているのが見て取れる。だから、***「偽りの科学***（知識）**」**に気をつけよ（テモテへの手紙第二6:20-21）。

最も単純な答えが一般的に複雑な説明よりも優れているのであれば、大陸移動、プレートテクトニクス、山岳形成、および地質学的圧縮現象は**、世界的な**大洪水と連動して巨大な地殻変動

現象が世界的な大洪水と併せて発生したという聖書の見解を裏付けています。

オッカムの剃刀。

かつて地球の極冠が、今日氷に覆われている範囲よりもはるかに広い、北極および南極周辺の地域を覆っていたことは科学的事実である。**世俗的な説**によれば、私たちの惑星は*数百万年に*わたり、大気の冷却期を何度か経験してきたとされる。[57] 彼らは、こうした冷却サイクルが大量の降雪をもたらし、それが地球の北半球および南半球の広大な地域を覆い、その結果として複数の**氷河期**が生じたと信じている。 また、**世俗的な見解**は、氷河が常に今日観察されるような緩やかな速度で均一に動いてきたと仮定し、氷河の移動こそが*数百万年*という時間の証拠であると結論づけている。しかし、彼らの説は理にかなっているのだろうか？

極域に見られる雪や氷は膨大な量の水に相当するが、これほど莫大な量の水が雪の形で極域に運ばれる唯一の現実的な方法は、大規模な雲による輸送だったはずである。そのような雲の形成には、世界の海洋からの大規模な蒸発が必要だったはずだが、冷却期や世界的な氷河期は海洋の温度低下と蒸発量の減少をもたらしたはずである。その結果、極域に到達する雪の量は少なくなっていたはずだ。 これらの事実を考慮すると、**世俗的な説**には論理的な整合性がないことがわかります。

では、もし氷冠が地球大気の冷却サイクル中に形成されなかったとしたら、どのようにして形成されたのでしょうか。

聖書的な見解では、これらの氷冠や氷河活動の証拠を、世界的大洪水の結果であると解釈しています。氷河期に関する聖書に基づく妥当な解釈には、大洪水の最初の150日間、

深淵の泉から、熱湯と溶融マグマが噴き出していたことを含んでいる。また、地殻の変動により、1年にわたる大洪水の間、そして世界的な大災害後の数百年間にわたり、地球はかつてないレベルの火山活動を経験していたはずである。熱泉の水と火山活動が相まって、洪水の水を平均華氏95度以上に温めた。 この温かい洪水の水は、大規模な蒸発を引き起こし、地球全体を覆う巨大な雲層を形成した。これらの雲は、中央半球に雨を降り注ぐ一方で、地球の北半球と南半球には膨大な量の雪を降らせた。したがって、大洪水の年は、地球史上唯一の氷河期の始まりでもあった。**オッカムの剃刀**。

大洪水後の最初の300年間、世界の海は徐々に冷め始めました。それでも、まだ暖かい海は依然として膨大な量の蒸発を生み出し続けていました。その結果生じた雲は、中緯度地域に雨を降り注ぎ続け、北極と南極には大量の雪を降らせ続けました。氷河期におけるこの時期、氷冠や氷河が急速に形成されました。

世界的な大洪水が終結してから300年から700年の間、海水温は徐々に低下し続け、最終的に今日観測される水温に達した。この同じ期間に、蒸発量と雲量は減少し続け、氷河期は終焉を迎えた。まもなく氷冠は溶け始め、氷床は極方向へと後退し始めた。かつて氷に覆われていた地域を描いた地図は、この聖書に基づく解釈を裏付けている。
こうした地図からは、かつて氷原が現在のカンザス州北部まで南に広がっていたことがわかります。しかし、現在の氷床の分布図を見ると、それらは現在1,200+

カンザス州の北、マイル。氷冠の融解は、大洪水の水が冷えて、世界的大洪水に起因する大規模な蒸発が終息して以来、4,000年にわたる過程として続いてきた。

興味深い事実として、大洪水後の氷河期には、地球の大部分が熱帯気候に恵まれていたことが挙げられる。その状況を考えてみよう。世界の海は大量の熱を蓄えていた。その結果生じた湿度と豊富な水分が熱帯気候を生み出し、世界的大洪水後の最初の700年間、地球の中央地域では豊かな植生が育つのに最適な環境となった。 なぜ人々が中東の広大な砂漠地帯に定住したのか、不思議に思ったことはありませんか？それは、世界的な大洪水に続く氷河期を通じて、それらの地域が膨大な量の降雨を受けていたからです。人々がそこに定住した当時、今日の中東の砂漠は、青々とした草原や森林に覆われていました。

聖書に基づく解釈は論理的に筋が通っている一方で、誤った「均一性バイアス」に偏った思考は、神の御言葉の真理に対する人々の認識を蝕み、科学的研究や教育を損なっている。*「数百万年」*という物語——世俗的信念の英雄——は、人々が望む長い時代の糧であり、目に見えない時間の証拠となっている。
オッカムの剃刀。

***

コロンビア大学の教授から電話があり、「あなたに会って、*あなたの地質学について『正して』*あげたい。*あなたは多くの人々を誤解させているからだ*」と言われた。私は「*喜んでお会いしますよ。あなたの地質学について『正して』あげましょう。人々を誤解させているのはあなたの方ですから*」と答えた。チック・フィレイで会うことを提案したが、彼は乗り気ではなかった。 そこで、彼のテリトリーであるスターバックスで会うことになった。私がまずやったこ

とは、

ペテロの手紙第二 3章3〜6節を読み上げた。そこには、終わりの日に嘲る者たちが、世界的な大洪水を否定しつつ、均一な地質学的プロセスを主張すると予言されていた。彼の世界観の基盤である「数百万年という時間」は、まさにこの二つの前提に基づいているため、この一節にアイビーリーグの教授は明らかに唖然とした。私は彼の信念を揺るがすことはできなかったが、神の御言葉が、一語一語、最初から最後まで真実であるという確信を、より強く抱いてその場を後にした。

3年後、私はその同じ
アイビーリーグの教授と、次のようなメールのやり取りをしました。
教授：*無神論とは、証拠のない神々への信仰を理性的に拒絶するものであり、創造論者が自分たちの青銅器時代の神話に反する証拠を認めるような状況などあり得ない。彼らは異議を唱えられると、議論に応じようとしない。*
ラス：*あなたの世界観は、長い歳月にわたる均一な過程という誤った信念と、ペテロの手紙第二3章3〜6節で予言されている世界的大洪水の否定に基づいています。あなたの誤った前提が、誤った結論につながったのです。3年前、私はコロンビア大学で「科学対ダーウィニズム」の討論を行うことを提案しましたが、あなたは応じようとしませんでした。その提案は今も有効です。*
教授：*事実は争いの余地がないため、議論する余地などありません。*
ラス：*事実そのものについては異論はない。私が議論したいのは、あなたが事実を誤って解釈しているという点だ。実のところ、誰もが何らかの信念を持っており、それが世界を解釈する「レンズ」となるのだ。学校では世俗的な見解が教えられているが、証拠によって最も裏付けられているのは聖書的な見解である。*

注：彼は、大学で科学的事実として教えられている自身の立場について、公の場で議論することを拒否した。

7

恐竜

恐竜は子供から大人まで、人々の想像力をかき立てます。ほとんどの人は、これらの素晴らしい生物について、世俗的な説しか耳にしません。しかし、すべての証拠を正直に評価してみると、恐竜は神の御言葉に対して驚くべき裏付けを提供しているのです。ラス・ミラー

恐竜は、「*地球は古い」という信念を支える6つの柱*のうちのもう1つである。 その化石が何であるかが認識されたのは、1820年代、メアリー・マンテルが、後に現在のイグアノドンと特定される歯を発見してからのことでした。[58] それ以来、地質年代表（第2章参照）の歴史的記述に基づき、恐竜は*6500万年前に*絶滅したと教えられてきました。 地質年代表によれば、それは人類が出現する*6300万*年も前のことでした。

世俗的な説が正しいのであれば、人間と恐竜が同時期に生息していたことを示す証拠は、**絶対に**何一つ**存在してはならない**はずです。また、今日、恐竜由来の生物学的物質が存在しているはずもありません。実際、コロンビア大学のフィリップ・キッチャー博士は、人間と恐竜が同時期に生息していたことを示す証拠が見つかった場合、それは「***…進化論の根幹を揺るがすことになるだろう***」と記しています。[59] では、観察可能な証拠は何を裏付けているのでしょ

うか？

リチャード・オーウェン博士は1841年に「恐竜（*dinosaur*）」という語を造語した（*deino*は「恐ろしい」、*saurus*は「トカゲ」を意味する）。[60] *「恐竜」*という言葉が登場する以前、これらの恐ろしい獣たちは「ドラゴン」や「蛇」と呼ばれていた。[61] 780年から2,500年前の多くの歴史的文献には、人間とドラゴンに関する記述が含まれている。今日、我々はこれらを「ドラゴンの物語」と呼んでいる。[62] これらの獣に関する描写は、しばしば恐竜のように聞こえる。

アレクサンドロス大王、ティアナのアポロニオス、大プリニウス、マルコ・ポーロは、現在のインドや中国にあたる地域で目撃したドラゴンについて記している。[63] 米国南西部のネイティブ・アメリカンには、彼らが「*サンダーバード*」と呼んだ生物に関する伝承があり、その描写はプテロダクティルのような飛翔生物を彷彿とさせる。また、同じ時代のもので、恐竜のように見えるものを描いた何千もの人工的なデザインが、世界中で発見されている。これらには、青銅、木、石で作られた像のほか、洞窟壁画、象形文字、岩刻画などが含まれる。

「地球は古い」という説を揺るがすさら**なる証拠**として、**化石化していない**数多くの**恐竜の骨**が発見されていることが挙げられる。世俗的な世界観にとってさらに衝撃的なのは、**DNA、アミノ酸、ヘモグロビン、赤血球、そして柔らかくしなやかな組織といった生物学的物質を**依然として**含む**恐竜の遺骸が発見されていることである。[64] 誠実な科学者たちは、こうした生物学的物質が、たとえ最良の条件下であっても、数千年以上も保存されることはあり得ないと認めている。

さらに、10万年以内に崩壊するはずの炭素14が、一部の恐竜の軟組織に依然として存在していることが検査によって明らかになった！こうした観察可能な証拠は、人間と恐竜が共存していたことを示唆している。

恐竜は、私たちが約200年前にその化石を認識する約600年前には、明らかに姿を消していた。何世代もの人々が、ドラゴンを見ることも、恐竜の存在を知ることもなく、過ぎ去っていったのだ

。その後、我々は彼らの遺骸を発見したが、今や「*恐竜は6500万年前に絶滅した*」と教えられているのだ！

信者たちが真理を握っている一方で、ヒューマニストたちが教育機関や科学界を支配しており、もし彼らが「長い時間」という概念を失えば、すべてを失うことになるということを心に留めておいてください。その結果、世俗主義者たちは、そのような事実が「*...進化論の基盤を揺るがす*」ものであるとして、自分たちの揺らぎつつある信念を守るために、重要かつ観察可能な証拠を隠蔽し、科学的知識、研究、そして教育を損なっているのです。しかし、証拠や単純な論理は、世俗主義者たちの説を裏付けてはいない。イエスが警告されたように、「***だれにも惑わされないように気をつけなさい***」（マタイ24:4）。

神の御言葉はこう述べている。***「彼らは神を知っていたにもかかわらず、神として神を栄光に帰さず、むしろ、その思いはむなしくなり***」（ローマ人への手紙 1:21）。恐竜の絶滅に関する世俗的な説は多岐にわたり、地球が「暑すぎた」「寒すぎた」「湿りすぎた」「乾燥しすぎた」ために恐竜が絶滅したという説が含まれている。
その他の説としては、蛾の幼虫が植物をすべて食い尽くし、巨大な爬虫類が餓死した、有毒な花を食べて死んだ、あるいは有毒な昆虫に刺されて死んだ、といったものがある。
痛っ！　そして、隕石衝突説もあります。要するに、もし恐竜が人類が出現する6300万年前に絶滅していたとしたら、人間と恐竜が同時期に生きていたという証拠は存在しないでしょう。

聖書における恐竜観は、神が創造の週の第六日に人間と獣を造られたというものです（創世記 1:24-31）。その後、人間の罪に対する神の「大洪水」という裁きが下された際、ノアの箱舟に乗っていなか

った恐竜たちは溺死し、水によって堆積した地層に埋もれ、その結果、今日私たちが観察できる恐竜の化石が残されたのです。 また、世界的大洪水は、化石記録において恐竜が突然、かつ完全に発達した姿で現れる理由を説明しており、恐竜が何かから進化したという証拠は一切残されていません。

「なぜ聖書に『恐竜』という言葉が出てこないのか」とよく尋ねられます。その答えは、「恐竜」という言葉が1841年になって初めて造語されたものであり、聖霊に導かれた人々が聖書を記した時期からはるかに後のことだからです。しかし、聖書には「竜」や「蛇」が20回以上も言及されています。

神がヨブに「***見よ、ベヘモット。わたしがあなたと共に造ったものである。それは牛のように草を食べる***」（ヨブ記40:15）と言われたとき、おそらくサウロポッド類の恐竜について語っておられたのでしょう。 16〜17節には次のように記されています。***「…その力は腰にあり、その強さは腹のへそにある。その尾は杉の木のように揺れる。」*** 竜脚類は、長い首や重い頭、そして神が杉の木に例えた巨大な尾を制御するために、胴体部分に途方もない力を持っていたに違いありません！

ヨブ記40章18b〜19a節には、***「…その骨は鉄の棒のようだ。それは神の御業の****筆頭である…****」と記されています***。これは、ベヘモットが神の創造物の中でも最大級の生き物の一つであったことを示しています。アパトサウルス、ディプロドクス、ブラキオサウルス、スーパーサウルス、ウルトラサウルスといった竜脚類は、これまでに生息したことが知られている陸生動物の中で最大のものでした。 そして、それらの恐竜はそれぞれ、杉の木に匹敵するほどの尾を持っていたのです！ウルトラサウルスは、体長110フィート、高さ60フィート、体重150トンと推定されています。[65] おそらく、ウルトラサウルスこそが、*神の道の長である*ベヘモットだったのでしょう。

恐竜と一緒に暮らすのは恐ろしかったでしょうか？ 彼らは私たちを「ファストフード」と見なしていたのでしょうか？ *ネフェシュの命に*死がなかった最初の創造の時代においては、そうではあり

ませんでした（第1章～第8章の序文を参照）。植物は食料源として造られました：

…地のすべての獣と、空のすべての鳥と…命のあるものには、すべての緑の草を食物として与えた…（創世記 1:30）。

聖書の見解によれば、アダムの原罪によって死が神の創造界に入り込んだ後、一部の恐竜は恐ろしい肉食動物となった。創造の「一週間」から約1,656年後、神はますます悪化する人類の罪を、世界的な大洪水によって裁かれた。
約50種類の恐竜（平均サイズはシェトランドポニー程度）が、ノアの箱舟に乗せられた。箱舟の中で最大の生き物は、おそらく成体の象ほどの大きさの若い竜脚類のつがいだったと思われる。

1年にわたる洪水の間に、箱舟に乗っていなかった恐竜たちは溺死した。その一部は、洪水によって堆積した地層に埋もれ、今日、そこでその遺骸が発見されている。中には、生体組織がまだ無傷のまま残っているものもある。 大洪水の後、多くの種類の恐竜は約2,500年間にわたり繁栄しました。しかし、生息地の喪失や人間との競合により、その数は減少していきました。歴史的および考古学的証拠によると、最後に残っていた恐竜は約800年前に姿を消しました。（恐竜については第13章でさらに詳しく述べます。）

人類と恐竜が共存していたという証拠があるにもかかわらず、世俗的な説では、恐竜が約*6,500万年前*、つまり人類が出現する約6,300万年前に絶滅したと主張し続けている。ヒューマニストたちは体制を掌握しているが、真理を握っているのは信者たちである。観察可能な証拠を誠実に検証すれば、恐竜***が進化論の根幹を揺るがし***、聖書の世界観を強力に裏付けていることが明らかになる。**オッカムの剃刀。**

***

*「私の科学を専攻している友人が、私の通う教会であなたの説教を聞きました。その後、彼はあなたに腹を立てていましたが、2週間も経たないうちに、あなたがただ真実を語っていただけだと認め、神への信仰が飛躍的に深まりました。」*テネシー州のイーライ

8

法律と論理：
ビッグバンと星の光

あらゆる古代の文献の中で、***聖書の神だけが、始まりの原因を持たず***（ヨハネ1:1）、***また、宇宙とは別に存在すると主張した***（ヨハネによる福音書17:16）。***これらの聖句は、聖書の創造主こそが宇宙の唯一の論理的な原因であることを証明している。***ラス・ミラー

ビッグバンは、神の存在なしに宇宙がどのように自然に生まれたかを説明しようとする、絶えず進化し続ける物語である。その説は、矛盾する発見に合わせて適応していく。

かつて棄却された、観測されていないビッグバン説の説には、「ヘジテーション」モデル、「定常宇宙」モデル、「振動宇宙」モデルなどがある。現在の「インフレーション」モデル（必ずしも大多数の宇宙論者が信じているわけではないが）によれば、すべてのエネルギーと物質はかつて、小さな点（特異点と呼ばれる）に凝縮されていた。その後、*60億年から200億年前の間の*どこかで、その点は、何らかの理由で、ほんの一瞬の間、***空間と物質を光速よりも速い速度で膨張させた***。これがフレッド・ホイル卿が「*ビッグバン*

」と呼んだものであり、この名称が定着した。[66] この説の一部として、約46億年前、地球は

が、溶けた岩石の大きな球体として形成され、そこからやがてすべての生命が進化したというものです。

観測可能な科学は、しばしば観測不可能なビッグバン説と矛盾する。例えば、物理法則との矛盾を回避するために、特異点（この文の末尾にあるピリオドほどの大きさ）という概念が付け加えられた。そうしなければならなかったため、スティーヴン・ホーキングは次のように説明している。「*この極めて小さく、極めて高密度な熱とエネルギーの微粒子の内部では、**物理法則は……機能しなくなる***。」[67] 物語を成り立たせるために科学的法則が無視されている以上、ビッグバン仮説について、観測可能な事実と真の科学が何を明らかにしているのかを考えてみよう。

熱力学第一法則は、質量とエネルギーの保存則である。簡単に言えば、この科学的原理は、物質とエネルギーは生成も消滅もし得ないというものである。物質はエネルギーに変換され、エネルギーは物質に変換されることはあるが、両者の総量は変わらない。[68] この第一法則は、すべてのエネルギーと物質が、観測不可能な微小な特異点から生じたという世俗的な信念と矛盾する。

熱力学の第2法則はエントロピーの法則である。この法則は、物事は時間の経過とともにエネルギーを失い、秩序が乱れ、複雑さが減少していくと定めている。[69] 簡単に言えば、物事は摩耗していくのである。これは、長い年月をかけて物事がより複雑な生命体へと進化するという誤った教えを説く、ダーウィン主義に偏った生物学を除き、あらゆる科学分野で最も広く受け入れられている科学的原理である（ダーウィン主義については第9章から第14章で論じる）。 第二法則は、宇宙（私たちの複雑な太陽系を含む）が自ら組織化され、その後、複雑な生細胞を生み出し、それがますます進化した結果、地球上のあらゆる高度に複雑な生命形態が生まれたとするような世

俗的な信念と矛盾する。

論理法則[70]によれば、*原因のない事象*などあり得ず、始まりを持つあらゆる結果には、その結果の外側にあり、その結果の一部ではない原因が存在しなければならない。これらの法則により、宇宙を存在させるためには、その原因が宇宙の空間、物質、時間の外側に存在していなければならなかったと結論づけられる。

したがって、第一法則および第二法則、そして論理に従えば、宇宙は自らを創造し、ビッグバン宇宙論が要求するように時間の経過とともに組織化されていったということはあり得ない。したがって、***物理法則***は……この誤った物語を維持するために***機能しなくなる***のである。

優れた科学的仮説の証は、その予測が的中することにある。2004年、『ニュー・サイエンティスト』誌に、数十人の科学者が署名した投書が掲載された。**「ビッグバンに異議を唱える（Bucking the Big Bang）」**と題されたその投書には、次のような主張が記されていた。「*ビッグバン理論には、観測によって裏付けられた予測は一つもない。ビッグバン理論は、インフレーション、ダークマター、ダークエネルギーなど、これまで一度も観測されたことのない実体の数が増え続けることに依存しており、**これらの「ごまかし要因」なしでは**成り立たない……物理学の他のどの分野においても、このように絶えず新たな仮説的要因に頼ることは受け入れられないだろう。*
主張されている「成功」とは、調整可能なパラメータを追加することで、事後的に観測結果を理論に合わせているに過ぎない。[71]
フレッド・ホイル博士が指摘したように、**「新たな事実が明らかになるたびに、その理論を裏付けるためにさらなる仮説が必要になるような理論には、疑いの目を向けるべきである」**。[72]

『*サイエンティフィック・アメリカン*』誌の2011年4月号の表紙記事

は、現在のビッグバン理論には解決できない問題が多すぎるため、廃棄されるべきだと主張した。それにもかかわらず、この説は今日でもあたかも科学的な理論であるかのように教えられている。まったくもう！

ビッグバンによる*数十億年という時間を*必要とする世界観を持つ人々の必死さは、2014年に、ビッグバン理論を裏付けるとされた「宇宙のインフレーション」と「重力波」の発見に関する2つのセンセーショナルな発表によって、さらに露呈した！しかし、数ヶ月にわたる世界的な称賛の後、これら2つの誤った*発見は*、何百万人もの人々を誤解させた末、2015年にひっそりと撤回された。[73, 74]

ビッグバンは、観測不可能な物語であり、それ自体の基準さえ満たしておらず、その結果、世俗的な世界観は、宇宙や地球がどのようにして生まれたのかについて、妥当な説明を失っている。それでもなお、神を排除して宇宙を説明しようとする人間の試みである、悪名高いビッグバンは、あたかも科学的事実に基づいているかのように教えられ、何百万人もの人々を神の御言葉から遠ざけている。[75]

天と地がどのようにして創造されたかという聖書的な見解は、聖書全体に見られます。出エジプト記20章11節には、神の十戒が記されています。安息日について、神は次のように語られました。***「主は六日間で天と地、海、そしてそれらの中に存在するすべてのものを造り、七日目に休まれたから****である……」*。イザヤ書42章5節には、「*.....**主、天を創造し、それを広げられた方**……*」と記されています。そして神は、ご自身の被造物を統治するために*自然法則を*定められました。

創世記2章1〜2節からは、熱力学の第1法則、すなわち質量とエネルギーの保存則が、創造の第六
日後に、私たちの創造主によって定められた可能性が高いことがわかります。***「こうして、天と地、およびそれらに属するすべてのものは完成した。そして第七日、神はご自身の行われた****御業を終えられた……」*。神がご自身の創造の業が終わったとおっしゃったとき、それはまさにその通りだっ

たのです！

第二法則、すなわちエントロピーの法則は、おそらく、神が私たちに下した呪いの一環として、腐敗をもたらす力へと変貌したのです。

アダムの原罪に続く堕落した世界。これはイザヤ書51章6節など、いくつかの聖句に***記述されている……「天は煙のように消え去り、地は衣のように古びていく***」……。例えば、多くの星の死が観測されている一方で、新しい星の誕生が検出されたことは一度もない。これは世俗的な見解にとってさらなる問題である。なぜなら、もし宇宙が進化しているのなら、星の消滅よりも星の誕生の方が多く起きているはずだからだ。 このジレンマのため、宇宙空間で理解できない何かが発見されるたびに、それはしばしば「*星の誕生の場*」と見なされますが、その天体が理解されるようになると、後にその説は否定されることになります。科学的な事実として、天は衰え、衣のように古びていっているのです。

聖書的な見解は、論理法則においても多大な支持を得ています。その一つとして、宇宙のように始まりを持つあらゆる結果については、その原因は宇宙の外に存在しなければならず、宇宙の一部であってはならないという原則が挙げられます。 歴史が明らかにしているように、あらゆる古代の宗教文書の中で、創造以前に存在したと主張したのは聖書の神のみである……「***初めに言葉があった***」（ヨハネ1:1）、そして宇宙の空間、物質、時間の外*側に存在すると*……***「わたしは世のものではない***」（ヨハネ17:16）。これにより、聖書の創造主こそが、宇宙の唯一の論理的な原因となる。

ここから、次のような論理的な疑問が生じます。**神を創造したのは何でしょうか？**

さて、あらゆる古代の宗教文書の中で、聖書の神だけが、始まりのない永遠の存在であると主張している。 ***「……永遠から永遠まで、あなたは神である」***（詩篇90:2）。

始まりの原因を持たないということは、聖書の神を論理の法則の外に置く**ことになり、次のことを裏付けています。「初めに、神は***創造された……」（創世記1:1a）。このことから、私はノー

ベル賞受賞の天体物理学者アルノ・ペンジアス博士の意見に同意せざるを得ません。同博士は、*「私たちが持っている最良のデータは、もし私がモーセ五書以外に頼るものが何一つなかったとしても、まさに私が予測した通りのものである」*と述べています。[76]

では、星の光についてはどうでしょうか。以前、私は『ペテロの手紙第二』3章3〜4節にある「終わりの日」の預言が地質学的にどのような意味を持つかについて論じました。そこには次のように預言されています。「*……終わりの日には、自分の欲望のままに歩み、こう言う嘲る者たちが現れるでしょう……『万物は初めからずっと変わらないままである』と……」*。 さて、ペテロの手紙第二3章5節に「***彼らは、神のことばによって、天が古くから存在していたという事実を、故意に知らないふりをしている」***と加えられているように、非信者たちが「*均一性*」を主張することの天文学的な意味について考えてみましょう。

これらの預言的な聖句が成就するかのように、世俗主義者たちは、神が天を創造されたという事実を否定し、星の光が私たちの惑星に届くまでに*数十億年*かかったと主張しています。古代ギリシャ人の「*深遠な時間*」という信念とは異なり、今日の「*数十億年*」という信念は、均一性への信仰に基づいています。 例えば、今日、光が毎秒186,282マイルの速度で地球の大気中を伝播しているのを観測できます。光は常に同じ速度で移動してきた（均一性）という盲信に基づき、また星々が地球から非常に遠い距離にあることに着目して、世俗主義者たちは、星の光が地球に到達するのに*数百万*年*あるいは*数十億年かかると結論づけています。[77]

実のところ、もし光が常に現在の速度で進んでいたとしたら、私たちに届くまでに非常に長い年月を要していたはずだ。そこで、観察可能な例を用い、いくつかの観察可能な事実を検討することで、この「均一性」という観察不可能な信念の虚構を暴いてみよう。

車が別の車に追突する場面を見たことはありますか？ボンネットは0.1秒でへこみ、その後は変化しません。もし、車が別の車に追突する場面を一度も見たことがない人がこの時に現れ、現在のへこむ速

度が常に同じであった、つまり「均一性」を信じているとしたら、そのへこみが生じるまでに*数十億年*かかったと結論づけるかもしれません。 しかし、それは間違いです！[78] 実証可能な真実は、均一性という仮定は誤りであるということです

。なぜなら、観測可能な「現在」は、観測不可能な「過去」の鍵ではないからだ。

聖書の記述によれば、創造の週の初日*……**神の霊が**、*新しく形成された地球を覆っていた***水の面の上を動いていた***（創世記 1:2）。***そして神は言われた、「光あれ」。すると光があった。神はその光を見て、それが良いと認め、光と闇とを分けられた。 神は光を「昼」と呼び、闇を「夜」と呼んだ***（創世記 1:3-5a）。つまり、神は地を創造している間、御霊を地の上に漂わせておられ、第一日目に御言葉によって瞬時に光をもたらされたのである。

神は、第四日になるまで太陽、月、星々を造りませんでした。それらの目的は、光を絶えず与え、しるしとして見られ、そして時間を計るためでした。***神は星々を造って……しるしとし、季節、日、年を***定めるために……（創世記 1:14）。 神は「日」と「年」の違いをご存知であることに注目してください！また、イザヤ書45章12節では、神が天を成熟させたことが記されています……「***わたしの手は、天を広げた***……」

懐疑論者たちは、光速の急激な変化は陽子と中性子のバランスを崩し、すべての生命を瞬時に絶滅させてしまうと私に語った。私はこの主張を調査したことはないが、もしそれが真実なら、光と生命の創造主が、第3日、第5日、第6日に生命を創造する前に、創造の初日にこの地に光をもたらした理由を説明できるかもしれない。それはまた、第6日以降に創造物を統治するために神が定めた自然法則が確立される前のことでもあった。

フランシス・ベーコンは、「*少しの科学は人を神から遠ざけるが、もう少しの科学は人を神のもとへ連れ戻す*」と語ったとされている。いくつかの驚くべき研究プロジェクトにおいて、実験室の科学者

たちは

は、光の速度を時速40マイル未満まで減速させ、完全に停止させて捕らえ、その後再び放出することに成功した！[79] また、他の科学者たちは、光のパルスを観測された光速の300倍まで加速させた！[80] 論理的な結論として、人類が光の速度を変えることができる以上、神が*天を*創造された際にそれを*広げられたことを*疑う理由はない。結局のところ、あのフードをくしゃくしゃにするのにどれくらいの時間がかかっただろうか？

優れた科学的仮説の特徴は、その予測が実証されることにある。ノーベル賞受賞者である天体物理学者ペンジアス博士が述べたように、*「私たちが持っている最良のデータは、もし私が『モーセ五書』以外に頼るものがなかったとしても、まさに私が予測した通りのものである」*[81]。したがって、私は、観測可能な科学と論理が明らかにしていることを考察し、その後、私たちの創造主であり救い主である主イエス・キリストに信仰を置くことを提案する。

イエスは、生み出される実によって、良いものと腐ったものを区別するよう私たちに教えています（マタイ7:17-20）。次の節では、ダーウィンの進化論の物語から始め、古地球説の根から芽生えた実について見ていきます。

***

「大学では、進化論や無神論、そして聖書に反する『事実』を提示する教授たちに、四方八方から攻め立てられています。助言を求めましたが、誰も私の疑問に答えてくれませんでした。私は自分の信仰が失われてしまうことを受け入れ始めていました。そんな時、あなたのことを知り、動画を入手しました。あなたがそれらの『事実』を反駁できるとは半信半疑でしたが、あなたがそれを成し遂げてくれたおかげで、私は信仰を失わずに済みました。」
「*ありがとうございます！*」アリゾナ州のブレンダさん

「質問がたくさんあったのですが、私たちの質問すべてに答えてくださっただけでなく、それ以上の情報まで教えてくださいました。本当にワクワクしています！」 ワシントン州のジュリア

セクション『』II

「古地球説」 の信念が生み出す最大の悪の果実：（主要なダーウィニズム的物語を含む）

第9章〜第17章「」の序論

人は、イエス・キリストのみへの信仰のみによって、神の恵みのみによって救われます。しかし、一度救われたら、クリスチャンは能動的であるべきです。私たちは絶えず祈り（テサロニケ人への手紙第一 5:16）、御言葉を広め（マタイによる福音書 28:19-20）、信仰のために戦うよう召されています：***愛する者たちよ。私があなたがたに、共通の救いについて書くことに全力を尽くしたとき、あなたがたに手紙を書き、かつて聖徒たちに伝えられた信仰のために熱心に戦ってほしいと勧める必要があったのです***（ユダの手紙 3節）。

多くの人々は、世俗主義（ヒューマニズム、無神論など）の基盤はダーウィンの進化論であると考えています。しかし、人間の理解を超えた「時間」こそが、ダーウィニズムの基盤なのです。**その邪悪な根源は、**人類の誕生以前に死を置き、信仰の基盤を揺るがす、***数十億年という「時間」なのです。***

COSt：アダムの原罪によって堕落し、**人類**を神から**引き離し**（そして神の被造物に死が入り込むことを許してしまった）神の完全な被造物は、イエス・キリストの**十字架上の**犠牲による私たちの贖い

を必要としている——t.

残念ながら、ほとんどのクリスチャンはこのことに気づいていません。その結果、彼らは「根」ではなく「果実」と戦っており、小競り合いでは勝利を収めることもありますが、何十億もの人々の永遠の魂をめぐる「戦争」では、依然として敗北し続けています。そして、1963年以来、世俗主義に偏った公立学校、大学、メディア、公園、博物館、そして社会が、子供たちの心に叩き込んできた二つの根本的な問題とは何でしょうか？ *ダーウィンの進化論につながる「数十億年」という概念です。*

私たちは、マタイによる福音書7章17〜20節にある主イエス・キリストの御言葉に耳を傾け、生み出される実によって善と悪を見分けなければなりません。「***それと同じように、良い木は良い実を結び、腐った木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実を結ぶことはなく、腐った木が良い実を結ぶこともない……それゆえ、その実によって彼らを見分けることができる。」***

すべてのクリスチャンは、不信仰に由来する「実」——中絶、薬物乱用、ダーウィニズムの教え、ポルノグラフィー、同性愛、10代の妊娠、トランスジェンダー主義、道徳的相対主義など、そのリストは尽きることがない——と向き合うべきです！ それぞれの「実」は深刻な問題であり、忠実なクリスチャンが議論に参加し、信仰のために戦い、被害を受けている人々を助ける必要があります。私たちはいくつかの戦いに勝利してはいますが、文化戦争全体では敗北しています。なぜでしょうか？ それは、**私たちが「実」と戦ってはいるものの、「根」と戦っていないからです**。

イエスは、実によって善と悪を見分けるよう教えておられます。そこで、私が挙げる「**古地球説がもたらす最悪の悪の実**」のリストは、古地球説という木から生えた第一の実、**すなわちダーウィニズム的進化論から始めたい**と思います。哲学者マーティン・リングスは次のように指摘しています。「*宗教的信仰を失った事例の多くは、他のいかなる要因よりも、進化論に起因するものである。*」[82] 事実、*ダーウィニズム的進化論へとつながる数十億年という概念*は、これまでに考えられた中で、無神論や不可知論への最も成功した勧誘

者となってきました。第9章から第14章にかけて**主要なダーウィニズム的物語**について論じ、その後、第15章から第17章にかけて「古地球説の信念が生み出す最悪の果実」の解説を締めくくります。

私たちの起源に関する研究は、決して証拠そのものについてのものではなく、証拠を解釈する世界観についてのものである。結局のところ、誰もが検証し、研究し、観察すべき証拠は同じなのだ。 科学者、教科書著者、出版社、教師は、あなたや私と同じ人間であり、私たち皆が何らかの信念を持っています。無神論者でさえ、「神は存在しない」という信念を抱いています。あらゆる信念（公理）は、人々が観察した証拠を解釈するための枠組みを提供します。*数十億年という時間がダーウィニズム的進化につながると*信じる人々は、物事が長い年月をかけて進化したものとして捉えるでしょう。

テサロニケの信徒への手紙第一 5:21は、次のように教えています。「***すべてのことを吟味し、良いものを堅く守りなさい」。***真の科学において、仮説は予測可能であり、反証可能でなければなりません。つまり、その仮説が自らの予測を満たさない場合、あるいは新たな発見によって反証された場合、その仮説は棄却されるのです。このことを念頭に置き、このセクションではまず、ダーウィン主義の主要な説について見ていきましょう。 これから見ていくように、こうした世俗的な偏見に満ちた説明には、いくつかの深刻な問題があります。また、私は同じ証拠を聖書的な観点から解釈していきます。これらの章は、読者の皆様にとって*目から鱗が落ちるような内容*になると思います。

***

「ある公立高校で講演をしていたとき、私は驚かされました。生徒たちは腕を組んで心を閉ざし、憎しみに満ちた眼差しで私を睨みつけていたのです。 私はまずこう尋ねました。「現代科学の200の分野のうち、キリスト教徒によって始められたものはいくつあると思いますか？」生徒たちは「一つもありません！」と答えました。そこで私は、80％以上が、神の創造を研究するためにキリスト教徒によって始められたものであると指摘しました。すると、憎しみが溶け、腕を組んでいた生徒たちは腕を下ろし、私がこれから語る真理に耳を傾けるために心を開いてくれました。神は素晴らしいお方です。」 ラス

「私の11歳の息子が、あなたの『ノアの箱舟と恐竜』という動画を見ました。あなたが、大洪水から神の救いの計画に入るために、誰もが狭い板の通路を歩いて登る機会があったと説明したとき――それは、私たちが神の来るべき裁きから救われるための神の救いの計画へと、狭い道を歩いて登る機会があるのと同じだと――息子は『僕、救われたい』と言いました。 私たちはその場で祈りました。」
テキサス州のシンディ

9

ダーウィニズム：

生命の起源

「……生命の起源は突然の出来事ではなく、

…生きている構造を生み出す一連の出来事の連続であり、その過程には多くの不確かな要素が含まれていた。」 [84]

ユージニー・スコット、全米科学教育センター会長

チャールズ・ダーウィンは、チャールズ・ライエルの著書*『地質学の原理』*を読み、そこで提唱された「長い時間」と「均一説」を生物学に応用した。すなわち、*数十億年という歳月をかけて*、生命体は自発的に徐々に進化したという考え方である。実際、*「数十億年」*という概念、ダーウィニズム、自然主義、無神論、そしてヒューマニズムは、**互いに共生関係にある哲学**であり、この「共生」という用語は通常、植物、昆虫、あるいは動物に適用されるものである。 共生関係とは、一方、あるいは双方が、生存のために他方に依存している状態を指す。[85] *数十億年という時間への*信仰は、ダーウィニズム、自然主義、無神論、ヒューマニズムなしでも存在し得るが、これら四つの信念は、*数十億年という時間*なしには存続できない。時間は、それらにとっての魔法の材料である。したがって、これらには共生関係がある。

ダーウィニズムの物語は現在、ビッグバンに続いて約46億年前に巨大な溶融岩が形成されたという信念に基づいている。その後、*何百万年にも*わたってその岩に雨が降り注ぎ、やがてこの

生命が誕生し、そこから進化していったというものです。もちろん、この観察されていない現象は、私たちが観察できる現代では起こりません。いいえ、それははるか昔、はるか遠い場所で起きたことなのです。

聖書の預言を成就するかのように、この観察不可能な世俗的な推測は、1963年以来、私たちの存在に関する主要な説として理科の授業で教えられてきました。エレミヤ書2章27節で、聖書は人々が神に背を向け、「私たちは石から生まれた」と主張するようになると予言していました。つまり、岩から生まれたと！
「『石よ、あなたはわたしを産んだ』と言う。彼らはわたしに背を向けた*からだ……」*うわっ！今日、*数十億年*という時間とダーウィニズムが相まって、西洋文明からキリスト教の原則が事実上消し去られてしまった。実際、キリスト教の家庭で育った子供たちのほとんどは、20歳になる頃には教会を去っている。「***わが民は知識がないために滅びる***」（ホセア書4章6節）。

第1章から第8章にかけて、私は「地球は古い」という説について論じ、常に変化し、観測されていないビッグバンの説で締めくくった。そうは言っても、生命が湿った岩から始まり、私たちがそこから進化したということを裏付ける、妥当な証拠は存在するのだろうか？

ダーウィンは、生物学が非生物から生命が自然発生することを発見すると予測した。公平を期すために言えば、今日のダーウィン主義に偏った生物学者たちは、私が生命の始まりをダーウィニズム的進化と関連付けていることに激怒するだろう。
なぜなら、神の存在なしに生命が誕生したと信じる者にとって、無生物から生命が生まれるという説は、科学的な行き止まりであることが証明されているからだ。実際の生物学において、「**生物発生の**

法則」[86]は、生命は生命からしか生まれないと定めている。 言い換えれば、ダーウィン主義者たちは生命の始まりを説明できないのだ。このため、現代のダーウィン主義者たちは、現代生物学の重要な前提であるダーウィンの『*種の起源*』が、種の起源、すなわち*生命の起源*とは何の関係もないと主張している。

意地悪を言うつもりはありませんが、もし「ビッグバンによって大きな岩が形成され、その岩に雨が降り注いだ結果、今日の私たちがここにいる」と信じているのであれば、生命が突然、自発的に始まったと信じていることになります。それは「自然発生説」であり、科学的にはあり得ないことです。私がよく言っているように、ダーウィンの進化論は科学的研究と教育の両方を損なってきたのです。

生物発生の法則を回避しようと、世俗的な教科書は、生命が自然発生したのではなく、*何十億年にも*わたる化学反応の過程を経て、いつかのどこかで生命が誕生したと教えている。 この観察されていない説は、**「無生物起源説」**として知られている。[87] 私がこの点を指摘すると、ダーウィン主義者たちは激しく反発するが、無生物起源説でさえ、生物発生の法則が克服され、生命が自発的に始まった「魔法のような瞬間」が一度はあったことを前提としている。

私や聖書に基づく創造説を攻撃するためにNAUの授業で使用された教科書にあるこの例から、*彼らの*必死さがうかがえる。著者は全米科学教育センターの無神論者である会長であり、彼女が生命の起源について説明した内容は次の通りだった。 ***「……生命の起源は突然の出来事ではなく、……生きている構造を生み出す一連の連続した出来事であり、その過程には多くの『不確かな要素』が含まれている。」***[88] 「不確かな要素」？

「生命は自然発生的なプロセスによって何らかの形で始まった」という、実証されていない信念が、ダーウィニズムと世俗的世界観の両方の基礎となっていることは、いくら強調してもしすぎることはない。世俗主義者たちが教育、科学、メディアの各機関を掌握しているため、彼らの歴史的物語は、たとえ科学法則と真っ向から矛盾していても、あたかも科学的事実であるかのように世界中で教えられている。 ですから、怪しげなものや、***偽りの***知識、あるいは***偽り***

*の*科学（テモテへの手紙第二 6:20-21）は避けなさい。

過去100年間にわたり、数え切れないほどの実験が、先行実験の結果を基に行われてきた。生物発生の法則を覆そうとする試みには、数十億ドルもの給与、コンピュータ、実験機器が投入されてきた。

いくつかの綿密に設計された実験により、タンパク質の構成要素である非生物由来のアミノ酸を生成することに成功している。[89] しかし、非生物由来のアミノ酸には数百種類あり、それぞれに右巻きと左巻きの形態が存在する。生命に見られる20種類の特定のアミノ酸はすべて左巻きでなければならず、ヌクレオチド糖も（ごく稀な例外を除き）すべて右巻きでなければならない。
それにもかかわらず、こうした綿密に設計された実験で生成されたわずかなアミノ酸は、右巻きと左巻きのアミノ酸および糖が50対50の割合で混在している。さらに、研究者たちは、生成のために設計した装置から形成されたアミノ酸を速やかに分離しなければならない。そうしなければ、アミノ酸を生成するために彼らが意図的に設計した条件によって、アミノ酸はすぐに破壊されてしまうからだ。実験室で生命を創り出そうとするこうした失敗した試みに、自然的な要素は一切ない。

要するに、人類は、綿密に設計された実験室での試験においてさえ、ましてや自然環境において、生命がどのようにして始まったのかを示すことには程遠い。[90] それにもかかわらず、世俗的な科学書は、生命が自然界で自発的に始まったと教え、実験室での実験において非生命から生命が創造されたかのようにほのめかしている。[91] したがって、***「偽りの科学」***に警戒せよ（テモテへの手紙第二 6:20-21）。

生物発生の法則という科学的定説を覆し、不確かな論点を回避するために、ダーウィン主義者たちは、生命の最初の形態は

生命の最初の形態は単なる**単純な細胞に**過ぎなかったと説く。私はしばしば、真の科学こそがクリスチャンの真の友であることを指摘しているが、研究は絶えず、「単純な細胞」など存在しないことを証明し続けている。

観測可能な科学は、細菌の細胞でさえ、細菌のべん毛と呼ばれる微細なモーターによって駆動されており、それによって細胞が動き回り、様々な機能を果たしていることを明らかにしている。これらの微小で複雑な分子モーターは、極めてコンパクトに設計されており、10億個でも針の先に収まるほどである。べん毛は40種類の異なる、極めて特異なタンパク質から構成されており、それぞれのタンパク質には適切なアミノ酸が必要とされる。 これらの微小なモーターもまた、***還元不可能な複雑性を***備えている。これは、フラジェラムを形成するために必要なタンパク質のいずれかが欠けていたり、正確な位置に存在していなかったりすれば、生命は始まらなかったことを意味する。そして、ダーウィン主義にとってさらに厄介なのは、そもそもタンパク質を組み合わせてフラジェラムを形成するためには、同じく還元不可能な複雑性を持つ他の分子モーターが必要であるという点だ。[92] 生物発生の法則が破られたことが一度も観察されていないのも不思議ではない！

一部のダーウィン主義者は、観察可能な科学的事実を謙虚に受け入れている。世界的に著名な無神論者であり、元オックスフォード大学教授のアンソニー・フルー博士は、キリスト教牧師の息子として生まれたが、ダーウィニズムの教えによって信仰を失った。 その後、60年にわたり無神論を提唱してきた彼は、進化論には生命の起源に対する合理的な説明も、生物が繁殖する能力に対する理にかなった説明もないことを認めざるを得ないと発表した。さらに、DNAから遠く離れた星の銀河に至るまで、あらゆるものにみられる複雑さと設計が、彼に「創造主」の存在を受け入れることを余儀なくさせ

たと付け加えた。[93]

一方、地球上で生命が自発的に始まったことは不可能であると認識しつつも、*ダーウィニズム*への信念を何とか維持しようと苦闘する他の人々は、生命は

「他の場所」で始まり、宇宙人や隕石によって地球に運ばれてきたと信じる道を選んだ。いいえ、これは作り話ではありません！「パンスペルミア説」94や「リソパンスペルミア説」[95]と呼ばれるこの考えは、生命の起源を説明しようとはすらしていません。その代わりに、彼らは克服不可能な科学的課題を、検証も観察もできない遥か彼方へと追いやることで、世俗的世界観にとってそれほど目立つ恥さらしにならないようにしているのです。

こうした信念により、世俗主義者たちは「*地球外知的生命体探査（SETI）*」プログラムに数十億ドルの税金を費やした。 巨大な受信装置が宇宙に向けられ、設計された信号のほんのわずかな兆候を捉えようと試みられたが、失敗に終わった。単純な「点・ダッシュ・点」という信号さえも地球外知的生命体の証拠として受け入れられたであろうに、これらの科学者たちは、DNAに見られる驚くべき設計を目の当たりにしながらも、その背後に知性の源が存在することを認めようとしない。これは、真の科学を損なってきた世俗主義の偽善的な偏見の典型的な例である。

世俗主義者たちは、研究を始める前から答えを排除してしまったため、私たちの起源に関する問いに正しく答えることができない。 例えば、数学者が「3」は答えになり得ないと決めてしまったら、「1 + 2 = ?」という方程式を解くことは不可能になってしまう。同様に、世俗主義者たちは、私たちの創造主を答えとして考慮することはできないと決めつけた上で、私たちの起源を解明しようと試みた。その結果、彼らが出せるのは、自然発生説、類人猿、小惑星、宇宙人といった、科学的に聞こえるでたらめな説ばかりである。

要するに、世俗主義者たちは、神なしで生命が誕生したというあらゆる考えられる可能性が——たとえそれがどれほどあり得ないこと（例えば、宇宙人や隕石が私たちを運んできたといった説）であっ

ても――科学的に反証されない限り、自分たちの哲学的な物語だけが考慮されるべきだと主張している。反対意見に対して、不可能な「否定の証明」を強いることで、彼らは「神なしで生命が誕生した」という自らの物語を反証不可能なものにしているのだ。

このことから、こうした世俗主義の教えは、科学的研究や教育、そして何十億もの人々の救いの信仰を損なってきた宗教的信念であるとみなすことができる。

ダーウィン主義者たちは、生物学によって無生物から生命が生まれることが発見されると予測していた。しかし、自然環境においても、管理された実験室環境においても、無生物が生命となったという証拠は一切存在しないため、ダーウィン主義者たちは今や、生命の起源がダーウィニズム的進化と何の関係もないことを激しく否定している。観察可能な事実として、ダーウィニズムは自らの重要な基準を満たしていないのである。

創世記2章2節にある神の御言葉によれば、私たちの創造主は第七日に創造の業を終えられた。***「第七日、神はご自身のなされたすべての業を終え、第七日に、ご自身のなされたすべての業から休まれた。」***

聖書の見解によれば、神は創造の週の間に生命を創造されたため、科学は今日、非生命から生命が発展する様子を発見することはない。生物発生の法則は、聖書を裏付ける信頼できる経験的基準である。**オッカムの剃刀**。

***

*「私は22歳で、クリスチャンとして育てられましたが、大学で教えられた内容のために信仰を失った85％の人々の一人でした。母に説得されてあなたのセミナーに参加しましたが、今、私は再び神との道を歩み始めたことをお伝えしたいです！あなたの働きに感謝します。」*アリゾナ州のライアン

10

ダーウィニズム：

進化：ミクロ対 マクロ

「進化生物学は、物理学や化学とは対照的に、歴史的科学である……

歴史的な物語を構築するものであり……それが一連の出来事へとつながった……」 エルンスト・マイヤー、進化生物学者、ハーバード大学[96]

マイヤー教授の率直な評価をじっくりと噛みしめてほしい。ダーウィン主義に偏った生物学は、操作的かつ観察に基づく科学には基づいていない。それは、自然主義的・無神論的な信念に合わせるように仕立てられた物語、歴史的ナラティブに過ぎない。 ダーウィン主義を信じる人々の多くは、操作的科学と歴史的科学の違い（第1章参照）を教わったことがなく、また微進化と巨進化の違いも示されたことがないために、そう信じている。その結果、彼らは、あたかも科学的事実であるかのように教えられている、観察されていないダーウィニズムの物語に惑わされてしまっている。この見落としを正させてほしい。

「*進化*」という言葉にはいくつかの意味がある。真の科学では、物事を10億分の1の精度まで分解するが、ダーウィニズムを信じる生物

学の教授に「*進化*」という言葉を定義させようとするのは、ゼリーを壁に釘で打ち付けようとするようなものだ。

壁に釘で留めようとするようなものです。なぜなら、生物学的進化に関して理解すべき重要な定義が二つあるからです。一方は観察に基づく科学と神の言葉の両方に合致し、もう一方はその両方と矛盾しています。それらが「微進化」と「巨進化」です。多くの人にとって、この違いを知ることは人生を変える経験となるでしょう。

微小進化とは、単に同じ種類の生物の内部で起こる**適応や変**異のことです。この種の進化は、親がもともと持っていた遺伝情報の選別や喪失によって引き起こされます。もし「*ラス、あなたは進化論を信じますか？*」と尋ねられたら、私は「*聖書に則った微小進化を、私は断固として信じています*」と答えるでしょう。[97]

「*進化*」という言葉には様々な定義があるため、混乱を避けるために、微進化を「種*がそれぞれの種類に従って子孫を生み出す*過程で生じる適応や変異」と定義するのが最善である。創世記の中で、植物や動物が「*それぞれの種類に従って*」*子孫を生み出す*と十回も述べられていることを理解することは極めて重要である。 例えば、創世記1章24〜25節には次のように記されている。 ***「神は言われた。『地は、その種類に従って生き物を生み出せ。家畜、這うもの、地上の獣を、その種類に従って生み出せ。』そして、そのようになった。神は、地上の獣をその種類に従って造り、家畜をその種類に従って造り、地を這うすべてのものをその種類に従って****造られた……*

*「種類」*という言葉は、神が最初の祖先に創造された遺伝情報から生み出された（由来する）生物のグループを指す聖書的な用語です。現代科学の用語で言えば、「種類」は*「科」*（「界」や「門」などではなく）に近い概念ですが、これらは重なり合うこともあります。

微小な変化は、既存の遺伝情報の再結合や喪失によって生じます。このため、それらは同じ種類の生物しか*生み出すことが*できません。つまり、犬は犬を、猫は猫を、人間は人間を産む、といった具合です。 例えば、短毛の犬が長毛の子犬を産んだり、白い犬が茶色の子犬を産んだりするのは、親の遺伝情報の選別や喪失によって引き起こされた微小な変異を示しています。「*その種類に従ってその種類を*生む」という現象は数え切れないほど観察されており、**微小な変化は聖書の真理であると同時に科学的事実でもあります。**

ここで、世俗的な学校や社会において科学的事実として推進されているダー**ウィンの「マクロ進化」**について考えてみましょう。**マクロ進化には、**生物の遺伝子プールへの、***新規かつ有益*な遺伝情報のランダムな追加が必要です**。そして、そのデータは自然の過程によって生じなければなりません。 私が言及しているのは、単細胞の細菌や真核生物を、これまで地球上に生息したあらゆる植物や動物へとマクロ的に変化させるような遺伝情報のことである。文字通り、「*粘液から動物園、そしてあなた*」に至る変化である。

優れた科学的仮説の特徴は、その予測が的中することにある。ダーウィン主義者たちは、生物学がマクロ進化の証拠を発見すると予測していた。そのような発見は、ダーウィン主義にとって信頼できる経験的基準となるはずだった。例えば、イヌがクジラへと進化するといった現象は、マクロ的な変化となるだろう。 実際、クジラのひれの初期段階を備えて生まれたイヌ科の動物がいれば、それはダーウィン的な変化を裏付けることになるだろう。しかし、マクロ進化は、ダーウィン主義の信奉者たちによる創作物語や必死の図解を除けば、これまで一度も観察されたことがない。残念なことに、こうした観察されていない物語や図解が、世俗的な教科書に溢れている。私がよく言うように、***ダーウィン主義者たちは、決して起こ***

らなかった理論を裏付けるために、実在したことのないものを描くことにかけては専門家なのだ。

では、実証されていない物語を科学として教えているダーウィン主義者たちは、自分たちが教えていることについて、現実の、観察可能な証拠を提示するよう求められるべきではないだろうか？　もちろんだ！　しかし、この記事を執筆している時点で、何百万回もの観察を経てもなお、ダーウィン主義者たちは、彼らの非科学的で信仰に基づく信念を裏付ける有効な証拠を提示できていない。
チャールズ・ダーウィンでさえ、ダーウィニズム的なマクロ進化が起こった例を一つも観察したことはありませんでした。ガラパゴス諸島に滞在中、ダーウィンは厚嘴フィンチと薄嘴フィンチを鋭く観察しました。彼は茶色や黄色のフィンチも目撃しました。そして彼は、フィンチが「*あらゆる時間と空間にわたって、すべての動物と植物が互いに関連しているというのは、実に素晴らしい事実である*」[98]ことを証明しているという誤った結論に至ったのです。

もし、ダーウィンが観察したのは聖書的に正しい微小適応、すなわち「フィンチがフィンチを生み出す」ことだけだったと思うなら、その通りだ！彼は1859年にこの誤った説を発表したが、それ以来、世俗的な研究者たちはダーウィニズム的進化論を裏付ける証拠を見つけようと試みてきたが、失敗し続けている。

マクロ変化の実証可能な証拠を欠いているため、世俗的な教育課程では、聖書的に正しい微小適応の例を提示しながら、ダーウィンの進化論について論じている。例えば、欺瞞的なダーウィニストたちは、茶色や黄色の蝶の図を示し、共通の祖先からのマクロ進化について論じる。[99] これは古くからの「おとり商法」であり、これらは共通の祖先が蝶であったという微小適応の例に過ぎないのだ！**微進化とマクロ進化の定義を**省略することは、ダーウィン主義者が望むような曖昧な混乱を生み出す。したがって、***「偽りの科学***（知識）***」を***避けよ（テモテへの手紙第二 6:20-21）。

批判的思考は危機的な状況にある。世俗的な教科書は、生徒に教えるというよりは、何を考えるべきかを指示しすぎる傾向がある。

彼らに「どう考えるか」を教える。例えば、ダーウィンの進化論に言及する際、生徒たちは「*一部の植物は砂漠での生活に適応している。多肉植物と呼ばれる植物は、太い茎や葉に水分を蓄えることで、この気候に適応している*」と、それが事実であるかのように教えられている。しかし、子供たちは批判的に考え、「*これらの植物は、水分を蓄えることができるようになる前に、どうやって砂漠で生き延びていたのか？*」「*それらは、新しく有益な遺伝情報を獲得することで適応したのか、それとも既存の遺伝情報の再結合*（第11章参照）*によるものなのか?*」といった疑問を投げかけるよう導かれていない。植物が微小な適応を行い、「*その種類に従って*」*子孫を生み出すことは*、聖書的にも科学的にも事実であるが、これをダーウィニズム的な変化につながるものとして示唆することは、不誠実な誤解を招く行為である。その結果、疑いを持たない子供たちは、分子から人間へのマクロな変化が科学的事実であると受け入れるように騙されてしまうのである。[100]

真の科学の特徴は、その予測を満たさない仮説を排除することにある。ダーウィン主義者たちは、生物学がマクロ進化の証拠を発見すると予測した。もしマクロ進化が起こっていたならば、研究者たちは化石記録や、今日生きている数百万種の動植物の中から、数百万もの明確な例を提示できるはずである。 ダーウィニズムは、再び自らの重要な基準を満たすことができなかった。それが科学ではないからこそ、教え続けられているのである。それは、私たちの起源に関する世俗的な信念であり、そこから神を排除している。

彼らは自分たちを賢いと称したが、愚か者となり、朽ちることのない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥や、四足獣や、這うものの像に変えてしまった（ローマ人への手紙 1:22-23）。

私たちの起源に関する真の説明の特徴は、その予測が的中することにあります。**聖書の見解**によれば、生物学が発見するのは、同じ種類の植物や動物の範囲内でのみ起こる微小進化（適応、変異）に過ぎず

、数百万件もの観察結果が、種は「*その種に従って*」のみ*子孫を産むこと*を示している。神の御言葉は、またしてもその重要な基準を満たしている。**オッカムの剃刀**。

***

「私は大学時代に信仰を失いました。生物学を専攻する4年生の時、キャンパスで行われたあなたの講演を聴き、その後、私がこれまで教えられてきたことに異議を唱えたあなたに腹を立てました。2年後、私は高校の生物教師として若者たちにダーウィニズムを教えていましたが、あなたが私の
両親が通う教会で講演をされました。『どんなナンセンスな話をされるのか』と聞きに行くつもりでしたが、講演が終わる前に、私は神の真理と御言葉の前に謙虚な心でひれ伏しました。今はキリスト教系の学校で科学を教えています。」 アリゾナ州の匿名者

ある日曜日の夕方、教会で「ダーウィニズムの10大詐欺」について講演した後、質疑応答の時間を設けました。聴衆の中にいたある生物学の教授が手を挙げ、「ダーウィニズム的な変化の例を何百万も挙げられる」と宣言しました。 彼を恥をかかせたくはありませんでしたが、教授の主張と聖書のどちらが正しいかを皆に示さなければなりませんでした。そこで私は、もし彼がマクロな変化の実証可能な例を2つ提示できれば、聖書は真実ではないと結論づけると伝えました。 すると、彼は即座に、花の花粉を餌にしていたハワイの蝶が、バナナを食べるように進化したと主張しました。私が返答する間もなく、10歳の少女が立ち上がり、「教授、それは聖書的に正しい微小適応の例であって、ダーウィンの進化論の例ではありません」と言いました。彼は大きなため息をつき、ドアから駆け出していきました。ラス・ミラー

「私は、引退した生化学者である母にあなたの本を渡しました。そ

*れを読んだ母は、『そんな情報が存在することすら知らなかった』と言い、それ以来、イエスを主であり救い主として受け入れたのです！*アイダホ州のビクトリア

11

ダーウィニズム：自然選択；新しく有益な遺伝情報

実証科学の観点からは、知性の源によって設計されなければ、複雑な情報が形成される方法など存在しない。遺伝情報に関しては、怪しげな説や宇宙人の陰謀論を除けば、ダーウィン主義陣営からの沈黙は耳をつんざくほどだ。ラス・ミラー

「カビからモーツァルトへ」というダーウィン的進化には、2つの重要な要素が必要である。1）既存の遺伝子プールに、識別可能な量の**新規かつ**有益な遺伝情報を加える**自然発生的なプロセス**、および2）改良された生物がその種の遺伝子プールを支配し、マクロ進化につながるよう促す**自然の**力である。これら2つの信念こそが、ダーウィン的マクロ変化の本質である。

ダーウィン主義者たちは、生物学の研究によって、*彼らが神に取って代わったと信じる*「***自然選択***」[101]が、新たに進化した有益な遺伝情報に作用することで、あらゆる生命体を徐々に発展させてきたことが明らかになると予測していた。これら二つの重要な要素の証明こそが、ダーウィン的進化論にとって信頼できる経験的基準となる

はずだった。

実証科学は、ダーウィン主義に対して即座に大きな障害を突きつける。それは*「自然選択」*という用語である。今日では日常語の一部となっているが、これは誤った表現である。自然界には、どの生物が最も適応しているかを識別できる目に見えない「選択者」は存在しない。自然選択はダーウィン主義的進化の礎石ではあるが、**単なる言葉に過ぎない**。言い換えれば、ダーウィン主義の背後にあるとされる自然の力は、実際には存在しないのである。

では、なぜ特定の環境において、ある生物は生き残り、他の生物は淘汰されるのだろうか。また、なぜ弱く、欠陥のある遺伝子プールは、さまざまな個体群から排除されがちなのか？[105] その答えは、**聖書的な見解**にある。

創造の週の間に、神はすべての生物のDNAに、適応し、適応能力のある形質を持つ子孫を生み出す能力を組み込んだ。適応や突然変異による遺伝子の損失が、最終的には劣化した遺伝子プールや絶滅につながることを知っていた神は、すべての生物のDNAに、許容可能な（生存可能な）遺伝子の損失の限度も設定した。その結果、不適応で過度に劣化した遺伝子プールが排除され、個体群の遺伝情報が保全されるのである。 私はこれを「***神の品質保証プログラム***」と呼んでいる。なぜなら、製造工場の品質保証プログラムと同様に、欠陥を取り除くからである。**ダーウィンは、神が知的に設計したこの品質保証システムを、実在しない「自然選択者」の仕業であると誤って帰した**。この巨大な誤りだけでも、ダーウィンの進化論の物語は崩壊する。

ダーウィン的進化論におけるもう一つの大きな科学的失敗は、既存の遺伝子プールに、**新規かつ有益な遺伝情報を**相当量追加できる自然発生的なメカニズムを提示できていない点である。
ダーウィンの時代には遺伝情報について何も知られていなかったため、

これは驚くべきことではない。しかし、我々は

現在では遺伝学、その極めて高い複雑さ、そしてその機能について十分な理解が得られているにもかかわらず、いまだに遺伝学者、生物学者、あるいは微生物学者の誰かが、生命体が偶然やその他の自然現象によって進化したと信じていることは驚くべきことである。

あらゆる生物のDNAは、A、T、C、Gという文字で表される4種類の化学物質から構成されています。これらの化学物質がどのように配列されるかによって、「遺伝子」と呼ばれる特定の指示が形成されます。これは、生物が自己修復を行い、成長し、同種を繁殖させることを可能にする、極めて複雑な遺伝的指示です。 染色体はDNAを保持しており、生物のDNA全体がそのゲノムを構成している。[103] しかし、**DNAはタンパク質なしでは形成されず、タンパク質もDNAなしでは形成されない**。 第 9 章で、タンパク質が自力で形成されることの不可能性と生物発生の法則について論じましたが、この議論のために、あるカビがすべての科学的観察結果を覆し、自力で生命を得たと仮定してみましょう。もしそうなったとしたら、ダーウィニズムの信条は、さらに別の大きな問題に直面することになります。**それは、遺伝情報はどこから来たのか、**という問題**です。**

信仰によって、私たちは、目に見えるものは目に見えるものから造られたのではなく、神の御言葉によって世界が造られたことを理解するのです。
ヘブライ人への手紙 11:3。

観察可能な科学的事実に屈することを拒んだ世俗主義者たちは、**新ダーウィン主義を**提唱した。これは、あらゆる生命体が、生物の遺伝子プールに膨大な量の新規かつ有益な遺伝情報を加えるランダムな突然変異によって生じ、[104] 彼らの神話上の「選別者」が、その突然変異体を支配させ、同種の遺伝子プールを改善させたという信念である。

これの確かな証拠とは、新ダーウィン主義に対する信頼できる経験的基準のことである。これはダーウィン主義に偏った生物学における最前線の争点であるため、遺伝学と突然変異の世界について、分かりやすい洞察を提供したい。

パラメシウムからマツへの進化を駆動するために必要な情報を生み出す手段を欠き、かつダーウィン主義者たちが過去100年以上にわたって提唱してきた乏しい証拠が定期的に反証されているため、新ダーウィン主義者たちは細胞の内部へと目を向けるようになった。彼らは基本的に、「*もしあなた自身が電子顕微鏡を持っていれば、ダーウィン主義の証拠を目にするだろうが、持っていないのだから、私たちの言葉を信じてほしい*」と言っているのだ。 残念ながら、歴史と現実の「実証科学」は、彼らの主張を受け入れることが誤りであることを繰り返し証明してきた。

彼らの主張を反証する科学についてさらに深く掘り下げるために、ここでは一時的に、ネオダーウィン主義者たちが提唱する「存在しない自然選択者」については触れないことにする。 さらに、もっと*怪しげな*話題や宇宙人の陰謀論に踏み込まないよう、元の遺伝情報がどこから来たのかについては問わないことにする。これは私にとって極めて寛大な譲歩である。なぜなら、実証科学によれば、自然環境において複雑な情報が自発的に生じる方法など存在しないことが分かっているからだ。

新説によれば、生物の各部分——ブルーバードのくちばしであれ、生物学教授の脳や中枢神経系、あるいは目であれ——は、一つひとつが徐々に形成されてきたとされています。 これは世界中の学校で科学として教えられている以上、ネオ・ダーウィニストたちが、自然環境下において既存の遺伝子プールに新しく有益な遺伝情報を付加する突然変異の、否定の余地のない観察可能な事例を何千と提示

することを期待するのは当然のことである。しかし、自然の過程によって生物のDNAに相当量の新規かつ有益な遺伝情報を付加した実例を明らかにした科学的な実験や観察は、これまで一度も存在したことがない。

、自然の過程によって生物のDNAに、目に見えるほどの量の新規かつ有益な遺伝情報が追加されたという、実証可能な事例を明らかにしたものは、これまで一度も存在しない。

ノーベル賞受賞者の突然変異の専門家であるH・ミュラー博士は、かつて次のように述べている。***「……『良い』突然変異は極めて稀であるため、それらをすべて『悪い』ものと見なしても差し支えない。」***[105] また、著名な進化論者ピエール＝ポール・グラスは、『*生物の進化*』の中で次のように記している。**「***突然変異は、いかなる種類の進化ももたらさない。***」**[106] これらの発言は時の試練に耐えてきた。今日、我々は、突然変異が親から受け継がれた既存の遺伝情報の選別や喪失によって引き起こされることを知っているからだ。これは**「遺伝的枯渇」**あるいは「遺伝的エントロピー」として知られる原理である。[107] したがって、新ダーウィン主義は、それ自らが掲げる重要な基準を満たすことができないのである。

「遺伝的枯渇」は、第8章で論じた熱力学の第2法則、すなわちエントロピーの法則とよく合致している。この科学的法則によれば、物事はエネルギー、情報、そして秩序を失っていく。つまり、物事は劣化していくのである。これは、ダーウィニズムに偏った生物学を除く、あらゆる科学分野において最も広く受け入れられている法則である。 ダーウィニストたちは、科学的な原則に反せざるを得ない。なぜなら、マクロ進化を認めることは科学的に不可能であり、それが世俗的な世界観を揺るがすことになるからだ。そして、キリスト教徒が真理を握っている一方で、世俗主義者たちが体制を掌握しているからである。

第二法則を回避するため、ダーウィン主義者たちは「**開放系**」の議論を持ち出し、太陽系は太陽から大量の新しいエネルギーを受け取

る開放系であるため、この法則は適用されないと主張する。ここで二つの正当な疑問が生じる。もしエントロピーの法則が太陽系に適用されないのであれば、なぜ我々はそれを発見できたのか、そしてなぜそれが、ダーウィン主義に偏った（その正当性が損なわれている）生物学を除く、あらゆる科学分野で最も広く受け入れられている法則なのか？

第二法則が開放系には適用されないという主張について、ハーバード大学のジョン・ロス博士は次のように述べている。「*……第二法則は開放系にも等しく適用される……この誤りが永続化しないようにすることが重要だ*」[108]。自問してみてください。自転車を庭に5年間放置した場合、日光によって状態は良くなるでしょうか、それともその生のエネルギーによって塗装が褪せ、タイヤにひびが入るでしょうか？生のエネルギーはエントロピーを加速させる傾向があり、それを防ぐものではありません。

要するに、ダーウィン主義者たちは肝心な点を見落としている。**鍵となるのは、系が利用できるエネルギーではなく、系が利用できる遺伝情報である。**太陽光のような生のエネルギーでは、DNAに見られるような複雑な遺伝データを生成することはできないというのが事実である。生の太陽光を取り込み、光合成の過程のように有用な機能へと導くことができる生物系を形成しているのは、まさにこの遺伝情報なのである。

生物のDNAに、その生物をマクロ進化させるような新しく有益な遺伝情報を付加する自然過程の実例は*これまで*一度も確認されていないにもかかわらず、ダーウィン主義者たちは誤解を招くような主張を展開している。そのうちのいくつかを考えてみよう。

プラスミドの転移は、特定の種類の細菌が、ある細菌から別の細菌へと少量の遺伝情報を転送できることを示している。 ダーウィン主義者たちは、*数十億年という時間があれば*、こうした交換がダーウィニアンな変化につながると主張している。確かに、研究によれば、プラスミド転移によって既存の細菌のDNA量が増加することは示されているが、こうした遺伝子の交換は、すでに存在する遺伝情報を転送するに過ぎず、新しく有益な情報を生み出すものではない。

ある細菌から別の細菌へ転送されるためには、その情報がすでに一方の細菌に存在していなければならない。その結果、関与した細菌は、細菌内に

に由来する遺伝情報で始まり、それで終わる。プラスミドの移動は、マクロな変化とは何の関係もない。

新ダーウィン主義者たちは、**遺伝子の重複**（コピーエラーとも呼ばれる）が、新しく有益な遺伝情報を生み出すと主張している。確かに科学的研究により、自然界で稀な遺伝子の重複エラーが発生することは明らかになっているが、それらは新しく有益な遺伝データを作り出すわけではなく、**単に既存のデータを複製するに過ぎない**。だからこそ、それらは重複やコピーエラーと呼ばれるのである。一例として、実験室のショウジョウバエに放射線を照射し、遺伝的ミスを引き起こすことがある。 もし、4枚の羽を持つショウジョウバエの写真を見たことがあるなら、それはおそらく遺伝子重複の結果でしょう。しかし、余分な羽は、飛ぶために必要なすべての部位を備えていないため、役に立ちません。遺伝子の複製エラーのせいで、そのハエは飛ぶことができず、自然界では、4枚の羽を持つショウジョウバエこそが、クモに捕食される可能性が最も高い個体となるでしょう。また、この本の印刷についても考えてみてください。 もし印刷機が誤作動してこのページを2部印刷してしまったとしても、それによって本に新しい情報が加わるだろうか？　もちろん、そんなことはない！　複製エラーは、すでに存在していたものを複製するだけである。それらは、新しい情報や有益な情報を生み出すわけではない。[109]

新ダーウィン主義者たちは、ホメオボックス遺伝子（略して**Hox遺伝子**）[110]の突然変異が、新しい種類の植物や動物のマクロ進化につながると主張している。しかし、交通警察官が車の流れを誘導するように、Hox遺伝子は遺伝情報の流れを誘導する。 例えば、牛のDNAには、左前脚を形成するための遺伝情報が含まれている。このデータは、脚を形成するために適切な場所へ誘導するために、ホメオボックス遺伝子を必要とする。もし、背中に脚が突き出ている可哀想な

牛の写真を見たことがあるなら、それはおそらくHox遺伝子の突然変異の結果を目撃したことになるだろう。場所を間違えた脚には、機能するために必要な筋肉や神経がない。しかし、

その維持に資源を消費するため、その牛は群れの中で最も弱くなり、生き残る可能性も最も低くなる。

ナイロンを分解する細菌は、新ダーウィン主義の作用を示す例としてよく挙げられます。当初、1970年代にナイロンを分解できる細菌が発見された際、これは単なる証拠の誤解釈に過ぎませんでした。新ダーウィン主義者たちは、「突然変異によって生物はより良く進化する」という出発点となる公理に基づき、直ちに、突然変異によって細菌のDNAに新しく有益な遺伝情報が追加されたと仮定しました。 しかし、1990年代半ばまでに、研究により、この細菌のナイロンを消化する能力は、タンパク質分解酵素の機能を喪失させる突然変異によって引き起こされたことが証明された。この遺伝情報の喪失が、ナイロンを栄養源とする結果をもたらしたのである。[111] つまり、ナイロンを食べる細菌は、細菌として始まり、親の形態よりも有用な遺伝情報が少ない細菌として終わったわけであり、これはダーウィニズムの要件とは正反対である。

フレームシフト変異や**点変異は、新ダーウィン主義者たちがよく挙げる例です。**以下の簡略化された事例では、遺伝情報を以下の3文字の単語で表します。「*その日は暑かった。」「その暑い日には太陽が一つあった。」「その日、太陽は暑かった。」*

フレームシフト変異[112]は、本来あるべきではない場所に遺伝情報が挿入されたり、本来あるべき場所から遺伝情報が欠失したりすることによって引き起こされる。これらは、生物のDNAシステムでは新しいデータを読み取ることができないため、有益ではない新しい遺伝情報をもたらす可能性がある。その結果、このような変異は通常、変異を受けた個体にとって有害となる。 例えば、2番目の文の冒頭に文字「b」**が挿入された場合**、情報はシフトして次のように読まれることになる。「その日は暑かった。*Bth eho tda yha don esu nth esu nwa*

sho tth eon eda y。」「*eho*」、「*sho*」、および

*eda*といった新しい単語がいくつか生成されたものの、13個の機能的な単語と2つの文全体の意味が失われてしまった。したがって、DNA鎖は長くなり、技術的には「新しい単語」と呼べるものが生成されたとはいえ、この突然変異の全体的な影響は、機能的な遺伝情報の喪失であった。

この例で、最初の文の最初の文字が**削除された**場合、他の文字は左にずれて、次のような文になってしまうだろう。*「Hed ayw ash ott heh otd ayh ado nes unt hes unw ash ott heo ned ay」*。ここでも、技術的にはいくつかの役に立たない新しい単語が生成されたが、機能的な遺伝情報はすべて失われてしまった。

実証科学によれば、フレームシフト変異は、新規かつ有益なデータの獲得によるものではなく、親から受け継がれた既存の遺伝情報の選別または喪失（遺伝子枯渇）によって引き起こされることが明らかになっている。

点変異[113]は、遺伝配列のたった1文字のみを変化させる。これらの変異もまた有用な情報の喪失をもたらし、変異体にとって壊滅的な結果となる可能性がある。先の例で言えば、点変異によって*「day」*という単語が*「duy」*に変わってしまった場合、次のような文になってしまうだろう。「*The duy was hot. The hot duy had one sun.*」*その太陽は、あの「duy」を熱くしていた*。ここでもまた、新ダーウィン主義者は新しい情報が追加されたと主張するかもしれないが、実際には意味のある単語も、その情報の意味も失われてしまった。したがって、点変異は、親がもともと持っていた遺伝情報の選別や喪失（遺伝子枯渇）によって引き起こされるものであり、新しく有益なデータの獲得によるものではない。

新ダーウィン主義者は、変異体が利益を得た稀な情報喪失の事例を

、突然変異がマクロな変化をもたらす証拠としてしばしば挙げる。

[114] 例えば、次のような話をよく耳にする。

鳥インフルエンザウイルスは進化しており、ウイルスは急速に増殖し、突然変異による遺伝情報の喪失を蓄積している、という話をよく耳にする。もしそのような喪失が、抗ウイルスが攻撃するタンパク質の形状を変化させれば、ワクチンを無効にし、ウイルスに利益をもたらす可能性がある。とはいえ、これは微小な変化であり、新ダーウィン主義的なマクロ進化ではない。

もう一つの誤解を招く例として、特定の突然変異を持つ個体は、エイズを発症する確率が低いという点が挙げられる。[115] これはエイズに対する利点ではあるが、既存の遺伝情報の選別や喪失（遺伝子枯渇）によって引き起こされる微小な変化であり、その人を他の病気にかかりやすくしてしまう。

こうした誤解を招く主張の数々を見て、私はこう問わざるを得ない。「*なぜ新ダーウィン主義者たちは、必要な新しい有益な有益な遺伝情報を遺伝子プールに追加する自然過程の*、議論の余地のない実例を提示しないのか？」と問わざるを得ない。唯一の論理的な答えは、そのような実例が存在しないということだ。したがって、多くの人々を信仰の誤りに陥らせてきた、*怪しげな*主張や虚偽の情報（テモテへの手紙第二 6:20-21）は避けるべきである。

科学者であり数学者でもあるI.L.コーエンは、次のように述べている。「*DNA／RNAシステムが解明されたその瞬間、進化論者と創造論者の間の論争は、きっぱりと終止符を打たれるべきだった……数学的に言えば、確率の概念に基づけば、今日私たちが認識している約600万種の動植物を生み出したメカニズムが進化である可能性は皆無である。*」[116]

私たちは約75兆個の細胞から成り立っており、各細胞のDNAには約30億の塩基対からなる遺伝情報が含まれていることを考えてみてほ

しい。驚くべきことに、人類が開発した最も高度な情報システムでさえ一方向にしか読み取れないのに対し、私たちの膨大な遺伝情報は順方向にも

と逆方向の両方に読み取ることができるのだ！ それにもかかわらず、地球上の85億人全員をコード化する遺伝情報は、エンドウ豆ほどの大きさの容器に収まるほどだ！ この信じがたい設計は、創造論と進化論の論争に決定的な終止符を打つべきだった。論争が続いているのは、ダーウィニズムが私たちの起源に関する信念であり、科学ではないからだ。

新ダーウィン主義者たちは、生物学者たちが、突然変異が既存の遺伝子プールに新しく有益な遺伝情報を追加しており、*自然選択*によって突然変異体がその種の遺伝子プールを改善し、より高等な生命体の進化につながっていることを発見するだろうと予測していた。しかし、実証科学によれば、突然変異は必要な情報を生み出さないことが明らかになっており[117]、「*自然選択*」という表現は誤った用語である。自然界には、どの生物が最も適応度が高いかを識別できる「*選択者*」は存在しない。 新ダーウィン主義は、それ自らが掲げる重要な基準を満たしていない。

科学的仮説の特徴は、その予測が的中するか、あるいは否定されるかという点にあり、実証科学は、新ダーウィン主義的進化論という信仰に基づく信念を打ち砕くものである。

聖書的な見解によれば、神は創造の週の間に植物や動物に見られる遺伝子プールを創造されたため、科学は今日、新規かつ有益な遺伝情報が顕著な量で生成されていることを発見することはない。 また、神は遺伝情報の喪失による破壊からそれを守る品質保証（QA）システムも導入された。したがって、ダーウィニズムを裏付ける有効な証拠が欠如しているのは、それが*不確かな情報*の中に埋もれてしまっているからではなく、***遺伝子の枯渇と神のQAプログラムによって、マクロ進化が科学的に不可能になっているから***である。[118] これこそが実証科学が明らかにしたことであり、神の御言葉を

裏付ける実証された基準である。**オッカムの剃刀**。

***

「ラス、あなたの『科学対ダーウィニズム』を聞きました。私は身体人類学を専攻して卒業しました。私の論文『ラマピテクスにおける前歯の縮小』は、1970年の『Primates』誌に掲載されました。私はアリゾナ大学で7年間教授を務め、スティーブン・グールド氏と共同で講義を行いました。つまり、私はその現場にいて、実際に経験してきたのです！ つまり、あなたのプレゼンテーションは素晴らしい仕事をしているということです。」 スティーブン・ユリッシュ博士、元教授、
アリゾナ大学（アリゾナ州ツーソン）

「私は生物学の修士号を取得しており、進化論についてあなたと議論するためにこの会議に参加しました。あまり良い雰囲気にはならないだろうと思っていました。科学者としての私は、創造論にずっと悩まされてきました。その主張は単純化しすぎで、科学的根拠に欠けているように思えたからです。 私は、炭素年代測定や抗生物質耐性菌、なぜヒトの胎児に鰓嚢があるのか、なぜコウモリの翼には人間の手と似た骨があるのか、そしてティクタリクやルーシーといった化石の証拠については、あなたがどう説明するのか知りたかったのです。説明などできるはずがないと思い、私は戦う覚悟で会場にやって来ました。すると、あなたはプレゼンテーションを始め、ダーウィニズムがなぜ真実になり得ないのかという詳細に踏み込んでいったのです。 私が抱いていたあらゆる疑問に、教養があり、理にかなった、科学的な方法で答えてくださり、さらに聖書の証拠をもって裏付けてくださったことに、私は驚かされました。プレゼンテーションが終わったとき、私は自分が誤った教えによって完全に惑わされていたことに気づきました。」
ミシガン州のアン

「日曜学校の成人クラスであなたの動画を上映しているんですが、大好評です！みんなとても盛り上がっています！メッセージにすっ

かり引き込まれています。わあ、真理を広めるお手伝いができて、本当にワクワクしています！」 カリフォルニア州のボニー

12

ダーウィニズム：類似点と化石記録

私はフォードのトラックを運転していますが、友人はフォードのバンを所有しています。両者のダッシュボードはまったく同じですが、それはスケートボードから進化したからではありません！

ラス・ミラー

「相同性」という科学は、生物間の類似した特徴を研究するものです。ダーウィン主義は、すべての動植物が共通の単細胞の祖先から派生したと主張しているため、ダーウィン主義者たちは、科学者が様々な生物間の類似点を利用して、それらの進化の過去を遡ることができると予測していました。
これが、ダーウィン的進化論の信頼できる経験的基準となるはずでした。

以下は、高校の生物の教科書から引用した、科学的事実として教えられているダーウィニズムの説の一例である。*今日、地球上に存在するあらゆる生命体は、単細胞生物の原始的な集団に見られる共通の祖先から派生したものである。*[121] これは事実として述べられており、疑いを持たない生徒たちは、それが証拠によって裏

付けられていると想定してしまう。では、この教えを裏付ける証拠とは何だろうか？

その答えは、数行後に示されている。「*それらの出来事の*痕跡は残っていない……」[122] なんてこった！

重要なのは、（証拠が存在するかどうかという）証拠そのものの問題ではない。問題は、その証拠を解釈する世界観にある。証拠に対する偏った解釈を行うには、その偏見を投影できる何らかの証拠が存在しなければならないはずだ。しかし、証拠が存在しないにもかかわらず、ダーウィン主義者たちは自分たちの信念を裏付けるために物語をでっち上げ、観察されていないその作り話をあたかも科学的事実であるかのように教えている。**ビッグバンから原始の海、生命の起源、そして原始的な単細胞生物の集団に見られる共通の祖先に*至るまで*……*それらの出来事の痕跡は一切残っていない***という点で、彼らの一貫性には感心せざるを得ない。すごい！

実のところ、*ダーウィン主義へとつながる数十億年という*説は、二つの歴史的物語が組み合わさったものであり、それらは科学的研究や教育、そして何十億もの人々の救いとなるキリスト教の信仰を蝕んできた。だから、偽りの科学や偽りの知識を避けよ（テモテへの手紙第二 6:20-21）！

架空の単細胞の祖先から植物や動物が進化したという、議論に値する確かな証拠は存在しないため、私はさらに先へ進み、ダーウィニズムというおとぎ話を暴いていきます。

世俗的な世界観では、すべての動植物は共通の祖先から派生したものとされているため、ダーウィン主義者たちは類似点を、彼らの信仰に基づく信念の証拠として解釈しています。例えば、教科書にはクジラのひれ、猫の足、人間の前腕、あるいは犬の前脚の骨の構造図が掲載されています。それぞれの前肢には2本の骨があるため、生徒たちは「これらがすべて共通の祖先から進化した証拠である」と

教えられています。

それらがすべて共通の祖先から進化した証拠であると教えられている。[123] では、こうした類似点はダーウィニズム的な変化の証拠なのだろうか、それとも単に証拠の誤った解釈に過ぎないのだろうか？

世俗的な教科書では、人間の生化学的構成はチンパンジーのそれと98%類似しており、これが私たちが進化上の近縁種であることを証明していると教えている。このいわゆる類似性は、DNA鎖のごく一部に基づいており、大きな相違がある領域は無視されている。このような方法で研究を行うことで、ダーウィン主義者たちは望む結果を得ている。しかし、真の観察に基づく科学がゲノム全体を調査するにつれて、その相違はますます大きくなっている。

2010年、チンパンジーのゲノムが解読されたが、その発見の多くは、人間がチンパンジーと98%類似しているという主張を裏付けるものではなかった。例えば、チンパンジーのDNAは人間のDNAよりも12%長い。また、人間もチンパンジーも数百のORFan（オープンリーディングフレーム）遺伝子を持っており、その多くは生存に不可欠である。しかし、ORFan遺伝子に関しては、人間と類人猿の間で遺伝的一致率は0%である！ゼロだ！

『ネイチャー』誌は、ヒトと類人猿の雄のY染色体の間に最大30%の相違が存在すると報告している。[124] また、他の研究では、ヒトの生化学的特性は、ある種のミミズとは75%、バナナとは50%類似していると報告されている！[125] 私は、これらの数値がどの教科書にも記載されているのを見たことがない。おそらくダーウィン主義者たちは、これらをあまり*好ましい*とは考えなかったのであろう。

教科書が98%という数字を依然として宣伝し続けることは不誠実であり、次のような疑問を投げかけざるを得ない。なぜダーウィン主義者たちは、誤解を招く主張を捨て去り、自分たちの信念を裏付け

る事実に基づく証拠を示さないのか？ 唯一の妥当な答えは、彼らにはそのような証拠が一切ないということだ。なぜなら、「遺伝子の枯渇」と「神の品質管理プログラム」によって、ダーウィン主義は科学的に不可能なものとなっているからである（第11章参照）。

生物学や生化学における類似性について、**聖書的な見解は**、それらが私たちに共通する「知的な聖書的な設計者」が存在する証拠であるというものです。例えば、私はフォードのトラックを運転していますが、友人はフォードのバンを所有しており、両者のダッシュボードは全く同じです。これは、それらがスケートボードから進化したからではありません！ 類似性は、同じ設計者がいたことに起因するのです。**オッカムの剃刀**です。

ダーウィニズムに基づく**「生命の樹」**は、***ダーウィニストたちが、実際には起こらなかった理論を擁護するために、存在したことのないものを描くことに長けているという***、もう一つの好例である。これらの目を引く図は教科書を飾っており、根元には想定される共通の祖先が描かれ、そこから様々な生物へと色とりどりの線が伸びており、それらがそれぞれの進化の道筋を表している。 ダーウィン主義者たちは、骨の構造や生化学における類似点（実在するものもあれば、想像上のものもある）に基づいて、こうした色とりどりの経路を解明したと主張している。[126] しかし、これらの系統樹は、ダーウィン主義をまたしても大きな失墜へと追い込むこととなった。
なぜなら、体の構造に基づいた「生命の樹」と、生化学的類似性に基づいた「生命の樹」を比較してみると、この二つの「生命の樹」が、想定される進化の経路を常に同じように示しているわけではないことがわかるからだ。実際、その経路はしばしば互いに大きく異なっている！ 言い換えれば、類似性はダーウィン的進化の信頼できる証拠とはならない。（注：この不一致は長年にわたり指摘されてきたため、ダーウィン主義者たちは、互いに一致するように「修正」を加え始めた）。

この状況は、次のような疑問を投げかけます。***クレヨンの箱を取***

り出し、生物同士を結びつける色とりどりの線を引いたからといって、それらが互いに進化したことが証明されるのでしょうか？もちろん、そんなことはありません！真の科学においては、その色とりどりの線は、主張される

共通の祖先から、それが進化したとされるものへの進化の道筋を明確に示す、数え切れないほどの過渡的化石によって裏付けられているはずです。しかし、主張されているわずかな過渡的化石は、そのような役割を果たしていません。観察可能な事実として、***もし彼らのクレヨン一箱を取り上げれば、ダーウィン主義者たちは示すべきものを何も残さないでしょう。***ですから、繰り返しになりますが、***偽りの「科学***（知識）**」**には注意してください（テモテへの手紙第二 6:20-21）。

収斂進化は、ダーウィン主義的進化論にとって致命的なジレンマである！ダーウィン主義者たちは通常、類似性が「共通の祖先」の存在を示す最良の証拠の一つであると主張している。 しかし、ダーウィン主義者でさえ、近縁の共通祖先から進化したはずがないと認めるほど、大きく異なる生物の間にも類似性が存在している。こうした類似性がダーウィン主義のパラダイムでは説明できず、類似性がマクロな変化の証拠となるという主張を揺るがすという事実を回避するために、ダーウィン主義者たちは*収斂進化*が起こったと主張する。[127] これは、それらの類似性が互いに全く独立して、たまたま進化したに過ぎないことを意味する。
このように、観察に基づく科学は、**類似性が共通の祖先からの進化とは何の関係もないことを**示している。ここでもまた、ダーウィン主義は自らの重要な基準を満たせていない。

チャールズ・ダーウィンは、自身の存命中に知られていた化石記録が、自身の仮説を裏付けていないことに気づいていた。地球の地層が*数百万年にわたって*ゆっくりと均一に形成されたと信じていた彼は、次のように記している。 *「なぜ、あらゆる地質層や地層が、そのような中間的な連結種で満たされていないのだろうか？地質学は、確かに、そのようなきめ細かな段階を経た生物の連鎖を*明らかにしてはいない……」[128] ダーウィンは、化石記録がやがて自分の

考えを証明するか、あるいは反証するまでに発展することを知っており、次のように記している。「*もし私の理論が正しいならば、無数の中間的な変種が確かに存在していたに違いない*。」[129]

例えば、もし魚が両生類へと進化したのであれば、ひれが徐々に両生類の脚の肩、肘、足首、つま先、そして爪へと変化していく過程を示す、明確に識別可能な何千もの過渡的な化石が見つかるはずである。しかも、片方の脚だけでなく四本すべてについて、さらに骨格の変化だけでなく、それに必要な筋肉、血管、中枢神経系の変化も確認されるはずである。では、実際に観察される化石記録は何を明らかにしているのだろうか？

2億4000万年前のものとされる琥珀（化石化した樹液）に閉じ込められた何千もの昆虫は、ダーウィン主義にとってさらなる難題を突きつけている。現代に生息する昆虫と比較しても、ダーウィン的な変化の例は一つも示されていない。全くないのだ！

カンブリア爆発もまた、ダーウィン主義の別のジレンマを浮き彫りにしている。植物や動物のすべての基本的な体型（門）が、カンブリア層に突然現れるのだ。これは相当数の化石を含む最下層であるが、カンブリア層からはいかなる過渡的な中間形態も発見されていない。ゼロだ！ 単細胞生物といずれの門との間にもつながりはなく、また、いずれの体型の化石も共通の祖先へと結びつけるものは存在しない。このダーウィン主義のジレンマは、「*カンブリア爆発*」として知られており、基本的な体の構造のそれぞれがカンブリア層に突然現れることからそう呼ばれている。[130]

過渡的な化石の欠如は、ダーウィニズムの哲学にとって常に悩みの種であった。1930年代、リチャード・ゴールドシュミットは「**希望の怪物説**」を用いて、欠落している証拠を弁明しようとした。彼は、マクロな変化があまりにも急速に起こったため、化石記録にその痕跡が残る余裕がなかったから、過渡的な化石が欠落していると主張した。例えば、鳥類は爬虫類の卵から孵化した可能性があり、そのため観察可能な証拠は存在しないのだと彼は述べたのである！

1980年になっても、ダーウィニズムが実際に作用していることを示す確かな化石証拠は依然として見当たらなかったため、シカゴ自然史博物館のナイルズ・エルドリッジやハーバード大学のスティーブン・グールド教授といったダーウィニストたちは、「希望の怪物」説を**「断続的平衡説」**へと改変した。[131] これは難解に聞こえるかもしれないが、要するに化石記録にはダーウィニズム的な進化の証拠がないということである。「希望の怪物」という言い訳からの変更点は、マクロ進化が一夜にして起こったわけではないという点にある。その代わりに、それは短い期間に集中して起こり、その間に長い停滞期（変化のない期間）があったため、化石記録には証拠が残されなかったのだ！グールド博士は次のように認めている。「*中間段階に関する化石証拠の欠如は……たとえ私たちの想像上においてでさえ*
……は、漸進的な進化論にとって、根強く付きまとう問題であり続けてきた。」[132]

ダーウィンは、化石記録が、彼の観察されていない物語を立証するか、あるいは反証するかのいずれかになると予測していた。実行可能な過渡的な連結の欠如は、ダーウィニズムによる進化が決して起こらなかったことを明らかにしており、彼の予測は正しかったことが証明されている。
オッカムの剃刀。

化石記録がマクロ進化を裏付けているという主張は、すべて虚勢と大言壮語に過ぎず、多くの場合、ごく少数の化石断片（実在するものもあれば、想像上のものもある）に対するダーウィン主義的な偏見に満ちた解釈を表現した、誤解を招く図解によって裏付けられている。例えば、馬とクジラの進化系列について論じてみよう。これらは、ダーウィン的な変化が起こったと数十億の人々を騙すために利用されてきたからだ。

馬の化石系列図は、想定される小型の古代馬に続き、次第に大きくなる一連の馬が現代の馬へと進化していく様子を描いている。これは一見説得力があるように見えるが、現代の馬の化石が、いわゆる古代馬の化石より下の地層から発見されているという事実については、人々に伝えられていない。また、私が知る限り、すべての博物館の展示は

1歳から20歳までの現代の馬の骨で作られている。[133] 必死のダーウィン主義者たちは、現代の馬の骨格を大きさ順に並べ、これらの展示が*ダーウィン主義に至る数十億年*という説を証明していると、世界中の人々を騙してきたのだ！

クジラの展示シリーズでは、絶滅した陸生哺乳類がアンブロケトゥスの隣に配置されている。ダーウィン主義者たちは、アンブロケトゥスを陸生動物とクジラをつなぐ「ミッシングリンク」だと主張している。この展示によって何百万人もの人々が、*ダーウィン主義に至る数十億年の歴史を*信じ込まされてきたが、アンブロケトゥスは、異なる場所の異なる地層から発見された化石の断片をつなぎ合わせて作られたものに過ぎない！ この説は、証拠に対する極めて不誠実な解釈である。[134] 悲しいことに、化石証拠に対するこのような誤解を招く解釈は後を絶たず、クジラのシリーズだけでも、数え切れないほど多くの人々を、神の言葉の権威を疑わせる結果となっている。

ダーウィン主義のパラダイムに対するもう一つの化石上の課題は、**「生きた化石」**である。これらは、数百万年前とされる地層から発見された化石化した祖先と、マクロ的な変化を全く見せずに今日まで生き残っている生物である。この観察可能な証拠によれば、生命体は時間の経過とともにゆっくりと進化したわけではない。

例えば、現在生息しているロブフィン魚も、最大3億2500万年前の地層から発見された化石も、側面に突起状の骨を持っており、微細な変化はもとより、巨視的な変化も全く見られない。 それにもかかわらず、2006年のエイプリルフールに、メディアは、側面にこぶ状の骨があるという理由だけで、ティクタアリク・ロゼア（Tiktaalik roseae）を魚類と両生類をつなぐ「ミッシングリンク」の化石であると大々的に報じた！『ネイチャー』誌は、この化石がひれを持つ魚

類と四肢を持つ四足動物の中間形態であると報じ、『サイエンス』誌もこれに続いて独自の発表を行った。[135]

世俗的な教科書は、その「こぶ状の骨」以外の証拠を一切提示することなく、ティクタアリクを取り入れて学生たちに教えている。それによれば、*数百万年の*間にティクタアリクは、その「こぶ状の骨」を両生類の脚の肩、肘、足へと変化させるための骨格構造、中枢神経系、筋系を形成するのに必要な、膨大な量の新規かつ有益な遺伝情報を獲得したというのだ！ 今日、ティクタアリクと肉鰭魚は、過渡的化石の主要な例として用いられている。[136] 一部の生物学の教科書では、無防備な生徒たちに、肉鰭魚こそが、両生類、鳥類、そして人間を含む哺乳類が進化した共通の祖先であるとさえ教えている！[137] そして、何百万人もの生徒たちが誤った方向に導かれている。

そこで私はこう問いたい。なぜダーウィン主義者たちは、こうした偽りを排除し、ダーウィン的進化論の真の証拠を提示しないのか？ 単純な真実は、彼らにはそのような証拠が一切ないということだ！ 大英自然史博物館の故コリン・パターソン博士は、著書『*Evolution*』の中で、過渡的な連結化石を一つも提示しなかった。たった一つもだ！ その理由を尋ねられた際、彼はこう答えた。「*率直に言おう。水漏れのない議論を立てられるような化石は、一つも存在しないのだ。*」[138]

観察可能な事実とは無関係に、*ダーウィン主義へと至る数十億年という*「観察不可能な物語」は、科学的研究、科学教育、そして何十億もの人々の救いの信仰を損なってきた。テモテへの手紙第一6章20〜21節で*述べられているように……* ***「あなたに託されたものを守り、不敬虔で空虚な戯言や、偽りの科学と称されるものの反論を避けなさい」。***

ダーウィンとその追随者たちは、化石記録が、私たちのマクロ進化の過去を明らかにする過渡的な化石で満たされているだろうと

予測した。彼らが「希望の怪物」や「断続的平衡説」、宇宙人、怪しげな説、あるいは

あからさまな捏造を挙げようとも、事実として過渡的な連結種は存在しない。ダーウィニズムは、再び自らの重要な基準を満たすことに失敗している。

話題を変えて、ダーウィン主義のもう一つの失敗について、**現存する過渡的な種について**論じよう。もし生命が*数十億年かけて*マクロ進化を遂げてきたのなら、今日私たちが目にする数百万種の生物の中に、植物、動物、昆虫の現存する過渡的な種が数万種は見つかるはずである。現存する過渡的な種は、ダーウィン主義が実際に機能していることの観察可能な証拠となるはずだが、それらは存在しない。**一つも！**

現存するマクロな過渡的種が存在しない理由を問われると、ダーウィン主義者たちは、マクロな変化は*数百万年*という長い時間をかけて少しずつゆっくりと起こるため、現在では観察できないと主張する。しかし、化石記録にマクロな過渡的種が存在しない理由を問われると、ダーウィン主義者たちは「断続的平衡説」を掲げ、ダーウィニズムによる進化はあまりにも急速に起こったため、観察可能な証拠を残せなかったと主張する。

そこで疑問が生じる。***ダーウィンの進化論は、化石記録に証拠を残すにはあまりにも速く進行しているのか、それとも現在観察するにはあまりにも遅すぎるのか。*** 科学的な答えは、微小な変化（適応、変異）は、親の遺伝情報の再結合や喪失によって、特定の科の範囲内でのみ生じるということです。したがって、**遺伝子の枯渇と神の品質保証プログラム**により、**ダーウィン式の進化は科学的に不可能なため**、現在も過去も、ダーウィン的な巨視的変化の証拠は存在し得ないのです（第11章参照）。

聖書的な見解では、神が1週間にわたる創造の過程において、完全

な遺伝情報を備えた最初の生命体を造られたため、現在、あるいは化石記録において、ダーウィニズム的な進化が起きているという観察可能な証拠は存在しない。その結果、微小な変化（適応

や変異）は、元の遺伝情報の選別や喪失（遺伝子枯渇）によって、同一の種（科）の範囲内でのみ起こり得る。したがって、科学は、すべての種が、新しく有益な遺伝情報の創造からではなく、既存の遺伝情報から派生（生み出された）したものであることを発見するだろう。そして、これはまさに「実証科学」が導き出す結論である。**オッカムの剃刀**。

観察可能な科学的事実や、ダーウィン流の変化を裏付ける証拠の欠如にもかかわらず、ダーウィン主義者たちは教育界や科学界を掌握しており、決して起こらなかった信仰に基づく信念を推進するために、存在したことのない事象を描き続けています。彼らのクレヨンを取り上げ、科学を観察可能な証拠の研究から導き出される知識へと戻すことは、とっくの昔にすべきことでした。

そして、真の科学こそが、信者にとっての真の友なのです。

***

テキスト：「*私の人類学の教授は、キリンが餓死しないように長い首を進化させたと教えてくれました。どう思いますか？*」アリゾナ州のキャシー。
ラス：*1910年頃、ラドヤード・キプリングは、ゾウがどうやって長い鼻を手に入れたかという物語を書いた。彼の物語によると、ゾウはもともとブタのような短い鼻をしていた。ある日、川で水を飲んでいたゾウの赤ちゃんが、ワニに鼻をつかまれてしまった。ゾウは逃げ出したものの、その綱引きのせいで鼻が伸び、今日私たちが見ているような長い鼻になったというのだ。1910年、私たちはそのような物語をおとぎ話の本に収録しました。今日では、そのような架空の話を大学の教科書に載せ、「人類学の最先端」と呼んでいます。ダーウィニストたちは、事実をおとぎ話に歪曲したり、その作り話をあたかも科学であるかのように教えたりするのをやめるべきだ*

と思います。テモテへの手紙第一 6:20-21。

*「私が13歳の時、ラスが『科学対ダーウィニズム』について語るのを聴きました。それから8年後、大学で生化学を学んでいた頃、何度も信仰が揺らぎそうになりましたが、そのたびにラスが講義で明らかにしてくれたことを思い出しました。何年も前のあの夜のおかげで、私は信仰を貫くことができたのです。」*アリゾナ州のアイリーン

*私が大学のキャンパスで講演をしていた頃、教授たちはしばしば学生に、私の講演に参加して私を攻撃すれば追加の単位を与えると告げていました。これは素晴らしいことで、講堂が満員になり、私がダーウィニズムを打ち砕き、多くの人々の人生を変えることができたのです。最初は憎しみに満ちた視線を浴びましたが、神は私に、まず「『創造』は宗教的な信念だと教えられたことがある人はいますか？」と尋ねることで、彼らの心を開く方法を示してくださいました。すると、全員が熱心に手を挙げたのです！ そこで私はこう尋ねました。「『進化論は科学だ』と教えられた人はどれくらいいますか？」すると、またしても彼らは熱狂的に手を挙げたのです！ そこで私はこう問いかけました。「でも、創造論も進化論も、私たちがどのようにして生まれたかについての『信念』ではないのですか？」憎しみに満ちた視線が和らぐと、彼らはこう尋ねてきました。「えっ、そうなんだ！ じゃあ、なぜ進化論が科学だと教えられているの
」と問い返すのです。こうして、ダーウィニズムを打ち砕くための土壌が整うのです。いわゆる『科学』の犠牲者たちと話す際には、このことを心に留めておいてください。*ラス

「ラスは、神の御言葉を裏付ける説得力のある科学的事実を熱心に収集し、それを聖書と結びつけています。彼の教えは、『初めに神

*が創造された』という事実を力強く裏付けています！」*ジャック・スウェンソン博士（元北アリゾナ大学化学科長、アリゾナ州フラッグスタッフ）



13

ダーウィニズム：恐竜から鳥へ；霊長類から人間へ

「科学には興味深いところがある。ほんのわずかな事実という投資から、これほど膨大な推測を引き出せるのだ。」 マーク・トウェイン

実証科学は信者にとって真の友であるとはいえ、科学的事実を装った歴史的物語に関しては、マーク・トウェインの言葉は依然として的を射ている。

例えば、今日、鳥類は存在している一方で恐竜は絶滅してしまったため、ダーウィン主義者たちは、*あの恐ろしいトカゲたちが*鳥類へと進化したと信じている。歴史が示唆するように、恐竜から鳥類への進化説は、やがてまた別のダーウィン主義の失態となり、何百万人もの人々を誤った方向に導いた後、静かに消え去ることになるだろう。そこで、この説がまだ必死のダーウィン主義者たちによって押し進められている間に、いくつかの問題点について取り上げてみよう。

鳥類が恐竜から進化したという証拠は、ダーウィニズムの信頼できる経験的基準となるはずであり、ダーウィニストたちはその証拠と

して鳥類と恐竜の類似点を指摘している。例えば、ほとんどの恐竜は卵を産み、一部は鳥のような足（ただし少し大きい）を持っており、一部の恐竜の骨盤は鳥類のそれと共通した構造を持っていた。

まず、類似性が「共通の祖先から進化した」ことを証明するという主張は、これもまた使い古された論法であることに留意すべきだ。私が以前指摘したように、類似性はむしろ、私たちに共通する「知性ある聖書の創造主」の存在を裏付けるより有力な証拠なのである。

第二に、ダーウィン主義者が「骨盤の構造が似ている可能性がある」と指摘するのは、不誠実な態度である。恐竜は、その骨盤の構造に基づいて2つのカテゴリーに分類される。 一つは、サウルポッドのような四足歩行の巨獣やティラノサウルスのような二足歩行の恐竜を含む「竜盤類（Saurischia）」、もう一つは、パラサウロロフスのように鳥類のような骨盤構造を持つ「鳥盤類（Ornithischia）」である。しかし、ダーウィン主義者たちは、鳥類が鳥盤類から進化したとは考えていない！ むしろ、彼らは、鳥類のような骨盤を持たなかった一部の竜盤類が鳥類へと進化したと主張している。[139]

羽毛へと進化しつつある構造を持つ恐竜が実際に発見されたかどうかは、極めて議論の余地がある。ダーウィン主義者たちは、羽毛を持つとされる恐竜や、羽毛を発達させつつあったとされる恐竜の例をいくつか提示してきたので、彼らが提示する証拠の解釈について詳しく見ていこう。

コンプソグナトゥスは小型の恐竜で、ダーウィン主義の伝道者たちはこれを、恐竜と鳥類をつなぐ「羽毛を持つ中間形」だと主張していた。しかし2017年、保存状態の良いコンプソグナトゥスの化石が発見され、その体は鱗に覆われており、羽毛は一切見当たらなかったことが明らかになった。

また、大々的に宣伝されていた別の「爬虫類から鳥類への移行形」候補は、中国の農民が捏造した偽物であることが暴かれた。『USA

TODAY』紙は次のように報じた。「*……この真の『ミッシングリンク』……の尾は、1億2000万年前ではなく、中国から密輸される直前に生えたものだ。*」[140]

さらに、誤解を招く見出しが後を絶たない。ある見出しはこう宣言していた。**「爬虫類と鳥類の間の『ミッシングリンク』発見！」**科学者たちは次のように述べた。*「…2つの卵巣を持つ恐竜の化石を発見した。爬虫類は2つの卵巣を持つが、鳥類は1つしか持たないため、これが爬虫類と鳥類の間のリンクであることを証明した！」*しかし、恐竜は爬虫類だったのだから、当然2つの卵巣を持っていたのだ！[157] また別の見出しはこう宣言していた。**「科学者たちが鳥類進化の『ミッシングリンク』を発見！」**その記事によると、中国の科学者たちが水生鳥類の遺骸を発見したという。*「…水かきのある足と羽毛を持ち、潜水するカモに似た」ものだという。* まあ、水かきのある足と羽毛を持ったカモ類は山ほどいるんだから、ミッシングリンクはどこにあるんだ？！　研究者たちは、そんな馬鹿げた結論に至ったのは、カモの鳴き声に夢中になっていたからじゃないかと思うよ。まあ、これはひどい冗談だったけど、ダーウィン主義に偏った記事には、つい笑ってしまうんだ。

ダーウィン主義へのもう一つの打撃は、彼らの「原始羽毛を持つ恐竜」だ。これらの絶滅した爬虫類は、羽毛へと進化しつつあったとされる毛を持っていた。問題は、それらが羽毛を持つ鳥類の化石が含まれる地層よりも上の地層から発見されていることだ。 例えば、アルケオプテリクス（完全に発達した羽毛を持っていた）は、爬虫類と鳥類の間の過渡的なリンクであると主張されているが、科学者たちは現代の鳥類の骨を「…*アルケオプテリクスよりも地質柱状図のさらに下層で*…」発見しているのだ。[142] これは、下層の岩石が上層の岩石よりはるか以前に形成されたという「地球古説」に基づけば、主張されている「原始的な羽毛」や想定される「過渡的な存在」が存在する以前に、すでに完全に形成された羽毛が存在していたことを意味するのだ！

いくつかの鳥類専門家は、いわゆる「羽毛を持つ恐竜」とされる他

の例は、決して恐竜ではなく、絶滅した飛べない鳥類であったと指摘している。言い換えれば、ダーウィン主義に偏った説にもかかわらず、生存可能な羽毛を持つ爬虫類は一つも知られていないのである。

羽毛、爬虫類の鱗、そして私たちの爪は、いずれもケラチンの変種から構成されているが、**鍵となるのは遺伝情報である**。鳥の羽毛を形成するための遺伝的指令は、そのDNAの中に存在する。このデータは、爬虫類の鱗や私たちの爪を形成するための遺伝情報とは異なっており、実証科学の観点からは、自然が爬虫類の遺伝子プールに、羽毛を形成するための新しく有益な遺伝情報を追加する方法は存在しないとされている。

羽毛そのものも、マクロ・ナラティブにとって別の問題となっている。 羽毛は極めて複雑で、中空で軽量な軸と、互いに絡み合って強さと柔軟性を兼ね備えた網目構造を形成する交差した小羽枝によって設計されている（羽毛については第20章でさらに論じる）。したがって、毛のような構造は「原始羽毛」であると想像せざるを得ないが、ダーウィニズムを支持する鳥類学者のアラン・フェドゥッチャは、いわゆる「原始羽毛」は単なる皮膚の退化した断片に過ぎないと考えている。[143]

さらに、恐竜と鳥類の化石が同じ地層から発見されており、両者が共存していたことが証明されているという事実を加味すれば、これはダーウィン主義者たちが欺瞞を働くために紡ぎ出した、入り組んだ虚構であると結論づけられる。

ダーウィン主義者たちは、恐竜が鳥類へと進化したと信じたいが、彼らの誤解に基づく主張は、科学的な検証に耐えられていない。それにもかかわらず、このダーウィン主義に偏った歴史的物語は、あたかも科学的事実であるかのように教えられており、数え切れないほど多くの人々を惑わせ、ダーウィン的進化の証拠が見つかったと信じ込ませている。したがって、***偽りの「科学***（知識）**」**には警戒すべきである。

聖書の見解によれば、神は1週間にわたる創造の過程において、5日目に鳥を、6日目に恐竜を創造されたとされています。したがって、恐竜が鳥へと進化したことを示す確かな証拠は見つからないでしょう。本稿執筆時点において、

観察可能な実証科学は神の御言葉を裏付けており、この傾向は今後も続くと私は予想している。

よくある誤解として、ダーウィン主義者は私たちが類人猿から進化したと考えていると思われがちですが、これは彼らの現在の主張ではありません。 もしダーウィン主義者に、「人類が類人猿から進化したのなら、なぜ今なお類人猿が存在するのか」と尋ねれば、彼らは「人類は類人猿から直接進化したわけではないからだ」と答えるだろう。その代わりに、人類と類人猿には共通の霊長類の祖先がおり、そこから類人猿はある方向へ分岐し、人類は別の方向へ分岐したのだという。これが証明されれば、ダーウィン主義にとって信頼できる経験的根拠となるだろう。

そこで疑問が生じる。*もし私たちが類人猿から直接進化したのではないのなら、なぜダーウィン主義者たちは、私たちが類人猿から進化したことを示す骨を見つけるためにこれほど多くの時間を費やしているのだろうか*。結局のところ、私たちは皆、類人猿と人間の間の最も近い進化的つながりであるはずの「ホミニド」を見せられてきた。ホミニドはすべて、類人猿であるか、人間であるか、あるいは完全な偽物であることがひっそりと明らかになっているが、ここではそのいくつかを改めて見てみよう。

ネアンデルタール人は、1856年にドイツのネアンデル渓谷で発見された。[144] 必死のダーウィン主義者たちは依然として、ネアンデルタール人が類人猿と人間の間の「中間形態」であると主張しているが、事実はそうではないことを示している。例えば、彼らの脳は私たちよりも大きく、私たちと同じ舌骨を持っていた（つまり、話すことができたということだ）、そして現代人との間で交配が行われていた。 また、ネアンデルタール人は宗教儀式を行い、楽器、道具、狩猟用具、装飾品も作っていた。正直な結論として、ネアンデルタ

ール人は100%人間であったと言える。1800年代後半以来、科学的研究や教育を蝕んできた圧倒的な世俗的偏見のため、こうした情報は隠蔽されており、多くの人々はネアンデルタール人が聖書を否定する証拠であると誤解させられている。

ルーシー（アウストラロピテクス・アファレンシス；「ピテクス」は類人猿を意味する）は、1974年にエチオピアで発見された。それ以来、彼女はダーウィニズムの救世主とされてきた。[145] ルーシーが類人猿と人間の間の「つなぎ」であるといういわゆる証拠には、彼女が直立して歩いていたことや、彼女の大腿骨が人間のそれと同様に膝に向かって角度をつけていたことが挙げられていた。 しかし、樹上生活を送る類人猿のほとんどは大腿骨が膝に向かって角度をつけており、1987年には次のように報告された。「*解剖学者たちは、これらの生物は類人猿と人間の間の『つなぎ』ではなく、人間のような直立歩行をしていなかったと結論づけた*。」[146] 世界的に著名な人類学者リチャード・リーキーは、ルーシーの頭蓋骨について「*...パリ石膏で作られた空想の産物*」であると付け加えた。[292]

その後、他のアウストラロピテクス・アファレンシスの化石が発見されたが、それらは木の枝を掴むことができるよう、指や足の指が湾曲していた。ルーシーは、まるで人間のように直立歩行しているかのように教科書に描かれ[147]、何十億もの人々を誤解させるために利用されてきたが、彼女は樹上生活を送る類人猿であり、ダーウィニズムが実際に機能していたことを示す有効な証拠とはならない。

教科書では、しばしば**「平顔人**（ケニアントロプス・プラティオプス）」が、私たちが類人猿に由来するという証拠として紹介されている。2001年、小型の類人猿の頭蓋骨が発見された。それは約50片に砕けていた。ダーウィン主義者たちがその破片を再構築した後、その顔は通常の類人猿の顔よりもわずかに*平ら*であるとの発表がなされ、こうして「平顔人」、すなわち「ミッシングリンク」が誕生した。[148] 必死のダーウィン主義者たちは、この事実を世俗的な教科書に盛り込んだ[149]が、平顔人の身長が約40インチもあったという事実を省略してしまったのだ！

もう一つの疑わしいヒト科生物の説が、**トメイ人**（サヘラントロプス）である。2002年に発見された際、『サイエンス・ニュース』は次のように報じた。「*この標本の歯は……類人猿の系統に似ており……二足歩行はしていなかった。*」[150] 『ネイチャー』誌は、トメイ人が「*……古代の類人猿を表している*」と報じた。[151] 観察可能な証拠に

ダーウィン主義者たちは、「トメイ人は『...*これまでに知られていたどのヒト科の生物よりも古い*』」と報じた。[152]

2009年5月、**アイダの発見を報じる見出しが各紙を賑わせた**。「*人間と他の動物界との直接的なつながりを探る旅は200年もの歳月を要した。しかし今日、その答えが世界に提示された……この過渡的な種は、ついにチャールズ・ダーウィンの進化論を裏付けるものとなった*。」[153] ダーウィン主義者たちは、アイダが新たな発見であるかのように語ったが、彼女は26年前の1983年に発見されていた。フォックス・ニュースは次のように報じた。「*この小さな遺体は、生後およそ9ヶ月の雌のもので、おそらく現代のキツネザルによく似た姿だっただろう*。」つまり、「*チャールズ・ダーウィンの理論を裏付ける*」というアイダは、今日動物園で見られるような、ただの長尾類の一種に過ぎなかったのだ！

2009年後半、『サイエンス』誌の特別号で、**アルディ**（Ardipithecus ramidus）がダーウィン的進化論のさらなる証拠として発表された。世俗的な偏見に満ちた報道では、アルディは*人類進化の歴史においてルーシーよりも重要である*と描写された。私はすでにルーシーに関するいくつかの問題点や、彼女が人類の進化において果たしていない役割について明らかにしてきたので、ここではアルディに関するいくつかの事実を紹介する。

アルディが世界に発表される18年前、エチオピアで約40体の類人猿の押しつぶされた骨が発見されていた。『ナショナルジオグラフィック・ニュース』は、それらの骨の状態が極めて悪く、触れただけで粉々になってしまうほどだったと報じた[154]。アルディは、これらの骨を混ぜ合わせて組み立てられたものだった。誠実な科学者たちは、アルディは類人猿であり、他の多くの反証されたダーウィニズムの主張と同様に、類人猿と人間の間の「中間形態」などではないと報

告した。

ストーニーブルック大学の解剖学者ウィリアム・ユンガースは、「*外向きの親指は物をつかむ動作に関連しており*、

この標本は、想像しうる限り最も外向きの親指の一つを持っている」と指摘した。つまり、アルディは類人猿だったのだ。

繰り返しになるが、誤解を招く主張の連発は後を絶たない。ある見出しは「**ミッシングリンク発見！**」と報じた。その報道では、「*骨が人間の骨と全く同じであるため、これがミッシングリンクであるとわかっている*」と述べられていた。うーん。もしかすると、その骨は人間のものだったのではないか？

『ディスカバリー・ニュース』は次のように報じた。「*チンパンジーと人類の最後の共通祖先は、依然として科学界における『聖杯』である。*」[156] 実のところ、チンパンジーと人類の間のいかなる共通祖先も、ダーウィン主義の信奉者たちの頭の中や物語、そして絵の中にしか存在しない『聖杯』に過ぎない。

ダーウィン主義者たちが虚偽の主張を並べ立て続ける一方で、ネアンデルタール人、ルーシー、トメイ人、平顔人、アイダ、アルディは、やがてジャワ人、ピルトダウン人、ネブラスカ人、北京原人、オルセ人、ラミピテクスと共に、数十億の人々を誤った方向に導いた、すでにその正体が暴かれたダーウィン主義の類人猿人のリストに加わることになるだろう。

ここから二つの疑問が浮かび上がる。今日、何百種類もの類人猿やサルが生息しており、過去1,000年間だけでも何百万もの霊長類が生きては死んでいったというのに、なぜサルの骨が見つかったからといって、ダーウィンの進化論が真実であると証明されるのだろうか？ それは単に、サルが死ぬと骨が残るということを証明しているだけではないのか？ **オッカムの剃刀。**

2018年5月28日付の『Human Evolution』誌の報告では、人類を含む全

種の90%が、わずか10万年前というごく最近に誕生したという「*驚くべき結果*」が述べられており、その結果、発見されるべき過渡的な種は存在しないことが明らかになった！[155] 9万種のミトコンドリアDNAの研究に基づくこの発見は、*数十億年*という時間を前提とするダーウィニズムの基盤を打ち砕き、過渡的な化石が存在しないことを裏付けている！

これを受けて、主任研究者は「*この結論は非常に意外であり、私はできる限りこれに抵抗した*」と述べた。しかし、なぜ真実と戦う必要があるのだろうか？

ダーウィン主義者たちは、霊長類が人間へと進化したことを示す化石証拠が科学によって数多く発見されると予測していた。しかし、ここでもまた、ダーウィン主義は自らの重要な基準を満たすことができず、どんなに偏った古生物学的な戯言を並べ立てても、この事実を変えることはできない。

聖書の見解によれば、神は一週間にわたる創造の第六日に、ご自身の姿に似せて人間を創造された。したがって、人間が霊長類、類人猿、サル、あるいはその他の生物から進化したという、妥当な証拠は見つからないだろう。これは、実証科学が支持する見解でもある。**オッカムの剃刀である。**

***

文字は言葉を構成する基本単位であり、意味を持つためには特定の順序で並んでいる必要がある。 同様に、アミノ酸はタンパク質の構成要素であり、タンパク質が機能するためには正確な順序で並んでいる必要があります。10の80乗は絶対零度とみなされており、自然界で単一のタンパク質が形成される確率は10の119,000乗と推定されています。また、最も単純な細菌を形成するには、20種類の特定のタンパク質が必要です。 これは、10の119,000乗に10の119,000乗を20回かけた値に相当します！宇宙に存在するすべての分子の総数でさえ、その半数にも満たないのです！
生命が自力で進化できないのも当然です。ラス・ミラー

「聖書に書かれている通りの神の御言葉を教えてくださり、ありがとうございます。私の子供たちは皆、あなたの説教を聞いており、

友人たちにあなたのウェブサイトを紹介しています。」アリゾナ州のレスリー



14

ダーウィニズム：偽りの 知識の氾濫

私たちは皆、物事を自分の偏見を通して見てしまいがちです。違いは、私たちのほとんどが、その偏った解釈を科学書に盛り込み、それを科学的事実として教えることはないという点です。ラス・ミラー

ダーウィン主義者たちは、自らの仮説を裏付ける有効な証拠を提示できていません。なぜなら、*ダーウィン主義の根拠となる数十億年という時間は*、そもそも存在しなかったからです（オッカムの剃刀）。 その結果、彼らはしばしば、理解されていない事柄を、自分たちの歴史的物語の証拠として主張する。こうした偏った物語は、真の科学が彼らの誤った解釈を反証すると、たいてい彼らを恥をかかせる結果となる。そして、私たちの多くは過ちから学ぶが、必死のダーウィン主義者たちは、いつの日か何かが通用するかもしれないという期待を抱き続け、根拠のない物語を投げかけ続けている。

例えば、1950年代から2013年にかけて、生物学の学生たちは、「ジャンクDNA」がダーウィニズム的な過去の名残であり、私たちが長い年月をかけてマクロ進化を遂げたことを証明するものであると、誤って教えられてきました。これは、その機能が解明されていなか

ったヒトDNAの大部分に対する、甚だしい誤解でした。その後、2013年、研究により――

この遺伝物質は、何らかの進化過程で残された「ゴミ」などではなく、おそらくRNA／DNAシステム全体の鍵を握っていることが明らかになったのだ！[158] 以下に、ダーウィニズムを推進し、大衆を誤った方向に導くために用いられてきた、よく知られた誤った知識の例をいくつか挙げる。

ダーウィン主義者たちは、**殺虫剤に対する耐性を**獲得した昆虫が、ダーウィン的進化の証拠であると教えている。理論上、毒に対する耐性は、遺伝情報の突然変異による喪失によって生じ得る。例えば、ある突然変異によって遺伝情報が失われ、その結果、変異体において特定の形質が現れなくなった場合、その形質が殺虫剤の標的であるならば、変異した昆虫はその喪失によって利益を得て、その殺虫剤に対して耐性を示す可能性がある。 このような耐性の稀な例は見られるが、遺伝情報の喪失は、変異体の遺伝子プールに新しく有益な遺伝情報を加えるものではなく、またマクロ進化につながるものでもない。[159]

ダーウィン主義者たちはまた、細菌が**抗生物質に対して耐性を**獲得することがマクロ進化の証拠であると教えている。例えば、ダーウィン主義者たちは、細菌の突然変異によって抗ペニシリン酵素が大量に産生されるようになる事例をしばしば引用する。しかし、これは酵素の産生を停止させる能力を失ったことによって引き起こされるものであり、全体として有益な変化をもたらすものではない。考えてみてほしい。 もし、変異した細菌がペニシリンを投与されている患者の体内にいたならば、この機能の喪失は変異した細菌にとって利益となるだろう。しかし、それ以外の場所では、遺伝的に弱い変異体は、不要な酵素を生産するためにエネルギーを浪費し、自らの死を早めることになる。[160] 細菌が抗生物質に耐性を獲得することとダーウィニズム的な変化とは何の関係もないにもかかわらず、教師用ガイドブックはしばしば、疑いを持たない教育者に対し、生徒

たちにこの誤解を招くダーウィニズム的な物語を教えるよう指示している。[161]

ダーウィン主義に偏った説では、突然変異によってウイルスが既知の治療法に対して耐性を獲得し、それがマクロな変化につながるとも主張されている。観察に基づく科学によれば、ウイルス治療薬は多くの場合、ウイルスの特定のタンパク質の形状を認識し、それに結合して破壊するように作られている。このため、突然変異による遺伝子の欠失が標的タンパク質の形状を変化させると、そのタンパク質が抗生物質に認識されなくなる可能性がある。 そのような場合、情報の喪失によって治療法は役に立たなくなってしまう。[162] これもまた、遺伝情報の喪失の一例であり、新しく有益な遺伝情報の追加とは何の関係もない。ウイルスは依然としてウイルスであり、情報の喪失が新種の生物を生み出す新ダーウィン主義的な進化につながることはない。

生殖遺伝子に突然変異が生じ、それが変異体の子孫に受け継がれた場合、子孫はその突然変異によって生じた情報の喪失をそのまま受け継ぐことになる。変異体は、遺伝的に弱体化してはいるものの、依然として祖先と同じ種類の生物である（遺伝子の枯渇）。[163] （新ダーウィン主義と遺伝子の枯渇に関する詳細は第11章を参照）。

改めて問う。なぜ世俗主義者たちは、今日の教科書にある虚偽や誤解を招く情報を、マクロ変化の真の証拠と置き換えることを拒むのか？　唯一の論理的な答えは、彼らには提示できる妥当な証拠が何一つないということだ。なぜなら、「遺伝子の枯渇」と神の品質管理プログラムによって、ダーウィン的なマクロ進化は科学的に不可能なものとなっているからである。

ダーウィン主義者はしばしば、私たちのDNAには霊長類のDNAに見られるものと同じ「誤り」が共有されていると主張する。これらの誤りは**「疑似遺伝子」**と呼ばれる。ダーウィン主義の説によれば、これらの誤りは、霊長類が人間へと進化していたと彼らが信じてい

る、観察されていない期間の間に蓄積されたものである。しかし、この偏った解釈にダーウィン主義者が抱いていた期待は、

は、真の科学によって、ヒトとモルモットの疑似遺伝子に約36%の同一の誤りが存在することが観察された時点で、完全に崩れ去った。ダーウィン主義者は、私たちがモルモットと近縁であるとは信じていないため、これは、共通する誤りがダーウィン的進化の証拠であるという主張を論理的に反駁するものである。残念ながら、疑似遺伝子は依然として、ヒトが霊長類から進化したという証拠として喧伝されている。[164]

内因性（スプライシング）レトロ（逆転写）ウイルス、略してERVは、人間が霊長類の祖先から進化したという、もう一つの誤った「証拠」として主張されている。[165] ダーウィン主義者たちは、観察不可能な過去のどこかの時点で、レトロウイルスが細胞内に小さなRNA鎖を注入し、それがスプライシングを経て、生殖に関わる細胞の遺伝情報の中に逆転写されたと信じている。 ダーウィン主義者たちは、それ以来、ERVが世代から世代へと受け継がれてきたと信じている。ERVが同じ場所に留まっていると仮定し、ダーウィン主義者たちは、ヒトのDNA鎖上の類似した位置にあるERVをチンパンジーのDNA鎖内で探し出す。そして、そのようなERVが見つかった場合、それがヒトとチンパンジーが共通の祖先を持つ証拠であると主張されるのである。 しかし、研究により、ERVは遺伝子鎖に沿って移動し得ることが判明しており、DNA内の様々な位置に存在することがわかっている。これは、類似した位置に見つかったERVが共通祖先の証拠であるという主張を否定するものである。私は、真の科学が最終的に、いわゆる「ジャンクDNA」と同様に、ERVも当初から存在しており、RNA／DNAシステム全体において重要な役割を果たしていることを明らかにするだろうと期待している。

もう一つのダーウィン主義者の説は、**ヒトの2番染色体に関する**ものである。染色体は遺伝情報を保持している。ヒトは46本の染色体を持つが、類人猿は48本である。この相違を説明するため、ダーウ

ィン主義者たちは想像力を駆使して、これがヒトが霊長類から進化した証拠だと宣言したのだ！ 彼らの説はこうだ。テロメアは染色体の末端に位置している。ダーウィン主義者たちは、ヒトの2番染色体内に発見されたテロメアを指摘し、

2本の染色体が、またしても観察されていない霊長類の祖先において融合し、ヒトの2番染色体を形成した証拠だと主張している。しかし、テロメアは染色体に含まれる遺伝情報の中にしばしば見られるという事実が無視されている。実際、ヒトの2番染色体の中には、少なくとも他に10個のテロメアが見つかっているのだ！

また、もし2本の霊長類の祖先染色体が融合していたとすれば、ヒト第2染色体におけるその融合部位の両側のDNA配列は、チンパンジーの遺伝子配列と同様のものとなるはずである。しかし、観測可能な科学的事実によれば、ヒト第2染色体には、霊長類のDNAには見られない複雑な遺伝情報が含まれていることが示されている。[166] さらに、もしそのような融合が起こっていたならば、24本の染色体を持つ霊長類の精子（または卵子）は、23本の染色体しか持たない相手方の卵子（または精子）と組み合わされることはなく、受精は起こらなかったはずであり、その結果、融合した染色体を持つ生物は絶滅していたはずである。

ヒトの2番染色体に関する説は、ダーウィン主義を裏付けるものではない[167]。なぜなら、**重要なのは遺伝情報そのものであり**、その情報を保持する染色体の数ではないからである。
例えば、タバコと類人猿はどちらも48本の染色体を持っているが、それらが双子だと主張する人は誰もいない！

エルンスト・ヘッケルは、実際には起こらなかったダーウィンの理論を推進するために、存在したことのないものを描くという点において、ダーウィニズムの先駆者の一人であった。 ヘッケルはダーウィンの*『種の起源』*を読んだが、同書が刊行されてから10年後の1869年までに、彼は今日のダーウィニストたちが直面しているのと同じ問題に直面していた。すなわち、ダーウィンの仮説を裏付ける証拠を何一つ見つけられなかったのだ。マクロ進化が決して起こら

なかったことを認める代わりに、ヘッケルは、現在のダーウィニストたちが悪名高い行為、すなわち「巧妙に捏造された証拠」を作り出したのである。[168] 彼は

胚段階の人間を描き、各図にわずかな変更を加えて複製し、それらに「ニワトリ」「サンショウウオ」「魚」などのラベルを付けた。彼の図は胚段階の人間とほぼ同一であったため、彼は「*個体発生は系統発生を反復する*」と主張したのだ！これは、人間を含む動物が、母体内で過去の進化段階を経ることを意味する。

これは当初から捏造であったにもかかわらず、**「生物発生の法則」**あるいは**「反復説」**として知られるようになった。胚発生学者のマイケル・リチャードソン博士は、「*彼（ヘッケル）が行ったのは、ヒトの胚を写し取ったことである……これらは偽物だ*」と述べている。[169]

ヘッケルの図は1870年代に捏造であることが証明されたにもかかわらず、今日でも大学では、その派生形が共通の祖先を証明するものとして主張され続けている。 例えば、ダーウィニストたちは胚段階にある人間の図を示し、それらが過去の進化段階における鰓嚢や尾を持っていたと主張している。[170] 真の科学は、人間の胚には尾がなく、鰓嚢と称される部分は喉の器官へと発達する領域であることを、かねてから証明している。[171] 実のところ、19世紀の誤った科学は、21世紀においても依然として誤った知識である。

「神の真理を偽りに変え、被造物を造り主よりも崇め、仕えた」というローマ人への手紙1章25節の***記述を***体現するかのように……ダーウィン主義者たちがよく持ち出す二つの論点は、秩序と工学に関するものである。

秩序。ダーウィン主義者たちは、竜巻や岩水晶、雪の結晶に見られる秩序立った構造こそが、神なしでも秩序が自然に生じ得る証拠だと主張する。しかし、非生物系における秩序は、生物に見られる秩序や極めて

複雑さとは何の関係もないことに気づけば、この主張は成り立たなくなる。竜巻、岩水晶、雪の結晶は、その物理的性質の配列によって自然に形成される。一方、生きた細胞は、DNAに含まれる特定の複雑な遺伝情報によって形成される。さらに、生命体とは異なり、竜巻、岩水晶、雪の結晶は、栄養分を摂取してエネルギーに変えたり、互いにコミュニケーションをとったり、繁殖して子孫を生み出したりすることはない。 食物を消化し、栄養素を利用して身体機能を維持しエネルギーを生み出し、*自らの種に似た*子孫を生み出すための遺伝情報を持つのは、生き物だけである。[172]

これらの事実と論理は、生命体の存在の背後には極めて高度な知性の源が必要であることを裏付けている。

遺伝子工学。ダーウィニストたちは、遺伝子工学者がDNAをいじくり回して生物に変化をもたらすことができるのだから、自然選択も同様にそれができることを示唆していると主張する。彼らの存在しない「自然選択者」については第11章で取り上げたので、ここでは遺伝子工学について論じることにする。

遺伝子工学は、数十億ドル規模の実験装置やコンピュータを備えた研究所で、高度な訓練を受けた遺伝子工学者が指揮を執り、数千人もの研究者による発見の成果の上に築かれている。このような意図的かつ知的な工学は、ある種の動物が別の種へとマクロ進化を引き起こすような、新しく有益な遺伝情報を生み出すランダムな突然変異とは何の関係もない。 例えば、人間による膨大な量の知的な工夫を駆使して、魚を遺伝子操作し、カエルを生み出すことに成功したとしても、それがダーウィニズム的な進化の可能性を示すことになるだろうか？　もちろん、そんなことはない！　それは、目に見えるようなマクロな変化を生み出すには、膨大な量の知性が必要であることを明らかにするに過ぎない。

例えば、6階建ての建物の屋上からレンガの山を無作為に落としたとしても、レンガの家が完成する確率は絶対にゼロだ。しかし、人間の知性を用いて計画し、建設すれば、そのレンガの山は美しい家となる。事実、無作為に起こるミスと、意図的かつ知的な設計とでは、生み出される結果は天と地ほども異なるのだ。

数十年を要するかもしれないが、実証科学は最終的に、誤ったダーウィニズムの「原始の粘液から動物園を経て現代に至る」という物語を反証するだろう。それでもなお、教科書や博物館からそうした物語が排除されるまでにはさらに多くの年月を要するかもしれない。そして、その代わりに、ダーウィニズム陣営から生み出されるさらなる虚偽が持ち込まれることになるだろう。

科学界のダーウィン主義者たちは、「*科学には自己修正機能があるため、最終的には真実が勝つ*」と得意げに宣言しながら、助成金を喜んで受け入れ、給料を受け取り、何百万人もの人々を誤った方向に導いている。虚偽の報告の洪水は、真の科学的発見をも圧倒し、それらは科学的に聞こえるでたらめの雪崩の下に埋もれてしまう。

その結果、今日の科学界は崩壊している。*科学的な画期的な成果として*世界に発表された後、撤回される研究報告がますます増えていることは、この状況の深刻さを浮き彫りにしている。『**ニューイングランド・ジャーナル**』の編集長であるマーシア・アンジェル氏は、「*もはや、公表された臨床研究を信じることは不可能だ*」と述べた。[173]

英国の権威ある医学雑誌『**ランセット**』は、科学者たちが自身の論文を自ら査読していたことが発覚した後、すでに掲載されていた数十本の論文を撤回せざるを得なかった！『**ランセット**』の編集長であるリチャード・ホートン博士は次のように述べている。

「*科学文献の多くは虚偽である可能性がある……科学者たちは、自分たちが好む世界観に合うようにデータを加工しすぎる傾向がある*。」[174] 例えば、最近の研究では、公表されているがん研究の大部分が誤りであるか、検証不可能であると報告されている[175]。また、科学者を対象とした世論調査では、多くの科学者が、自身の当初の信念に合致する結果のみを報告していることが明らかになっている。

注目すべき例として、**ハーバード大学の**著名な**生物学者でありノーベル賞受賞**者のジャック・ショスタックが挙げられる。彼は、RNAが自己複製できることを証明し、生命が化学物質から生じ得たことを立証したと発表した。生命が自発的に発生し得ないことは、ダーウィニズムにとって常に大きな悩みの種であったため、これは画期的な発見であった。しかし、彼はそのような証拠を発見しておらず、今では自身の偏った信念に目がくらんでいたとして、その主張を撤回している[176]。

査読プロセスは通常、問題の一つとなっている。なぜなら、査読グループは往々にして、その分野で最も偏見が強く、しばしば現実離れした実務家たちで構成されているからだ。例えば、『**ブリティッシュ・メディカル・ジャーナル**』に送られた、8つの重大な誤りを含む論文について、査読を行った200人以上の科学者のうち、却下を推奨したのはわずか30%に過ぎなかった。[177] そして、一度誤りのある論文が掲載されると、新聞、雑誌、ウェブサイト、教科書などで再掲載される可能性がある。[178]

博士号取得やテニュア（終身在職権）の取得プロセスは、若く有望な科学者たちに、*数十億年の歴史がダーウィニズム的進化論へとつながるという*体制側のパラダイムに屈服させるという点で、極めて「効率的」なものとなっている。それ以外の行動をとれば、キャリアの自殺行為となり、成績評価、学位、就職の機会、論文の掲載、

あるいは研究助成金の獲得といった形で報復を受けることになるだろう。[179]

ニューヨーク・タイムズ紙が「*ロックスター*」と称したイェール大学のデビッド・ゲルレンター教授は、ダーウィンの進化論について、

「*事実上反証されている……にもかかわらず、多くの学者にとっては宗教と化している*」と宣言した。180 ゲルレンター教授はさらに、「*これに異議を唱えれば、彼らはあなたを破滅させるだろう……私はそれが何度も繰り返されるのを目にしてきた*」と付け加えた。[181] 誠実な研究者たちが被った迫害の一例を見るには、ベン・スタインのドキュメンタリー映画『*Expelled: No Intelligence Allowed*』や、ジェリー・バーグマン博士の著書『*Slaughter of the Dissidents*』を参照されたい。

ダーウィニズムのマクロ進化論は、その独自の主要な基準を一貫して満たせていない。もしこれが科学であるならば、この事実はダーウィニズムを反証することになるだろうが、それは起源に関する宗教的信念であり、*数十億年という*時間観と結びついて世俗的世界観の基盤を提供しているため、今なお存続しているのだ。

フロリダ州立大学のマイケル・ルース教授は次のように指摘している。*「進化論は宗教である。これは進化論の初期においても真実であり、今日においてもなお真実である。」*[295]

ダーウィン主義に反する証拠が積み重なるにつれ、その崩壊を隠蔽するための虚偽の主張や荒唐無稽な物語がさらに増えるだろう。哲学者マルコム・マグリッジは次のように述べた。「*……進化論は……将来の歴史書において、最大の笑い話の一つとなるだろう。後世の人々は、これほど薄弱で疑わしい仮説が受け入れられたことに*驚嘆するだろう……」[184]

ハーバード大学元生物学教授のリチャード・レウォンティンは次のように説明している。*「我々が*（進化論的な）*科学の側に立つのは……物質主義への事前のコミットメントがあるからだ。科学の手法が……何らかの形で我々に物質的な説明を受け入れるよう強いるわけではない……それどころか……我々は『神の足』をその扉に踏み*

込ませるわけにはいかないのだ。」[182]

ダーウィニズムが、その存続のために法的裁定や訴訟、強制を必要とする唯一の*科学理論*であるのも不思議ではない。しかし、言論の自由が存在する限り、起源をめぐる議論は消えることはないだろう。なぜなら、自由な人々は、

「問うことを許されない疑問」や「疑問を呈することを許されない答え」を押し付けられることを決して受け入れないからだ。

要するに、人々は、観察に裏打ちされた科学と、あたかも科学であるかのように教えられているダーウィン主義に偏った歴史的物語とを、慎重に区別しなければならない。繰り返すが、***「偽りの科学」***に警戒せよ（テモテへの手紙第二 6:20-21）。

ダーウィンは、「*公正な結果は、各問題の双方の事実と論点を完全に提示し、バランスをとることによってのみ得られる*」と述べた。[183] さて、ダーウィニズムの教義を、観察可能な科学的事実や、妥当な競合仮説と比較することは、とっくに遅れている。

これに対し、聖書は執拗な攻撃にさらされているにもかかわらず、その一節たりとも反証されたり撤回されたりしたことは一度もない**。オッカムの剃刀。**

***

本文：*「私の教授が新約聖書を嘲笑し、古代写本の分析によれば20万もの誤りがあると言っていました。どう思いますか？」* **ラス**：*新約聖書の正確性を裏付ける圧倒的な証拠があります。1世紀の新約聖書の完全または部分的な写本は1万4,000点以上あり、[2]〜4世紀の教父たちによる引用は約3万6,000件に上り、これだけで新約聖書を11節を除いて完全に復元できるほどです。いわゆる「誤り」とは、文法的なものや綴りの異読に過ぎません。例えば、2,000点の写本のうち、1節に1語の綴りの異読が1つあるだけで、それを2,000の誤りとして数えているのです！もしその単語が10節に出てくれば、その1つの綴りの異読は20,000の誤りとして数えられてしまいます！主題が何であれ、この偽教師の言うことには懐疑的になるべきでしょう。*

1年以上にわたり、「懐疑論者協会」のメンバーたちは私の後をついて回り、私が講演する場所のどこでも、彼らの宗教的なチラシを配り続けていました。ある教会での質疑応答の席で、その団体の会長が私にいくつかの質問を投げかけ、私はそれに答えました。そこで私は彼に尋ねました。「あなたはどの団体の会長なのですか？」「懐疑論者協会です」と彼は誇らしげに答えました。私はこう返しました。「では、あなたは懐疑的なのですか？」「もちろんです！」と彼は断言しました。そこで私は言いました。「さて、私は先ほど、ダーウィニズムを推進するために使われているいくつかの詐欺を暴きました。懐疑論者として、あなたは生物学の教授たちがこうした嘘を教えていることについても追及するのですか？」彼はどもりながら、「いいえ。私たちはダーウィンを信じています」と答えました。そこで私は尋ねた。「つまり、あなたは実際には『懐疑者協会』の会長ではなく、『偽善者協会』の会長ということですね？」それ以来、彼らは私を追いかけてこなくなった。『伝道の書』7章5節には、愚か者の歌を聴くよりも、賢者の叱責を聴くほうがよいと書かれている。ラス

「私は生物学を専攻しています。今日、教授が胎児の鰓裂の例を挙げましたが、あなたが示したように、それは単なる皮膚のひだに過ぎないのです。
あなたの活動に感謝します。」オレゴン州のジェシー

ダーウィン主義の生物学者二人と議論している際、私は「なぜ地層の中に多くの過渡的な化石が見つからないのですか？」と尋ねました。彼らは「ダーウィン的進化は、地層に記録されるにはあまりにも速く起こるからです（断続的平衡説）」と答えました。その後、私は「なぜ今日、マクロな変化が起こっているのを見られないのですか？」と尋ねました。彼らは「ダーウィニズム的な変化は、長い年月をかけてゆっくりと起こるからだ」と答えました。そこで私は

、「混乱しました。ダーウィニズム的な進化は、証拠を残すには速すぎるのか、それとも目に見えるほどには遅すぎるのか？」と尋ねました。彼らは顔を見合わせ、「うわっ、これは私たちの宗教的信念だ！ だが、それが私たちの信じていることだ」と言いました。私はこう返しました。「好きなように信じていいが、無防備な子供たちに、その信念を科学として教えるのはやめてほしい。」 ラス

15

悪の氾濫 実

それゆえ、その実によって彼らを見分けることができる。

マタイによる福音書7章20節のイエス・キリストの言葉。

ダーウィン主義につながる「*数十億年*」という概念に関連する諸問題について、考えたことはありますか？私はこれまでの6章にわたり、古地球説という信念の木から生じる「最大の邪悪な果実」であると私が考えるもの、すなわちダーウィニズム的進化論の主要な予測について検討してきました。この章では、古地球説の「邪悪な果実」のうち、さらに7つについて考察したいと思います。

*数十億年*という時間と*ダーウィニズム*が相まって、自然主義とヒューマニズムが繁栄するための哲学的基盤を提供してきました。

自然主義は、「唯物論的無神論」とも呼ばれる世界観である。[185] 自然主義は、物質のみが存在し、人間の精神や魂、あるいは私たちが神と呼ぶ霊は存在しないと主張する。自然主義は、自然に関するあらゆる超自然的または形而上学的な説明を拒否し、自然科学こそが認識可能な事柄の唯一の根拠であると主張する。**ヒューマニズムは**、自然主義に基づく世界観である。[186] ヒューマニストたちは、

道徳や意思決定の根拠となる超自然的な原因への信仰を一切拒絶し、人間こそが最も進化した動物であり、本質的には自分自身こそが神であると信じている。

自然主義もヒューマニズムも、人間は樫の木やアリと同じように自然の一部であると位置づけ、ローマ人への手紙1章21〜23節の記述を体現している。 ***「彼らは、神を知っていたにもかかわらず、神として神を栄光に帰さず……その思いはむなしく、その愚かな心は暗くなった。 彼らは自分たちを賢い者と称したが、愚か者となり、朽ちることのない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥や、四足獣や、這うものの像に変えてしまった。***

一方、聖書に基づくキリスト教は、聖書、科学、論理、そして創造そのものから、聖書の神こそが私たちの創造主であると結論づけています。例えば、*エントロピーの法則は*、物質が永遠に存在してきたわけではないことを証明しており、質量とエネルギーの保存則、そして論理のいずれからも、物質が「無」から突然現れたはずがないことが示されています（第8章参照）。 実際、聖書は、被造物の存在そのものが、私たちが神を知らず、信じないことに対する言い訳を一切許さないことを大胆に宣言している。 ***「世が造られた時から、目に見えない神の性質、すなわち神の永遠の力と神性とは、被造物を通して明らかに知られ、理解されるからである。それゆえ、彼らには弁解の余地がない***」（ローマ人への手紙 1:20）。

チャールズ・ダーウィンの従兄弟であるサー・フランシス・ゴルトンは、「**優生学**」の父として知られている。[188] この用語は、「*良き生まれ*」を意味するギリシャ語を組み合わせたものである。優生学とは、人間の身体的および精神的な特性を向上させる分野である。表面的には、これは立派な

取り組みのように聞こえる。しかし、歴史が示すように、優生学の追求は、「*価値のない遺伝子プール」を*排除し、将来の世代の身体的・精神的特性を向上させるという名目のもと、数え切れないほど多くの人々の早すぎる死を招いてきた。 非倫理的な優生学者たちは、強制不妊手術プログラム、中絶、嬰児殺し、安楽死、ジェノサイド、民族紛争、そして同性愛のライフスタイルの推進（同性愛者は子孫を残さない）を通じて、自分たちが「価値のない遺伝子プール」と決めつけた人々を排除してきた。

第二次世界大戦中にナチスが優生学を実践に用いた後、この用語は使用禁止となった。[189] *『優生学年報』は『人類遺伝学年報』*に、*『優生学季刊』*は*『社会生物学ジャーナル』*へと名称を変更した。しかし、今日、優生学は大学のキャンパスや政治的議論、そして世界中の実践の場で再び流行している。 中絶、同性愛のライフスタイル、トランスジェンダー主義、そして胎児から障害者、高齢者に至るまで「生きる価値がない」とみなされた人々の殺害の推進は、すべて、私たちが歴史から学ばなければ、歴史は繰り返されるということを明らかにしている。

聖書の見解によれば、すべての人間の命は尊いものであり、それは「***神がご自身の像に似せて、男と女を創造された***」（創世記1:27）という事実によるものである。

「人間とは、*ダーウィン主義に至る数十億年の進化の過程*を経て生まれた、単なる高度な動物に過ぎない」という考えは、他者に自らの意志を押し付けようとする政治的権力者たちによって、全面的に受け入れられてきた。
「政治とは生物学の応用である」という信念は、*ダーウィン主義へと至る数十億年の歴史*を信じることに基づいている。

ナチズムは、まさに「*政治とは生物学の応用である*」という考えの好例であった。虚偽の「再演説」理論

（第14章）の提唱者であるエルンスト・ヘッケルは、ドイツ人が最も進化した優越的な人種であり、世界を支配するに値すると信じていたアドルフ・ヒトラーに多大な影響を与えた。 ヒトラーが引き起こした世界大戦に加え、ナチス政権は強制収容所で1,300万人を殺害した。1971年に出版された*『国家社会主義の科学的起源』*は、次のように主張している。*「社会ダーウィニズムは……ヒトラー率いるナチス・ドイツにおいて頂点に達した……ヒトラーは最高の進化論者であり、ナチズムは進化の樹の究極の果実である。」*[190]

カール・マルクスは**共産主義の父**と呼ばれている。1800年代、彼は哲学者であり政治活動家であった。彼は*『共産党宣言』*（1848年）と*『資本論』*（1867年）を著した。 彼は、*ダーウィニズムに至る数十億年の歴史を*歓迎した。そのような信念は、神、そして神に内在する道徳や、人間の命*が神の像に造られたものとして*特別な価値を持つという信念を社会から排除するのに役立ったからである。マルクスは、「*私の人生の目的は、神を王座から引きずり下ろし、資本主義を破壊することである*」と述べたと伝えられている。

マルクス主義は、経済的かつ社会政治的な世界観である。 **共産主義**とは、マルクス主義の思想を実践に移したものであり、生産設備やサービスの共同所有に基づく階級のない社会が、経済的豊かさと個人が才能を伸ばす自由を備えた完璧なユートピアとなるまで、より良い方向へと進化していくという考えを含んでいる。この神を否定する体制は、人類の罪深い本性（ある者の怠惰、またある者の権力や富への貪欲さ）を考慮に入れていないため、常に失敗に終わっている。

マルクス主義と共産主義は、自国民数千万人の死を招いており、これらは「*生物学を政治に応用した*」悪しき事例として挙げられる。

マルクス主義の独裁者、毛沢東は、*政治とは生物学の応用である*と信じていた。彼は1949年から1970年代にかけて中国で6,000万人を殺害し、チャールズ・ダーウィンを自分の好きな著者に挙げていた。[191]

マルクスの*『共産党宣言』*には、政府が公立学校で子供たちに無償の教育を提供することが盛り込まれていた。アメリカの公立学校制度の初代委員長であるホレス・マンは、「*公教育の父*」として崇敬されている。彼は次のように記している。「*教育という神聖な大義に従事する我々は、すべての親を、我々の大義に人質を差し出した者と見なす権利がある。*」[192]

ジョン・デューイ（1859-1952）は、心理学者、政治活動家、教育改革者であり、アメリカ最大の無神論者団体である*アメリカ人道主義協会*の初代会長を務めた。 また、彼は、*ダーウィンの進化論に至る数十億年の歴史という*信念に基づいて制定された、最初の*『ヒューマニスト宣言』*（1933年）の34人の署名者の一人でもあった。彼はアメリカの公教育に影響を与え、現在では米国の公立学校制度を支配している「*進歩主義教育*」を推進した。

ヒトラー、マルクス、そしてデューイは、若者に自らの世界観を刷り込むことの重要性を理解していた。彼らは、教科書を支配する者が未来を支配することになることを悟っていたのだ。

聖書の見解によれば*.....**邪悪な者や惑わす者たちは、ますます悪くなっていく***（テモテへの手紙第二 3:13）。

2006年11月、ニューヨーク・タイムズ紙は、宇宙科学研究所のキャロリン・ポルコ氏の言葉を引用し、次のように報じた。「*...私たちは、子供たちに幼い頃から、宇宙の物語について教えなければなら*

ない…それは、いかなる聖典や神が語るものよりも、はるかに輝かしく、畏敬の念を抱かせる

*……いかなる聖典や神が提示するものよりも……』と語ったことを*報じた[233]

聖書の見解によれば、ある種の人々は「***学び続けてはいるが、真理を知るには至らない…心は堕落し、信仰に関しては不適格な者たち***」である（テモテへの手紙第二 3:7-8）。

1962年まで、アメリカの公立学校では毎日、聖書の神への祈りが捧げられ、創造論はしばしば聖書に基づいて教えられ、米国の公立学校は数学、科学、そして教育全般において高い評価を得ていた。
しかし、1962年から1963年にかけて、**祈りと創造論は、*ダーウィニズムにつながる「数十億年」*という説に取って代わられた。**[193]
今日、米国の公立学校は、先進国の中で下位15パーセントに位置している。

1962年から1963年にかけての米国の運命的な決定は、神とその道徳的指針を排除し、**アメリカ社会の道徳的崩壊**を招いた。1965年までに、ドラッグ文化と性革命が全米で爆発的に広がった。当時、主要な性感染症はわずか2種類しかなかった。今日では、エイズウイルスを含め50種類以上存在する。

1962年、公立学校における最大の課題は、授業中に余計なことを話したり、ガムを噛んだりすることだった。 今日の問題には、アルコールや薬物の乱用、集団強姦、10代の妊娠（550%増加——米国保健社会福祉省）、中絶、トランスジェンダー問題、大量殺人、自殺（自殺率は3倍に増加——国立保健統計センター）などが含まれ、キリスト教の家庭で育った多くの子供たちが20歳になる頃には教会を離れてしまう。[234]

1960年代後半になると、アメリカ社会の基盤となっていた道徳的土台を著しく損なうことに大きく寄与した多くの過激派グループが、*ダーウィニズムへとつながる数十億年の歴史*の根から芽生え始めた。これらには、過激な環境保護団体、過激な女性解放運動、オルタナティブなライフスタイルを掲げるグループ、そして過激な動物権

利団体などが含まれていた。

動物権利運動の父と呼ばれるピーター・シンガーは、「キリスト教は我々の敵である。動物の権利を成功させるためには、ユダヤ・キリスト教の宗教的伝統を破壊しなければならない」と述べた。

聖書の見解によれば、***「神の真理を偽りに変え、被造物を造り主よりも崇め、仕えた者たち」***（ローマ人への手紙 1:25）が現れることになる。

現在のアメリカ社会は**、「道徳的相対主義」という、**絶対的な真理は存在しないとする哲学的見解に悩まされています。
何が正しくて何が間違っているかは、各個人次第であり、社会が何を容認するかによる。中絶、ポルノ（米国は現在、世界最大のポルノ輸出国である）、同性婚、魔術、あるいはサタニズム（米国では異教徒の数が18ヶ月ごとに倍増している）[194]に何か問題があると指摘すれば、意地悪だ、批判的だ、傲慢だ、あるいは愛がないなどと言われることになるだろう。 中傷は、自らの立場を裏付ける事実を持たない者たちにとって、常に最後の砦となる。ソール・アリンスキーも誇りに思うだろう……ソール・アリンスキーって誰？

1971年、新マルクス主義者ソール・アリンスキーの著書『**ラディカルのためのルール**』が刊行された。「*元祖コミュニティ・オーガナイザー*」として知られるアリンスキーは、国家（米国）を共産主義国家へと変革するためのルールを、イタリアの新マルクス主義者アントニオ・グラムシの戦術に基づいて策定した。新マルクス主義とは、マルクスの著作では扱われていなかった疑問に答えようとする手法を指す用語である。

アリンスキーは冒頭の献辞で、体制に反旗を翻した最初の急進主義者としてルシファーを称えている。[195] *『急進主義者のためのルール*

』の二つの主要な目的は、

、国家の文化を腐敗させ、内側から崩壊させ、マルクス主義政権が権力を掌握できるようにすることにある。

ハリー・トルーマン大統領は、「*この国の法の根本的な基盤は、山の上でモーセに与えられたもの*（十戒）*である*」と述べた。そして、国民に対し、「*もし我々に適切な道徳的基盤がなければ、最終的には全体主義的な政府に陥ることになるだろう*」と警告した。[196]

アリンスキーは、「*コミュニティ・オーガナイゼーションの第一歩は、コミュニティの組織解体である*」と述べた。彼の**第一のルールは、***対立*を引き起こして人々を互いに敵対するグループに分断することである。彼は、*コミュニティ・オーガナイザーが*、人種、宗教、所得、性別、政治……分断を生むあらゆる要素を用いて、人々を分断するための対立を創出するよう提唱した。人々は対立を好まないため、自然とアリンスキー**の第二のルール、すなわち「*妥協*」**へと向かうことになる。 どのグループも一定の立場を持っているため、妥協は常にその原則から離れ、過激な立場へと向かうことになる。

第三のルールは、自らの原則を貫き、妥協を拒む人々に対処するものです。そのような人々は**社会から疎外される**べきです。アリンスキーは、**嘲笑こそが急進派にとって最も強力な武器であると示**唆しました。反対派を「人種差別主義者」「原理主義者」「愚か者」「愛のない者」などと罵ることで、*コミュニティ・オーガナイザーは*人々に妥協を拒む者たちから距離を置かせ、急進派の敵対者を社会から疎外させるのです。今日のアメリカ社会全体において、これらのルールが実際に機能しているのを私たちは確かに目撃しています。

人間は単なる進化途上の動物に過ぎないという信念のもと、1973年

に米国で**中絶**が合法化された。私が中絶について言及するたびに、クリスチャンを含む多くの女性が中絶を経験してきたという事実に触れなければならない。もしあなたがそうした女性の一人であるなら、神はあなたを愛しておられ、

私たちのすべての罪の代価を支払うために、御独り子をお遣わしになったことを知ってください。ですから、必ず神に赦しを請い求めなさい（神は即座に赦してくださいます）。そして、神の恵みと赦しを受け入れなさい（つまり、罪悪感を捨て去りなさい）。さて、男性へのメッセージです（私たちは少し鈍感なところがあるので）：女性が中絶を経験したなら、男性もまた中絶を経験したことになるのです。もしこれがあなたに当てはまるなら、必ず神に赦しを請い求めなさい。神は赦してくださいます。

マーガレット・サンガーは1916年、彼女が「*人間の雑草*」や「劣等な人種」（これには東洋人、ユダヤ人、黒人が含まれていた）と呼んだものを排除するために、プランド・ペアレントフッドを設立した。[197] 優生学の推進者であったサンガーは、*人類がキリスト教の専制から解放される日を*心待ちにしていると語った（キリスト教は、人間は神のかたちに造られたと説き、生きるにふさわしくないと見なされた者を殺すことは間違っていると教える）。[198] 本稿執筆時点で、7,000万人以上のアメリカ市民が**中絶**によって殺されている。世界中で30億人以上の無防備な赤ちゃんが虐殺されてきた。

テキサス科学アカデミーによると、2006年の「テキサス州傑出科学者」には、テキサス大学のエリック・ピアンカ教授が選ばれた。人間は単なる進化中の動物に過ぎないという信念を反映して、彼は、地球が「*肥大化した人間のバイオマス*」と化すのを防ぐためには、58億人（当時の世界人口の95%）の死が必要だと述べた。 過激な環境保護系紙『ワイルド・アース』は、「*ホモ・サピエンスの絶滅……人類の段階的な消滅は、社会的・環境的なあらゆる地球上の問題を解決するだろう*」と述べた。[199]

これらは、*数十億年という時間の*悪の樹の枝に実っている腐った果実の一部である。第一の果実であるダーウィニズムについては、前

の章で論じた。究極の邪悪な果実は第17章のために取っておいた。

しかしその前に、

次章で、9番**目の果実について論じよう。それは、アメリカのキリスト教的遺産の喪失である。**

***

「私たちは25年間、有神論的進化論者でした。あなたの最初の3つのセミナーを視聴した後、私たちは今、神が私たちを創造されたことを知りました！」 コロラド州のボブとキャロル

「私の高校の先生があなたの講演を聴きに行ってきたんですが、あなたが語った内容が、その先生のダーウィニズムへの信仰を打ち砕き、世界の見方を一変させたそうです！」 アリゾナ州のダリル

「私の教会であなたの話を聞いたおかげで、類人猿に関する見出しを読んだ時、『神は彼らを「その種類に従って」造られた』と思い、神の言葉は一語一語、最初から最後まで真実だと確信しました。ありがとうございます！」 アイダホ州のジェリー

グランドキャニオンのIMAXシアターで、ある若い女性に*「私の『創造論』ツアーグループ用にチケットを55枚ください」*と伝えました。彼女は私を見て叫びました。*「その人たちに何を教えているんですか？！」*私は言いました。*「あなたたちが押し付け続けている、使い古されたおとぎ話ではなく、キャニオンが実際にどのように形成されたかを教えているんです。」*彼女は言葉を詰まらせ、こう打ち明けました。*「ええ、私はクリスチャンの家庭で育ちましたが、大学に行って、聖書に書かれていることはすべて嘘だと教わったんです！」*

私はこう返した。*「いいえ、あなたは無神論者でマルクス主義者の教授たちに騙されたのです。もし少し休憩したいなら、私のグループが映画を見ている間に、これらの問題についてどんな質問でもお*

答えしますよ。」彼女はそうし、私は彼女の数十もの質問に答えた。子供たちは皆、そのような疑問を抱いているもので、必要な答えが与えられないと、その疑念は不信へと膨れ上がってしまう。私たちには答えがあるのだ。ラス



16

失われた
アメリカのキリスト教的遺産の喪失

「キリスト教の柱が打ち倒される時、我々の現在の共和制の政体も……それに伴って崩壊せざるを得ない。」 建国の父の一人、ジェディディア・モース博士

アメリカ合衆国を内側から破壊しようとする敵は、二つのことを成し遂げなければならない。第一に、聖書の基礎的な教えである **COSt**（用語集参照）に対する信仰を破壊することだ。第二に、アメリカの偉大なキリスト教の歴史を書き換えることである。これは単純明快な攻撃であり、一貫した努力と多大な忍耐を要するものだった。過去200年以上にわたり、数え切れないほどの人々が、この計画を実行するために生涯を捧げてきた。

その計画は単純だが、狡猾である。この国の子供たちに「創造主など存在しなかった」と教え込み、聖書に基づく基盤に対する市民の信頼を打ち砕く。そうすれば、たった一世代のうちに、「*我々国民*」*は*、我々に自由を授けてくれた創造主を否定するようになるだろう。 その一方で、米国のキリスト教的遺産を抹消し、国家の真の過去を軽視するように書き換えられた米国史を学童たちに教えることで、*「我々国民」は*、自分たちが受け継いできたものを守る理由を

見出せなくなるかもしれない。1800年代後半、プリンストンの

A.A. ホッジ博士は、「*……中央集権的な国民教育制度……は、反キリスト教的かつ無神論的な不信仰を広めるための、最も恐るべき装置となるだろう……*」と予言した。[201]

米国史に対する主な攻撃は、この国の自由の源である聖書の神に向けられてきた。米国の敵対者たちにとって、米国を破壊するためには、一般の米国市民の心と精神の中に根付く聖書の神への信仰を揺るがさなければならないことは明らかであった。 このことに気づいたアメリカの敵は、その標的を国の子供たちに向けました。すなわち、私たちが和解すべき愛に満ちた創造主の存在に対する子供の信仰を揺るがせば、その子供に権利を授けた創造主がいるという信仰も同時に破壊できるというのです。

何世代にもわたる献身的なヒューマニストたちが、自らの生涯と資源を捧げて、現在の米国公教育における圧倒的な支配力を築き上げてきました。今日のヒューマニズム系の教科書のほとんどを読んだり、世俗的な大学教授による歴史の講義を聞いたりすると、キリスト教は米国の建国とはほとんど関係のない神話の集まりであり、聖書の神はこの国が享受してきた成果とは何の関係もない、という印象を抱いてしまうでしょう。

聖書の視点はこうだ。「***わが民は知識がないために滅びる***」（ホセア書 4:6）。

*共産主義の父である*カール・マルクスは、国家を革命的に掌握する道は、その文化が持つ伝統に関する知識を破壊することにあると信じていた。彼は、*伝統を持たない人々は容易に誤った方向に導かれ*、自国を守る理由を見出せなくなることを知っていた。彼は、最初の戦場が国の歴史の書き換えであることを理解していた

。彼は次のように述べたと伝えられている。「*人民の幸福のための第一の要件は、宗教の廃止である。*」[202] 彼の思想は、決して無視されたわけではなかった。

過去60年間にわたり、米国の歴史は書き換えられたり、無視されたりしてきた。米国の学童たちは、自国のキリスト教的ルーツについてほとんど知識を持たずに成長してきた。歴史修正主義者たち、とりわけ教科書執筆者、編集者、出版社の要職にある者たちは、米国のユダヤ・キリスト教的遺産を否定したり、子供たちにそのことを恥じさせたりするだけでなく、生徒たちに自国の建国の父たちを恥じるよう教え込んでいる。 例えば、ある教師用テキストには次のように書かれている。「ジェファーソンが『すべての人間は平等である』と記したとき、彼が実際に意味したのは『すべての市民』であり、女性や黒人は含まれていなかった。」[203] これは単なる反米プロパガンダに過ぎない。独立宣言の文脈から明らかなように、「***すべての人間」とは、神がご自身の姿に似せて、男と女を創造されたことを***指しているからである（創世記1:27）。

以下は、教員用テキストに掲載されている生徒向けのロールプレイ演習の一例である：[204]「*キリスト教の台頭に不安を抱くローマ人の役になりきり、なぜキリスト教に反対するのかを説明する手紙を書いてください*」。このようなプロパガンダが、影響を受けやすい若者の心にどのような影響を与えると思うだろうか？

アメリカの真の歴史が奪われてきたという事実は、2007年に妻のジョアンナとワシントンD.C.へ旅行した際、私にとって明らかになり始めました。首都を訪れている間、私たちは国立美術館の絵画や素描に圧倒されました。なぜなら、アメリカ合衆国の初期の歴史に関する芸術作品のほとんどが、聖書を題材にしていたからです。 美術館を後にし、首都にある様々な連邦機関や記念碑を巡る中で、私たち

はすっかり魅了されてしまいました。それらの場所の多くで

場所では、石の壁に刻まれた、建国の父たちによる聖書の神への信仰と感謝を表明する言葉を見つけました。また、十戒や聖書の節、そして証言が真鍮に刻まれたり、大理石や花崗岩に彫られたりしているのを見かけましたが、それらはすべて、かつてアメリカが聖書の神に対して抱いていた強固な信仰と、その神への依存を物語っていました。

米国の首都を訪れて、この国が主にキリスト教徒である男女によって、主にキリスト教の原則に基づいて建国され、聖書の創造主への信仰が国の歴史の歩みに多大な影響を与えたと結論づけないことは難しい。しかし、自分たちの真の過去を知らなければ、米国市民は権力者が提示するどんなことでも信じ込まされてしまう恐れがある。

なぜなら、私たちの戦いは血肉に対するものではなく、支配者たち、権威たち、この世の暗闇の支配者たち、高き所にいる霊的な悪に対するものだからである（エペソ人への手紙 6:12）。

アメリカへと船出した初期の探検家や入植者たちの心には、**神の御手が**刻まれていた。その中には、クリストファー・コロンブス、ピューリタン、そしてピルグリムたちが含まれていた。イェールやハーバードといったほとんどの大学でさえ、当初はキリスト教の教育機関として設立された。 しかし、1700年代初頭までに、キリスト教会も十三植民地の人々も、聖書に記された真の神に対する熱意を失ってしまっていた。同様に、ほとんどの大学も（今日のキリスト教系教育機関の多くがそうであるように）やがて世俗的な妥協の誘惑に屈してしまった。

その後、最初の ***「大覚醒」*** が訪れた。これは1732年から1776年

にかけてニューイングランドで始まったキリスト教の復興運動であり

[205] ジョナサン・エドワーズをはじめとする、神を敬う数人の牧師たちが、説教壇から「*キリストはあなたのために死なれた*」と説教を再開した。まもなく、英国の伝道者ジョージ・ホワイトフィールドも加わり、町の広場や野原、牧草地で説教を行うと、神は祝福を注ぎ、集まった群衆は数千人にまで膨れ上がった。 第一***の大覚醒***が勢いを増すにつれ、他の牧師たちも「*キリストはあなたのために死なれた*」と宣べ伝えるようになり、やがて13の植民地は*「神の下にある一つの国家*」として団結した。

入植者たちが「創造」に基づく世界観を堅持していたことを理解することは極めて重要です。したがって、人々が「*キリストはあなたのために死なれた*」と聞いたとき、彼らはイエスがなぜ十字架につけられたのか、そして十字架上のその犠牲が、天の創造主のもとで信者たちをどのように贖うのかを理解したのです。

『使徒行伝』第17章の冒頭部分では、創造に基づく世界観を掲げていたユダヤ人たちに、使徒パウロが説き明かした際、まず次のように宣言したことが記されています。***「私があなたがたに宣べ伝えているイエスこそが、キリストです***。」[206] ユダヤ人たちは聖書の基礎を理解していたため、パウロは彼らがなぜ救い主を必要とするのかを説明する必要はありませんでした。彼は単に、イエスが約束されたメシアであると宣言したのです。 同様に、13植民地に暮らす人々も、創造主による贖いが必要であることを自覚していたため、「*キリストはあなたがたのために死なれた*」ということを理解し、受け入れることができたのである。

神が聖霊を注がれると、*大覚醒が*勃発し、13植民地は英国に対し、神から与えられた権利の返還を要求した。そして、彼らは独立戦争を通じてその権利を確保した。実際、リバティ・ベルにはレビ記25章10節の「***全地のすべての住民に、全地において自由を宣言せよ***

」という言葉が刻まれている。

独立戦争に至るまでの建国の父たちの著作や引用、そしてキリスト教牧師たちの説教は、アメリカ合衆国が十戒を含むキリスト教の原則を主たる基盤として築かれたこと、そして私たちが聖書の創造主から特定の不可侵の権利を授けられたという事実を証明している。

ノア・ウェブスター（1758-1843）は、最初のアメリカ語辞書を編纂し、『ブルーバック・スペラー』を編纂した。これは、当時のアメリカの子供たちが世界で最も教育水準の高い子供たちの一人であった時代に、アメリカの子供たちの教育に用いられたものである。ウェブスターは、「*我々の自由、成長、繁栄は、人生に関する聖書的な哲学の結果であった*」と述べた。彼はまた、「*キリスト教は……すべての子供たちが…最初に教えられるべき事柄の一つである*」と証言した。[207] ウェブスターは、「*キリスト教は、自由な人々の権利と特権を保障することを目的とするあらゆる政府の基盤でなければならない*」と述べた通り、そのことを理解していた。[208] 彼は、キリスト教徒であれ非キリスト教徒であれ、アメリカ人にとって、『創世記』の冒頭の章と、聖書の創造主によってアメリカの市民に授けられた自由との関連性を理解することが極めて重要であることを知っていた。

アメリカ初代公衆衛生局長官であり、建国の父の一人であるベンジャミン・ラッシュ博士は、「*……共和国の唯一の基盤は宗教に築かれるべきであり……キリスト教こそが唯一真かつ完全な宗教である*」と述べた。[209]

建国の父たちは、その大半が確固たる信仰を持つ人々であったが、今日の誰一人として完璧な人間がいないのと同様に、彼らもまた完璧ではなかった。しかし、建国の父たちのうち、『独立宣言』の署名者56人のうち52人（93%）と、合衆国憲法の起草者55人のうち52人（95%）がキリスト教徒であった。[210]

国家形成期である独立戦争の時代、各州の憲法にはキリスト教の教義が盛り込まれていた。以下に2つの例を挙げる：

デラウェア州憲法：「*立法府の両院の議員に選出されるか、あるいはその他の公職に任命されるすべての市民は、以下の宣言に署名することを義務づけられるものとする。『私は、父なる神、その独り子である主イエス・キリスト、そして聖霊、すなわち唯一の神であり、永遠に祝福される御方への信仰を公に告白する。また、旧約聖書および新約聖書が神の霊感によって与えられたものであることを認める。』*」

1776年に採択されたペンシルベニア州憲法は、すべての議員に対し、「*私は、唯一の神、すなわち宇宙の創造主であり支配者であり、善人を報い、悪人を罰するお方を信じる。また、旧約聖書および新約聖書が神の霊感によって与えられたものであることを認める*」と宣言することを義務づけていた。[211]。

アメリカ合衆国の建国の父たちは、次のように信じていた。***…神はご自身の姿に似せて人間を***創造された…男と女を…（創世記1:27）*と信じ*、独立宣言において「*すべての人間は平等に創造され、創造主から一定の譲り難い権利を*授かっている…」*と宣言した。* 建国の父たちは、アメリカの自由が創造主から市民に直接与えられたものであることを明確にした。独立宣言もまた、聖書の創造主を「自然の立法者」（*自然の法則、自然の神*）、「至高の裁判官」（*世界の至高の裁判官*）、そして「神聖な守護者」（*神の摂理による保護*）として言及している。

ジョン・ハンコックは、独立宣言の最初の署名者であった。彼は1775年4月15日、議会宣言を主導し、その中で議会が「……*神の前で謙虚になり……我らのすべての罪の赦しを*懇願する……」という願いを表明し、「……

…自らの権利を守るためのアメリカ植民地への祝福（そのことについて、我々は全能の神に感謝したいと願う）…」[212] 革命の雄弁家パトリック・ヘンリーは、聖書について「*…これまでに印刷された他のすべての書物よりも価値のある書物である*」と述べた。[213]

独立戦争後の数年間、13の創設州は、貿易権を含む様々な問題をめぐる意見の相違により、互いに離反し始めた。その結果、1787年5月にフィラデルフィアで憲法制定会議が招集された。 合衆国憲法の起草者たちが引用した、同憲法の3つの主要な**参照資料は**、*『欽定訳聖書』*、*ウィリアム・ブラックストーン卿の『イングランド法解説』*、*そしてモンテスキュー男爵の『法の精神』*であった。[214] これら3つの資料は、この国の法の支配が、神の十戒という不変の自然法に基づいていたことを明らかにしている。

適切な文脈で捉えれば、独立宣言にある「*創造主から授けられた*」という表現こそが、合衆国憲法およびそれに付随する権利章典を正しく解釈するための適切な文脈となる。 建国の父たちが聖書の創造主を信じていたこと、そしてアメリカの自由が神から直接、新しく成立した国家の市民に与えられたものであることは、合衆国憲法の冒頭の文「我ら国民は……」という表現（*「我ら政府は……」*ではなく）からも見て取れる。アメリカの建国の父たちが、一人ひとりの権利は聖書の創造主から与えられたものであると信じていたことは、極めて明白である。

憲法制定会議の際、当時キリスト教徒であったとは知られていなかったベン・フランクリンは、各会期を聖書の神への祈りで始めるよう提案[した][215]。それ以来、1787年から（

1990年代まで、またその後数回、議会の会期がイスラム教の神への祈りで開かれた例外を除いて）。

憲法制定会議の後、米国初代財務長官であり、合衆国憲法を解釈した『フェデラリスト・ペーパーズ』の主筆であるアレクサンダー・ハミルトンは、「*私は*（憲法を）*心から称賛する。神の御手なしには、これほど多様な利害関係を持つ者たちが合意に達することなど決してあり得なかった制度である*」と述べた。[216]

「建国の父」であり、初代大統領であるジョージ・ワシントンは、宣誓の最後に「*神よ、私をお助けください*」と述べ、身をかがめて聖書に口づけをした。彼は1789年10月3日、キリスト教の神への感謝を捧げる「国家感謝祭」を宣言した。（今日祝われている感謝祭は、エイブラハム・リンカーンが発表した宣言に基づくものである）。

建国の父の一人であり、*『独立宣言』の起草者として*知られるトーマス・ジェファーソンは、第3代
米国大統領となった。改ざんされた歴史では、彼がキリスト教に懐疑的であったり、自然神論者であったりと教えられているが、ジェファーソン大統領は、米国議会議事堂や最高裁判所が置かれた建物で行われたキリスト教の礼拝に出席していた。また、コロンビア特別区の学校向けに、欽定訳聖書を主要な教科書として採用した教育計画も策定した。彼の行動や発言から、彼が米国をキリスト教の原則に基づいて築き上げたいと望んでいたことは明らかである。 1802年4月12日、建国の父の一人であるベンジャミン・ラッシュ博士への手紙の中で、ジェファーソンは自身の見解が「……*生涯にわたる探究と熟考の成果であり、私の意見について何も知らない者たちが私に帰する反キリスト教的な思想とは大きく異なる*」と記している。

*「権利章典の父」*として知られるジェームズ・マディソンは、合衆国憲法修正第1条の

宗教条項の主たる起草者であった。彼は、憲法上の政教分離の意義を深く理解していた。マディソンは第4代米国大統領に選出された。在任中、彼は米国議会議事堂で行われるキリスト教の礼拝に出席し、下院および上院において、連邦政府の給与を受けるキリスト教牧師の採用を推進した。

建国の父の一人であるジョン・アダムズは、次のように述べている。「*建国の父たちが独立を成し遂げた根本原則は……キリスト教の普遍的な原則であった……*」[217]

『*独立宣言*』から*合衆国憲法*、そして*権利章典*に至るまで、誠実な観察者であれば誰にでも明らかなように、米国は主にキリスト教の原則に基づいて建国され、修正第1条の宗教条項は、宗教活動を保護することを意図したものであり、キリスト教に基づく米国の自由を損なうことを意図したものではない。

クリスチャンは罪のない存在ではなく、主イエス・キリストへの信仰を通じて神の恵みによって救われたに過ぎません。当初の13植民地も、キリスト教を基盤としていたとはいえ、決して完璧なものではありませんでした。彼らが築いた新しい国家は、世界中で**奴隷制が**当たり前だった時代に設立され、後のアメリカ合衆国となる土地では、アフリカ人奴隷貿易が盛んに行われていました。特に、プランテーション中心の南部植民地ではその傾向が顕著でした。 それでもなお、「***私たちには皆、一人の父がいるのではないか***。（マラキ書 2:10）」や、「**神は……一つの血からすべての民族を造り、全地の面に住まわせた**。（使徒行伝 17:26）」といった聖書の原則に基づき、奴隷制を廃止するための種は『*独立宣言*』に蒔かれた。そこでは、建国の父たちが次のように宣言している。「*すべての人間は平等に創造され、創造主からある種の譲り難い権利を授けられている*。」これらの聖書的な種が実を結ぶまでには、80年の歳月と、何千

人ものアメリカ人の犠牲が必要となった。

1700年代後半になると、ヨーロッパの「啓蒙時代」の波がアメリカ合衆国にも押し寄せた。これは、神を排除して人生の問いへの答えを求めようとした、人間による哲学の集大成であり、こうして再び、アメリカ国民とキリスト教教会は、聖書に記された真の神とのつながりを失ってしまった。
それでもなお、人々は創造論に基づく世界観を堅持していた。これが、アメリカが神の恵みへと回帰する上で、再び重要な役割を果たすことになる。

1795年、イェール大学はティモシー・ドワイトを新学長に任命し、彼は学生たちに、神から与えられた才能や能力を用いて神に仕えるよう強く促し始めた。当時、ライマン・ビーチャーはイェール大学に在学しており、卒業後は牧師となった。 1820年代、ビーチャー牧師は「*キリストはあなたのために死なれた*」と説教し始め、彼の教会への出席者は急増し始めた。他の牧師たちもこれに注目し、説教壇から「*キリストはあなたのために死なれた*」と説教するようになった。まもなく神は聖霊を注ぎ出し、***第二次大覚醒***が国全体を覆い、アメリカは再び「*神の下の一つの国家*」として団結した。

アメリカ合衆国第6代大統領ジョン・クインシー・アダムズは、断固たる反奴隷制の擁護者であった。1837年の独立記念日にアダムズ大統領が行った演説の中で、彼は修辞的な問いを投げかけた。「*独立宣言こそが……キリスト教の教義の上に、人間社会の統治の礎を築いたのではないだろうか*？」[219]

1860年代、米国国務長官を務めていた反奴隷制活動家のウィリアム・H・スワードは、「*人類の進歩に対する希望のすべては、聖書の絶えず高まる影響力にかかっている*」と述べた。[220]

「*すべての人間は平等に創造され、創造主から一定の不可侵の*権利*を付与されている*」というキリスト教に基づく信念と、数万人のアメリカ人の犠牲が相まって、アメリカにおける奴隷制の廃止につながった。南北戦争を引き起こした要因は一つではなかったが、南部が奴隷労働の利用に伴う経済的問題を理由に連邦から離脱したことが、主たる原因であった。

1864年、エイブラハム・リンカーンは、聖書について「……*神が人類に与えた最高の贈り物……これなしには、我々は善悪を見分けることはできなかっただろう*」と述べた[222]。リンカーン大統領は、***奴隷解放のための戦争に***国を導き、この恐ろしい紛争を乗り切るために神の摂理の力に依拠した。

書き換えられた歴史は、奴隷貿易への関与を理由にアメリカの学童たちに恥をかかせている一方で、子供たちは、奴隷制が蔓延する世界で建国されたにもかかわらず、アメリカ市民が、この国から奴隷制の枷を取り除き、「***人がその友のために自分の命を捨てることほど、これ以上の愛はない***」（ヨハネ15:13）といった聖書の原則を尊ぶために、何千人もの命が捧げられたという事実を知らされていない。 実際、『*共和国の戦いの賛歌*』には、「*……**主***（キリスト）***が人々を聖なるものとするために死なれたように、私たちも人々を自由にするために***死のう……」という言葉が含まれている。[221] そして、数万人のアメリカの若者たちが、すべての人を自由にするために戦争で命を落としたのである。

アメリカ合衆国が称えるべき、なんと素晴らしい遺産であろうか！私たちの真の遺産こそが、アメリカ人を一つに結びつけるはずだ。しかし、その遺産が書き換えられてしまった人々は、容易に惑わされ、容易に分断されてしまう。

南北戦争の終盤、ユリシーズ・S・グラントが北軍総司令官に就任した。彼は後に

第18代アメリカ合衆国大統領に選出された。彼は、神の御言葉への信仰がなければ、アメリカの自由は深刻な危機にさらされることを悟り、アメリカ人に対し、「*自由の救いの綱として聖書をしっかりと握りしめよ*……」と警告した。[223]

アメリカの歴史に刻まれた神の御手の跡に立ち返ると、感謝の念に満ちた国民は「*建国の父*」に記念碑を建立した。ジョージ・ワシントン記念碑の礎石は1848年に据えられた。その内部には、*合衆国憲法*、*独立宣言*、*そして聖書の*写しが納められた。

1793年から1858年にかけて建設・再建された米国議会議事堂には、アメリカのキリスト教的伝統を示す数多くの痕跡が残されている。議事堂の石壁に刻まれたキリスト教を題材とした彫刻には、「*我らは神を信じる（In God We Trust）*」や「*アメリカよ！神は汝に恵みを注がれる（America! God shed his grace on thee*）」などがある。 国会議事堂のロタンダ内には、幅18フィートの絵画が飾られており、その中にはポカホンタスの洗礼を描いた作品も含まれている。これは1840年にロタンダに掲げられたものである。1844年に掲げられたのは、新世界へ出航する前に神の加護を祈るピルグリムたちの姿を描いた絵画である。

下院本会議場へのメインドアの上部には、歴史上最も偉大な23人の立法者の顔が大理石に彫られています。11人はドアの左側に、11人は右側にあり、全員が下院議長の方を向いています。 顔は横顔しか見えません。しかし、入り口の上部の中央には、ある特別な立法者が配置されており、下院議長が前方を見れば、その人物の顔全体を見ることができます。この人物とはモーセであり、神は彼に、神の御指によって十戒が刻まれた二枚の石板を与えました。アメリカ合衆国の法律は、主にこの十戒に基づいています。

「*奴隷解放戦争*」による遅延のため、1848年に礎石が据えられたジョージ・ワシントンを称える記念碑は、1884年になってようやく完成した。 記念碑の頂上にはアルミニウム製のキャップが設置された。その東側には、ラテン語の「***Laus Deo***」という文字が刻まれている。1884年以来、これらは毎朝、首都で最初に太陽の光に照らされる言葉となっている。「Laus Deo」は「***神を賛美せよ***」という意味である。

この建造物には、アメリカの歴史の重要な一幕が刻まれている。高さ545フィートの記念碑の3分の1の高さあたりで、石の色が明らかに変化しているのだ。
これは、*南北戦争の後*、建造物の完成に別の色の石が使用されたためである。この色合いの変化は、何千人もの市民の犠牲を経て、この国が建国の父たちが聖書に基づいて抱いていた「*すべての人は平等に創造され、創造主から一定の不可侵の権利を授かっている*」という信念に、まさに応えた時期を如実に物語っている。

1900年代初頭、最高裁判事のデビッド・ブリューワーは、「*アメリカという国家は、ジェームズタウンへの最初の入植から現在に至るまで、聖書の原則に基づいており、その原則に浸透している*」と述べた。[224] 20世紀の幕開け当時、米国は、主にキリスト教徒の男女から成り立ち、主にキリスト教の価値観によって統治されていた国であった。

第25代米国大統領ウィリアム・マッキンリーは、詩篇33篇12節にある「***その神が主である国は、幸いである***」という一節に自らの信仰を確証した。 彼は次のように宣言した。「*この素晴らしい書物*［聖書］*を深く研究し、その神聖な教えを忠実に守れば守るほど、我々はより良き市民となり、国家としての運命もより高みへと導かれるだろう。*」[225]

感謝の念を抱く国民*は*、1922年に建立された記念碑を通じて、**エイブラハム・リンカーン**大統領の功績を称えた。[226] バプテスト派の牧師であり、ノーベル賞受賞者でもある**マーティン・ルーサー・キング**・ジュニア**博士は、***リンカーン記念館*の階段の上から、力強い*「I Have a Dream」演説*を行った。 1963年8月28日に行われたこの演説は、イザヤ書40章4〜5節に基づいており、その一節には「***私には夢がある。いつの日か……主の栄光が現れ、すべての肉なる者が共にそれを見るようになる***」とある。

1923年から1929年にかけて、カルビン・クーリッジがアメリカ合衆国第30代大統領を務めた。クーリッジ大統領は次のように述べた。「*我々の社会と政府の基盤は、聖書の教えにこれほど深く依拠しているため、もしわが国においてこれらの教えへの信仰が実質的に普遍的なものでなくなれば、それらを支え続けることは困難になるだろう。*」[227]

1935年、独立宣言書と合衆国憲法が保管されている国立公文書館が開館した。入口の床には十戒を象ったブロンズ像が飾られている。これらの聖書の原則は、合衆国憲法と初期の米国法制度の両方の基礎となったからである。

最高裁判所を収容する建物も1935年に落成した。東側の入口の上部には、歴史上最も偉大な立法者たちの像が石に彫られている。中央にはモーセが座り、十戒の図像を手にしている。法廷に入るには、十戒の図像が刻まれた2つの大きなオーク材の扉を通り抜けなければならない。

第32代米国大統領に選出されたフランクリン・D・ルーズベルトは、強いキリスト教信仰を持つ人物でした。1941年5月27日の全国ラジ

オ演説で、彼は国民に対し、ナチスについて

「……神を否定する点において、ナチスは共産主義者と同様に冷酷無比である」と国民に訴えました。さらに、迫り来る戦争は「*……人間の奴隷制と人間の自由との*戦い*……*」であり、アメリカは「*キリスト教の理想である人間の自由*」の側に立つと付け加えました。

194*3年に落成したトーマス・ジェファーソン記念館には、*ジェファーソンの名言が刻まれた石板が設置されています。その中には、「*我々は、以下の真理を自明のものと考える。すなわち、すべての人間は平等に創造され、創造主から一定の不可侵の権利を授かっている*」（ジェファーソンが主筆を務めた『独立宣言』より）、そして「*私たちに命を与えた神は、自由も与えてくださった。自由が神からの賜物であるという確信を失ってしまったとき、国家の自由は守られるだろうか？*」1940年代の米国は、依然としてキリスト教徒が大多数を占める国民から成り立ち、主にキリスト教の原則に基づいて統治されていた。

ハリー・トルーマンはアメリカ合衆国の第33代大統領であった。1946年、「*地獄を見せるハリー*」の異名を持つ彼は次のように述べた。「*もし人間や国家が、古代の預言者たちの戒めや『山上の説教』の教えに従って生きるだけであれば、現在これほど困難に見える問題もすぐに解消されるだろう。プロテスタント教会、カトリック教会、そしてユダヤ教のシナゴーグ……これらが、この道徳的・霊的な目覚めを実現するための先鋒となるべきである。これを行うことのできる機関は他にない。それが成し遂げられなければ、我々は自業自得の破滅へと向かうことになる。*」[228]

1952年、最高裁判事のウィリアム・O・ダグラスは次のように記した。「*我々は宗教的な国民であり、我々の制度は至高の存在を前提と*している*……*。」[229]

1952年6月4日、カンザス州アビリーンでの演説で、後に第34代アメリカ合衆国大統領となるドワイト・D・アイゼンハワーは、次のように宣言した。「*アメリカを築き上げた者たちの内なる真の情熱は……神の子としての自分自身への*信仰であった……」そして、ガラテヤ人への手紙3章26節には次のように記されている。***あなたがたは皆、キリスト・イエスへの信仰によって、神の子である。***大統領として、彼は米国議会に対し、*「忠誠の誓い」*に**「神の下に（under God）」**という言葉を追加するよう働きかけた。この誓いは、*「勇者の国」*と呼ばれる全米の公立学校で毎日唱えられていた。その主たる目的は、アメリカの創造主から与えられた自由と、世界中で数千万もの自国民を虐殺していた共産主義政権の無神論的な専制政治とを、明確に区別することにあった。

ジョン・F・ケネディは1960年に第35代米国大統領に選出された。1961年1月の就任演説で、ケネディ大統領は次のように述べた。「*人間の権利は、国家の寛大さからではなく、神の御手から与えられるものである。*」

ジェラルド・フォードは、アメリカ合衆国第38代大統領であった。1974年12月、彼は1955年にアイゼンハワー大統領が行った演説から、次のように引用した。「*神なしには、アメリカの政体も、アメリカの生活様式も存在し得ない。至高の存在を認めることこそが、アメリカ精神の第一かつ最も基本的な表現である。アメリカの建国の父たちはそう見ていたし、神の助けがあれば、今後もそうあり続けるだろう。*」

アメリカ合衆国が、主にキリスト教徒である男女によって、主にキリスト教の原則に基づいて建国されたことを示す証拠は膨大にある。本稿執筆時点で、米国で鋳造される硬貨には依然として「*In God We Trust*（我らは神を信じる）」と刻まれている。これとは異なる主

張をする者は、欺瞞か無知のいずれかによるものである。しかし、神から与えられたアメリカの自由に反対する欺瞞的な勢力は、執拗に活動し続けている。

アメリカ自由人権協会（ACLU）の創設者であるロジャー・ボールドウィンは、「*共産主義こそが目標である*」と宣言した[230]。ACLUの最初の事務所は、アメリカ最大の共産主義紙『*ザ・マセス*』の出版社と共同で使用されていた。これは、*共産主義の父であるカール・マルクス*が信じていたことに立ち返る。「*伝統を持たない人々は容易に説得され、最初の戦場は国家の歴史の書き換えである*。」 そして、アメリカ市民が享受する自由に敵対する勢力は、アメリカの歴史の書き換えを画策できるような影響力のある地位を獲得しようと動き出した。

1869年、ダーウィンの『*種の起源：自然選択による種の起源、あるいは生存競争における適者生存*』[231]が刊行されてから10年後、ハーバード大学はチャールズ・エリオットを学長に任命した。 1870年、エリオットはクリストファー・ラングデルをハーバード大学ロースクールの学部長に任命した。より適任な候補者がいたにもかかわらず、ラングデルにはエリオットと共通する情熱があった。それは、*ダーウィニズムにつながる数十億年*という概念を、アメリカの教育制度と法制度の両方の新たな基盤とすることに、二人が身を捧げていたことである。

ラングデルは、*判例法研究*を米国の法制度に導入した。それまでは、米国の法学は不変の「十戒」に基づいていた。
判例法[232]は、法は判例ごとに進化すると定めている。これは、1947年に連邦資金を用いた宗教学校の活動支援をめぐる訴訟の審理において、合衆国憲法修正第1条に「政教分離」の原則が存在すると*最高裁判所*が認定した際、アメリカの公教育制度から祈りと聖書に基づく創造論が排除される上で大きな役割を果たした。

この判決は、下院と

上院で合意された政府文書ではなく、トーマス・ジェファーソンが1802年1月に牧師に宛てて書いた個人的な手紙の影響を受けた。今日では認められていないが、裁判所はこの「政教分離」の原則を用いて、宗教学校の活動を支援するための連邦資金の使用を容認したのだ！（エバーソン対教育委員会事件、330 U.S. 1）。

しかし、法解釈はすぐに*変化し*、1962年には最高裁判所が、同じ「政教分離」の原則を根拠に、公立学校での祈りを違法とした（エンゲル対ヴィターレ事件、370 U.S. 421）。 この画期的な出来事の影響は、いくら強調してもしすぎることはない。1963年、米国は、この国にこれほど豊かな祝福を与えてきた聖書の神に公式に背を向けたことで、大きな分水嶺を越えてしまったのである。 劇的な法的な手品のような操作により、建国の父たちが「アメリカ市民に権利を与えた」と宣言した創造主への祈りは、全国の公立学校から禁止され、その代わりに、*数十億年の歳月を経てダーウィンの進化論に至るという*、無神論的人間主義の哲学的基盤が導入された。

本質的に、アメリカは次世代に対し、「創造主など存在せず、死によって自分たちは存在し始めた」と教え始めたのである。このような教えは、アダムの罪が死をもたらし、私たちを神から引き離したため、神が再び私たちを御自身のもとに招き入れるには、イエスの十字架上の犠牲が必要であったという人々の信仰を損なってきた。神と和解させる必要があるという人々の信仰を損ない、**COSt**は失われてしまった（用語集「**COSt**」参照）。

神から与えられたアメリカの自由に反対する勢力は執拗である。例えば、ACLUの創設メンバーには、『ザ・マセス』誌の編集長マックス・イーストマンや、アメリカ共産党委員長ウィリアム・フォスターなどがいた。
ACLUの代表的な法的*勝利*には、次のようなものがある。1963年：公

立学校での祈りと創造論の指導が禁止された。1976年：公立学校でのクリスマス飾りが禁止された。1980年：公立学校での十戒の掲示が禁止された。

1986年：公立学校での宗教的な祈りの言葉が禁止された。これらの判決は、米国を強化したのか、それとも弱体化させたのか？

1963年以降、ワシントンD.C.において、大理石や花崗岩に刻まれず、また真鍮に銘刻されなかったものは以下の通りである。

1982年に除幕されたベトナム戦争戦没者記念碑には、神への言及が一切含まれていない。1997年に除幕されたFDR記念碑にも、神への言及は一切ない。第二次世界大戦中（1941年～1945年）、米国政府は世界中の米軍将兵に1,700万冊以上の聖書を配布した。 第二次世界大戦記念碑は2004年に除幕されたが、そこには神への言及が一切ない。

バプテスト派の牧師であり、マーティン・ルーサー・キング・ジュニア博士の有名な、
*「I Have a Dream」*演説（1963年8月）は、次のような熱狂的な言葉で締めくくられた。「*ついに自由だ！ ついに自由だ！ 全能の神に感謝します。ついに私たちは自由になったのです*！」という力強い言葉で締めくくられました。しかし、2011年に建立されたキング牧師の記念碑には、神に関する言及が一つも含まれていません。「***愚かな者は心の中で、『神などいない』と言う。彼らは堕落し、忌まわしい行いをし、善を行う者は一人もいない***」（詩篇14:1）。

ほとんどのアメリカ人は、何かがおかしいと気づいてはいるものの、米国が史上最大の戦争に巻き込まれているという事実をまだ理解していない。***なぜなら、「私たちの戦いの武器は、肉的なものではなく、神によって力あるものであり、要塞を打ち破る力があるからです……」***（コリントの信徒への手紙二 10:4）。

1963年以来、世俗的世界観に基づく歴史的物語は、アメリカの教育

機関において科学として教えられてきた。そして今や、しばしば中傷や訴訟、脅迫を通じて、アメリカの科学界、公的機関、メディア、公園、博物館、娯楽産業、さらには子供向けアニメに至るまでを支配している。

1984年8月23日、アメリカ第40代大統領ロナルド・レーガンは、アメリカ国民に対し次のように警告した。「*神なしでは、民主主義は長く存続することはなく、また存続することもできない。もし私たちが『神の下にある一つの国家』であることを忘れてしまうならば、この国は滅びてしまうだろう。*」[235] 私たちは今日、その瀬戸際に立っている。

アメリカのキリスト教的遺産の喪失は、*ダーウィニズムへとつながる数十億年にわたる*腐敗した木から育まれた邪悪な果実である。次の章では、こうした邪悪な信念から収穫されている*究極の邪悪な果実*について論じる。

***

*「私の教会で講演してくださった時、私は椅子から飛び上がるほど驚きました。これまでの人生で、この『科学的』な世界において創世記がどのような意味を持つのか、ずっと疑問を抱いていました。神はあなたを用いて、私の人生に計り知れないほどの祝福を与えてくださいました。」*アリゾナ州のジョー

「*あなたをここに迎えることができ、私たちは確かに祝福されました……多くの人々が、聖書の真理に目を開かされたと私に話してくれました。様々な形の『有神論的進化論』を信じていた多くの人々が、神の御言葉の真理と信頼性を見出したことに喜びを表明しています。*」カリフォルニア州のウィル・ストール牧師

私の『リム＆ラフト』ツアーの一つで、この地域の形成における世界的大洪水の役割を説明するたびに、ラフトの操縦士が無礼にも話を遮り、この地域に関する世俗的地質学の誤った解釈を語り始めました。そこで私は、彼らの説がなぜ成り立たないのかを説明しまし

た。 さて、その翌週、私がまた別のラフトツアーを率いた際、彼はガイドの一人として参加していました。ところが、今回は彼が聖書的な視点からこの地域について説明していたのです！彼は、クリスチャンとして育てられたものの、大学時代には誤った方向に導かれていたが、私たちのツアーで語られた真の科学を聞いて初めて目が覚めたと語りました。神は素晴らしい。ラス



17

究極の邪悪な実：偽りのキリスト、預言者、教師たち

…偽キリストや偽預言者が現れて…もし可能なら、選ばれた者たちさえも惑わそうとする。

マルコによる福音書13章22節のイエス・キリストの言葉。

私たちは***「地の塩」***であるべきです（マタイ5:13a）。塩は傷口に入るとしみることもありますが、同時に清め、癒し、保存する働きもあります。ですから、この章が保存用の塩について扱われていることをご容赦ください。 80箇所以上の新約聖書の聖句を用いて、聖書に根拠のないキリストや偽りの教えについて論じ、聖書に記されたイエスの正しさを検証し、神の御言葉が「一語一語、表紙から表紙まで」真実であることを確認したいと思います。

偽預言者によって作り出され、偽教師によって教えられている「偽キリスト」たちは、古い地球説の信念が生み出す究極の*邪悪な実です*。しかし、彼らは*イエスの終わりの日の*預言（マルコ13:22）を成就させることによって、神の御言葉の真実性を裏付けているのです。 多くのキリスト教機関もまた、イエスがご自身で主張される創造主であり裁き主であることを公然と否定することで、同じ預言を成就させています。さらに悪いことに、彼らは*数十億年という*世俗的

な*時間*観に合致するキリストを提唱しています。これは重要なことでしょうか？ さて、いったい何人のキリストが死んで復活したのでしょうか？ 神の御言葉は私たちに何を告げているのでしょうか？

聖書は、欺きが終わりの日の特徴であると教えています。***…終わりの時には、信仰から離れ、惑わす霊や悪魔の教えに耳を傾ける者たちが現れるであろう***（テモテへの手紙第一 4:1）。そこで、ギャップ説、有神論的進化論、あるいは漸進的創造論を検討している方々の助けとなるよう、いくつかの示唆を提供させていただきたい。以下に、聖書のイエスと、これら3つの人間によって作り出されたキリスト像との比較を示す。

聖書のキリストは、数千年前に六日間の間に宇宙を創造した神の御言葉である。イエスによる完全な**創造**は、死をもたらし、私たちを、それゆえに、神との和解による贖いが必要となった。イエスは、天の下のすべての高い***山々を***覆った大洪水（創世記7:19）によって、その堕落した被造物を裁かれ、イエス・キリストの**十字架上の**犠牲は、**御自身を信じるすべての人に**贖いを与えてくださる。

漸進的創造論者たちは、創造主が数十億年にわたる死の期間を利用して、あらゆる生命体を徐々に創造し、最終的に人類に至ったと信じている。その説には様々なバリエーションがあるが、概して彼らは世界的な大洪水を否定し、創造の「日」は長い時代（「日＝時代」説）であったか、あるいは文字通りの各創造の「日」の間に長い時代があったと信じている。 漸進的創造論は聖書に根拠がなく、死をもたらしたアダムの原罪を否定し、キリストがご自身がなされたと主張される創造と裁きの力をお持ちであることを否定し、***人間は初めから造られたと***主張された主イエスの御言葉（マルコ10:6、マタイ19:4）に反するものである。

『アメリカン・アセイスト』誌の元編集長フランク・ジンドラーが述べたように、「*もし……原罪など一度も存在しなかったのなら……救いの必要などない*

救いの必要などない……そうなれば、イエスは……失業者の仲間入りをすることになる。」[236]

有神論的進化論者たちは、創造主が*数十億*年にわたる死の期間を利用して、あらゆる生命体を徐々に進化させ、最終的に人類を生み出したと**信じている**。彼らは世界的大洪水を否定しており、マクロ進化が起こったという証拠については、無神論的なダーウィニストたちと同様、何ら提示できていない。 有神論的進化論は聖書に反しており、死をもたらしたアダムの原罪を否定し、キリストが自ら主張するように創造し裁く力を持っていることを否定し、**死は**神の被造物に対する**敵であると**主張した使徒パウロの言葉に反している（コリントの信徒への手紙一 15:26）。

無神論者のリチャード・ボザースが述べたように、「*……原罪を破壊せよ……もしイエスが私たちの罪のために死んだ救い主でなかったとしたら、そしてこれが進化論が意味するところであるならば、キリスト教など何の意味もない*！」[237]

ギャップ説にはさまざまな説があります。一般的に、この説は神の御言葉を地質学的な年代尺度と整合させることに基づいています。彼らは、創世記1章1節と1章2節の間に長い歳月があり、その間に別の創造物が存在していたと主張しています。ギャップ説の支持者たちは、サタンがこの聖書には記載されていない創造物へと追放され、そこでサタンとその手下たちが世界をひどく堕落させたため、神が（おそらく聖書には記載されていない大洪水によって）その世界を滅ぼしたと信じています。 ここで彼らは神の言葉（創世記1章2節）に言及し、神が第二の創造（聖書的なもの）を行い、それを六日間で完成させ、「***極めて良い***」と認められた（その一方で、そこにはサタンとその手下たちが満ち溢れていたままにしておかれた！）と主張する。彼らは、聖書に記された世界的な大洪水を否定す

るか、あるいはそれが何の証拠も残さなかったと主張する。

世俗主義者たちが「地球の地殻層は*数百万年*（

地質学的時間尺度）を主張し始めた以前の時代に生きていた数百万人のヘブライ語専門家たちは、「ギャップ説」「漸進的創造説」「神学的進化論」といったキリストたちを見出さなかった。

これらの非聖書的な「キリスト」は、それぞれ魅力的に見えるかもしれないが、いずれも新約聖書のいくつかの警告を無視しつつ、それを実現するという危険な選択をしている。 これには、終わりの日には人々が世界的大洪水を否定するだろうと警告したペテロ（ペテロの手紙第二 3:3-6）、終わりの日には人々が神の姿を装いながらその力を否定するだろうと警告したパウロ（テモテへの手紙第二 3:5）、***主を否定する偽りの教師たちについて***警告したユダ、そして終わりの日には人々が偽りの教師や***偽キリストに***惑わされるだろうと警告したイエス（マタイによる福音書 24:24）。そして、神の御言葉は真実です。一語一語、最初から最後まで。

聖書のキリストと「古い地球」説のキリストを比較した衝撃的な図については、246ページの付録3をご覧ください！

「反キリスト」という言葉は、*「キリストに反対する者」*あるいは*「キリストの代わりとなる者」*を意味します。人間が作り出したキリスト像は魅力的に見えるかもしれませんが、聖書に描かれているイエスとは異なるいかなるイエスも、反キリストである可能性が高いでしょう。そして、そうした者たちは皆、イエスの次の戒めを危険なほどに無視しています。「***わたしは道であり、真理であり、いのちである。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない***」（ヨハネ14:6）。これこそが真の「塩」なのです！ それは、清め、守り、そして神の御言葉にのみ見出される唯一のイエスへの信仰を通して永遠の救いへと導く一方で、時に痛みを伴うような「塩」なのです。

マルティン・ルターは次のように述べたと伝えられています。「*もし私が、神の真理のあらゆる部分を、最も大きな声と最も明快な解説をもって告白したとしても、まさにその瞬間、世と悪魔が攻撃しているその一点を除いては、たとえどれほど大胆にキリストを告白していたとしても、私はキリストを告白していることにはならない*。」

サタンは***知っている……神は、この世をこれほどまでに愛されたので、御自分の独り子をお与えになった。それは、彼を信じる者が一人として滅びることなく、永遠の命を得るためである***（ヨハネ3:16）。したがって、***この堕落した世の神***（IIコリント4:4）が***、あなたがたの中に……偽***キリストや***偽教師***を送り込み***、彼らが密かに滅びに至る異端を持ち込み、さらには主を否定することさえあるだろう***（IIペテロ2:1）と予想すべきである。それでは、聖書に記されたキリスト、偽キリスト、偽預言者、そして偽教師について、神の御言葉という「塩の鉱山」をさらに深く掘り下げていこう。

偽りの、しかし信頼されている教師による巧妙な欺瞞は、人の信仰にとって最も壊滅的な打撃となり得ます。***それも不思議ではありません。サタン自身が光の天使に化けるからです。ですから、その僕たちも義の僕に化けるとしても、何ら驚くことではありません***……（コリントの信徒への手紙二 11:14-15）。偽りの教えは人気を博し、大勢の人々を引き寄せ、献金を集め、あるいは本を売りさばくかもしれませんが、聖書のイエスへの信仰だけが魂を救うのです。教師たちがより高い基準で問われるのも当然です。「***兄弟たちよ、教師になる者は多くあってはなりません。私たちは、より重い裁きを受けることになることを知っているからです***」（ヤコブの手紙 3:1）。

キリスト教系教育機関の偽教師たちは、私が***「ABCオリジンズ***（***Anything But Creation***：聖書の説以外のあらゆる説）***」***と呼ぶものを学生たちに教えている。彼らは、6日間の創造が*数十億年にわたる期間に*相当すること、人間の出現よりずっと前から動物の死が存在していたこと、聖書の洪水は単なる局地的な出来事であったこと（世界的な大洪水は彼らの「地球は古い」という信念を覆してしまうため）、そして創造論、進化論、地球の年齢といった、

本質的ではなく分裂を招くような問題には触れないようにすべきだと教えている。 創世記を25回も引用したイエスが、「***もしあなたがたがモーセを信じていたなら、わたしをも信じたはずである。彼はわたしについて書いたからである。しかし、もしあなたがたが彼の書物を信じないなら、どうしてわたしの言葉を信じることができるだろうか***」（ヨハネ5:46-47）と嘆かれたのも無理はない。

惑わされた卒業生たちは、世界中の教会で指導的立場に就きながら、その異端を広めています。 これらの卒業生たちは、イエスが私たちを神のもとへ贖うために死なれたことを知ってはいるものの、彼らの「地球は古くから存在した」という教えが、イエスが自ら主張される「創造主」であり「裁き主」であることを否定し、アダム以前に死が存在していたとすることで、アダムの最初の罪によって死が神の被造物に入り込み、私たちが神から引き離されたという聖書の柱を揺るがしていることに気づいていません。彼らは献身的かもしれませんが、欺かれており、その誤った教えを野火のように広めているのです。

「*その誤った教えは、私たちの聖書大学にいる偽りの教師たちによって植え付けられたのです。私たちが何が起きているのかに気づく前に、教会指導者たちの一世代全体が聖書への信仰を歪められ、教会全体に誤った教えを広めてしまっていたのです。*」 チャック・ベイケル牧師

神の御言葉に対する懐疑主義は、今やキリスト教界に深く根付いており、誰かが公然と聖書に記されたイエスを、聖書には見当たらない人為的なキリスト像に置き換えても、それに気づく者はほとんどいません。パウロはこう嘆きました。「*しかし、私は恐れています。蛇がその狡猾さによってエバを惑わしたように、あなたがたの心がキリストにある純真さから逸れてしまうのではないかと。*」 ***もし、ある者が来て、****私たちが宣べ伝えていない****別のイエスを宣べ伝えるなら****……あなたがたは、その者を容認してしまうかもしれないからです*（コリントの信徒への手紙二 11:3-4）。

弟子たちがイエスに再臨のしるしを尋ねたとき、イエスはこう言われました。「***だれにも惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名によってやって来て、『わたしこそが***

キリストだ』と言い、多くの人を惑わすからだ」（マタイによる福音書 24:4-5）。そして、神の御言葉は真実であり（そして塩味がある）：一語一語、表紙から表紙まで。

使徒パウロは驚いた……***あなたがたが、あなたがたを恵みへと招いてくださった方から、これほど早く離れてしまったことに***

キリストを、別の福音へと変えようとする者たち。それは別の福音というわけではないが、あなたがたを惑わせ、キリストの福音を歪めようとする者たちがいるのだ。 注意してください。それは全く別の福音ではなく、歪められ、改変された福音なのです。もしあなたがたが別のイエスを信じるなら、それは別の福音を信じていることになると思います。***そして……たとえ私たち、あるいは天からの天使でさえ、私たちがあなたがたに宣べ伝えたものとは異なる福音をあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです***（ガラテヤ人への手紙1:6-8）。皆さんはどうお考えですか？

世界的な大洪水を否定し、人間より先に死が存在していたことを前提とする***「数十億年説」*の信念**こそが、無神論者、ダーウィン主義者、有神論的進化論者を**結びつける接着剤となっているのです**。 ヒューマニスト、漸進的創造論者、自然主義者、ギャップ説の支持者たちを結びつける接着剤となっているのです。実際、死とは、自然、あるいは彼らが信じる「イエス」が、人類を創り出すために用いた道具なのです。これとは対照的に、聖書は次のように保証しています。「***最後に滅ぼされる敵は死である***」（コリントの信徒への手紙一 15:26）。

彼らの結束力の例として、ある無神論者のブロガーとその仲間が、地球の年齢をめぐって私に討論を挑んできた。 その無神論者の協力者は、地球の古さを認める妥協的なキリスト教徒の大学教授だった！彼らは、アイビーリーグの教授である別の無神論者に意見を求めた。その結果、私はコロンビア大学でこの3人全員と討論を行うことを申し出た。今のところ、私の申し出は受け入れられておらず、状況が変わることも期待していない。

ある寛大な方が、地球は古くから存在するという説を教えるキリス

ト教神学校のために、私が主催する「神を讃えるグランドキャニオンツアー」の1つを後援してくれると申し出てくれました。その目的は、参加者たちがこの旅を通じて、神の御言葉の真理を悟ることでした。豪華バスが学校まで迎えに行き、教職員と学生計55名が無料で参加できるはずでした。

しかし、同校の指導部からは「*結構です。興味はありません*」との返答がありました。彼らが私にそう言っているのか、それともキリスト

イエス様に向けられたものなのか、私には分かりませんでした。しかし、私たち二人とも、彼らのメッセージを確かに受け取ったことは間違いありません。

「古い地球」説を教える有名なキリスト教大学の教授が、私を招いてくれた牧師に次のようなメッセージを送ってきました。教授の発言は**太字で**示しています。私の「塩」に満ちた返答は*イタリック体*で示しています。

教授：あなたが招いた「若い地球説」（*聖書を信じる*）の創造論者は、アダム以前の死がキリスト教神学にとって問題になると述べました。

ラス：*福音の基礎は、神が死のない完全な宇宙を創造されたが、アダムの最初の罪によって被造物が堕落し、私たちが神から引き離されたという事実にある（ローマ人への手紙6:23）。神の恵みにより、神はイエスを遣わして私たちの罰を受け、死に打ち勝たれた。それゆえ、イエスを主として受け入れる者は、イエスと共に永遠に贖われるのである。「古い地球」説は、アダム以前の死を前提としており、福音の基礎を否定するものです。*

教授：植物を食べることは、植物を殺すことにならないのですか？

ラス：*植物は食物として造られており（創世記1:30）、聖書的な意味での「死」は起こりません。ヘブライ語の「ネフェシュ（nephesh）」は、生き物、通常は人間を指し、意識があることを表しています。「ネフェシュ」は、動物を指す際によく「ハイヤ」と組み合わされます。創世記1章と2章では、これらの言葉は人類を指す場合は「生ける魂」、脊椎動物（背骨を持つ生き物）を指す場合は「生ける生き物」と訳されています。レビ記17:11には、「肉の命（ネフェシュ）は血にある」と記されています。これは、ネフェシュとしての「命」を、脊椎動物の体内で循環する赤い液体である「血」と結び*

つけています。したがって、聖書的な意味において、人間と脊椎動物はネフェシュを持つ存在であり、アダムの罪によって死の定めを受けています。植物や無脊椎動物は、ネフェシュの範疇には含まれません。

教授：創世記2章17節の「……それを食べるその日、あなたは必ず死ぬ……」という箇所は、肉体的な死ではなく、霊的な死を指しています（アダムが肉体的に死んだのは、その何年も後のことでした）。

ラス：*神は両方を指しておられました。霊的な死は罪の即座の代償であり、神が呪いを宣告されたとき、肉体の死が始まりました。ぶどうの木から切り離された枝がやがて枯れるように、肉体の死は、私たちを愛する創造主のもとへ引き戻す慈悲深い呼びかけであり、イエス・キリストによる贖いを受け入れるための時間を与えてくれるのです。*

教授：ローマ人への手紙5章12節は、人間の死についてのみ言及しています。ラス：*この節は人間の死について言及していますが、アダムの罪によって全被造物に死と朽ち果てがもたらされる以前（創世記3章17-20節、ローマ人への手紙8章20-22節）に、動物が死んだという示唆は聖書のどこにも見当たりません。*

教授：肉体の死が完全に存在しない状態は、私たちが住んでいる世界とは全く異なる世界でしか起こり得ない。

ラス：*その通りです！ 神がご自身の義を反映した世界を創造されたとき、最初の被造物は「極めて良かった」（死はなかった）のです。その世界は、私たちが今日耐え忍んでいる、堕落し、呪われた世界とは「全く異なる」ものでした。コリントの信徒への手紙第一15章26節には、次のように記されています。「最後に滅ぼされる敵は死である。」 イエスはまもなく、もはや死のない地（黙示録21章）を私たちに与えてくださり、そこでは獅子も牛のように草を食べるようになります（イザヤ書11章）。*

教授：現実を直視しましょう。アダムが堕落する前から、天界でのルシファーの反乱によって、この世には悪が存在していたので

す。ラス：*聖書によれば、神は第六日の終わりに、ご自身の創造を****「非常に良い」****と認められました。その世界は、サタンやその手下たち、悪や死に満ちていたわけではありません。*（この章の前半で、誤った「ギャップ説」について論じました）。

教授：地球の年齢に関する問題に時間を浪費するのはやめましょう。

ラス：*キリスト教徒の子供たちの55％から90％が20歳までに教会を離れ、教会に通う人の95％と牧師の67％が世俗的な世界観を抱いており、さらにさまざまな*
*キリスト教の諸機関においてキリストの教えが広められ、この背教の基盤として「地球は古くから存在した」という信念が利用されている中、私は、創造主であり、裁き主であり、贖いの救い主である神に仕え続けていきます。神の御言葉は、**「初めに、神は**創造された……」という宣言から始まっているのです。*
こうして、私たちのやり取りは終わりました。

キリスト教系教育機関の懐疑的な教師たちは*****……口先では私に近づき、唇では私を敬うが、その心は私から遠く離れている。 しかし、彼らは人の戒めを教えとして説き、むなしくわたしを礼拝している***（マタイによる福音書 15:8-9）。そのような偽りの教師たちは、この本で共有されているような情報が遮断されるよう、対立を引き起こしている。なぜなら、アダムの罪以前に死が存在したという主張を、聖書に則った教えは一切容認できないからである。

ダーウィニズムの推進により「*ダーウィンのブルドッグ*」として知られたトーマス・ハクスリーは、古い地球説との妥協を図ろうとする教会の試みについて次のようにコメントした。「*彼らがとった立場は、どうしようもなく成り立たないものだ。*」そして、彼はコリントの信徒への手紙第一 15章21～22節を読み上げた。***「なぜなら、人によって死が来たように、人によって死者の復活も来たからである。 「アダムによってすべての人が死ぬようになったのと同様に、キリストによってすべての人が生かされるようになるのである。***」そしてハクスリーは批判的にこう問いかけた。「*もしアダムがプロメテウスと同様、実在しない人物であると見なされる*

のであれば……パウロの弁証法［論証］*にどのような価値があるというのか*？」[238]

現実問題として、もし文字通りのアダムによる最初の罪が、死をこの世にもたらし、私たちを神から引き離すものでなかったとしたら、

キリストの十字架における贖いの業に何の意味もなかったはずだ。これらは、聖書に基づく信仰にとって不可欠な教義である。パウロがテモテに***語ったように……他の教えを説いてはならない。また、信仰による神聖な建て上げではなく、ただ疑問を招くだけの伝説や果てしない系図に耳を傾けては***ならない……（テモテへの手紙第一 3:3-4）。

「アダム以前の死」という教えによって生じた障害を回避するため、カルビン大学の二人の教授は、アダムやエバが存在したとは信じていないと発表し、*「進化論がそう教えているから、私たちは知っている」*と述べた。[239] まったくもう！ ***自分たちは賢いと自負していたが、***愚か者となってしまった……（ローマ人への手紙 1:22）。

以下は、ある皮肉屋な教師から受け取ったメールと、それに対する私の返信です。***教師：****あなたの説教を聞きました。 私は9年間進化論を研究し、博士号を取得した後、40年間教会で教えてきました。また、バランスの取れた理解を得るために、様々な著者の本も読んでいます。聖書は科学書ではありません。世界的な大洪水など決して起こりませんでしたし、あなたはキリスト教にとって恥さらしです。私が立ち上がって、皆の前であなたの主張を反駁しなかったのは、あなたにとって幸運でした。*

ラス：*あなたと同様、私も大学で174単位を取得するなど、学歴が過剰な部類に入ります。私もかつてはバランスの取れた立場をとり、神の御言葉に人間の知恵を押し付けていました（コロサイ2:8）。しかし、神が私を真理へと導いてくださったのです（2コリント10:5）。今、私は神の御言葉が真実であることを示しています（ローマ12:2）。 私はかつて大学の講堂で講演をしていましたが、いつも質疑応答で締めくくっていました。私の発言に反論した教授は一人もいませんでしたし、あなたもそうだったでしょう。ほとんどのキリ

スト教系大学は、あなたと同様に、アダムより先に死があったとする世俗的な偏見に満ちた物語（マタイ24:4）に同意しており、イエスがご自身が主張される創造主であり裁き主であることを否定しています（テモテへの手紙第二3:1-5）。 あなたは、コリントの信徒への手紙第一15:21-22などを否定することで、ペトロの手紙第二3:3-6を体現しています。ガラテヤの信徒への手紙1:6-8を深く考え、悔い改め、祝福を受けなさい。ラス（これで私たちのやり取りは終わりました）。

ある嘲笑的なクリスチャンがラジオ番組の司会者に次のようなメッセージを送りました：**嘲笑者**：「*私は地質学の博士号を持つクリスチャンです。ラス・ミラー氏に発言の機会を与えたことで、あなたはキリスト教の恥をさらしました。もし世界的な大洪水が起きたとすれば、神はエベレスト山を覆うために何兆トンもの水を奇跡的に創造し、その後それを海面レベルまで消滅させ、さらに岩層の中に化石を驚くべき方法で創造したことになる。馬鹿げている！*」
ラス：*無神論に基づく地質学の訓練を受けたことが丸見えですね！「鉄は鉄を研ぐ」というように、ここでは聖書に基づいた地質学の見方を提示しましょう。 神は第1日に奇跡的に水を創造されました。世界的大洪水の水の大部分は、第2日に造られた「深淵の泉」が噴出した際に地下から湧き出たものです。エベレスト山は、洪水の終わりに水が崩壊した盆地に流れ込み、現在の海が形成される過程で隆起しました。そして、ほとんどの化石は、洪水の水によって粒度、重量、密度によって層が分けられた地層に埋もれた、洪水の犠牲者たちです。私の著書はあなたにとって大いに役立つでしょう。*これで私たちのやり取りは終わりました。

聖書は、羊の衣をまとった*貪欲な狼*（マタイ7:15）や、*小麦の中に混じった毒麦*（マタイ13:25）が現れることをあらかじめ警告している。 私の経験では、彼らの非聖書的な信仰が問われると、いずれにせよ混乱や対立を引き起こし、さらには教会の分裂を招く恐れさえあります。[240] その結果はほぼ常に同じで、今日の教会の90%以上において、神を敬う情報は遮断され、偽りの教師たちは引き続き群れを欺き続けています。

成就：***時が来れば、人々は健全な教えに耐えられなくなり、自分の欲望に従って、耳が痒いだけの教師たちを次々と集めるようになる。そして、真理から耳を背け、神話に傾くよう***

になる（テモテへの手紙第二 4:3-4）。ある牧師が私に次のようなメッセージを送ってきた。「*聖書の解釈には多様性があるため、私たちの会員たちは、創造が*

*長い年月をかけて起こった可能性もあり、あなたのメッセージには興味がないのです。」*ふむ……その「*聖書の解釈の多様性」*こそが、彼らが私にメッセージを分かち合ってもらう必要があった理由なのです！

保守的な教会を対象とした世論調査によると、牧師の49%（神学校卒業者に限れば67%）が、聖書的な世界観を持っていないことが明らかになった。[241] ある牧師から電話があり、自分の町で講演をしてくれないかと依頼された。彼は、地元の高校に「オルタナティブ・ライフスタイル」を掲げる生物の教師が2人おり、多くの生徒たちを誤った方向に導いているため、教会をまとめて信仰を深めるイベントを開催したいと語った。 彼が市全体の牧師会議でその意向を表明すると、他の19人の牧師たちは立ち上がって会場を去ってしまった！***……多くの人が彼を信じたが、****……彼を公に認めようとはしなかった……彼らは、神の誉れよりも人の誉れを愛したからである*（ヨハネ12:42b-43）。

運命的な統計は、公立学校において祈りと創造論を、*ダーウィニズムにつながる「数十億年」*の説に置き換えた結果がもたらした実を明らかにしている。[242] 以下の期間に生まれたアメリカ市民のうち：

1927年から1945年生まれ——65%がキリスト教教会に通っている。彼らは、祈りが排除される前、そして1963年に「*数十億年*」*という概念に基づくダーウィン的進化論*への教化が公式に始まる前に、高校を卒業していた。

1946年から1964年生まれのアメリカ市民のうち、35%がキリスト教の教会に通っている。これらの人々の大半は、*数十億年という時間軸に基づくダーウィン的進化論*への教化が公式に始まった時点で、公立教育制度の途中段階にあった。彼らの教師の多くは教会に

通い、聖書に基づく世界観を持っていた。

1965年から1983年 - 16%がキリスト教の教会に通っていた。これは、*数十億年という時間軸に基づくダーウィンの進化論を*徹底的に教え込まれた、アメリカの子どもの最初の世代であった。それでも、彼らの教師の3分の1は教会に通い、聖書に基づく世界観を持っていた。

1984年から2002年 - キリスト教の教会に通う割合は**4%だった**。この世代は、*数十億年の歴史がダーウィニズムにつながるという教え*で教育を受けた指導者たちによって、世俗的な教えを徹底的に刷り込まれた。

これらの統計は、キリスト教の教育機関が神の言葉よりも世俗的な物語を受け入れた結果も反映している。その結果、キリスト教の柱に対する信仰が蝕まれてしまった。
そして、私たちは「***実」によって、***善と堕落したものを区別しなければならないのです。

すべてのクリスチャンは、聖書の最初の5語、「***初めに***、***神は***創造された……」（創世記1:1a）において、神ご自身が私たちの創造主であると宣言されていることを慎重に考えるべきです。そして、クリスチャンの指導者たちは特に、イエスが御自身の天使を通じて、終わりの日のラオディキアの教会に、ご自身を「創造主」として紹介されていることに留意すべきです！ ***ラオディキアの教会の天使にこう書き送れ。「これらのことを、アーメン、忠実で真実な証人、神の創造の初めの者である方が言われる***」（黙示録3:14）。また、聖書に記された私たちの救い主が、外で戸を叩き、「私を中に入れてください」と仰っていることに留意すべきです！……「***わたしは戸口に立って、叩いている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開くなら、わたしは彼の中に入っていく***……」（黙示録3:20）。

私たちの永遠の魂をめぐって、激しい戦いが繰り広げられています。一方では
…聖書は…キリスト・イエスにある信仰によって、あなたがたを救いへと導く知恵を与えてくれる（テモテへの手紙第二 3:15）。一方、「***偽りの父***」（ヨハネによる福音書 8:44）は、私たちが彼と共に火の池で永遠を過ごすことを望んでいる。 ***私たちは***

*……**キリスト・イエスへの信仰によって、みな神の子となっている***（ガラテヤ人への手紙 3:26）のだから、イエス・キリストに従うと公言する私たち全員にとって、極めて重要な問いはこれである。すなわち、*私たちは聖書に記されたイエスを信じているのか*、*それとも現代版「**金の牛**」を作り出しているのか*（出エジプト記 32:1-4）**？**

私は、使徒行伝17章10〜11節に登場するベレアの人々のようになろうではありませんか。彼らは

……心を広く開いて御言葉を受け入れ、

そして、そのことが本当かどうかを確かめるために、毎日聖書を調べた。

聖書に記された唯一無二のイエスを明らかにし、聖書に基づかないキリスト像や誤った教えに神の御言葉という「塩」を振りかけることで、神がこの文章を用いて、真理を求める人々が御言葉の権威に謙虚に身を委ね、***肉となって私たちの間に住まわれた***聖書のイエス（ヨハネ1:14）***を***切に求めるよう導いてくださることを祈ります。

***

創造の六日間は文字通りの日だったのでしょうか？

旧約聖書のヘブライ語を用いて、創造の時間枠を解釈してみましょう。**ヘブライ語で「日」を意味する単語は「*ヨム（yom）*」**であり、ほとんどの場合、文字通りの一日、あるいは24時間の日の光のある期間を指します。「ヨム」が時折、より長い期間を指すために使われることもありますが、文脈からその意味は明確であり、より長い時間枠を指すには*「オラム（olam）」*などの他のヘブライ語が用いられます。もしモーセが長い時間枠を伝えようとしていたのなら、「オラム」を使うべきでした。 全体として、「*ヨム*」とその派生語は旧約聖書で2,300回以上使用されていますが、今日、その意味が疑問視されているのは創世記第1章における用法のみであり、これは世俗的な「*数十億年説*」に基づく物語によるものです。

創造の週に関して、神は文字通りの「六日間」という出来事を三つの方法で明確にされた。 **光の期間に続いて闇の期間があるという構成は、**1日あたりの期間が長いといういかなる信念も排除する。また、神は**夕べと朝をその**境界として定めている。*「ヨム」*は創世記以外でも夕べや*朝*と組み合わせて38回使用されており、常に太陽日を指している。さらに、いかなる議論も完全に解決するために、神は

各日に「第一日」のような**数字の接頭辞**を与えている。番号が付けられたり、年代記のように歴史的な順序で用いられたりする場合、

において、創世記以外で使用される359回すべてにおいて、*「ヨム」*は太陽日を指しています。さらに、創造の複数の*「日」*を表すのに用いられたヘブライ語は*「ヤミム」*であり、これが使用された800回以上すべてにおいて、*文字通りの太陽日を意味しています*！

オックスフォード大学の元ヘブライ語教授であるジェームズ・バーは、次のように述べている。「*世界トップクラスの大学に所属するヘブライ語教授の中で、創世記が神が6つの24時間の日で創造を行ったことを伝えようとしていると信じていない者は一人もいない。その『日』が長い時代であることを前提とする議論は、そのような教授たちからは真剣に受け止められていない。*」[243]

正しい解釈は、神の創造が文字通りの6日間で行われたというものであり、神は十戒の中でこれを確認されています。***「主は六日間で天と地、海、そしてそれらの中に存在するすべてのものを造り、第七日に休まれたから****である……*」（出エジプト記 20:11）。

***

「私はずっと『神による進化論』を教えてきました。それが神が私たちを創造された方法だと心から信じていましたが、あなたが私の考えが完全に間違っていたことを気づかせてくれました。ありがとうございます！」 アリゾナ州のラリー牧師

「私は、国内線のフライト中にあなたの本を読むまで、ギャップ説を支持していました。そして、高度33,000フィートの空の上で、この問題の重要性に気づき、神の創造説を受け入れました。ありがとうございます。」 アリゾナ州のスコット牧師

** 246ページにある、**聖書のキリストと「古地球説」のキリストを比較した**説得力のある図をご覧ください。

第 章 III

神とその な御言葉を信じる理由

第18章〜 第22章の序論

クリスチャンは、イエス・キリストが私たちの罪が赦されるために死なれ、永遠に死に打ち勝つために墓からよみがえられたと信じています。しかし、信仰に基づく歴史的物語と実際の科学的発見が混在するこの時代において、多くの人は、イエスが聖書が主張するように創造主であり裁き主であることを受け入れるために助けを必要としています。

信者たちは、イエス・キリストが創世記を25回引用していることに留意すべきです。これには、創造の初めに人類がどのように造られたかについても含まれています（マタイ19:4、マルコ10:6）。 実際、新約聖書のすべての著者は創世記の歴史的正確性を信頼しており、創世記に200回以上言及しています。創世記1章から11章のうち、新約聖書で直接言及されていないのは創世記8章だけです。

神は、文章で表現できる限り明確に、創世記1章において一週間にわたる創造の出来事を記述されています。これは私たちの生活の毎日に影響を及ぼしています。考えてみてください。1日は地球の自転に

よって定義され、1ヶ月は月の地球周りの公転によって大まかに定義され、1年は地球の太陽周りの公転によって定義されています。では、

7日間の週は、どこから来たのでしょうか？それは、創造の6日間と、7日目の安息日の休息から来ているのです！[244]

私はすでに、生命の起源、種は*それぞれの種類に従ってのみ子孫を生む*という原則、グランドキャニオンやグランドステアケース、氷河期、恐竜、炭素年代測定など、神の御言葉を裏付けるいくつかの素晴らしい証拠について論じてきました。次に、世界的大洪水、人択原理、複雑な設計、そして天体に見られる事象について考えてみましょう。

このセクションでは、神の御言葉全体――一語一語、最初から最後まで――を信頼できるという事実を改めて確認します。とりわけ、御言葉が***肉となり、私たちの間に住まわれた方***、すなわち私たちの創造主であり、裁き主であり、贖いの救い主である主イエス・キリストにおいてです。

***

「28年間牧師を務めてきた者として、私はラスからダーウィニズムに関するビデオを注文しましたが、断言します。これはすべての牧師にとって必携の資料です。進化論が誤りであることはわかっていましたが、それを論証する根拠がありませんでした。ラスはそれをわかりやすく解説してくれており、配布用に好きなだけコピーすることも許可してくれています。この誤った教えのせいで、私たちはこの世代をめぐる戦いに敗れつつあるため、私はできる限り多くの人々にこのビデオを配布するつもりです。
*「教育について。神による6日間の創造を信じていない、偏見のない人なら誰でも、ラスの動画を見れば考えを変えるでしょう。」*ケンタッキー州のハーレー牧師

「自分の行動が何の影響も与えていないなどとは決して思わないでください。私の息子がキリストを受け入れたのは、あなたの教えの

*おかげでもあります。今日、息子が『教科書には地球は数十億年も前からあるって書いてあるけど、それじゃ恐竜のあの人、あまり嬉しくないだろうね』と言っていました（笑）！あなたは彼の人生に大きな影響を与えました。」*アリゾナ州のテリー

18

世界的な の洪水を想像してみてください

「私は、次のようにキリスト教を信じています。太陽が昇ったと信じるのと同じです。目に見えるからではなく、それによって他のすべてが見えるからです。」[245]

C.S.ルイス

世界の地質学や地球の年齢を正しく解釈するには、聖書的な視点からそれを見なければならない。私たちの著書『*371 Days That Scarred Our Planet*』の中で、ジム・ドブキンズと私は、世界的大洪水による影響の一部を記述した章を執筆した。私たちの目的は、その大災害のイメージを読者に伝えることだったが、それが文章で表現できる範囲をはるかに超えていることは承知していた。 私たちの目的は、神による水の裁きがどのように起こったかを証明することではありませんでした。私たちの願いは、洪水に関連する具体的な出来事を記述することで、読者が神の御言葉全体を信頼する助けとなることでした。その記述を踏まえて、ここでは、人間の理解をはるかに超えた出来事を、私なりに説明してみたいと思います。[246]

「水は地の上でますます増し加わり、天の下のすべての高い山々は水に覆われた」（創世記7:19）。聖書の記述は、大洪水が全世界を覆ったと主張している。[247] 聖書は科学書ではないが、もし聖

書が真実であるならば、地球の地質学は、地球規模の破滅的な

水による出来事の証拠を提供するはずである。これは、神の御言葉を裏付ける、信頼できる経験的な根拠となるだろう。

誰もが謎を好むものです。創世記第1章で、神は第1日、第3日、第4日、第5日を「良い」と宣言されました。そして、創造の6日目、すなわち最終日の終わりに、神はご自身の創造を「*極めて良い*」と認められました。しかし、神は第2日を「良い」とは呼びませんでした。[248] ここで、私なりの推測を述べさせてください。神は第2日に、深淵の泉と大空の上の水をお造りになったのです。 神は未来を見通すことができるため、第六日に造られることになるアダムが反逆し、神の完璧な創造を堕落させることを知っておられた。義なる神は、罪のために堕落した世界を裁くこと、そして第二日に造られたこれらの水が、ノアの時代に水による裁きを行うための道具となることも知っておられた。この知識が私たちの創造主を悲しませたのではないかと私は考えます。それが、第二日が「良い」と評されていない理由かもしれません。

ノアの時代の光景を想像してみてください。まだ複数の大陸に分かれていなかった広大な陸地を思い描いてください。大地を覆う、果実をたわわに実らせた青々とした植物の香りを嗅いでみてください。その緑は、驚くべき地下の灌漑システムによって保たれており、そこから「*……**地から霧が立ち上り、地の全面を潤した***」（創世記2:6）のです。

それはまるで温室に住んでいるかのようで、気候は常に穏やかです。霧と強力な磁場が有害な宇宙線から地球を守っているため、太陽の紫外線、ガンマ線、X線に過度にさらされて皮膚がんになる人は誰もいません。それは、アダムの罪によって被造物が堕落した後でさえ、人々が信じられないほど長生きできる完璧な環境でした。それにもかかわらず、人間は反抗し続けました。 創世記6章13節では、

かつては完全であったが、今や暴力に満ちたこの世界が、まもなく滅ぼされることが記されています。***「神はノアに言われた。***

ノアに言われた。「すべての肉の終わりが、わたしの前に来た。彼らは地を暴力で満たしたからである。見よ、わたしは彼らを地とともに滅ぼそう。」 神の裁きが迫っている。

それでもなお、神は御自身を信頼するすべての人々に、一つの救いの道、*すなわちノアの箱舟*を用意してくださる。神はノアにこう言われた。「***ゴフェルの木で箱舟を造りなさい。その箱舟の中に部屋を設け、内側も外側もアスファルトで塗り固めなさい***」（創世記6章14節）。

神はまた、御自身の唯一の救いの計画に入るための道を一つ備えてくださいます。*「……**箱舟の側面に扉**を設けなければならない……」*（創世記 6:16）。神はノアを通して、信者たちが神の救いの計画に入ることができる唯一の扉へと続く、狭い通路さえも備えてくださるのです。しかし、妥協のない神の御言葉に信仰を置くのは、ノアとその家族だけである。***「ノアは、まだ見ぬ事柄について神から警告を受け、恐れを抱いて、家族を救うために箱舟を造った。それによって、彼は世を罪に定め、信仰による義の相続人となった***」（ヘブライ人への手紙 11:7）。

ノアとその家族が箱舟の準備をする様子を想像してみてください。木を切り倒し、板を鋸で切り、木を研磨し、釘を打ち込み、穴を開け、梁を所定の位置にはめ込み、ブラシでゴファーの木にピッチを塗りつけ、牛が引く荷車が食料や物資の俵を箱舟へと運び込む音。おがくずや、切りたての木、アルファルファの俵、そして牛たちの匂いを感じ取ってください！ 懐疑論者たちがノアとその家族を嘲笑する声を聞いてください。疑い深い者たちがノアの正気を疑う声を聞き、不信仰者たちがののしる声を聞いてください。彼らは、まもなく自分の罪によって裁かれることになるなどとは、夢にも思っていません。水葬の墓が彼らを待っていることを、彼らは理解

していないのです。誰もが、箱舟内の救いへと続くたった一つの扉へと通じる、その狭い板の通路を歩むよう招かれています。

、箱舟内の救いへと続く唯一の扉へと続く、その一本の狭い板の道を歩むよう招かれているのだ。何百万人もの人々が、神の御言葉やノアの証しを無視して、食べ、飲み、結婚している様子を見てほしい。ノアとその直系の家族だけが、神の救いの計画を信じていたことを見てほしい。

箱舟の建造には120年もの歳月を要したため、「*神は私に警告しなかった*」などと言う者は誰一人いないという事実を、証しなさい。一本の釘、一枚の板、そしてノアとその家族のあらゆる行動は、「*これが、これから訪れる水の裁きからの神の救いの計画である*」と告げる宣教そのものです。

動物たちが二匹ずつ、狭い板の通路を登り、箱舟の中に姿を消していく様子を観察してください。清い動物のうち七匹が、彼らに続いて中に入っていきます。 大きな獣たちの重みできしむ板の通路を、彼らが「トントン、トントン」と歩み上がる音を聞いてください。***「その種類ごとの鳥、その種類ごとの家畜、その種類ごとの地を這うすべての生き物、それぞれの種類から二匹ずつ、あなたがそれらを生かしておくために、あなたのところに来るであろう***」（創世記6:20）。

ノアとその家族が狭い板の通路を登り、箱舟の中へと姿を消していく様子をご覧ください。ノアが、見物人たちに神の差し迫った裁きについて最後にもう一度警告しようと試みるも、群衆の嘲笑の声にかき消されてしまう様子に耳を傾けてください。 箱舟へ通じる唯一の扉から板の通路が引き上げられるのを見て、背筋が凍るような感覚を味わってください。まるで神の見えない御手によって閉められたかのように、その扉が神秘的に閉まる様子を畏敬の念を抱きながら見つめてください。***「主はノアに言われた、『あなたとあなたの家族はみな、箱舟に入りなさい』……そして、中に***

入った者たち……主はノアを箱舟の中に閉じ込められた。」（創世記7:1）。

箱舟の中を覗いてみよう。ノアとその家族が、居住区に安全かつ快適に身を寄せ合っている様子が見えるだろう。箱舟での371日間に必要なすべての

箱舟での371日間に必要な食糧はすべて積み込まれ、動物たちは囲いや檻、止まり木に収められています。鳩の優しい鳴き声、草食動物の柔らかな鳴き声、そしてネコ科の動物の愛らしいゴロゴロという音を聞いてみてください。それは平和で静謐な光景です。

注：聖書によれば、箱舟には鳥の種類ごとに一組ずつ（創世記6章）、鼻孔から息をする陸生生物の種類ごとに一組ずつ（創世記7:22）、そして清い動物は7匹ずつ乗せられた。例えば、
現在、犬には約350種類のバリエーションが存在します。箱舟には、犬の遺伝子プールを完全に備えた一組の犬類さえいれば十分でした。私たちが現在愛玩している犬たちは、その一組から「遺伝子枯渇」（第10章参照）を経て微細な適応を遂げたものです。魚類、両生類、無脊椎動物、および水生哺乳類（クジラ、ネズミイルカなど）は、箱舟に乗せる必要はありませんでした。 合計で、箱舟には約5,000匹の生き物が乗っており、鼻孔から呼吸する陸生動物の平均的な大きさは、飼い猫ほどである。

突然、ゴロゴロという音と微かな揺れが感じられた。最初はごくわずかなので、本当にあったのかどうか確信が持てないほどだった。しかし、音は次第に大きくなり、突然、鋭い衝撃が走り、その直後に地震のような感覚が襲った。その後、幾度か地震が起きた。地球上の至る所で深淵の泉が噴き出し、地面が震えた。

ノアが六百歳になった年の第二の月の十七日、その日、大いなる深淵のすべての泉が裂け、天の窓が開かれた（創世記7:11）。

地殻の下から湧き出る高温の熱水が勢いよく噴き出し、地球の表面が予期せず激しく裂け開く様子を目の当たりにし、その耳をつんざくような轟音を聞いてください

。広大な陸地を突然引き裂く、広がり続ける亀裂から、熱湯、マグマが混じった蒸気、そして熱い泥が成層圏へと噴き出す様子を目に焼き付けてください。

事実：地球には約5万マイルの断層線が縦横に走っており、その大部分は「深淵の泉」が噴出した跡である可能性があります。

ついさっきまで皮肉な笑みを浮かべていた嘲笑者たちの顔は、恐怖に歪み、青ざめている。彼らは、神の御言葉に信仰を置き、今や上昇する泥やぬかるみの上を安全に漂っている箱舟を建造した人々を、嘲笑し、ののしりながら傍観していたという事実を、手遅れになってようやく悟る。 手遅れになって、不信者や懐疑論者、嘲笑者たちは、ノアが正しかったこと、そして自分たちの救いに関する神の計画を受け入れる時が過ぎ去ってしまったことに気づく。***そして、水は 勢いを増し、 そして は 地上に大いに増し加わり、箱舟は水の上を漂っていた***（創世記 7:18）。

安全を求めて高台へと必死に逃げ惑う男女や子供たちの苦悶の叫びを聞きなさい。中には、今やノアに箱舟の扉を再び開けてくれるよう懇願する者もいる。彼らの家や財産、そして偽りの神々を祀る神殿が、押し寄せる水の圧倒的な重みによって破壊される様子を目の当たりにしなさい。そして、水は容赦ない。水位は上がり続け、上がり続け、上がり続けるのだ！

噴き上がる泉の水が、亀裂の縁に沿って大量の土壌を浸食し、ほんの数分のうちに凄まじい泥流を生み出している様子を目の当たりにせよ。三葉虫や腕足類といった海底に生息する動物たちは、最初に堆積物に覆われてしまう。激流は、その流れに巻き込まれた生き物を溺れさせ、

その進路に巻き込まれた生物を溺死させ、その一部は堆積物に瞬く間に埋もれてしまいます。その堆積物は、粒径、重量、密度によって選別され、やがて洪水の犠牲となった化石を含む層状の岩石層を形成することになります。

事実：磁場は、有害な宇宙線が地球上の生命を破壊するのを防いでいる。 世界的大洪水中に発生した急激な磁場反転の証拠は、深部から噴き出したマグマの流れによって押し流された溶融マグマの中に記録されていた。[249] この壊滅的な1年にわたる洪水が終結して以来、磁場は着実に弱まっている。[250] 研究によると、地球の磁場に蓄積された総エネルギーは、その磁場が最大でも2万年前のものであることを示す速度で減衰している。[251]

灼熱の温泉が海を温めていくのを感じ、大規模な蒸発によって厚い雲が立ち込める様子を観察してください。空が青から灰色へと突然変化していく様子を眺めてください。地球の歴史上初めて、地球の中央部に雨が降り注ぎ、極地には雪が降り積もり始めるのを見てください。湿った空気の匂いを嗅ぎ、人々がノアに箱舟の扉を再び開けてくれるよう絶叫し続けている声を聞いてください。 しかし、ノアには彼らを救うことはできない。救えるのは神のみであり、彼らは神の道を拒んだのだ。今となっては、神の救いの計画に加わるには遅すぎる。***神は古い世界を容赦しなかったが、義を宣べ伝えたノアという八人の者を救い、不敬虔な世界に大洪水をもたらされたのである***（ペテロの手紙第二 2:5）。

天の窓から雨が降り注ぐのを見てください。着陸場所が水に覆われるにつれ、鳥や空飛ぶ爬虫類が金切り声を上げるのを聞いてください。見上げれば、彼らが空から落下するにつれて翼の力が尽きていくのが見えます。雨に雹が混じり始めたのを見てください。最初はグリーンピースほどの大きさの氷の粒でしたが、その氷の玉は着実

にビーチボールほどの大きさに膨れ上がり、大地を打ちつけ、犠牲者を殴りつけて意識を失わせます。

落下する破片によって、人々や家畜、這う生き物たちが、毛皮と肉と血の山へと叩き潰されていくのを目撃せよ。ますます高まる波が、恐竜や怯えた動物の群れを消し去り、その足跡や死体のいくつかを瞬く間に埋めて、神による人類の罪に対する過去の、そして来るべき裁きの化石としての証しとなるのを見よ。

事実：レトリの足跡群のような人間のような足跡や、両生類、鳥類、恐竜の足跡が、深い層状の地層から発見されている。[252]

「見よ、わたし、まさにわたしが、大洪水をもって地上に臨ませ、天の下にある、いのちの息のあるすべての肉を滅ぼす。地にあるすべてのものは死ぬであろう」（創世記6:17）。
巨大なサメやモササウルスといった巨大な海洋生物に、生き残った最後の動物や人々が生きたまま食い尽くされる中、血の噴き出しが一瞬、水面に曇りを生じさせる様子をご覧ください。

事実：研究者たちは、10万年以内に崩壊するはずの炭素14を、モササウルスの軟組織の残骸から発見した。[253]

土砂混じりの水が滝のように流れ落ち、人々をさらっていく中で、消えゆく悲鳴を心に刻み込んでください。 土砂混じりの水が滝のように流れ落ち、人々をさらっていく中で、消えゆく悲鳴を心に刻み込んでください。激しい雨音と、降り注ぐ雹の鈍い衝撃音が断続的に響く、耳をつんざくような静寂に耳を澄ませてください。空が灰色から炭色へと変わっていくのを感じ取ってください。地面が激しく揺れ続けているのを感じてください。巨大な水の壁が地上に打ち下ろされる様子を想像してください。それは死と破壊、そして埋没の光景です。それは完全かつ徹底的な裁きの光景です。

裁きを受けた人間たちは、溺れないよう必死に抵抗しながら最後の息を喘ぐが、衰弱した体は

波の下へと沈んでいくか、あるいは想像を絶する水と土砂の圧力の下で、岩だらけの岩場に打ち砕かれていく。一部の人々は数日間、苦痛に満ちた日々を生き延びるが、結局、箱舟に乗っていなかった者たちは皆、容赦なく増水し続ける洪水に飲み込まれてしまう。「***そして、水は地の上でますます増し加わった***……」（創世記7:19a）。

神は、この荒れ狂う大洪水から生き残るための唯一の道を用意しておられた。悲しいことに、大多数の人々は創造主に背を向け、義なる天の父が、***天の下のすべての高い山々を***覆い尽くす水をもって罪を裁こうとしていると警告するノアの努力を嘲笑した（創世記7:19）。

上昇する水、泥、瓦礫が混ざり合い、人間の想像を絶する激しい津波が交じり合いながら、着実に地球を飲み込んでいく様子をご覧ください。その裁きは容赦なく、まもなく完全なものとなるでしょう。渦に巻き込まれ、堆積物の層の下に一緒に堆積した様々な動物の死骸をご覧ください。時には、それらの生き物の骨が絡み合っていることもあります。

事実：化石の墓場は、世界中の地層の中に発見されています。これらは、無数の生き物が急速に一緒に埋もれてしまった、小さな地質学的領域です。[254]

深淵の泉から、熱湯やマグマ、泥が50日、100日、さらには150日もの間、噴き出し続ける様子を想像してみてください。一体、いつ止まるのでしょうか？！

「水は百五十日間、地を覆っていた」（創世記7:24）。泉の水はやがて引き、雨も止んだ。それでも、洪水はさらに150日間続いた。[255]

地球の元の地殻の広範囲が、今や空っぽになった地中へと崩れ落ちる際の衝撃を感じ、その轟音を聞いてみてください。

かつて深淵の泉を宿していた***洞窟……水は山々の上まで達していた。あなたの叱責によって、水は逃げ去り、あなたの雷の声によって、水は急いで去っていった。水は山々を登り、谷を下って、あなたが彼らのために定めた場所へと向かう***（詩篇 104:6-8）。

「*ああ、神よ*！」あなたは叫ぶ。かつて深淵の泉が噴出した場所を境に、巨大な一つの陸塊が引き裂かれ、複数の大陸が形成されていくのを見ながら。地球の地殻がねじれ、引き裂かれたり激しくぶつかり合ったりするにつれ、大地が激しく震えるのを感じ、山々が空へと突き上げられ、泥の層の一部が信じられないほど鋭い角度で折り曲げられていく。

事実：世界最高峰の山々の頂上には貝殻が散らばっており、折り畳まれながらも断裂していない岩層が世界中で確認されている（地質学的圧縮現象）。

世界中で無数の火山が噴火し、立ち上る煙や炎の柱をご覧ください。流星のように空を駆け抜ける岩石をご覧ください。 神の裁きは、想像を絶する力の光景であると同時に、人類が不信仰と反逆の道をさらに深く歩み続けることのないよう、裁きを下すという神の憐れみと恵みの現れでもある。そして、新たな始まりを許してくださった***のである。神はノアと、すべての生き物、そして箱舟の中に彼と共にいたすべての家畜を思い起こされ、地の上に風を吹かせられた。すると、水は引いていった***（創世記8:1）。

大地を吹き抜ける風の唸りを聞いてください。神の御霊は、創造の週の初日にそうであったように、今や大地を覆っている水の上を、再び巡っているのかもしれません。30階建てのビルよりも高い波を伴った巨大な津波が押し寄せは引いていく中、水が前後に激しく揺

れ動く様子をご覧ください。水が数十億トンもの瓦礫や

堆積物を巻き上げ、その後に層状の堆積層を形成していく様子を観察してください。未来の世代に、世界的大洪水の裁きと神の御言葉の真実を示す圧倒的な証拠となる、地中に埋もれた生き物たちの遺骸を見てください。

事実：10万年以内に測定不能なほどに崩壊してしまうはずの炭素14が、化石を含むすべての岩層の有機物に検出されている。[256]

今日の地質学的特徴のほとんどが、大陸から最後にもう一度流れ落ちる後退する水によって削り出されている様子を想像してみてください。時速120マイルの流れが、ある地域では深さ10,000フィート以上に及ぶ最近堆積した地層を削り取り、他の地域では巨大な峡谷を残していく様子をご覧ください。裁きの水が陥没した地域に溜まり、今日の海を形成していく様子を観察してください。

事実：今日、河川や嵐によって年間約200億ポンドの堆積物が海に流れ込んでいるのに対し、地殻変動による除去量はわずか10億トンに過ぎない。[257] 現在の堆積速度では、海底の堆積物が形成されるのに1,200万年かかる計算になる。この事実は「*数十億年*」という時間枠には合致しないが、堆積物の大部分が世界的大洪水の際に海に流れ込んだという点で、**聖書の見解と**合致している。

地下で何が起きているか想像してみてください。水によって堆積した地層に最近埋もれた陸生および海洋生物は、すでに化石になりつつあります。火山活動による激しい圧力と熱の下で、ダイヤモンドが急速に形成されています。 洞窟内では、水分が堆積物の豊富な層を流れるにつれて、鍾乳石や石筍が急速に形成されています。水流によって運ばれた大洪水の堆積層に閉じ込められた膨大な量の植物や藻類は、やがて天然ガス、石油、石炭の鉱床となる準備が整っています。また、埋もれた木の幹は石化し始めています。

事実：世界中から採取された石油、天然ガス、石炭、ダイヤモンドの試料には、依然として炭素14が含まれている。炭素14は、10万年以内に測定不能なレベルまで崩壊するはずである。[258]

水に覆われて滅び去ったこの世界で、新たな始まりの神の合図を待ちながら礼拝するノアとその家族の様子に注目してください。***「それによって、当時の世界は水に覆われて滅び去ったのです***」（ペテロの手紙第二 3:6）。

事実：地球上には約1,200種類の鉱物が存在します。その大部分の量や蓄積速度は、現在の海洋で測定することができます。これらはいずれも、30億年という世俗的な年代説に照らして、海洋がはるかに若すぎることを示しています。 例えば、河川からの流出や陸地からのナトリウムの溶出により、世界の海には毎年約3億7500万トンの塩分が加わっています。この速度が一定であったとすれば、海は淡水から現在の塩水へと、約4000万年で変化したことになります。[259] しかし、鉱物の大部分は、世界的な大洪水の際に海に堆積したものです。

神が私たちに「*虹の契約*」を与え、二度とこのような大洪水によって罪を裁くことはないと約束された時のノアを想像してみてください。「***わたしは雲の中にわたしの虹を置く。それは、わたしと地との間の契約のしるしとなる。『わたしが雲を地の上に引き寄せるとき、その雲の中に虹が現れる。そして、わたしとあなたがたと、すべての肉なる生き物との間の契約を、わたしは思い出す。水はもはや、すべての肉なるものを滅ぼす大洪水となることはない***』（創世記9:13-15）。

今日の地球を思い描いてみてください。分断された大陸、隆起した山脈、白い極地の氷冠、

青い海が、神が過去に罪に対して下された裁きを思い出させてくれるようにしましょう。

聖書や、あらゆる地層、石炭の塊、化石、石油、ダイヤモンドの指輪がすべて、「*神は、来るべき世界的な罪の裁きから救いへと至る、唯一のまっすぐな門へと続く狭い道を備えてくださった。そして、その門こそが主イエス・キリストである*」と告げている以上、将来の世代が、*神の来るべき裁きから救う唯一の*救いの計画を受け入れることを拒むなら、言い訳の余地はない。 ***「あなたがたは、狭い門から入りなさい。滅びへと通じる門は広く、その道は広々としており、そこを通る者は多い。しかし、いのちへと通じる門は狭く、その道は狭いからである***……」（マタイによる福音書 7:13-14）。

科学的に信頼できる信念の証は、その予測が的中することにある。観察に基づく科学は、聖書の創造と世界的大洪水の記述を裏付けている。なぜなら、*神の言葉は一語一語、最初から最後まで真実だからである。*

***

「当教会の青少年および成人向け日曜学校では、あなたの動画を視聴しています。参加者全員が、その内容を興味深く、有益だと感じています。私はかねてより聖書に基づく創造説を信じていましたが、あなたのメッセージのおかげで、この情報を他の人々にさらに積極的に伝えるよう励まされました。」 ミシガン州のダン牧師



19

人選原理と人類

…神ご自身が、人が住むために地を造られた（イザヤ書 45:18）、そして***神は…ご自身の像に似せて人を創造された…男と女を…***（創世記 1:27）。

実証科学は、信仰者にとって真の友なのです！***人選原理（Anthropic Principle）***は、宇宙が、地球上に生命が存在できるように、特定の物理法則と性質を備えて設計されたかのように見えるというものです。ギリシャ語の「*anthropos*」*は「人間」*を意味するため、人選原理とは、私たちの宇宙が人類の存在のために特別に設計されたかのように見えることを説明するものです。[260] 数百ある例の中から、太陽系内のものをいくつか挙げてみましょう。

太陽は、地球上で生命が存在できるようにするために完璧に調整された、唯一無二の恒星である。ほとんどの恒星は激しく脈動し、大量の有害なガンマ線、紫外線、その他の宇宙線を放出しており、それらは近隣の天体上の生命を絶滅させてしまうだろう。しかし、太陽は、私たちの惑星で生命が繁栄できるように、極めて均一に機能するよう意図的に設計されている。

また、私たちの太陽は、植物が繁栄するのにちょうど良い大きさです。もし太陽がもっと小さければ、放出される紫外線は

光合成が起こるには不十分でしょう。もしはるかに大きければ、放出される放射線が地球上の生命を破壊してしまうでしょう。私たちの太陽は、その意図的な設計をほのめかしています。

地球は、生命が繁栄できるちょうど良い距離に太陽から位置しています。恒星の内部の数百万度から、氷点下の深宇宙に至るまで、宇宙には広範囲にわたる温度が存在しますが、水が液体の状態を保てるのは、わずか180度の狭い範囲に限られています。 もし地球が太陽から4%近くにあったら、すべての水が蒸発してしまい、地球上に生命は存在しなくなるでしょう。もし4%遠くにあったら、すべての水が凍結し、既存の生命体が繁栄することはできなくなるでしょう。地球と太陽の間の距離は、意図的な設計によるもののように見えます。

地球と月の間の距離もまた、地球上の生命を支えるために意図的に設計されたかのように見えます。 地球の潮汐は月の重力によって引き起こされます。もし月が近すぎれば、潮汐によって1日に2回、世界が水没してしまうでしょう。もし月が遠すぎれば、潮汐は弱すぎて海洋の浄化に役立たなくなります。その結果生じる海洋生物の壊滅的な被害は、私たちが呼吸する空気中の酸素の大部分が海洋植物によって補充されているため、すべての生命に影響を及ぼすでしょう。これは「人類原理」を裏付けるものです。

地球の重力もまた、生命の存在にとってちょうど良いものです。私たちの惑星は赤道で時速約1,000マイルの速度で回転している一方で、太陽の周りを時速66,000マイル以上（高速で飛ぶ弾丸の約30倍の速さ！）で公転しています！それにもかかわらず、地球の重力は私たちを押しつぶすことなくその場に留めてくれ、地球上で生命が存在することを可能にしているのです。驚くべきことです！

私は「人類原理」について、ほんの表面をなぞったに過ぎません。例えば、各陽子には3つのクォークが含まれており、それらは反クォークと正の

電子へと崩壊することを考えてみてください。この崩壊の速度は、生命が存在するために完璧なものです。もしその速度が速ければ、崩壊する陽子が致死量の放射線を放出し、すべての生命を絶滅させてしまうでしょう。もしその速度が遅ければ、宇宙には生命を可能にするのに十分な物質が存在しなくなるでしょう。これは、意図的な設計を裏付けるものです。

太陽系内の巨大なガス惑星が地球を飛来する隕石から守っていることからも、陽子の安定性に至るまで、こうした特定の性質は「人類原理」を裏付けており、それは、聖書に記された知的な設計者が、人類が住むために地球を創造したことを強く示唆している。

世俗的な見解では、宇宙は無限に存在するとされています。そのため、地球上に生命が存在することの数学的な不可能性にもかかわらず、地球上の生命を支えるために必要な複雑な仕組みは、宇宙において特別なものではないとされています。しかし、宇宙の果てで居住可能な惑星が検出されたという主張が絶えずなされているにもかかわらず、そのような主張は、ほんの少しの誠実な科学的検証にも耐えられていません。 したがって、神は***……人が住むために……地球を造られた***（イザヤ書45:18）のであり、***……ご自身の像に似せて人を創造された***……（創世記1:27）と見なされる。

私はよくこう尋ねられます。「*もし人間が神のかたちに造られ、すべての人間がアダムとエバの子孫であるなら、****さまざまな人種は一体どこから来たのでしょうか？」***聖書に基づいた私の答えを述べるには、その背景を理解する必要があります。

神は、ノアとその家族、そして箱舟に乗っていた生き物たちに対し、世界中に広がっていくよう命じておられました。***「あなたと、***

あなたの妻、あなたの息子たち、そしてあなたの息子たちの妻たちよ、箱舟から出て行きなさい。あなたと共にいるすべての生き物を連れ出しなさい……それらが地上で豊かに繁殖し、実を結び、

（創世記8:16-17）。これは、地球の氷河期の初期のことでした（第6章参照）。

氷河期といえば極寒の時代だったと想像しがちですが、当時、地球の大部分は熱帯気候に恵まれていました。「深淵の泉」から湧き出る高温の熱水により、海洋は暖められ、大規模な蒸発が起こりました。その結果、雲が形成され、地球の中央部には雨が、極地には雪がもたらされたのです。極地に氷や雪という形で大量の水が存在していたため、海面は現在よりも約395フィート低くなっていました。世俗的な教科書もこれを裏付けている。「*2万年前……海面は現在より120メートル（395フィート）低かった……氷床が溶け、海面が*上昇した……」[261] 海面が低かったため、現在よりも多くの大陸棚が露出しており[262]、動物たちが地球全体に広がることが可能となった。

ノアの箱舟から降りた生き物たちは、それぞれの種に固有の完全な遺伝子プールを持ち、幅広い遺伝的多様性を可能にしていました。動物たちが拡散し、新しい環境に適応するにつれて（遺伝子の枯渇により：第10章参照）、急速な種分化が起こりました。

しかし、人々は反逆し、バベルという一か所に集まった。それゆえ、神はペレグの時代に人々を分けた。***「エベルには二人の息子が生まれた。その一人はペレグと名付けられた。彼の時代に、****地は分かれたからである……」*（創世記 10:25）。*「ペレグ」*という名は、「分割された」あるいは「溝が刻まれた」という意味である。確かに、世界的な大洪水により陸地は分割され、山脈が隆起し、火山活動によって地殻は未完成のジグソーパズルのように切り刻まれた。しかし、言語が混乱し、人類が地球上に散らばらざるを得なくなったのは、ペレグの約239年にわたる生涯の間に起こったことである。***それゆえ、その地の名はバベルと呼ばれる。主が***

そこで全地の言葉を混乱させ、そこから主は彼らを全地の面へと散らされたからである（創世記11:9）。

では、***さまざまな人種はどこから来たのでしょうか。***聖書で言及されている唯一の人種は、「人間」という人種です（マラキ書 2:10、使徒行伝 17:26）。むしろ問うべきは、「***外見の異なる人々の集団は、どこから来たのか***」ということです。その答えは、大洪水の500年から700年後、世界の海が冷えて蒸発が鈍り、氷河期が終わった頃にあります。特に低緯度地域で氷冠が溶け始めると、海が水で満たされ、人々は自分がいた島や大陸に閉じ込められることになったのです。
その後、人々はおよそ3,200年にわたり、それぞれの集団の遺伝子プールの中から子孫を生み出しました。各集団のDNAにはわずかな遺伝的微小変異が蓄積され、その結果、今日、特定の民族集団に見られる特徴が形成されました。**それらはすべて、私たちの創造主の御姿に似せて造られたものです。**

聖書的な見解によれば、今日の人々に見られる遺伝情報は、神が私たちの最初の祖先であるアダムとエバに創造された遺伝データから派生したものである。この遺伝情報は、後にノアの箱舟に乗っていた4組の夫婦のゲノムへと「ボトルネック」現象を経て集約された。興味深いことに、『ナショナルジオグラフィック』誌によるヒトゲノム研究では、すべての人類が4つの異なる遺伝子プールのいずれかに由来することが報告されている。[263] 素晴らしい！

1995年に実施された男性のY染色体に関する研究では、すべての人類が「***Y染色体アダム***」として知られる一人の男性に由来することが示されました。女性のミトコンドリアDNAに関する研究では、すべての人類が「***アフリカのイブ***」または「***ミトコンドリア・イブ***」として知られる一人の女性に遡ることができることが明らかにな

りました。突然変異率に関するさらなる研究により、イブは約6,000年前

前だった可能性があることが、さらなる突然変異率に関する研究から明らかになった！[264] アダムやイブの肌の色がどうだったかは全く分からないが、白人の夫婦と黒人の夫婦から生まれた2人の子供が結婚した場合、その子供たちの肌の色は、世界中の人々に見られるあらゆる色合いになり得るのだ！

聖書的な見解は、なぜ外見の異なる人々間で輸血や腎臓移植などが行えるのかを説明している。なぜなら、私たちはダーウィンが、その誤った世界観を覆す著書『***種の起源、すなわち自然選択による種の起源、あるいは生存競争における優位な種の保存***』で示唆したように、異なるレベルへと進化したわけではないからだ。さらに悪いことに、彼の恐ろしい続編『***人間の由来***』においても同様である。 世俗主義者たちは、ダーウィンの最初の著書の完全なタイトルを隠し、彼の第二の著書など存在しなかったかのように振る舞っている。[265] したがって、マクロ変化という邪悪な哲学が、人間を含む動物がさまざまなレベルへと進化し、最も進化した種が生存競争に勝利したという考えを危険なほどに推進していることを心に留めておいてほしい。ぞっとする話だ！

人類の人口に関する研究によれば、もし約4,500年前に4組の夫婦が世界的大洪水から生き残り、それ以来、夫婦1組あたりの平均子供数が2.2人であったとすれば、今日の地球上の人口は80億人以上になるはずである。国勢調査の報告によると、現在、地球上には80億人以上の人々が暮らしている。[266]

歴史的記録も、聖書の洪水の時期を裏付けている。なぜなら、信頼できる歴史的記録は
約5,000年までしか遡らない。[267] 中国の記録には、8人が舟に乗って大洪水から生き残り、その後世界の人口を再増殖させたという記述がある！これらの記録はノアの家族に由来し、彼の息子の一人によってアジアに

伝えられたものである。

世俗的な見解によれば、古代人は月の満ち欠けを記録し、巨大な石造（巨石）構造物を築き、絵画を描き、楽器を作り、宗教儀式を行っていたが、

人類が存在した最初の180万年間については、その歴史を記録することに失敗した、というものである。

神の霊感を受けた御言葉の真実性を示す興味深い証拠は、読むには最も退屈に思える部分、すなわち系図の記述から得られます。**聖書の見解**によれば、人類の歴史は、世界的大洪水のおよそ1,656年前にアダムとエバから始まったとされています。創世記第5章の年表がアダムからノアまでの期間を網羅しているため、大洪水以前の世界のおおよその期間を知ることができます。 系図に登場する語根のヘブライ語訳には、いくつかの定義があります。例えば、アダム＝「人」、セト＝「任命された者」、エノシュ＝「死すべき者」、ケナン＝「悲しみ」、マハラレル＝「祝福された神」、ヤレド＝「降りてくる」、エノク＝「教え」、メトシェラ＝「その死がもたらすもの」、ラメク＝「絶望する者」、ノア＝「慰め」などです。 これらを総合すると、次のように読み取れる。「***人は、死すべき者、悲しみとして定められている***（しかし）***祝福された神は、教えをもたらして降りてこられる。その死は、絶望する者に慰めをもたらす***。」[268] この福音のメッセージは、聖書の最初の書物に記されているのだ！

地球上で人間の生命が存在することを可能にする太陽系の特定の特性は、遺伝学や歴史的記録と相まって、***初めに神が創造されたこと***（創世記 1:1a）、そして***神が……ご自身の像に似せて人を創造****されたこと……男と女……*
（創世記1:27）という事実を裏付けています。**オッカムの剃刀**。

***

「*私の教会であなたの説教を聞いたあの日曜日は、私の人生で最も重要な1時間の一つでした。私が抱えていた数え切れないほどの疑問に答えてくださり、物事をとてもわかりやすく説明してく*

ださいました。神のご加護がありますように。」 オレゴン州のポール

20

知的な聖書的 デザイン

*『ニューヨーク・タイムズ』*紙は、インテリジェント・デザイン運動が「***...科学そのものの定義を変え、自然現象の研究に限定されなくなるだろう***」と警告した。[269]

上記のキャプションは、科学が偏った自然主義的世界観に限定されていることを認めている。カンザス州立大学のスコット・トッドは、*「たとえすべてのデータが知的な設計者を指し示していたとしても、そのような仮説は自然主義的ではないという理由で科学から排除される」*と述べた。[294] しかし、自然主義は科学的な理論ではなく、世俗的な世界観の基盤となっている宗教的哲学である。

自然主義は、生命そのもの、遺伝情報、RNA／DNAシステム、そして人間を含む動植物に見られるその他の信じがたいほど複雑な設計が、自然発生的なプロセスと、彼らが「不可能を可能に見せる」と考える「長い年月」とが組み合わさった結果であると主張する。

第9章では、*生物発生の法則*と、生命が自発的に生じ得ないほど複雑である理由について説明した。さて、岩の塊や粘土の破片が、いかにしてその複雑な設計の背後に知的な源が存在することを示唆しているかを考えてみよう。

サウスダコタ州にあるラシュモア山は、1927年から1941年にかけて、ガッツンとリンカーン・ボーグラムによって花崗岩の丘の斜面に彫り上げられました。 もし、高さ60フィートのジョージ・ワシントン、トーマス・ジェファーソン、エイブラハム・リンカーン、セオドア・ルーズベルトの各元米国大統領の胸像を眺めている最中に、公園管理官が「これらの像は*数百万*年にわたる雨や風の侵食によって形成されたものだ」と説明してきたとしたら、あなたはその管理官が頭がおかしいと結論づけるだろう。 なぜなら、そのデザインの複雑さは、自然の過程によって生じたものとしてはあまりにも精巧すぎるからです。つまり、彫刻された岩でさえ、その背後には知性ある存在が存在したことを示唆しているのです。[270]

聖書的な見解によれば、彫刻された花崗岩に見られるデザインでさえ、知性ある彫刻家の存在を証明しており、大地から芽吹き、海を泳ぎ、大空を飛び、あるいは地表を這う生命体にみられる素晴らしいデザイン――それらは彫刻された岩よりも数兆倍も複雑である――こそが、聖書に記された知性ある創造主の存在を証明しているのです。

インテリジェント・デザインの例は、自然主義を崇拝する人々を除いて、誰にでも受け入れられています。非キリスト教的なインテリジェント・デザイン（**ID**）運動[271]には、多くのキリスト教徒、ニューエイジャー、ヒンズー教徒、仏教徒、不可知論者などが関わっていますが、私はIBD（インテリジェント・バイブル・デザイン）を好みます。 私は、その栄光を本来あるべき源、すなわち御言葉によって万物を創造されたイエス・キリストに帰すべきだと信じている。「***万物は彼によって造られた。造られたもので、彼なしに造られたものは一つもなかった***」（ヨハネ1:3）。

基本的な天体、水、大気、土壌を整えた後、神は第三日に、食物と

酸素の供給源となる植物を造られました。***「神は言われた、『地は草を生じさせよ。種を結ぶ草と、実を結ぶ果樹と……』***（創世記1:11a）。その翌日、神は

、植物が生命を維持する極めて複雑なプロセス**である光合成を**完了できるように、太陽を造られました。これは緑色植物や藻類の中で起こり、それらが吸収した日光、水、炭素を酸素と糖に変えます。酸素は大気中に放出され、ブドウ糖は植物内に蓄えられ、植物自体、草食動物、そして堕落後の肉食動物にエネルギーを供給します。なんと驚くべきIBDでしょう！

神は、植物の受粉を行うためにミツバチを造られました。ミツバチと一部の植物との間の複雑な相互作用は、IBDの痕跡を明らかにしています。

バケット・オーキッドを例に挙げよう。[272] この花の花弁の表面はぬるぬるしており、花の蜜の香りに誘われた**ミツバチ**が滑って、ランの「バケット」の中に落ちてしまう。バケットの中には液体が溜まっており、ミツバチがそこから脱出する唯一の方法は、池の縁にある踏み台に登り、そこからトンネルを通って花の外へ出るしかない。 しかし、ミツバチがトンネルを這って進むと、花の壁が収縮して昆虫を閉じ込め、その間にランは2つの花粉嚢をミツバチの背中に接着させる。接着剤が乾くのを待ってから、ランはミツバチを解放して飛び立たせる。もし別のバケット・オーキッドに止まれば、この一連の過程が繰り返される。 ミツバチは滑って水たまりに落ち、段を這い上がり、トンネルに入るが、そこで花の壁に再び捕らえられてしまう。かわいそうな小さなミツバチは、「*デジャヴ！以前もここに来たような？*」と思っているに違いない。しかし今回は、花から2つのフックが出てきて花粉嚢を取り外し、受粉プロセスを完了させる！ その後、ミツバチは再び解放される！ すごい！ IBDへの見事な支援だ！

バケット・オーキッドと同様に、食虫植物の**ピッチャー・プラント**も、蜜を使って昆虫を誘引し、滑らかな表面と液体の溜まりで

捕らえます。しかし、

結果はまったく異なります。 ピッチャープラントの葉は、水差しに似た円筒形をしています。ピッチャーの縁は滑りやすいため、虫がそこに止まると滑ってピッチャーの中に落ち、液体の溜まりに沈んでしまいます。しかし、ここでは*「デジャヴ」*のような瞬間はありません。その液体の溜まりには、植物が栄養分を吸収できるよう、虫を分解する消化酵素が含まれているからです。これらの植物間の類似点は、IBDの証拠です。

そして神は言われた、「水は、命ある動く生き物を豊かに生み出せ……」（創世記 1:20a）。創造の第五日、神は海を生き物で満たされた。その中には、「IBD！」と叫んでいるかのような**イルカ**も含まれている。
これらの水生哺乳類は、時速25マイルもの速さで泳ぐことができますが、理論的には、その筋肉では時速約10マイルしか泳げないはずなのです。 彼らが水中でこれほど素早く滑るように泳げるのは、神が彼らの外皮を、水で飽和し、イルカの動きに合わせて自動的に調整される素材で設計されたためである。この驚くべきシステムにより、水とイルカの皮膚との間の摩擦が最大60%低減され、筋肉だけで生み出せる速度をはるかに上回る速さを達成できるようになっている。

工学上の成功は、多くの場合、聖書に記された「知的な設計者（IBD）」による創造に見られるものを模倣したことによるものです。海軍は、いつかイルカの皮膚に見られるIBDを模倣し、それを艦船や潜水艦の船体に応用できることを期待しています。

「神は大きな鯨と、水の中から豊かに生み出された、あらゆる動く生き物を造られた……」（創世記 1:21a）。

第五日、神はクラゲを造られました。これらの生き物は

約98%が水分で、脳も心臓も目も骨も持たないにもかかわらず、
極めて優れた海洋捕食者である。

ほぼ透明になるように設計されているため、どこに行っても周囲に溶け込む。これらの無脊椎動物の中には、特殊な構造の筋肉を使って中空の*傘*から水を押し出し、推進力を得て泳ぐものもいる。 また、他のクラゲは昆布などの物質に付着し、海流に乗って漂います。クラゲは、触覚や動きによって刺激を受けると、獲物（魚や他のクラゲを含む小さな海洋生物）に向けて、微量の毒を含んだ小さな銛を放つように設計された神経細胞に依存しています。その後、触手を使って獲物を引き寄せます。 北極ライオンズマネは最大のクラゲであり、体重500ポンド、体長8フィートに達するものもいます。約190フィートもの長さの触手を備えており、手を伸ばせばあなたに触れることさえできるのです！

…そして、天の広々とした大空を地上の上を飛ぶ鳥たち
（創世記 1:20b）。

空を飛ぶ生き物は、聖書に記された知的な設計者の証であり、神は四種類——鳥、昆虫、哺乳類、そして爬虫類（絶滅した、羽毛のない翼竜）——を造られました。 それぞれが*「還元不可能な複雑性」*を備えており、つまり、空を舞い上がるためには、その様々な部分（脳、中枢神経系、羽毛、筋肉、視覚、翼など）が最初から完全に統合された機能的なシステムとして存在しなければならなかったのです。もしそれらが不完全であれば、飛ぶどころかもがくだけの存在となり、個々の部分は単独では飛べないため、捕食者にとって格好の餌食となってしまったでしょう。

海抜34,000フィートの高度を飛行する飛行機に乗っていた時、私は何が飛行機を空中に浮かせておくのかについて考え始めました。結局のところ、飛行機のどの部品を手に持って放しても、それは地面に落ちてしまうでしょう。事実、すべての部品は、知性あるエンジニアが設計した通りに、統合されたシステムとして連携して機能し

なければなりません。そうでなければ、飛行機は

決して離陸することはなかったでしょう。同様に、飛翔する昆虫、哺乳類、爬虫類、そして鳥類は、まさに「IBD（インテリジェント・バイオロジカル・デザイン）」を雄弁に物語っています！

「神は……その種類に従って、あらゆる翼のある鳥を造られた。神はそれを見て、良しとされた」（創世記 1:21b）。

すべての鳥、ダーウィンのフィンチでさえも、IBDを宣言している。キツツキを例に挙げよう。この驚くべき鳥は、機関銃の連射速度よりも速く木をつつくことができ、くちばしが木に当たった際の急停止時の衝撃は、重力の約1,000倍にも達する！ では、キツツキが初めて木をつついたとき、なぜ頭が爆発しなかったのでしょうか？ 実は、そのくちばしと脳は、衝撃を吸収する組織によって頭蓋骨から隔てられており、衝撃の直前に特殊な筋肉が鳥の脳をくちばしから引き離すのです。この統合された設計は、IBDを裏付けています。

鳥の骨は、重量を軽減するために中空になるよう設計されています。強度を与える内部の横桁がなければ、これらの骨は簡単に折れてしまうでしょう。建築家やエンジニアは、横桁が途方もない支持力をもたらすことから、このような設計を人工構造物に組み込んでいます。

鳥の羽は、軸から分岐する小羽枝、互いに重なり合う側枝、そして各部分を所定の位置に固定するマジックテープのようなフックなど、数万もの部品から構成されています。また、科学者によれば、鳥の羽は***「動物に見られる中で最も複雑な表皮付属器」***であるとの***ことです。***[273]

鳥の羽ばたきは、翼を押し下げる強力な胸筋と、翼を持ち上げる精巧に設計された滑車システムによって生み出される。羽ばたきによって空気が後方へ押し戻され、空力学的に設計された翼の上を流れることで、翼の上に空洞が形成され、鳥を浮き上がらせ、

飛行を可能にする。翼や尾羽を動かす筋肉は、中枢神経系と完璧に調和して働き、飛行者の航空電子計算機である鳥の脳によって導かれている。驚くべきことだ！ だから、「*鳥頭*」と呼ばれるのも、結局のところそれほど悪いことではないのだ。

コウモリが第五日目に作られたのか第六日目に作られたのかは定かではありません。いずれにせよ、呪いを受けた後のこの世界で獲物を狩るという点において、昆虫を貪り食う**コウモリ**（中には1時間に500匹もの蚊を捕まえるものもいます）は、まさに「IBD！」と叫んでいるかのようです！

コウモリは、「*コウモリソナー*」として知られる独創的に設計されたエコーロケーションシステムを持ち、それによって夜間に昆虫を狩ることができる。コウモリは、3万から10万ヘルツ（1秒あたりのサイクル数）の高音、つまりソナーパルスを発する。（幸いなことに、人間の可聴域の上限は20,000ヘルツであるため、その音に我々が気が狂うようなことはない）。そしてコウモリは、たとえ200万分の1秒の差であっても、物体に反射して戻ってくるエコーを聞き取り、識別することで、障害物を避け、獲物を捕らえることができる。驚くべきIBDだ！

「全球的洪水」説を否定する人々によれば最も古いとされる、下層の岩層から発見された化石コウモリは、IBDの確固たる証拠です。それらは現代のコウモリと同様に複雑であり、「*...コウモリと昆虫食動物の間に既知の中間段階は存在しない*」[274]からです。真の科学こそが、信者にとっての真の友なのです。

...見よ、そこにはミツバチの群れと蜂蜜があった...（士師記 14:8）。ここで再びミツバチについて考えてみましょう。ミツバチは、神の創造に見られるIBDのもう一つの素晴らしい例だからです。 ミツ

バチは、精巧に設計されたハチの巣を築くチームプレーヤーです。これを実現するために、ミツバチは1匹の女王バチと、約75,000匹の雌の働きバチおよび雄の雄バチからなるコロニーで生活しており、それぞれが特定の役割を担っています。女王バチは最長8年生きることがありますが、雄バチの生きた目的は女王バチと交尾することだけです。その任務を終えると、雄バチは死にます。

雌の働き蜂の寿命は約20日で、それぞれが巣箱の建設、ハチの巣の構築、蜂蜜の製造、あるいは敵から巣を守るといった特定の役割を果たします。若い働き蜂は、羽ばたいて巣箱を冷やしたり、互いに寄り添って温めたりすることで、巣箱の温度を保ちます。 資源を獲得する過程で、ミツバチは花から花へと花粉を運び、バケット・オーキッドなどの植物の受粉プロセスを完了させます。

ミツバチの驚くべき特徴の一つは、「*ミツバチのダンス*」として知られる、仲間とのコミュニケーション方法です。*偵察蜂*の動きは、他のミツバチに新しい餌場の距離や方向を伝えます。 例えば、餌場が巣から100ヤード以内にある場合、働きバチは約3/4インチの範囲で、きつい円を描くように前後に動き回ります。餌場がそれより遠い場合、働きバチは円を描くように動き、その後、円を横切って移動し、太陽を基準に巣から餌場がどの方向にあるかを示します。実に驚くべきコミュニケーションシステムです！その正確な動きは、まさにIBDを物語っています！

蝶も間違いなく「**IBD**！」と叫んでいるようです！これらの驚くべき生き物は、最初は這う幼虫、次に蛹、そして最後に飛ぶ蝶へと発達させる、符号化された遺伝情報を持ち合わせています。この遺伝情報は非常にコンパクトに保存されており、100億匹の蝶を形成するための組み立て説明書が、ティックタックほどの大きさの容器に収まるほどなのです！

イモムシは、葉を噛み砕くための強力な顎を備えて設計されており、その消化器系は、多くの場合、特定の種類の植物の葉だけを消化するように特別に設計されています。イモムシが成長すると、葉に絹の糸で固定し、蛹の段階に入ります。この段階では

頭も足も持たない。この段階では、中枢神経系を除く幼虫の臓器が単一の細胞へと溶解し、そこから新しく異なる臓器が発達して雄大な蝶が形成されるという、奇跡的な変化、すなわち変態が起こる。驚くべきことだ！ 蝶は、飛ぶ能力、花の蜜を吸うための長く伸縮自在な吸管、花にしがみつくための長い節のある脚、複眼を備えて羽化します。さらに多くの場合、幼虫時代に食べていたのと同じ種類の植物に卵を産むために、数千マイルも移動するナビゲーション能力さえ持っています。

これらの特徴は、三つの極めて異なる成長段階のそれぞれで生き残るための本能を含め、その極めて複雑な遺伝情報にあらかじめプログラムされていたのです。このような奇跡的な生き物は、まさに「IBD！」と叫んでいるかのようです！

サムエル記上17章37節で、***ダビデはさらにこう言いました。「私を……熊の爪から救い出してくださった主」。***
私がアラスカの奥地——小型飛行機かボートでしかアクセスできない地域——のいくつかの教会で証しをしていたとき、ある男性が、家族のための冬のムース肉の備蓄を収穫しに行くのに同行しないかと誘ってくれました。そこで、グリズリーベア対策としてペッパースプレーを持参すべきかどうか尋ねてみたところ、興味深いことに、私が尋ねた人たちは皆、「*もちろん！ クマは辛い食べ物が大好きだからね*！」と答えたのです。あの皮肉屋なアラスカ人たちめ！

翌日の日の出前、私たちは16フィートのアルミボートに乗り込み、川を17マイル上流へと向かい、クマの足跡で覆われた広い砂州に上陸した。巨大なクマの足跡だ。私が言っているのは、長さ20インチ、幅14インチ、砂利に2インチも沈み込んだ足跡のことだ。「辛い食べ物が大好きな」あの種類のクマだ。

一日中歩き回っても、ムースもクマも姿すら見つけられず、ボートに戻ってみると、

エンジンがかからなかった。アラスカの猟師が「*今夜は、この砂州で寝るしかないな*」と言った。私は「*そんなことあるわけない！*」と返した。近くのビーバーのダムから長さ10フィートのハンノキの棒を2本引き抜き、それを櫂代わりに川を下り、真夜中頃に町に戻った。クマがうようよいる砂州で寝るなんて？　あの生意気なアラスカ人たちめ！

クマもビーバーも、IBDの痕跡を示している。***そして神は言われた、「地は、その種類に従って生き物を生み出せ。家畜、這うもの、地上の獣を、その種類に従って生み出せ」。そして、そのようになった***（創世記 1:24）。

クマには、ツキノワグマからグリズリー、ホッキョクグマに至るまで、多種多様な種類が存在する。これらはノアの箱舟から現れた2頭のクマから派生したもので、適応や突然変異（遺伝子枯渇）を通じて様々な遺伝的損失を蓄積し、今日世界中で見られる多種多様なクマへと至ったのである。

砂州に足跡を残していた大きなヒグマは、力強い生き物である。長さ6インチの爪は掘るのに最適であり、その強力な顎は植物を噛み砕くのに適しているだけでなく、呪われた洪水後のこの世界では、ヘラジカの骨を砕くのにも役立っている。彼らは最大400ポンドの脂肪を蓄えることができ、それはアラスカの長い冬の間、巣穴に閉じこもっている間の食料源となる。 驚くべきことに、ヒグマの体は脂肪を1グラム燃焼するごとに1.5グラムの水を生成する。この水はタンパク質に変換され、ヒグマの体力を維持するとともに、母グマが子グマに授乳するための乳を生成する。6ヶ月にわたる半冬眠状態の間に脂肪を利用できるこの能力は、生き物たちがノアの箱舟で1年間をどのように過ごしたかについて、何らかのヒントを与えてくれるかもしれない。

アラスカで最大のクマは体重が1,800ポンドに達し、時速約33マイルで走ることができ、これはオリンピックの短距離走者よりもはるかに速い。クマ猟師とそのガイドに関するアラスカの古い話をご存知だろうか？ 狩りの準備中、猟師はガイドに、空腹のクマから逃げなければならない場合に備えて、重い防水ブーツを履くべきか、それとも軽量のハイキングシューズを履くべきか尋ねた。 ガイドは、「クマより速く走ることは不可能だから」と、重い防水ブーツを履くよう勧めました。ところが、ハンターがブーツの紐を結びながら、ガイドが軽量のハイキングシューズを履いていることに気づき、なぜ重い防水ブーツを履かないのかと尋ねました。ガイドは、「怒ったハイイログマに追われた時に、素早く走れるようにしておきたいからだ」と答えました。 不機嫌になったハンターは、「*熊より速く走れないって言ったじゃないか*！」と反論した。するとガイドは、「*確かにそうだが、俺が走らなきゃいけないのは、お前だけだからな*！」と切り返した。痛烈な一言だ！ 重いブーツを履いて辛いものを食べるなんて。

ビーバーは、毛皮に覆われた哺乳類で、ダム作りに非常に長けています（誰かがその工事現場から支柱を引き抜かない限りは）。ビーバーは、その驚くべき身体的特徴のおかげで、長時間水中に留まることができます。その特徴には、大量の酸素を含んだ血液を貯蔵できる特大の肝臓と肺、水中に潜ると遅くなる心拍、目を保護するために閉じながらも水中で視界を確保できる透明なまぶた、そして泳いでいる間は閉じ、水面に浮上すると開くように特別に設計された耳と鼻の弁などが含まれます。 さらに、泳ぐための水かきのある足、方向転換のためのパドル状の尾、そして皮膚に水が入るのを防ぐ自己潤滑性の腺系を加えると、IBD（神の設計）の確かな証拠となります。

そして神は言われた、「われわれの像に、われわれに似せて、人

を造ろう……」（創世記 1:26a）。神は人類のために最高のものを残しておられた。とりわけ、脳、心、知性、そして話す能力である。**話すことは**人間にのみ見られる特徴であり、それには舌骨が必要だが、この骨は人間にしか見られない。この特別な骨は、

これに加え、情報を理解し思考を生み出すという脳の高度な能力が相まって、脳が舌、唇、横隔膜に発話の指令を送ることで、私たちは話すことができるのです。これは神からの素晴らしい賜物です。***「主よ、私はあなたを賛美します。私は驚くほど、また素晴らしいように造られています。あなたの御業は驚くべきものであり、私の魂はそれをよく知っています***」（詩篇139:14）。

人間の**脳**は、約3ポンドの灰白質からなる、目に見える有機的なコンピュータです。生物学の授業で人間の脳について学びますが、その脳が内包する知性によってこれまでに組み立てられたいかなるものよりも、はるかに複雑です。

私たちの脳は、皮膚に触れる刺激を解読し、鼻から入る匂いを解析し、目に入る光波や耳に届く音を認識し、それらを私たちが利用できる情報に変換します。脳は、中枢神経系を介して、体中の何十億もの神経に何十億もの電子データを送り出します。心臓の鼓動から目のピクつきに至るまで、脳と脳幹があらゆる動作を制御しています。脳は、
重要でない事柄をフィルタリングし、砂粒ほどの大きさの脳組織には、10万個のニューロンと、互いに通信する10億個のシナプスが含まれています。そして驚くべきことに、最初の文字と最後の文字さえあれば、脳は
問題なく文章を読み取ることができます。信じられない！

私たちの心は、脳の前頭葉にあります。目には見えませんが、私たちは神経科学、心理学、哲学を通じて人間の心を解明しようと試みています。 私たちの心は、思考、感情、意識、そして知性から成り立っています。**知性**とは、スキルや知識を習得し、応用する能力を指します。公言した無神論者でありハーバード大学教授のスティ

ーブン・J・グールドは、次のように記しています。 ***「…進化の饗宴は、驚くほどありそうもない一連の***

*出来事……**「人間の知性のようなものがその再現に彩りを添えるような可能性は、極めて微々たるものだ」。*悲しいことに、彼はそれでもなお、その極めて微々たる可能性を信じることを選んだ。

「耳を造られた方が、聞かれないはずがあるだろうか」（詩篇94:9a）。**人間の耳は**、20,000ヘルツまでの高音から20ヘルツ（1秒あたりのサイクル数）までの低音まで聞き取ることができ、空気、体液、骨を利用して音波を伝達する。

外耳はカップ状になっており、音波を捉えて外耳道へと導き、そこから鼓膜へと集約される。鼓膜の微細な振動は、中耳にある小さな「楽器」へと伝えられる。中耳は、体内で最も小さい3つの骨、いわゆる「耳小骨」で構成されている。これらの骨は生まれてから大きさが変化しないため、私たちは生まれたその日から音を聞くことができるのだ。 耳小骨は振動を増幅し、それを蝸牛へと伝えます。蝸牛は小さなカタツムリの殻のような形をしており、内側に*毛の*列が並んでいます。
微細な開口部が1秒間に最大2万回開閉し、荷電イオンが有毛細胞に到達できるようにします。これにより、振動は電気信号に変換され、脳へと伝達され、脳によって認識されます。驚くべきIBD！***「聞く耳のある者は、聞くがよい」***（マタイによる福音書 13:9）。

…あなたがたの目は幸いである。それが見ている*から…*（マタイによる福音書 13:16a）。人間の**目は、**1平方インチの領域に推定125万本の神経接続を持つ、驚くほど精巧に設計された単一のレンズを持つ器官です。 涙は目を潤し、抗菌タンパク質であるリゾチームは外部からの侵入者から目を守ります。脳は目の制御センターであり、目と脳が本来あるべきように機能するとき、自動的に焦点を合わせます。私たちの目は脳と連携して、ボールをキャッチし

たり、まっすぐ歩いたり、文字を読んで理解したりすることを可能にしているのです。

このページに書かれた言葉。「***目を造られた方、その方が見られないはずがあるでしょうか***」（詩篇 94:9b）。信じられないほど素晴らしいIBD！

チャールズ・ダーウィンは、自然の過程によって視覚が形成されることは不可能に思えると気づいていました。当時、視覚が持つ複雑さについては、今日私たちが知っていることに比べれば、ほとんど知られていなかったのです。

ダーウィンは次のように記している。***「さまざまな距離に焦点を合わせ、光の量を調節し、球面収差や色収差を補正するための、他に類を見ない精巧な仕組みを備えた目が、自然選択によって形成されたと仮定することは、率直に言って、極めて不条理であるように思われる。」***[275] また、目には5つの異なるタイプが存在する。すなわち、人間、類人猿、イカ、脊椎動物、そして三葉虫である。これは、ダーウィンの進化論を受け入れるためには、目が一度だけでなく、互いに完全に独立して5回も別々に進化したと信じなければならないことを意味する！それでもなお、ダーウィンは、目が「最高度に不条理な」ダーウィニズム的マクロ進化を通じて生じたと信じることを選んだのである。

三葉虫はIBD説を裏付けています。三葉虫は、二重レンズ構造を持ち、レンズ表面が最大15,000個にも及ぶ、現在知られている中で最も複雑な目を備えていました！ すごいですね！ それにもかかわらず、三葉虫は地層の最下層から発見されています。**世俗的な見方**によれば、これは三葉虫の目が最も早く進化したもののひとつであったことを意味しますが、これは論理的に筋が通っていません。それでも、*『サイエンス・ニュース』*は、三葉虫が*「自然が生み出した中で最も洗練された眼のレンズ」*[276]を持っていたと報じており、***これは「見ても見えず、聞いても聞かず、目を閉ざしてい***

る……この民の心は鈍り、耳は聞こえず、目は閉ざされているからである」（マタイによる福音書 13:13-15a）という聖書の言葉を裏付けています。

アリゾナ州リムロックの上方の丘をハイキングしていたとき、地面に崩れやすい粘土の破片がいくつかあるのに気づきました。 それらを調べようとひざまずくと、精巧にデザインされた鉢の縁に気づきました。その設計者はどこにも見当たりませんでしたが、そのデザインの複雑さから、それを造った知的な設計者が存在することに疑いの余地はありませんでした。同様に、RNA／DNAシステムの設計の複雑さ、光合成のプロセス、三葉虫の目、そしてその他多くの事柄が、聖書に記された知的な設計者を指し示しています（ローマ人への手紙 1:20）。

「...***あなたがたの内に宿る希望について、理由を尋ねてくるすべての人に答えを***...」（ペテロの手紙一 3:15）とありますように、この文章が、ある人々が「***...目で見、耳で聞き、...心で理解する***...」（マタイによる福音書 13:15b）助けとなり、知恵ある聖書の創造主であり、贖いの救い主である主イエス・キリストに信仰を置くきっかけとなることを願っています。

***

神の御言葉によれば、終わりの日には、人々は真理から離れて、作り話に傾くことになる（テモテへの手紙第二 4:3-4）。私はかつて、子供たちに「カエルが、お姫様からのキスという魔法の要素によって、ハンサムな若き王子へと変身する」といったおとぎ話を語っていました。

今日、ダーウィニストたちは、真核生物や細菌の細胞が、その「魔法の材料」である数十億年という長い時間によって人間になったという、似たようなおとぎ話を教えています。これは単なる物語に過ぎませんが、賢いと思い込んでいる多くの人々がだまされ、真理から離れて作り話へと向かってしまっています。

私の願いは、神がこの文章を用いて、人々を誤ったおとぎ話から

遠ざけ、御言葉の真理、すなわち肉となった御言葉、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストへと導いてくださることです。

ラス

21

天は 神の栄光を告げ知らせる

私たちの創造主であり、裁き主であり、救い主である方は、ご自身が造られた宇宙に収まりきらないほど偉大です。それでもなお、その創造の至る所に、神の痕跡が見て取れます。

ラス・ミラー

世俗的な説によれば、私たちの太陽系は*数十億年の*歴史を持つとされており、そのため現代天文学は*数十億年*という考え方に基づいています。こうした、観測されていない偏見が組み込まれているにもかかわらず、観測可能な証拠は、誰に対しても宇宙を世俗的な見解を通じて解釈するよう強いるものではありません。天体物理学者であり地球物理学者でもあるジョン・エディ博士は、率直に次のように述べています。

「*太陽の年齢は45億年だと推測しているが……とはいえ……*（約6,000年という説でも）*受け入れられるだろう。天文学において、それに反する観測的証拠はあまりないと思う。*」[277]

聖書の見解によれば、「***初めに、神は天と地を創造された***（創世記 1:1）」***とあり***、創造の週の第四日目に、***神は二つの大きな光、すなわち、昼を司る大きな光と、夜を司る小さな光***

とを**造られた……*（創世記1:16a）。例えば、昼を司る大きな光について***考えてみよう。太陽は確かに大きな光である。なぜなら、地球96万個分

も収まるほどだ！　信じられない！　ありがたいことに、神は私たちをそこから9,300万マイル離れた場所に置かれた。現在の光速（毎秒186,282マイル）では、太陽光が地球に届くまでに8分17秒かかる。

夜を治める小さな光とは、私たちの月です。『ニュー・サイエンティスト』誌によると、火山活動の痕跡から、月は*わずか数百万年前に*形成されたことが示唆されています。[278] しかし、火山活動は、月がわずか数千年前にも形成された可能性を示唆しているかもしれません。私たちの月がわずか数千年の歴史しか持たないことを示すさらなる証拠として、半減期の短い月面同位体が挙げられます。 以前、放射性年代測定法が放射性元素の崩壊速度に基づいていることを説明した。 現在の崩壊速度に基づけば、トリウム230は約5万年で鉛に変化するはずである。しかし、月から持ち帰られた岩石試料からは、他の短寿命同位体と同様に、トリウム230が検出されている。これらの観測可能な事実は、神の創造に関する聖書の時間枠を裏付けている。[279]

月の遠離も、太陽系が若いという説を裏付けています。私たちの月は、年間4〜12インチの速度で地球から遠ざかっています。[280] これは、アダムとイブの時代には、月が現在よりも数マイルほど地球に近かった可能性があることを意味します。しかし、月の遠離は、地球が古いという説にとっては問題となります。 現在の遠ざかりのペースだと、8000万年前、いわゆる恐竜がいたとされる時代には、月は地球に非常に近かったことになり、月の重力の影響で、1日に2回、海の潮水が地球を浸水させていたはずである。 月の遠離が「地球は数十億年古い」という説にもたらすもう一つの問題は、ロッシュ限界に関するものです。この原理によれば、もし月が地球から11,500マイル以内にあった場合、潮汐摩擦281によって月は粉々に砕けてしまうことになります。これらの事実は、私たちの*地球と月が*

*数十億年*も古いはずがないことを明らかにしています。

創世記1章16節によると、創造の第四日、***神は……星々も造られたと***記されている。この節における「星」という用語は、私たちが「星」と呼ぶものから、彗星、星雲、あるいは惑星に至るまで、あらゆる天体を指す可能性がある。聖書の創造説を裏付ける、爆発した星、彗星、そして木星からの証拠について考えてみよう。

超新星とは、爆発した星のことです。現在、数百個の爆発した星の残骸が観測されています。観測されている星の死の発生率から計算すると、私たちが目にしている超新星は、せいぜい7,000年分の時間しか説明できません。超新星の不足は、宇宙が若いという説を裏付けるさらなる証拠です。[282]

寿命の短い彗星もまた、「深遠な時間」を説く説に対するもう一つの課題である。これらの彗星は太陽系内を猛スピードで駆け抜け、移動するにつれて物質を失っている。物質を失う速度からすれば、約10,000年後には存在してはならないはずだが、実際には寿命の短い彗星が数多く存在している。 これを説明するために、古い宇宙を主張する天文学者たちは、*オルトの雲*が新しい彗星を生み出し、それらが冥王星の軌道のすぐ外側にあるカイパーベルトに留まっていると主張する。そして、定期的に彗星が太陽系に侵入してくるというのだ。しかし、*オルトの雲は*観測不可能であり、数学的な確率にも反しているため、*数十億年説*を信じる者たちにとっては非科学的な言い訳に過ぎない。短寿命の彗星は、**聖書の見解を**支持するものである。

木星は巨大な惑星です。その内部には、地球が約1,300個も収まるほどです！ 木星は急速に冷却が進んでいる。研究によると、木星は太陽から受け取る熱のほぼ2倍の速さで熱を失っている。しかし、絶え間ない熱の損失にもかかわらず、木星は依然として暖かい惑星である。また、木星には強力な磁場を持つ衛星「ガニメデ」がある。そ

の原因については議論があるが、多くの科学者は、磁場は天体内部の溶融金属の動きによって生成されると考えている。これらの観測可能な事実は、最近の創造説を裏付けている

を裏付けている。もし太陽系が*数十億年の*歴史を持つなら、木星とガニメデはとっくに凍りついた球体になっていたはずだからだ。[283]

一部の惑星や衛星が、膨大な量の熱を失っているにもかかわらず依然として高温である理由を説明するために、それらが収縮しており、その収縮によって重力エネルギーが内部の熱や放射に変換されているという説が提唱されてきた。[284] しかし、収縮だけでは、それらの天体がまだ凍結していないことを説明するのに十分なエネルギーを生み出すことはできない。また、ある種の化学反応、あるいは木星の核に衝突するヘリウムがエネルギーを放出しているとの説も提唱されている。 さらに別の説では、何らかの核融合が起こっていると主張する者もいる。[285] これまでのところ、*数十億年*という説を裏付ける妥当な説明は知られていない。世俗的な立場の人々が妥当な説明を模索する一方で、観測可能な事実として、木星は高温の天体であり[286]、ガニメデは安定した磁場を持っていることから、これらが*数十億*年も前のものとは考えにくい。

ジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡（JWST）は2021年の**クリスマスに**打ち上げられた。その主要な目的の一つは、世俗的な基盤である「*数十億年という時間*」*を*裏付けると同時に、本質的には聖書の記述を反証することにあった。これは、1990年に打ち上げられたハッブル宇宙望遠鏡[287]の目的でもあった。しかし実際には、どちらの望遠鏡も聖書を信じる者たちにとって嬉しいクリスマスプレゼントとなった。

現在のビッグバン理論（第8章参照）は、宇宙が60億年から200億年前に始まったと主張している（*136億*年が現在の定説である）。[288] もしそうであれば、観測された速度からして、宇宙の物質は10億年以内に均一に分布していたはずである。 しかし、ハッブル宇宙望遠鏡が宇宙のほんの一部に焦点を合わせ、レンズを開放したまま96時

間の露光を行った結果、得られた画像は驚くべきものでした。そこには、

可視宇宙全体にわたり、星々が星団を形成しているか、あるいは成熟した、きつく巻き込まれた渦巻銀河となっており、星の集団の間には広大な空虚な空間が広がっていることが明らかになった。[289]

これは**「巻き上げのジレンマ」**[290]として知られている。なぜなら、星々が拡散する時間がなかったからである。つまり、それらは*数十億*年の歴史を持つにはあまりにも密に巻き上げられているのだ。例えば、天の川銀河の内側の星々は、外側の星々よりもはるかに速い速度で銀河の中心を公転しているため、約50万年後には、星々が拡散した特徴のない円盤になってしまっていたはずである。 *この「巻き上げのジレンマ」は*、宇宙が若いことを示しており、最近の創造という聖書の世界観を裏付けている。

観測された事実に動じることなく、世俗主義者たちは、ハッブルの6倍の光を集めるJWSTが、「はるか遠くの銀河からの光が私たちに届くまでに*数十億年*かかった」という彼らの歴史的説を裏付けるだろうと期待していた。

この考えに基づき、JWSTが捉える画像には、ビッグバン直後の幼い宇宙、初期の星や銀河の形成、近くの星団よりも暗く、より広範囲に広がって見える遠方の銀河、そして生命が住める惑星などが映し出されるだろうと予測されていました。**しかし**、JWSTの強力な観測能力は、こうした「古い宇宙」に関する期待を打ち砕きました。

科学的に観測可能な画像からは、完全に成熟した銀河、新たな星や銀河の形成の欠如、遠方の銀河の大きさと明るさが近傍の銀河と同程度であること、そして居住可能な惑星が存在しないことが明らかになった！[291] これらの観測結果は、いずれも聖書に基づく創造説を

裏付けるものである。それでは、*メリークリスマス*！

神はアブラハムに、星について預言的な例えを語られました。「

……あなたの子孫を、

天の星のように、また海辺の砂のように*増やす……*」（創世記22:17）。このように、肉眼でわずか約1,500個の星しか見ることができなかった時代に、神は天の星の数を海辺の砂粒に例えられたのです。 現在、ハッブル宇宙望遠鏡やジェームズ・ウェッブ宇宙望遠鏡からのデータにより、実証科学は、数十億の銀河が存在し、個々の銀河が数十億の星から構成されていることを確認しています。
つまり、天にある星の数は、私たちの惑星の海岸にある砂粒の数に匹敵するのです！ ここでもまた、運用科学は、天を***広げられた***私たちの創造主の御言葉を裏付けています。

神の「指紋」は、その創造の至る所に見られます。
コリントの信徒への手紙第一 15章41節には、星は一つひとつが互いに異なっていると記されています。「***太陽には太陽の栄光があり、月には月の栄光があり、星には星の栄光がある。星は星によって栄光が異なるからである」。***ここでもまた、天文学は神の御言葉を裏付けています。星は大きさ、熱量、色、その他の要因によって異なり、それゆえにそれぞれの星が唯一無二の存在となっているのです。

イザヤ書51章13節にはこう記されています。***「……あなたを造られた主、天を広げられた方。」***そして、神は確かに天を広げられたのです！神の創造の広大さと、天がどのように神の栄光を告げ知らせているかを理解するためには、途方もない数の概念を把握する必要があります。
100万という数字なら理解できると思います。しかし、10億となると曖昧になり始め、1兆がどれほどのものか把握できないため、これらの巨大な数字を把握するのに役立つ比較例をいくつか挙げておきます。100万秒は約11日、10億秒は約32年、そして1兆秒は約32,000年に相当します！ そうです、これらの数字の間には途方もない差があるのです。

私たちは、神の創造された宇宙の広大さを「光年」という単位で理解しようとします。光の現在の速度では、1年で約6兆マイル進むため、光年は距離の単位であり、時間の単位ではありません。そして、この6兆マイルを秒で表すと、1光年は約19万2000年に相当します！ それでは、神が広げられた天の広大さについて探ってみましょう。

そして神は……星々も造られた（創世記 1:16）。私たちの太陽のほかに、ポルックスは地球に最も近い星の一つである。その距離はわずか34光年だ。その直径は太陽の9倍もあるのだから、これはなかなかの距離だ！ *アルクトゥールスは*、神が時速40万マイルの速度で私たちの銀河系を駆け巡らせている星です。地球からは37光年離れています。神はベテルギウスを私たちから427光年の場所に置かれました。この巨大な星の直径は、地球が太陽の周りを回る軌道の直径の2倍もあります！実際、ベテルギウスは非常に大きいため、その内部には262兆個の地球が収まるほどです！

驚くべきことに、ベテルギウスは、私たちが知る限り*最大の恒星であるVYカニス・マヨリスに比べれば*、ごく小さな存在です。この恒星は、光が周囲を一周するのに8時間かかるほど巨大で、その内部には7京個の地球が収まると推定されています！しかし、私たちは「京」がどれほどの大きさなのかについてまだ説明していません！再び秒を例に挙げると、1京秒は3,200万年に相当します！ VYカニス・マジョリスを私たちから5,000光年離れた場所に配置してくださった主に感謝しましょう！ 実のところ、天は神の栄光、力、そして全能を叫びながら、神の創造の力を示しているのです。

神の三位一体の性質（父、子、聖霊）は、神の被造物全体に反映されています。創世記1章1節は、「*初めに*（時間）、*神は天*（空間）*と地*（物質）*を創造された*」と告げています。時間、空間、物質は

それぞれ、

三位一体の性質。時間は過去、現在、未来を含み、空間には高さ、幅、奥行きがあり、物質は固体、液体、気体である。

ローマ人への手紙1章20節にはこう記されています。***「世界の創造以来、目に見えない神の性質、すなわち神の永遠の力と***神性とは***、被造物を通して明らかに知られ、理解されるのです***……」。そして、細胞の複雑さから神の三位一体の性質に至るまで、被造物は私たちの創造主であり救い主である主イエス・キリストの栄光を宣言しています。

天は、まさに、私たちの栄光に満ちた創造主であり、聖書に記された救い主が、ご自身が造られた宇宙に収まりきらないほど偉大であることを告げているのです。***神は天の高みにおられるではありませんか！　そして、星々の高みを見よ、それらはなんと高いことか***。（ヨブ記22章12節）

***

「13歳の娘を無理やり教会に連れて行かなければなりませんでした。教会にいる間、彼女は腕を組んで、心を閉ざしたまま座っていました。そこで、あなたの動画を入手し、一緒に見てもらいました。ほどなくして、彼女はあなたの話に耳を傾け始めました。それが2ヶ月前のことですが、今日、彼女はイエス・キリストを自分の主であり救い主として受け入れたのです！」
ユタ州のシルビア

22

創造から『』による救いへ

世俗的な世界は、人生の物質的な側面を崇拝する傾向があります。イエスは物質的な側面と霊的な側面を結びつけ、私たちが創造主であり、裁き主であり、贖いの救い主であり、再臨の王である主イエス・キリストと個人的な関係を築けるようにしてくださいました。

ラス・ミラー

ヨハネによる福音書第1章1節と3節には、神の御言葉こそが私たちの創造主であると記されています。***「初めに、言葉があった……万物は****彼によって造られた……*」。そして14節では、私たちの創造主である神の御言葉が、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストであると告げられています。**「その言葉は肉となり、**私たちの間に住まわれた……」。つまり、イエスは私たちの創造主であり、神の御言葉そのお方なのです。

イエスもまた、ご自身を「いのちのパン」と呼びました。***「イエスは言われた……わたしはいのちのパンである」***（ヨハネ6:35）。つまり、イエスは神の御言葉であり、いのちのパンなのです。しかし、サタンに誘惑されたとき、イエスはこう言われました。「***……人はパンだけで生きるのではなく、神のすべての御言葉によ***

って生きる」（ルカ4:4）。私たちを救ってくださる「いのちのパン」であるイエス・キリストは、妥協のない神の御言葉の中に現れています。その御言葉は、「***初めに、神は****創造された……*」（創世記 1:1a）という最初の五つの言葉から始まっています。

率直に認めましょう。私たちは皆、罪を犯してきました（ローマ3:23）。その罪ゆえに、私たちは神の裁きを受けるに値する者となっています（ローマ6:23）。すなわち、霊的な死に続き、肉体の死が待っているのです。罪人である私たちには、自分の力だけで神との関係を正すことはできません。つまり、*もうお手上げです！それとも、そうではないのでしょうか？*

神は、その独り子をお与えになるほどに、この世を愛された。それは、彼を信じる者が一人として滅びることなく、永遠の命を得るためである。
（ヨハネ3:16）。

聖書の救いのメッセージは単純明快です。
神は私たちを深く愛しておられるため、御独り子、すなわち私たちの創造主を、イエス・キリストという人となってこの世に遣わされました。しかし、聖書に預言されていた通り、人々はイエスを拒み、十字架につけました。イエスは、私たちの代わりに死んで、私たちの罪の代価を支払うために、この出来事を許されました（コリントの信徒への手紙第二 5:21）。そしてイエスは三日目に復活され（コリントの信徒への手紙第一 15章）、永遠に死に打ち勝たれました。

私たちは、聖書のイエスが私たちの罪のために死なれ、復活されたことを信じることで、**神からの永遠の救いの賜物を受け入れます**（コリントの信徒への手紙第一 15:1-4；ヨハネの手紙第一 2:2）。

私たちの創造主であり救い主であるイエス・キリストは、近い将来、再び来られ、御自身を信じた人々を連れ出し、もはや死も痛みも悲しみもない場所で、永遠に共に住まわれるでしょう（黙示録21章、イザヤ書25:6-9）。

私の祈りは、『*CONSIDER THE* **COSt**』が、読者の皆様に神の御言葉の絶対的な真理を再認識させ、神の栄光に満ちた賜物を受け入れる助けとなることです。*神の祝福がありますように、ラス。*

***

***

ある日、神はある男を呼び、町の外にある巨大な岩を押し続けることに人生を捧げるよう命じました。男は従順に神の呼びかけに応えました。やがて、日は月となり、そして年となりました。岩は微動だにしませんでしたが、男は懸命に岩を押し続けました。ある日、岩を動かすことができないことに苛立ちを覚え、男は涙を流して崩れ落ちました。

すると間もなく、神が「なぜ岩を押す代わりに泣いているのか」と尋ねられるのが聞こえました。男は答えました。「主よ、何年も岩を押してきましたが、動かすことはできませんでした！ あなたに仕えることに失敗してしまいました。」神はこうお答えになりました。「私の良き忠実なしもべよ、私はあなたに岩を動かすよう求めたことは一度もない。ただ、それに押し続けることだけを求め、あなたはそれを立派に果たしたのだ。」

神は実に慈愛に満ちておられます。「ダーウィニズムへとつながる数十億年」という岩に押し続けながら、私はこの格言をよく思い起こします。

神があなたに何をなすよう召されたとしても、押し続けてください。そして、神に栄光がありますように。ラス



付録 1 – 『』の参考文献

1. 1996年、「ワシントンでの無神論者の行進」における演説の抜粋。
2. Wald, G.,「生命の起源」、『サイエンティフィック・アメリカン』191(2):44–53、1954年8月。
3. en.wikipedia.org/wiki/Geologic_time_scale。
4. Glenco Biology; Relative and Absolute Dating Methods; 1994; 306-307 ページ。付録 1 付録 1 *284*、*285*。
5. Nationalgeographic.com/science/phenomena/2015/02/02/scienc-espeak-lazarustaxon。
6. 『Evolution exposed Earth Science』、R.Patterson、1-11、answersingene-sis.org/geology/geologic-time-scale。
7. Discoveryworld.us/the-wonders-of-Creation/mount-saint-helens-little-grandcanyon。
8. 『起源に関する教育上の疑問；人類の起源』；創造研究協会；1986年3月；185ページ。
9. オースティン、S. A. 1986年。『セント・ヘレンズ山とカタストロフィズム』。Acts & Facts. 15: 7ページ。
10. 『CreationEvolution Headlines』、rev.info/2007/12/geol-ogy_sinks_in_the_mud。
11. パーカー、G.、answersingenesis.org/fossils/how-are-fossils-formed/how-fast-fossilsrock-layers。
12. 『ノアの箱舟と恐竜』；R・ミラー；CESM：Creation Ministries.Org；2019年；8ページ。
13. ウォルド, G.,『生命の起源』,『サイエンティフィック・アメリカン』 191(2):44–53, 1954年8月1954年8月（48ページからの引用）。
14. 『ボストン・グローブ』；健康科学；「小さな魚が科学の巨人に挑む」；F. ヒーレン、グローブ特派員、2000年5月30日
15. E. Mayr、『サイエンス』1972年6月2日：第176巻、第4038号、981-989ページ「ダーウィニズム革命の本質」。
16. Teach nuclear.ca/all-things-nuclear/radiation/radioactive-decay。
17. 『フォーブス』誌、2015年2月6日；「科学が誤りを犯すとき」；ポール・ロジャース。
18. J.E.O'Rourke、『層序学における実用主義対唯物論』、第276巻 1-76；54ページ。
19. 『環境地質学：地球システム科学のアプローチ』；D・メリット、A・デウェット、K・メンキング；WHフリーマン社；1998年、86ページ。
20. ブリタニカ百科事典、「ホモ・ハビリス」、G・P・ライトマイア、参照番号866170。
21. リドル、M、「炭素14年代測定は聖書を否定するものではないか？」；2007年9月20日；answersingenesis.org。
22. 年輪系列間の相互相関の解釈。D. 山口、『Tree Ring Bulletin』46号：47–54ページ、1986年。
23. 化石化した有機物質中の測定可能な 14-C；J. バウムガードナー博士、『第 5 回創造国際会議』；第 II 巻；2003 年；Creation Science Fellowship；ペンシルベニア州；127-142 ページ。
24. 炭素年代測定は進化論の「長い年代」を覆す；J. バウムガードナー博士（Ph.D.）www.icr.org/articles/view/117/262。
25. 層理の意義：いくつかの推論、『Journal of Sedimentary Petrology』第36巻第4号、880-887ページ。

26. コリントの信徒への手紙第一 3:19。KJV。
27. 『サイエンス』；「キャンパスから」；2004年8月27日、第305巻、第5688号、1237ページ
28. 地球の磁場は10倍の速さで弱まっている、CBSニュース、ケリー・ディッカーソン、
2014年7月9日、Livescience.com。

29. J. D. モリス博士、『The Young Earth』（アーカンソー州グリーンフォレスト：マスター・ブックス、2000年）、74–85ページ。
30. 30年後、セント・ヘレンズ山から得た教訓、B・トーマス博士、icr.org、2010年5月20日。
31. 『CreationEvolution Headlines』、rev.info/2007/12/geology_sinks_in_the_mud。
32. ウィリアムズ、A.「最古の人類の足跡は進化を示していない！」；1993年9月1日；answersingenesis.org/articles/cm/v15/n4/hominid-no-evo-lution。
33. 化石化した有機物中の測定可能な¹⁴C：J. バウムガードナー博士、第5回創造論国際会議；第II巻；CSフェローシップ；2003年；127-142ページ。
34. オースティン, S. A. 1986.『セント・ヘレンズ山とカタストロフィズム』.『Acts & Facts』. 15: 7頁.
35. 「化石の墓場」、https://www.genesispark.com/exhibits/fos-sils/graveyards。
36. 創世記 7:24〜8:5。
37. ブルース・H・ブリンソン,「実験：急速に形成された化石」; 2011年9月20日; http://www.answersingenesis.org/articles/am/ v6/n4/fast-formed-fossils.
38. モリス、ジョン、Ph.D. 1995年。「多層化石とは何か？」。『Acts & Facts』 24 (9)。
39. モリス、J. 博士、2009年10月1日、『Acts & Facts』、典型的な多層化石。S
40. オースティン, S. A. 2009. GSA会議で影響力を持つキリスト教地質学者たち。『Acts & Facts』.
41. オースティン, S. A. 1996. セント・ヘレンズ山火山の新しいデイサイト溶岩ドームからの鉱物濃縮物に含まれる過剰アルゴン。『Creation Ex Nihilo Technical Journal』. 10 (3): pp. 335-343.
42. ヴァン・アンデ、ショー；『海洋地質学とカリフォルニア湾』；米国石油地質学者協会；1964年；350ページ。
43. 『上り坂を流れた川』、grandcanyonguide.net/?q=content/river-thatflowed-uphill。
44. 国立公園局：nps.gov/grca/learn/nature/fossils.htm。
45. グランドキャニオンの岩石は「ディープ・タイム」を物語っているのではないか？ icr.org/article/dont-grandcanyon-rocks-showcase.
46. グランドキャニオン「大不整合」、lpi.usra.edu/science/treiman/greatdesert/workshop。
47. グランドキャニオンの「大不整合」、lpi.usra.edu/science/treiman/greatdesert/workshop。
48. グランドキャニオンの形成に関する再考、grandcanyontreks.org/ge-ology2.htm。
49. 『グランドキャニオンガイド』; 2008年; Oard, M., Bokovoy, D., Her-genrather, J.; 156ページ。
50. 『真のグランド・ステアケース』、brycecanyoncountry.com/the-grand-stair-case-firstthree-steps。
51. グランドキャニオンの形成に関する代替説、2011年6月14日、khouse.org/enews_article/2011/1789/print.
52. 『ナショナルジオグラフィック・フォー・キッズ』；5ページ；2005年3月。
53. プレートテクトニクス、nationalgeographic.org/media/plate-tectonics。
54. 大陸移動説、nationalgeographic.org/encyclopedia/continental-drift。
55. アンデス山脈の高地で見つかったクジラの化石は、山々が海から隆起したことを示している、WM Brown、ニューヨーク・タイムズ、1987年3月12日。

56. 褶曲地層の地形学的表現、geo.hunter.cuny.edu/~fbuon/GEOL_231/Lectures/Fold-Fault Land-forms。
57. 気候変動：過去と未来、氷河期。earthguide.ucsd.edu/virtualmuseum/climatechange2/01_1.shtml。
58. 『Dinosaurs By Design』；D・ギッシュ博士；23ページ；1992年。
59. 『科学の乱用：創造論に対する反論』；フィリップ・キッチャー；1998年、121ページ。
60. 『Dinosaurs By Design』；D・ギッシュ博士；23ページ；1992年。
61. リチャード・オーウェン卿；『恐竜を発明した男』；T・マレン；BBC；2015年2月26日；31623397。
62. アメリカ自然史博物館 amnh.org/exhibitions/mythic-creatures/dragons/natural-history-of-dragons。
63. 『地球の誕生と宇宙の年齢』；D・G・リンゼイ；1993年；18-20ページ。
64. T-レックスの軟組織血管および細胞の保存状態；シュワイツァー、ホーナー、『Science』207:1952-1955；2005年3月25日。
65. 『ノアの箱舟と恐竜』；R・ミラー；CESM：Creation Ministries.Org；2012年；15ページ。
66. フレッド・ホイル、1950年、英国放送協会（BBC）、ラジオシリーズ。『宇宙の性質』。
67. スティーブン・ホーキング、ビッグバン以前に何が起きたかを知っていると語る、Live Science；ブランドン・スペクター、2018年3月2日。
68. Britannica.com/science/thermodynamics/The -first-law-of-thermody-namics.
69. dictionary.cambridge.org/dictionary/english/second -law-of-thermody-namics.
70. Britannica.com/topic/laws-of-thought.
71. 『ニュー・サイエンティスト』；2004年5月22日。
72. F・ホイル卿；C・ウィクラマシンハ；『Evolution from Space』；1981年；135ページ。
73. LA Times; 2015年2月4日; アミナ・カーン; https://phys.org/news/2015-02-cos-mic-inflationbicep2-results.html.
74. 『フォーブス』、2015年2月6日；「科学が誤りを犯すとき」；ポール・ロジャース。
75. 『ファースト・シングス』；firsthings.com/article/2016/05/scientific-regress「科学的後退」、2016年5月、W.A. ウィルソン。
76. J. バーグマン博士、『Perspectives on Science and Christian Faith』；1994年9月号。
77. Thefreedictionary.com/uniformitarianism。
78. 『古い地球か、それとも世界的な大洪水か』、CESM；CreationMinistries.Org；プレゼンテーション；2019年。
79. ニューヨーク・タイムズ、2000年5月30日、「光は自らの限界を超える、それともそうではないのか？
80. ニューヨーク・タイムズ、2001年1月18日、「科学者たちは光を完全に停止させ、それを保持し、そして再び送り出す」。
81. J. バーグマン博士、『Perspectives on Science and Christian Faith』; 1994年9月号。
82. マーティン・リングス、『比較宗教学研究』年報、1970年。
83. merriam-webster.com/dictionary/hypothesis。
84. 『進化論対創造論』；カリフォルニア大学出版局；E.C.スコット；2009年；26ページ。
85. Merriam-webster.com/dictionary/symbiotic。
86. 生物発生の法則—定義、biology-online.org/diction-ary/Law_of_biogenesis。
87. J. バーグマン博士；『生命の自然発生は不可能』；1999年；『Creation Research Society Quarterly』；第36巻；第4号。
88. 『進化論対創造論』；カリフォルニア大学出版局；E.C.スコット；2009年；26ページ。
89. 『ダーウィニズムの錯覚』；ミラー、R.、ドブキンス、J.、2010年；90-91ページ。

90. 『なぜ生命の自然発生は不可能なのか』；J. バーグマン博士；『Creation Research Society Quarterly』；第36巻；第4号。
91. 「私たちが知る生命が実験室でほぼ再現された」；ロバート・R・ブリット；『Live Science』；2009年1月11日。
92. 『ダーウィンのブラックボックス：進化論に対する生化学的挑戦』、M. ビーヘ、1996年、38-43ページ。
93. BBC；アントニー・フルー：考えを変えた無神論者；ウィリアム・クローリー；英国；2010年4月16日。
94. パンスペルミア：dictionary.cambridge.org/dictionary/english/panspermia。
95. リソパンスペルミア：astrobio.net/news-exclusive/life-could-have-hitched-a-ride-tothe-moons-of-jupiter。
96. エルンスト・マイヤー、進化生物学者、ハーバード大学、『現代思想に対するダーウィンの影響』、2009年、『サイエンティフィック・アメリカン』。
97. 『ダーウィニズムの錯覚』；ミラー（R.）、ドブキンス（J.）、2010年；88-89ページ。
98. C. ダーウィン；『自然選択による種の起源、あるいは生存競争における適者生存』；1859年；170ページ。
99. 『蝶』；1998年；グレンコ・バイオロジー；325ページ。
100. 若者が教会を離れる理由、barna.com/research/six-reasons-youngchristians-leave-church。
101. ホッジ, M. J. S. 1992. 『自然選択：歴史的展望』。「*進化生物学のキーワード」シリーズ*。マサチューセッツ州ケンブリッジ：ハーバード大学出版局、212-219頁。
102. 自然選択は遺伝子型に作用するのか、それとも表現型に作用するのか？ リチャード・ゴーガン； 2017年4月25日； Sciencing.com。付録 1 付録 1 *286 287*
103. ゲノムとは何か、yourgenome.org/facts/what-is-a-genome。
104. 新ダーウィン主義（進化論）、chemistrylearning.com/neo-dar-winismtheory-of-evolution。
105. TIME; 『陰鬱な貴族』、1946年11月11日; GNT-5。
106. Acts & Facts; Impact; 『生物の進化』の書評 - ピエール＝ポール・グラス著; ウィリアム・バウ; 1979年10月1日。
107. 「遺伝的エントロピーとは何か」、geneticentropy.org/whats-genetic-entropy。
108. 『Chemical and Engineering News』、ジョン・ロス博士；1980年7月27日、40ページ。
109. DNAの欠失と重複、およびそれに関連する遺伝性疾患；ネイチャー・エデュケーションによるScitable；S. クランシー博士；2017年4月25日；Sciencing.com。
110. Genetics Home Reference：ホメオボックス遺伝子、ghr.nlm.nih.gov/primer/genefamily/homeoboxes。
111. Negoro, S., ナイロンオリゴマーの生分解 [総説]、Appl. Microbiol. Biotechnol. 54(4):461–466, 2000| doi: 10.1007/s002530000434.
112. フレームシフト変異、biologydictionary.net/frameshift-mutation。
113. 点変異、biologydictionary.net/frameshift-mutation。
114. 『The New Answers Book 2』；「突然変異は進化の『原動力』の一部なのか？」 B. Hodge、2010年2月18日。
115. フィードバック；ジョージア・パーダム博士；有益な突然変異は存在するのか？ 2008年4月25日 https://answersingenesis.org/genetics/mutations/are-there-ben-eficial-mutations/
116. I.L. コーエン、『ダーウィンは間違っていた――確率に関する研究』、1984年、4ページ、NR Publications。
117. 突然変異の集団遺伝学：有益、有害、無影響。ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC2871823。
118. 教科書におけるダーウィン主義に反する50の事実；CESMプレゼンテーション；2024年；図版#55。
119. 教科書におけるダーウィン主義に反する50の事実；CESMプレゼンテーション；2024年；図版 #38-43。

120. テモテへの手紙第一 6:20-21。KJV。
121. 『Glenco Biology』 ；1998年；323ページ。
122. 『Glenco Biology』; 1998年; 324ページ。

123. 『地球の進化』；D. プロテロ、R. ドット；マクグロー・ヒル；ニューヨーク；第7版；2004年；46ページ。
124. 『ネイチャー』463号、536-539ページ；2010年1月28日。
125. 私たちはバナナとどれほど遺伝的に近いか？ www.getscience.com、スタッフ；2017年6月29日。
126. 系統樹とクラドグラム；R. アトキンソン；2014年3月5日；Prezi.com。
127. 収斂進化、biology-online.org/dictionary/Convergent_evo-lution。
128. C. ダーウィン；『種の起源』；第6版、1872年；ロンドン；J. マレー；1902年；413ページ。
129. C. ダーウィン；『自然選択による種の起源、あるいは生存競争における適者生存』、1859年、211ページ。
130. カンブリア爆発、古生物学、T. フリトヨフ・フラナリー、britan-nica.com/topic/Cambrian-explosion。
131. J. ヴィエガス；ディスカバリー・ニュース；『人類の系図』；discovery.com；2010年11月。
132. J. グールド、『Evolution Now: A Century After Darwin』、ジョン・メイナード・スミス、ニューヨーク：マクミラン・パブリッシング社、1982年。
133. 『神話上の馬』シリーズ；J. モリス博士；創造研究協会（Institute For Creation Research）；『Acts & Facts』；2008年9月1日。
134. 『ノアの箱舟と恐竜』；R・ミラー；CESM：Creation Ministries.Org；2019年；15ページ。
135. 『サイエンス』、ジョン・N・ウィルフォード、2006年4月5日；科学者たちは魚の化石を「ミッシング・リンク」と呼んでいる。
136. 『地球の進化』；D. プロテロ、R. ドット；マクグロー・ヒル、ニューヨーク；第7版；2004年；46ページ。
137. シュビン、N.、デーシュラー、E.、ジェンキンス、F.、「ティクタアリク・ロゼアの胸鰭と四足動物の四肢の起源」；『ネイチャー』440号；764-771頁、10.1038/nature04637；2006年4月6日。
138. C. パターソン、ルーサー・サンダーランド宛ての手紙、1979年4月10日、『Darwin's Enigma』に掲載；グリーン・フォッシル、アーカンソー州：マスター・ブックス、第4版；1988年；89ページ。
139. ジュビー、I. ランの『サイエンス・ノート』； http://ianjuby.org/scinote sept 2008.html。
140. 「『ミッシング・リンク』ではなかった」ティム・フレンド著；『USA TODAY』、2000年2月3日。
141. アルケオプテリクス；『ネイチャー』322号；1986年8月21日；『サイエンス』253号；1991年7月5日。
142. 『ネイチャー』322号、1986年8月21日；『サイエンス』253号、1991年7月5日。
143. Juby I., 『Dinos to Birds』; 2010年11月12日 CrEvoNews with Ian Juby and CORE Ottawa; http://ianjuby.org/ newsletter/?p=417#2.
144. スミソニアン自然史博物館、humanorigins.si.edu/evi-dence/humanfossils/species/homo-neanderthalensis。
145. 「ルーシー」は「ミッシングリンク」ではない！；『Creation Magazine』；1990年6月1日。http://www.answersingenesis.org/articles/ cm/v12/n3/lucy.
146. 化石、
147. 歯と性：人類進化に関する新たな視点、チャールズ・オクスナード、ワシントン大学出版局、シアトルおよびロンドン；1987年；227ページ。
148. 『ダーウィニズムの錯覚』；ミラー、R.、ドブキンス、J.、2010年；98-99ページ。
149. 『ダーウィニズムの錯覚』；ミラー, R., ドブキンス, J., 2010年；103-104ページ。
150. 『生物学』；K.R.ミラー、J.レバイン；プレンティス・ホール；2006年；838ページ。
151. 『サイエンス・ニュース』；2002年10月；第162巻第16号；253ページ。

152. 『ネイチャー』66号；2002年10月。
153. 『Biology』; K.R. ミラー、J. レバイン; プレンティス・ホール; 2006年; 838ページ。
154. Watts, A., 「科学者たちが進化論の『ミッシングリンク』を明らかに」; スカイニュース; 2009年5月20日。
155. 『ダーウィンの妄想』；ミラー、R.、ドブキンス、J.、2010年；102ページ。

156. 「大規模な遺伝子調査が進化の新たな側面を明らかに」；2018年5月28日；Marlowe Hood；https://phys.org/news/2018-05-gene-survey-reveals-facets-evolution.html。
157. 農薬耐性の進化的起源；『Biological Review』；ホーキンス、バス、ディクソン、ネヴェ；2018年7月3日。
158. Space Daily；恐竜から鳥類への生殖系の進化；ケビン・ホールデン、中国・北京（SPX）2014年6月3日
159. 農薬耐性の進化的起源；『Biological Review』；ホーキンス、バス、ディクソン、ネヴェ；2018年7月3日。
160. 『ダーウィンの錯覚』；ミラー、R.、ドブキンス、J.、2010年；129ページ。
161. 教師用ガイドブック；全米科学アカデミー；1998年；16-17ページ。
162. ミラー, R., ドブキンス, J.,『ダーウィニズムの錯覚』; 2010年; 125ページ。
163. ヌージェント, W.,『遺伝的エントロピー：DNA変異率はダーウィニアン進化論を覆す』, 2017年5月15日. medium.com/@b1e1nugent/genetic-en-tropy.
164. 「マクロ進化とミクロ進化の違いとは？」；J.D. モリス博士；創造研究協会；『Acts & Facts』25 (10)；1996年10月1日。
165. 『ダーウィンの妄想』；ミラー, R., ドブキンス, J., 2010年；76-77ページ。
166. 第2染色体融合モデル。J. バーグマン博士、『Journal Creation』第25巻第2号、2011年秋号。
167. 第2染色体融合モデル。J. バーグマン博士、『Journal Creation』第25巻第2号、2011年秋号。
168. 「改ざんされた胚の図解が、長引く嘘へとつながった経緯」；『ニュー・サイエンティスト』；マシュー・コブ；2015年1月14日。
169. 『ザ・タイムズ』；英国ロンドン；1997年8月11日；14ページ。
170. 『地球の進化』；D. プロテロ、R. ドット・ジュニア；マクグロー・ヒル出版社、ニューヨーク；第7版；48ページ；2004年。
171. 鰓裂に関する不審な点；T. ミッチェル博士、E. ミッチェル博士、2007年3月14日；Answersingenesis.org。
172. 『50の事実対聖書の記述』；CESMプレゼンテーション；2012年：図版番号46〜49。
173. なぜ公表された研究結果のほとんどが誤りなのか；PLOs：医学；2005年8月。
174. 「しつこい倫理論者」；キャロリン・トーマス、2009年11月。
175. 撤回された科学的研究：増え続けるリスト；『ニューヨーク・タイムズ』；2015年5月28日；マイケル・ロストン。
176. https://www.collective -evolution.com/2015/05/16/editor-in-chief-of-worlds-bestknown-medical-journal-half-of-all-the-literature-is-false/ 著者：アルジュン・ワリア。
177. 『エボリューション・ニュース』；アン・ガウガー、2017年12月7日；https://evolutionnews.org/2017/12/retractions-show-scientists-blinded-by-belief。
178. First Things; firstthings.com/article/2016/05/scientific-regress 「科学の退行」、2016年5月、W.A. ウィルソン。
179. 『撤回をめぐる問題』、『ネイチャー』、1022号、リチャード・ヴァン・ノールデン；na-ture.com/news/2011/111005。
180. 『The College Fix』；イェール大学の著名なコンピュータサイエンス教授がダーウィンの理論を信じなくなった。2019年7月30日、ジェニファー・カバニー（編集長）。https://www.thecollegefix.com/famed-yale-computer-science-profes-sor-quits-believing-darwins-theories/
181. イェール大学のゲレルンター：ダーウィニズムに異議を唱えることは、自らの命を危険にさらすことだ。デビッド・クリングホッファー、ディスカバリー・インスティテュート：科学文化センター。2019年8月5日。
182. 『数十億、数十億の悪魔』；『ニューヨーク・レビュー』；1997年1月9日；31ページ。

183. ダーウィン, C., 『種の起源――自然選択による、あるいは生存競争における適者生存』; 1859年; および『私の生涯と書簡』; 第1巻。
184. パスカル講座；ウォータールー大学；カナダ、オンタリオ州。
185. 自然主義、vocabulary.com/dictionary/naturalism。
186. 世俗的ヒューマニズム；神の排除、secular-humanism.com。
187. NYT、「Abroad At Home」、A. ルイス、2001年12月15日、ny-times.com/2001/12/15/opinion/abroadat-home。
188. F. ガルトン、『遺伝的才能と性格』；マクミラン；12：157-166 および 316-328、1865年6月～8月。
189. クレイとM・リープマン、『Master Race: The Lebensborn experiment in Nazi Germany』、付録1 *288・289*、ホッダー・アンド・ストウトン社、英国、181ページ、1995年。
190. ガスマン, D., 『ナチズムの科学的起源』; アメリカン・エルゼビア, ニューヨーク; 1971年; 73, 88ページ。
191. 『Creation』：第18巻、第1号、9ページ。
192. 『教育に関する講演と年次報告』、ホレス・マン、1867年。
193. 『Life: the science of Biology』; シナウアー・アソシエイツ; 2001年; 13ページ。
194. 急速に拡大する新異教主義；ドレイパー、E.、2008年6月26日；デンバー・ポスト；www.denverpost.com/commented/ ci_969,5062?source=commented。
195. アリンスキー、S.、『ルールズ・フォー・ラディカルズ』；1971年；冒頭の献辞。
196. ハリー・トルーマン大統領；司法長官会議における演説；1950年2月25日。
197. 『キラー・エンジェル』；G. グラント；リフォーマー・プレス；65、73、105ページ。『女性の身体、女性の権利』；L. ゴードン；ペンギン・プレス；ニューヨーク、332ページ。
198. 『キラー・エンジェル』；ジョージ・グラント；リフォーマー・プレス；104ページ。
199. 『ワイルド・アース』；夏号；1991年。
200. 1799年4月25日、選挙説教、マサチューセッツ州チャールストン。『アメリカの栄光』；P. マーシャル、D. マヌエル（ガーボッグ・ハート・アンド・ホーム社、1991年）。
201. A.A. ホッジ、『福音主義神学』（ペンシルベニア州カーライル、バナー・オブ・トゥルース、1976年）、245ページ。
202. カール・マルクス、「ヘーゲル法哲学批判」（1844年）。
203. ホートン・ミフリン・ハーコートの『社会科』、教師用版、1994年。
204. 『ディスカバー・ヘリテージ』、教師用版（ボストン：ホートン・ミフリン）、1997年。
205. 年表：第一次大覚醒とは何だったのか？ Christian-ity.com/church/churchhistory/timeline。
206. 使徒行伝 17:3。KJV。
207. 『政治、文学、道徳に関する論文集』；ニューヨーク：ウェブスター＆クラーク、1843年、291ページ。
208. 1836年10月25日、『政治、文学、道徳に関する論文集』、291ページ。
209. B. ラッシュ博士、『教科書としての聖書の使用の擁護』、1798年。
210. 『独立宣言の署名者たち』、2007年10月27日、churchvstate.blog-spot.com/2007/10/signers-of-declaration.html。
211. ベンジャミン・モリス著『米国の市民制度におけるキリスト教的生活と人格』。
212. 米国議会図書館、J・ハンコック、「州議会にて」、コンコード、1775年4月15日。
213. メタクサス、E. 2016年4月26日、cnsnews.com/commentary/eric-metaxas/ban-ning-mostdangerous-book-world。
214. R.G. フェリス、『憲法の署名者たち』：米国内務省、NPS：WA

D.C.（1976年改訂版）、135-145ページ。

215. Washingtonpost.com/news/acts -of-faith/wp/2017/06/28/how-benja-minfranklin-a-deist-became-the-founding-father-of-a-unique-kind-of-americanfaith.
216. アレクサンダー・ハミルトン、leaderu.com/orgs/cdf/onug/hamilton.html。
217. T・ジェファーソン宛ての手紙、1813年6月28日、founders.archives.gov/documents/Jefferson/03-06-02-0208。
218. 「第二次大覚醒」、u-s-history.com/pages/h1091.html。
219. 1837年7月4日の独立記念日演説、J.Q. アダムズ、teachingameri-canhistory.org。
220. 『ウィリアム・H・スワードの生涯と著作選集』（1855年版）。
221. 『共和国の戦いの賛歌』、ルイス、J.、1917年9月19日、thoughtco.com/battle-hymnof-the-republic-words。
222. A. リンカーン、大統領図書館博物館、illinois.gov/alplm/museum/About/news/Pages/Lincoln's-Bible.
223. Wallbuilders.com/message -of-president-grant-to-the-children-and-youth-of-the-u-s.
224. 『聖書を擁護する訴え』、D. ブリューワー、1904年9月10日、1904年10月16日の青年キリスト教協会（YMCA）での演説。
225. Goodreads.com/author/show/187347. ウィリアム・マッキンリーの引用。
226. A. リンカーン、大統領図書館博物館、illinois.gov/alplm/museum/About/news/Pages/Lincoln's-Bible。
227. カルビン・クーリッジ、azquotes.com/author/3231-Calvin_Coolidge。
228. ハリー・トルーマン、演説抜粋；連邦教会協議会、1946年3月6日。
229. 1952年、ゾラック対クラウソン事件、ダグラス判事の著作、selfgovernment.us/news/william-o-douglas。
230. ACLU自身の文書から明らかになった事実、ダイアン・デュー、di-anedew.com/aclu.htm。
231. Mwilliams.info/archive/2008/02/the -full-title-of-darwins-on-the-origin-of-species.php。
232. Justia US Law/US Case Law、law.justia.com/cases。
233. 科学と宗教をめぐる自由討論；NYT；2006年11月21日。
234. 若者が教会を離れる理由、barna.com/research/six-reasons-young- christians-leave-church。
235. 抜粋：1984年8月24日、テキサス州で開催されたエキュメニカル・プレイヤー・ブレックファストにおけるロナルド・レーガン大統領の演説。
236. 演説抜粋、1996年、「ワシントンでの無神論者の行進」。
237. G・リチャード・ボザース；『進化の意味』；『アメリカン・アセイスト』誌、30ページ；1979年9月20日。
238. 『科学とヘブライの伝統』；D. アプルトン・アンド・カンパニー；ニューヨーク；1897年；235-236ページ。
239. カルビン・カレッジにおけるアダムとイブの論争：J. フーグランド；『グランド・ラピッズ・プレス』；2011年8月9日。
240. マタイによる福音書 13:24-30。KJV。
241. バーナ・リサーチ；「大人の大半は神に受け入れられていると感じているが、聖書的な世界観を欠いている」；2005年8月9日。
242. トム・ライナー、『ブリッジャー世代：アメリカで2番目に大きな世代、彼らの信念、彼らにアプローチする方法』。
243. J. バー、『ヘブライ語聖書の綴りの多様性』、92ページ。
244. 出エジプト記 20:11。KJV。
245. C. S. ルイス、「神学は詩か？」『栄光の重み：その他の講演集』（ニューヨーク：ハーパーコリンズ、1949/2001年）、140ページ。
246. 『地球に傷跡を残した371日間』；ミラー、R.、ドブキンス、J.、2009年；12-17ページ。

247. 創世記 7:19。KJV。
248. 創世記 1:6-8。KJV。
249. 大洪水時の地球磁場の反転に関する物理的メカニズム
; ハンフリーズ, R., 『第2回創造論国際会議論文集』; 第II巻; 129-142ページ。
250. 地球の磁場は 10 倍の速さで弱まっている、CBS ニュース、ケリー・ディッカーソン、2014年7月9日、Livescience.com。
251. 参考文献：J. D. モリス博士、『The Young Earth』（アーカンソー州グリーンフォレスト：マスター・ブックス、2000年）、74–85ページ。
252. ウィリアムズ、A.；「最古の人類の足跡は進化を示していない！」；1993年9月1日；answersingenesis.org/articles/cm/v15/n4/hominid-no-evo-lution。
253. 化石化した有機物中の測定可能な¹⁴C：若い地球・創造・大洪水モデルを裏付ける；J. バウムガードナー博士、『第5回国際創造論会議』；第II巻；Creation Science Fellowship；2003年；127–137ページ。
254. 『化石の墓場』、https://www.genesispark.com/exhibits/fos-sils/graveyards。
255. 創世記 7章24節～8章5節。
256. 化石化した有機物質中の測定可能な¹⁴C：若い地球・創造論的洪水モデルを裏付ける；J. バウムガードナー博士、『第5回国際創造論会議』第II巻；Creation Science Fellowship；2003年；137-142ページ。
257. 海から失われた塩：進化論者にとってのジレンマ；オースティン、S.、R. ハンフリーズ；第2回創造論国際会議；第II巻；Creation Science Fellowship；1991年；17-33ページ。
258. 化石とダイヤモンドに含まれる炭素14：進化論のジレンマ、『Answers Magazine』、2011年1月1日。
259. 海洋への堆積物流出に対する地形学的・地質構造的な制御；ミリマン、シヴィツキー；『The Journal of Geology』；1992年；第100巻；525-544ページ。
260. 「人擇原理とは何か？」 christian-apologetics-resources-and-education.com/Anthropic-Principle.html。
261. 参照：『Creation Ex Nihilo』；1999年12月号；8ページ。
262. 『環境地質学：地球システム科学のアプローチ』；1998年；33ページ。
263. ナショナルジオグラフィック、2002年、ジェノグラフィック・プロジェクト、S. ウェルズ、『人類の旅：遺伝子のオデッセイ』。
264. 『サイエンス・ニュース』；第279号；1998年1月2日。
265. 『自然選択による種の起源、あるいは適者生存』。『生存競争』所収。
266. 米国および世界の人口時計；米国国勢調査局；www.census.gov。
267. 人類の最古の起源：進化論の年表における矛盾、J. ドリット。創造論に関する国際会議、第 II 巻、1991 年、73-78 ページ。
268. 『創世記に込められた福音：隠されたメッセージ』、C. ミスラー、1996年2月1日、khouse.org/articles/1996/44。
269. ニューヨーク・タイムズ； 哲学者たちの反対にもかかわらず、カンザス州教育委員会が「科学」の定義を見直す； 2005年11月15日。
270. 『銀河と星間物質の物理学』；H. ヘフラー、H. エルサッサー著、シュプリンガー・ヴェルラグ社；1987年；ベルリン；352-353ページおよび401-413ページ。
271. インテリジェント・デザイン運動はキリスト教的なものか？ パードム博士；『The New Answers Book 2』；2010年5月6日。
272. 参照：『Creation Ex Nihilo』；1999年12月；8ページ。
273. Prum, R.O. および Williamson, S.、「羽毛の形状の成長と進化の理論」、『Experimental Zoology, Molecular, Developmental, Evolution』 **291**: 30–57, 2001.

274. ヒックマン、ラーソン、ロバーツ著『*脊椎動物の進化*』333ページ、2001年。
275. 『種の起源』、J.M. Dent & Sons Ltd、ロンドン、1971年、167ページ。
276. 『サイエンス・ニュース』；1974年2月2日号；72ページ。
277. エディ、J.、1978年9月、『Geotimes』、W. ジャクソン著、クリスチャン・クーリエのウェブサイト。
278. 『ニュー・サイエンティスト』；2001年6月9日；13ページ。
279. 『The Evolution Handbook』; ヴァンス・フェレル; 2001年; 133ページ。
280. 『月の遠離：それは若い宇宙説を裏付けるか？』ライト、D.、2006年8月11日、Answersingenesis.org。
281. チャップマン、C. R.「木星に向かう彗星」。『ネイチャー』363 (6429): 492–493）。1993年6月。
282. 『銀河系における超新星残骸の分布』；K. デイヴィス、1994年；175-184ページ。
283. デンバー・ポスト；1996年12月13日 木星探査機；K.C. コール。
284. W. J. ネリス、M. ロス、N. C. ホームズ；『サイエンス』269；1995年；1,249。
285. 『Astrophysical Journal』；R. Ouyed、W. Dundamenski、G. Crips、および P. Sutherland；501；1995年；367。付録 1 付録 1 *290 291*
286. G. D. Bouw 博士、「木星の過剰エネルギーは、その惑星が若いことを示唆しているのか？」www.geocentricity.com
287. ハッブル宇宙望遠鏡、nasa.gov/mission_pages/hubble/story/index.html。
288. 『化石、歯、そして性別：人類の進化に関する新たな視点』、チャールズ・オックスナード、ワシントン大学出版局、シアトルおよびロンドン；1987年；227ページ。
289. COSMOS; スウィンバーン天文学オンライン百科事典。
290. なぜ渦巻銀河はその形を保っているのか？ それとも、そうではないのか？ Science-fron-tiers.com/sf055/sf055p07.htm.
291. JWSTによる新たな観測結果がビッグバン理論に異議を唱える。J. ライル博士、『Astronomy』誌、1924年8月2日号。
292. 『ザ・ウィークエンド・オーストラリアン』、1983年5月7日〜8日、雑誌セクション、3ページ。
293. ハフポスト、2011年7月11日。Ruse, M., FSU。「進化論は宗教である」。
294. 『ネイチャー』、401、423（1999年9月30日）：トッド、S.、「進化論論争に関するカンザス州からの見解」。
295. 『進化論は宗教である』、ハフポスト：Ruse, Michael、2011年7月11日。
296. 『In The Beginning: Compelling Evidence For Creation and the Flood』第9版、2025年、W. ブラウン博士、224-258頁（creation-science.comで閲覧可能）

付録2 - 用語集

アポロゲティクス（Apologetics）：ギリシャ語の「アポロギア（apologia）」に由来し、「弁明」を意味する。キリスト教のアポロゲティクスは、神の御言葉を擁護するための答えを提供する。

無神論（Atheism）：物質こそが存在するすべてであるという信念。しばしば「無神論的唯物論」とも呼ばれる。無神論者は、人間の霊や魂、そして神の存在を否定する。

染色体：生物の遺伝情報（遺伝子およびヌクレオチド分子）を保持するもの。

COSt：聖書の基礎を表す頭字語。神の完全な**創造**は、アダム**による**原罪によって堕落し、それによって私たちは神から**引き離され**（同時に死がこの世に入り込んだ）、主イエス・キリストの**十字架**上の御業を通じて、愛に満ちた創造主による贖いが必要となった**——t**。

ダーウィニズム：*数十億*年にわたる死の過程を通じて、生物は新しく有益な遺伝情報を獲得し、自然選択によって種の適応度の低い個体が淘汰され、より強い変異体が繁殖して遺伝子プールを支配するようになった結果、共通の祖先から進化したとする説。

真核生物（Eukarya）：現在、生命の3つのドメイン（他の2つは細菌、古細菌）の一つと見なされており、膜で囲まれた核を持つ生物から構成される。多くのダーウィニストは、人間が真核生物から進化したと信じている。

偽科学：（ラスによる定義）：実証されていない事象に関する偏った物語であり、証明された科学的事実として教えられているもの。「歴史的科学」を参照。

遺伝子：遺伝情報の生物学的単位。遺伝子は、DNAの「はしご」の段を構成する分子（A、T、C、G）から成る。

遺伝子枯渇：突然変異、適応、および変異は、親の遺伝情報の選別（組み換え）または喪失によって引き起こされるという生物学的原理。

ゲノム：生物の完全な遺伝情報。ほとんどのゲノムは複数の染色体から構成されている。

神の品質保証プログラム：神が各生物のDNAに組み込んだプロセスであり、生存可能な遺伝情報の損失を制限することで、その種の遺伝情報を保全する。

グランド・ステアケース：アリゾナ州北部およびユタ州南部に位置する一連の断崖。約13万立方マイルの堆積物が除去された大規模な侵食作用によって形成された。主な段には、バーミリオン・クリフス、ザイオン、ブライス・キャニオンが含まれる。

歴史科学：現在進行中のプロセスを、観察不可能な過去に起こった事象に当てはめようとする人類の試み（「均一説」を参照）。解釈者の偏見が、その説明を歪めることがよくある。

ヒューマニズム：人類は本質的に善であるとする哲学。神の存在を否定し、神によって定められたあらゆる道徳や規則を拒絶しつつ、人間の理性、倫理、正義に依拠する。注：この用語の使用においては、世俗主義も含まれる。

聖書に基づく知的デザイン（IBD）：生物や多くの無生物に見られる極めて高度な複雑性は、それらを設計した極めて高度な知性の源、すなわち聖書の神の存在を必要としたとする理論。

インテリジェント・デザイン（ID）：生物や多くの無生物に見られる極めて高度な複雑さは、極めて高度な知性の源によって設計されたものであるとする理論。

物に見られる極めて高い複雑さは、それらが極めて高い知性の源（必ずしも聖書の神である必要はない）によって設計されたことを示しているとする理論。

種（聖書的）：神が最初の祖先に創造した遺伝情報から生み出された（派生した）生物のグループ。注：そのようなグループ内での変異は、元の遺伝情報の選別（組み換え）または喪失（遺伝子枯渇）によって生じる。

マクロ進化：参照：ダーウィニズム。

微進化：微適応または微変異とも呼ばれる。これらは、植物や動物の同一の「種」（科）内で発生し、各種がその種に従って子孫を生み出す過程で生じる。これらは、初期の遺伝情報の選別または喪失（遺伝子枯渇）に起因する。

突然変異：親の遺伝子プールには存在しなかった、生物の遺伝情報における変化。突然変異は機能的な遺伝情報の喪失をもたらし、欠失、重複、倒位、点変異、置換など、さまざまな形態をとる。

自然主義：物質こそがすべてであり、自然界の外には何も存在せず、宇宙を支配する自然法則は自然に生じたものであるという信念。自然主義者は、人間の霊や魂、そして神の存在を否定する。

自然選択：神の知性を、知性を持たない、実在しない「自然選択者」に誤って帰属させる*表現。「神の品質保証プログラム」*を参照のこと。

新ダーウィン主義：*数十億年という長い時間をかけて*、遺伝子プールに新しく有益な遺伝情報が加わるという遺伝的突然変異により、すべての生命体が進化したという信念。その後、目に見えない「自然選択者」が突然変異を起こしていない個体を淘汰し、改良された突然変異体だけが進化する種を継承させる。注：当サイトにおける「ダーウィン主義」という用語には、新ダーウィン主義も含まれる。

オッカムの剃刀：最も単純な答え、すなわち仮定を最小限に抑えた答えが、通常、より複雑な説明よりも優れているという原則。

実証科学（経験的）：再現可能な実験や既存の証拠の観察から導き出された知識。

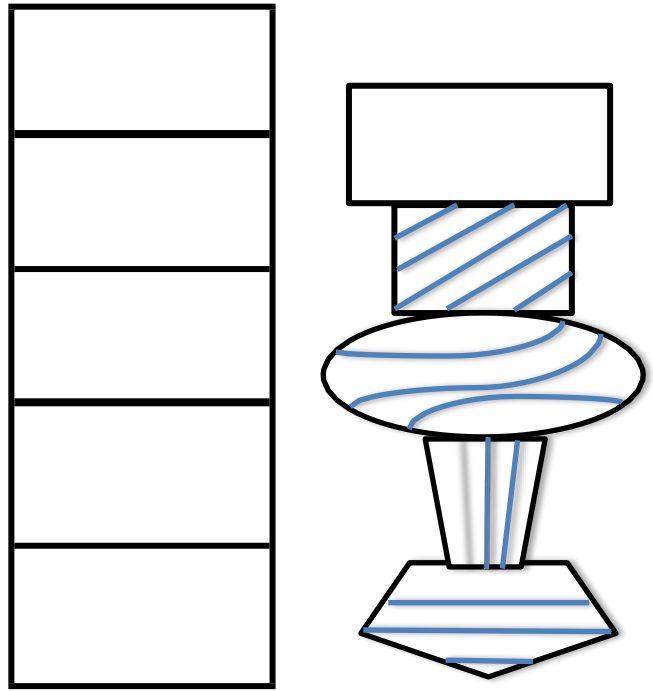
パンスペルミア（リソパンスペルミア）：地球上の生命は宇宙の他の場所で起源を持ち、彗星、隕石、あるいは未知の起源を持つ宇宙人などによって地球にもたらされ、地球に生物が播種された結果、マクロ進化のプロセスが始まったという仮説。

真の科学（ラスの用語）：操作科学を参照。

均一性（均一説）：現在こそが過去を解き明かす鍵であり、今日観察される過程は、地球が誕生して以来基本的に同じ（均一）であるという信念。これは、古地球説および世俗的地質学の基礎となる信念である。

付録3 – 聖書のキリストと「地球は古い」という説に基づくキリストたちの比較

聖書のキリスト — 古地球説のキリストたち



私たちの罪を贖うために死に、復活された

処女から生まれた
約2,000年前

大洪水によって
世界的な大洪水によって裁かれた

アダムの最初の罪が
死をもたらし、私たちを
神から引き離した

6日間で創造され、
約6,000年前

私たちの罪を贖うために
死に、復活した

人間によって作り出された
約150年前

局地的な洪水によって罪を裁いた

長い死の時代
が人間をもたらし

数十億年をかけて
私たちを形作った

索引

生命の自然発生 – 81
中絶 – 77、139、142、143、145
適応 – 4、87、89、90、93、
101、113、215、244
「アフリカのイブ」 – 203
アリンスキー、ソール – 144、145
アンブロケトゥス – 111
アミノ酸 – 64、82、83、124
両生類 – 108、109、111、112、
190、193
祖先 – 89、105、107、112、117、
120、123、128、129、242
古代河川説 – 44人擇原理 – 185, 199,
200, 201
抗生物質 - 126
類人猿 – 84、106、120-123、128、
129
アルクトゥルス - 226
アルディピテクス – 122
無神論 – 62、75-77、79、83、137、
242
原子 – 32
細菌 – 83、97、99、126
有益な –
ベテルギウス – 226、227
ビッグバン – 68-71、79-81、105、
224、225
権利章典 – 154-156生体遺伝法
則 – 130二足歩行 – 117
鳥類 – 109、111、116-119、102、
210
ブライス – 50、51、243
カンブリア爆発 – 109
峡谷 – 23、35、40、42、43、45、
52、196
炭素年代測定 – 32-35、石炭
紀 - 38判例法 – 164
シーダー・マウンテン – 49、50
チンパンジー – 106、123
石炭 – 34、35、37-39、42、196
コロラド川 – 43、45
彗星 – 222、245コミュニティ・オーガナ
イザー – 144、145
複雑性 – 83、94、130、207、
219、220、227、243
大陸移動説 – 55-58収斂進化 – 108チャー
ルズ・ダーウィン – 79、89、
108、122、138、141、219
デイ・エイジ - 169
デザイナー – 106、117、201、207、
209、211、220
デューイ、ジョン – 141、142
ダイヤモンド – 34、196、197
分割 – 74、197、202
ドラゴン – 64-67
複製 – 98, 244
地震 – 30、190エルドリッジ、
ナイルズ – 110胚 – 130
エントロピー – 69、71、96、97、138
噴火 – 23、36、39-41
ERVs - 128
優生学 – 139, 145
真核生物 – 88、242
羽毛 – 117-119, 210, 211
大腿骨 - 121
第一法則 – 69, 71
鞭毛 – 83
平顔の人 – 121, 123
化石化した – 39、57、64、111、191、
193、212
フレームシフト – 99、100
機能的 – 99, 244
ガラパゴス – 89
銀河 – 225, 226ガルトン、フ
ランシス – 139ガニメデ – 223,
224
ギャップ理論 – 42, 169, 170, 177
遺伝子枯渇 – 100-102、106、
113、114、127、190、202、215、243
ゲノム – 94、106、203、243
地質学的圧縮 – 52、57、
58、195
地質年代尺度 – 19、21-
23、25、26、30、31、34、46、63
鰓嚢 – 130
氷河 – 41、59、60
グランド・ステアケース – 43、50-54、
185、243、249
大覚醒 – 150-51、157
ヘッケル、エルンスト – 129、130、140
ハンコック、ジョン – 153

歴史科学 – 4, 16, 17,
243
ヒトラー – 140、142ホッジ
、A. A. – 147
ホメオボックス – 98ヒト科 –
115、120-122ホモ・サピエン
ス – 146相同性 – 104
「希望の怪物」 – 109、110、
112
馬の系統 – 110
ホイル、フレッド – 68、70
ハッブル – 224-226
ヒト第2染色体 – 128-
129
ヒューマニスト宣言 – 141
ハクスリー、T. – 177
IBD – 207-217, 219, 243
氷河期 – 40, 55, 59-61, 185,
202、203
アイダ – 122, 123
怪しげなもの – 19, 81, 82, 95, 101,
102, 112
挿入 – 99、100
インテリジェント・デザイン – 132
、201、
206、207、220、243
還元不可能性 – 83、211
ユンガーズ W. – 123ジャ
ンクDNA – 125、128
木星 – 223, 224
ジュラ紀 – 46
カイバブ – 44、46、48-52
種 – 87、88、90、114、127、131、
190、202、214、243、244
キッチャー, P. - 63
溶岩 – 24、25、30、41、42
ラザルス分類群 – 21、22、141
ルイス, C.S. – 138, 186
石灰岩 – 47, 49, 50
リンカーン、エイブラハム – 155、157-
160、166、207
生きた化石 – 111ルシファー –
144、177
ルーシー – 103、115、121-123
ルナール – 204、222
マディソン、ジェームズ – 155、156
マグネティック – 33、187、192、223、
224
マン、ホレス – 141マン
テル、メアリー – 63毛 – 141

マイヤー、エルンスト – 27、86
隕石 – 35, 83, 84
天の川 – 224, 226
ミトコンドリア – 123, 203
道徳的相対主義 – 77, 143ラシュモア山 – 206山 – 24, 48, 52, 55-57, 195
泥岩 – 23、24、37マルコム・マッゲリッジ – 134ナショナル・ジオグラフィック – 53、122、203
自然法則 – 71、74、244
自然選択 – 92、93、102、131、164、204、219、242、244
自然主義 – 11、15、21、51、79、137、138、206、244
ナチズム – 140
ネアンデルタール人 – 120、121、123
新ダーウィン主義 – 94-96、98-102、127、244
『ニュー・サイエンティスト』 – 70、222
ノアの箱舟 – 12、65、67、78、202、203、215
ヌクレオチド – 82, 242
ナイロン – 99
海 – 52、55、56、59-61、79、105、179、196、197、200、202、203、209、210、222
石油 – 17、20、23、33、35、196-198
個体発生 – 130
開放系 – 96, 97 ORFan遺伝子 – 106起源 – 16, 77, 84, 90, 102, 134、135、140、173
オーウェン、リチャード - 64 パターソン、コリン – 112 ピート – 37、38
門 – 109
系統発生 – 130
ピルトダウン人 – 123計画的出産 – 145プラスミドの転移 – 97プレートテクトニクス – 55、56、58
点変異 – 99、100
ポルックス – 226
ポロ、マルコ – 64
ポロニウム・ハロー – 46、47
多層堆積 – 39、40
大洪水後 – 40、41、61、215

霊長類 – 116、120、122-124、
127-129
漸進的創造説 – 169、171、174
預言 – 36、72、80、168
タンパク質 – 82、83、94、99、101、
127、215、218、124、
陽子 – 74、200、201
公立学校 – 77、141、142、
162、164-167、180
断続的平衡 – 109、112、113、136
反復説 – 129, 140
レッド・ビュート – 49、50
抵抗性 – 103、115、126独立戦争 –
151-154ロッシュの限界 – 222フラン
クリン・ルーズベルト – 161『ラディ
カルのためのルール』 – 144マーガレ
ット・サンガー – 145『サイエンス』
誌 – 70『サイエンス・ニュース』 –
121、219
海 – 40、192、196–198、202、
203、207
第二法則 – 69-71、96、97
世俗主義 – 76、243
蛇 – 64、66、173
セス – 205
性革命 – 143単細胞 – 82シ
ンガー、ピーター – 143奴
隷制 – 156-158、161
自発的 – 80、81
星の光 – 68、72、73
ストリームキャプチャ – 44、45
沈み込み – 48、57、58
超新星 – 223
最高裁判所 – 155、160-162、
164
共生 – 79
テクトニック – 41、55、56、58、59、196
テロメア – 128、129
十戒 – 71、144、
150-154、159、161、164、166、183-
有神論的進化論 – 146, 167,
169-171、174、183
ティクタリク – 103、111、112、115
時間的ギャップ – 46、47
トメイ人 – 121-123過渡的な化石 – 107-
109、112、124、135
生命の系統樹 – 107
三畳紀 – 46
均一説 – 243、245
均一性 – 16-20、30、33、43、
44、56〜59、61、73、79、245
アップワープ – 44、45、48、52、53
バリエーション - 4, 87, 88, 90, 101,
113、114、130、190、203、242-244
バーミリオン・クリフス – 50、51、243
脊椎動物 – 12、176、190、209、
219
ウイルス – 101、126、108
火山 – 23、39-41、50、55、60、
196、202、222
ジョージ・ワシントン – 155、158、
159、206
ウェブスター、ノア – 152クジ
ラシリーズ – 111ホワイトフィ
ールド、ジョージ – 152
「終わりのジレンマ」 – 225
魔術 – 143
Y染色体 – 106、203
若者 – 10、142、152、159、198、
222
シオン – 50、51、243

『』の著者について

科学、数学、経済学、経営学などの分野で174単位を取得し、一般経営学および人事管理学の学位を取得した後、ラス・ミラーは1980年に学校を離れ、18年間にわたり成功したビジネスを築き上げました（その傍らで、注文住宅の建設資金も調達していました）。2000年、ラスはすべてを捨てて、「*Creation, Evolution & Science Ministries*」を設立しました。 かつて有神論的進化論者であったラスは、現在、クリスチャンも非クリスチャンも問わず、神の真理と御言葉を見出す手助けをしています。

聖書に基づく創造論の観点から、ラスは神を敬うグランドキャニオン・リムツアー、「リム＆ラフト」ツアー、グランドステアケース・ツアーを先導してきました。2004年から2024年にかけて、彼は他のすべての創造論団体を合わせた数よりも多くの人々をグランドキャニオンへと導きました！

ラスのライブおよびビデオによる教えは、CESMの強みです。ラスは全米の教会や会議で、ケン・ハム、ジョシュ・マクダウェル、デビッド・ライブス、フランク・ペレッティ、チャック・ミスラー、デイブ・レーガン、ジェイソン・ライル、アンディ・ウッド、ヘルメット・ウェルケ、アレックス・ニューマン、パトリック・ウッド、その他の敬虔な奉仕者たちと共に講演を行ってきました。

ラスの著書やビデオ（彼はこれらをコピーして人々に配ることを推奨しています）、その他の資料は、www.CreationMinistries.Org でご覧いただけます。

「私たちの使命は、聖書の真理を確証し、創造主であり贖いの救い主である主イエス・キリストを通して、他の人々が救いを見出せるよう助けることです。」ラス